

袖ヶ浦市介護保険運営協議会(令和5年度第2回)議事録

1 開催日時 令和5年6月29日(木) 開会:午後2時00分、閉会:午後3時45分

2 開催場所 袖ヶ浦市役所 旧館3階大会議室

3 出席委員

会 長	杉浦 弘樹	委 員	石井 美喜男
副会長	大熊 賢滋	委 員	高野 圭介
委 員	大岩 みさ子	委 員	石塚 浩一
委 員	齊藤 智枝	委 員	平野 しげ子
委 員	志村 弘道	委 員	宮崎 智弘

(欠席委員)

委 員	石川 和利	委 員	中村 武仁
委 員	長谷川 かつえ	委 員	中村 美保
委 員	村山 浩通		

4 出席職員

福祉部長	川口 秀	介護保険課 管理班主任主事	河野 遼太郎
介護保険課長	小幡 久美子	高齢者支援課長	重田 克己
介護保険課副課長 [認定・給付班長]	鹿島 健志	高齢者支援課副課長 [高齢者福祉班長]	茂木 敬子
介護保険課副課長 [管理班長]	根本 吉晴	高齢者支援課 地域包括支援班長	三沢 ひとみ

5 傍聴定員と傍聴人数

傍聴定員	5 人	傍聴人数	1 人
------	-----	------	-----

6 次 第

(1) 開会

(2) 会長あいさつ

(3) 議題

①令和5年度指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の委託について

②介護予防・日常生活支援総合事業におけるサービス事業者の指定について

③令和4年度介護保険事業の実績について

④令和4年度地域包括支援センター事業の実績について

⑤袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の令和4年度取組事業の進捗状況について

⑥袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に係るアンケート結果について

⑦袖ヶ浦市長浦地区地域包括支援センターの開設について

⑧その他

(4) 閉会

7 議 事

事務局 (根本副課長)	本日はご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。 出席の報告をいただいております皆様、全員お揃いですので始めさせていただきます。 ただいまの出席委員は10名でございます。したがって、袖ヶ浦市介護保険運営協議会規則第4条第2項の規定による定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。 これより、令和5年度第2回袖ヶ浦市介護保険運営協議会を始めさせていただきます。 本日、石川委員、長谷川委員、村山委員、中村武仁委員、中村美保委員から所用のため欠席との報告をいただいております。 初めに、杉浦会長、ごあいさつをお願いいたします。
杉浦会長	(杉浦会長あいさつ)
事務局 (根本副課長)	ありがとうございました。 議事に入る前に、本日の会議資料の確認をさせていただきます。 会議次第、議題(1)資料、議題(2)資料、議題(3)資料、議題(4)資料、議題(5)資料、議題(6)資料①から⑧まで、議題(7)資料、以上、次第を含めて15点でございます。 不足等はございませんでしょうか。
	(発言者なし)
事務局 (根本副課長)	本日、令和5年度版「みんなのあんしん介護保険」という冊子を机上に配付させていただきました。後ほどご覧いただければと思います。 それでは、会議の進行は、袖ヶ浦市介護保険運営協議会規則第4条第1項の規定により、会長が行うこととなっておりますので、杉浦会長にお願いしたいと思います。 よろしくお願いいたします。
杉浦会長	議事に入る前に、会議の公開及び傍聴について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (根本副課長)	本日の会議は、公開でございます。議事録につきましては、市ホームページと市役所総務課事務室にて公開してまいりますのでご了承ください。 委員の皆様方には、後日、議事録を送付させていただきます。

	また、本日の傍聴人は1名でございます。
杉浦会長	皆様、会議の公開等については、よろしいでしょうか。
	(発言者なし)
杉浦会長	傍聴の方につきましては、配付いたしました要領の注意事項を遵守し、会議の円滑な運営にご協力をお願いいたします。 それでは、議事に入らせていただきます。 本日の議題はその他を含めて8件でございます。 会議次第をご覧ください。 議題(1)は、事務局から説明を受けまして、審議の上、採決をするものでございます。 議題(2)から議題(7)までについては、それぞれ事務局から説明を受け、ご意見をいただくものでございます。 審議案件は議題(1)のみでございます。 各議題とも事務局の説明が終了した後に、質疑をお受けいたしますので、よろしくお願いいたします。 まず、議題(1)の「令和5年度指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の委託について」、事務局の説明を求めます。
事務局 (三沢班長)	【議題(1)に関する説明】
杉浦会長	事務局の説明が終わりました。これより質疑をお受けいたします。 質疑あるいはご意見でも結構ですので、何かありましたらお願いいたします。
	(質疑・意見なし)
杉浦会長	質疑はないようですので、採決に移らせていただきます。 まず初めに、議題(1)「令和5年度指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の委託について」のうち、①の直営包括の追加委託分について、認めることに賛成の方の挙手をお願いいたします。
	(賛成者挙手)
杉浦会長	全員賛成でございます。 よって、①の直営包括の追加委託分については承認されました。 続きまして、長浦地区地域包括支援センターの委託分について、採決をいたします。 議題(1)のうち、②の長浦地区地域包括支援センターの委託分について、認めることに賛成の方の挙手をお願いいたします。
	(賛成者挙手)
杉浦会長	全員賛成でございます。 よって、議題(1)のうち、②の長浦地区地域包括支援センターの委託分については承認されました。

	それでは、次の議題に移らせていただきます。 議題(2)の「介護予防・日常生活支援総合事業におけるサービス事業者の指定について」、事務局の説明を求めます。
事務局 (三沢班長)	【議題(2)に関する説明】
杉浦会長	事務局の説明が終わりましたので、これより質疑をお受けいたします。 ご意見でも結構ですので、何かありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。
	(質疑・意見なし)
杉浦会長	ないようですので、次に移らせていただきます。 次に、議題(3)の「令和4年度介護保険事業の実績について」、まずは事務局から説明をお願いいたします。
事務局 (鹿島副課長)	【議題(3)に関する説明】
杉浦会長	事務局の説明が終わりました。 質疑ではなく、ご意見でも結構です。いかがでしょうか。
	(質疑・意見なし)
杉浦会長	ないようですので、次に移らせていただきます。 議題(4)の「令和4年度地域包括支援センター事業の実績について」、事務局より説明をお願いします。
事務局 (三沢班長)	【議題(4)に関する説明】 ※資料の訂正について説明
杉浦会長	説明が終わりました。 質疑等はございませんか。
	(志村委員挙手)
杉浦会長	志村委員。
志村委員	議題(4)資料の2ページ、5の(2)の認知症初期集中支援チームに関して、実施数が10件とのことですが、支援の流れについて伺います。
事務局 (三沢班長)	認知症の疑いがある方やそのご家族の方、ご近所の方などから地域包括支援センターに相談が入りましたら、地域包括支援センターの職員や袖ヶ浦さつき台病院の医師・医療スタッフなどで構成する認知症初期集中支援チームのチーム員が対象の方を訪問する流れとなります。
志村委員	相談を受けてから対応するということですか。
事務局 (三沢班長)	そのとおりです。相談に来られる方は、ご家族やご近所の方などいろいろでございます。
事務局 (重田課長)	補足いたしますと、地域包括支援センターに相談が入りましたら、チーム員である認知症専門医や医療スタッフに対象者の方の状況を説明いたします。 その上で、地域包括支援センターのほうで様子を見守ることもございますし、

	専門医・医療スタッフの方と一緒に訪問をすることもございます。
杉浦会長	志村委員、よろしいですか。 他にございませんでしょうか。
	(宮崎委員挙手)
杉浦会長	宮崎委員。
宮崎委員	議題(4)資料の2ページ、5の(4)の認知症おでかけ安心シールの交付に関して、昨年度、実際に通知が届いた件数は何件あるのでしょうか。
事務局 (重田課長)	こちらに関しては、スマートフォン等で QR コードを読み取ると通報が届く形になっております。誤って読み取ったことによる誤報はございましたが、実際に保護につながった事例はこれまでにございません。
杉浦会長	よろしいでしょうか。 他にいかがでしょうか。
	(石井委員挙手)
杉浦会長	石井委員。
石井委員	この議題とは直接関係ないかもしれませんが、認知症の方で介護施設と病院を行ったり来たりしている方がいらっしゃいます。市内に介護と医療が同時に受けられるような施設はないのでしょうか。
事務局 (重田課長)	系列の施設・病院といったものはございますが、ご質問のように同じ施設内で介護と医療が同時に受けられるといったものは市内にはございません。
事務局 (川口部長)	本日お配りいたしました「みんなの安心 介護保険」という冊子の14ページに記載されておりますが、介護と医療が同時に受けられる施設として、介護療養型医療施設や介護医療院といったものがございます。ただし、現状、市内にはこういった施設はない状況でございます。今後、状況を見ながら考えてまいりたいと思います。
杉浦会長	石井委員、よろしいでしょうか。 他に質疑・ご意見等はございませんか。
	(発言者なし)
杉浦会長	ないようですので、次に移りたいと思います。 議題(5)の「袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の令和4年度取組事業の進捗状況について」、事務局の説明を求めます。
事務局 (根本副課長)	【議題(5)に関する説明】
杉浦会長	令和4年度の進捗状況ということで主要な事業を中心に説明がございましたが、全体を通して気づいた点、質疑等がありましたらお願いいたします。 いかがでしょうか。
	(発言者なし)
杉浦会長	私のほうからよろしいですか。 確認ですが、今回の評価は令和3年度と4年度の目標設定に対する評価と

	いうことでしょうか。それとも令和4年度単年度の評価ということですか。
事務局 (根本副課長)	今回の評価は令和4年度 of 取組内容に対する評価ということで、単年度の 評価結果となります。
杉浦会長	今回、C評価が6事業、D評価が1事業ということですが、その要因はどう いったものなのでしょう。
事務局 (根本副課長)	議題(5)資料の3ページをお開きください。 D評価の事業は、③の成人保健事業事務事業(生活習慣病予防講演会)で ございます。取組内容としては、医師会・歯科医師会との連携により生活習慣 病予防講演会を開催するというものでございますが、新型コロナウイルス感染 症の感染状況を考慮し開催を見合わせたということで、D評価となったもの でございます。 C評価の事業については、新型コロナウイルス感染症の影響のほか、物価 高騰の影響を受けたものもございます。
杉浦会長	開始から1時間が経過しましたので、休憩をはさみますか。このまま続行しま すか。
	(発言者なし)
杉浦会長	それでは続行させていただきます。 議題(6)の「袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に 係るアンケート結果について」、事務局から説明をお願いします。
事務局 (根本副課長) (茂木副課長)	【議題(6)に関する説明】
杉浦会長	アンケート結果について事務局から説明がありました。 質疑、ご意見はございませんか。
	(志村委員挙手)
杉浦会長	志村委員。
志村委員	例えば、議題(6)資料の④について、要介護3から5までの方を対象に実施 したとのことですが、どういった方から回答があったかというのはわかりますか。
事務局 (根本副課長)	介護サービス事業者調査については記名方式で実施しておりますので、 どなたからの回答かわかりますが、要介護3から5までの方を対象に実施した 調査については無記名方式ですので、どなたからの回答かを特定することは できません。
事務局 (茂木副課長)	要介護3から5までの方を対象に実施した調査については、259名の方に 調査票を送付して、お住いの地区や年齢といったものはわかりますが、個人 を特定することはできません。
志村委員	アンケートを送る段階では、要介護3から5までの方を抽出して送っている と。
事務局	要介護3から5までの方を無作為抽出して送付しています。

(茂木副課長)	
志村委員	議題(6)資料④の5ページですが、介護度の重い方の通院の移動手段について、ご自身で車を運転している方が2.3%いるとなっていますが、介護度が重い方で、運転ができる方がいるのかなと。ケースによってはあり得るのかもしれませんが。このほか、おおまかに認知症の方とそうでない方とを別けて調査を実施しないとわかりづらいのかなと思ったのですが。
事務局 (重田課長)	今回の調査につきましては、認知症の方とそうでない方というような区分けはしておりませんが、今後、認知症患者の増加が見込まれておりますので、第10期以降のアンケートの際にはそういったことも考慮していかなければいけないかなと考えております。
志村委員	先ほどの認知症初期集中支援チームの相談件数として10件とのことでしたが、もっとあってもいいのかなと思ったのですが。
事務局 (重田課長)	10件というのは令和4年度中における新規の相談件数でございまして、過去からの継続ケースを含めますとっとも多い数のケースを対応しております。
杉浦会長	他にいかがでしょうか。
	(大岩委員挙手)
杉浦会長	大岩委員。
大岩委員	議題(6)資料⑧の特別養護老人ホーム入所希望者実態調査について、調査対象者は入所希望者ということで、すでに入所している方ではないですよ。それで、資料7ページで最初の入所申込みから5年以上経過している方がいらっしゃいますが、この方はどういう状況なのでしょう。
事務局 (根本副課長)	まず調査対象は入所希望者ということで、今現在特別養護老人ホームに入所されていない方を対象としております。待機期間が長期にわたっている方が一定数いらっしゃいますが、個々の詳細な事由については把握できておりません。
杉浦会長	他にはいかがでしょうか。
	(石井委員挙手)
杉浦会長	石井委員。
石井委員	アンケートの調査項目で「外出の頻度」といったものがあります。最終的にアンケート結果を分析する上で、前回の調査結果との比較をされると思いますが、この間に発生した新型コロナウイルス感染症による影響をどのように捉えていくのか伺います。
事務局 (茂木副課長)	ご指摘のとおり新型コロナウイルス感染症による影響を受けている項目もあると考えております。今後の課題を整理するに当たって、そのようなことも踏まえて分析してまいりたいと思います。
杉浦会長	他にいかがでしょうか。
	(発言者なし)

杉浦会長	それでは、次に移らせていただきます。 議題(7)の「袖ヶ浦市長浦地区地域包括支援センターの開設について」で ございます。まずは事務局から説明をお願いいたします。
事務局 (三沢班長)	【議題(7)に関する説明】
杉浦会長	長浦地区地域包括支援センターについてはいよいよ来週開設となります。 疑問点でも結構ですので、何かありましたらお願いいたします。
	(質疑・意見なし)
杉浦会長	最後に、議題(8)のその他でございしますが、まずは委員の皆様から何か ございますか。
	(発言者なし)
杉浦会長	事務局から報告等はございますか。
事務局 (根本副課長)	事務局から、次回の介護保険運営協議会の開催日程について、ご連絡 させていただきます。 次回の運営協議会でございますが、9月28日(木)午後2時から、北庁舎内 の会議室にて開催する予定でございます。 よろしくお願いいたします。
杉浦会長	それでは、本日予定していた議案の審議は、全て終了いたしました。 以上で、議長の任を解かせていただきます。 議事進行にご協力をいただき、ありがとうございました。
事務局 (根本副課長)	杉浦会長、ありがとうございました。 以上をもちまして、令和5年度第2回袖ヶ浦市介護保険運営協議会を閉会 いたします。 長時間にわたり慎重審議をいただき、ありがとうございました。

令和5年度第2回 袖ヶ浦市介護保険運営協議会

日 時 令和5年6月29日（木）

午後2時00分～

場 所 市役所旧館3階大会議室

次 第

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

- （1）令和5年度指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の委託について
- （2）介護予防・日常生活支援総合事業におけるサービス事業者の指定について
- （3）令和4年度介護保険事業の実績について
- （4）令和4年度地域包括支援センター事業の実績について
- （5）袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画の令和4年度取組事業の進捗状況について
- （6）袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画策定に係るアンケート結果について
- （7）袖ヶ浦市長浦地区地域包括支援センターの開設について
- （8）その他

4 閉 会

議題(1) 令和5年度指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の委託について

- 指定介護予防支援、介護予防ケアマネジメント: 介護予防支援も介護予防ケアマネジメントも基本的な考え方や流れは同じであり、要支援者等がサービスの円滑な利用ができるよう、心身の状況を把握しケアプランを作成したり、サービス事業者との連絡調整等を行う業務です。
- 令和5年4月1日現在、35事業所(市内11事業所、市外24事業所)と契約しております。今回追加となる下記の事業所より本市との業務委託契約の希望がありましたので、委託契約の可否についてご審議いただくものです。

令和5年度 指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務 委託事業所(追加分)

No.	事業所番号	事業所名	居宅介護支援事業所			運営主体	
			住所	指定有効 開始年月日	指定有効 終了年月日	住所	法人名
1	1211110063	玄々堂君津病院	千葉県君津市東坂田4-7-20	2020/4/1	2026/3/31	千葉県君津市東坂田4-7-20	医療法人新都市医療研究会「君津」会

●令和5年7月3日より袖ヶ浦市長浦地区地域包括支援センター（以下「長浦包括」という。）が開設となることから、これまでの直営である袖ヶ浦市地域包括支援センター（以下「直営包括」という。）と同様に、長浦包括も指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務の委託を行います。
つきましては、直営包括が現在契約を締結している35事業所（市内11事業所、市外24事業所）及び本日の議題（1）①で提出している玄々堂君津病院と、長浦包括も同様に委託契約を締結していきたいと考えておりますので、その委託契約の可否についてご審議いただくものです。

令和5年度 指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント業務 委託事業所（長浦包括分）

No.	事業所番号	事業所名	居宅介護支援事業所			運営主体	
			住所	指定有効 開始年月日	指定有効 終了年月日	住所	法人名
1	1273400612	袖ヶ浦瑞穂居宅介護支援センター	千葉県袖ヶ浦市野里1452-4	2021/10/1	2027/9/30	東京都江戸川区瑞江1-3-12	社会福祉法人瑞光会
2	1273400059	さつき会ケアマネセンター	千葉県袖ヶ浦市長浦駅前4-2-1	2020/4/1	2026/3/31	千葉県袖ヶ浦市長浦駅前5-21	社会医療法人社団さつき会
3	1273400034	カトレアンホーム居宅介護支援事業所	千葉県袖ヶ浦市蔵波2713-1	2020/4/1	2026/3/31	千葉県袖ヶ浦市神納4181-20	社会福祉法人さつき会
4	1273400851	袖ヶ浦ムツミ居宅支援センター	千葉県袖ヶ浦市神納796-10	2021/10/1	2027/9/30	千葉県市原市姉崎東二丁目2番地6 ケイビル1階	株式会社ケイ・ティ・サービス
5	1273400026	袖ヶ浦菜の花苑居宅介護支援事業所	千葉県袖ヶ浦市神納4181-20	2020/4/1	2026/3/31	千葉県袖ヶ浦市神納4181-20	社会福祉法人さつき会
6	1273400455	居宅介護支援事業所ちいたの福王台	千葉県袖ヶ浦市坂戸市場66-1	2022/9/1	2028/8/31	千葉県木更津市井尻951	社会福祉法人かずさ萬燈会
7	1273400083	サニーヒル居宅介護支援センター	千葉県袖ヶ浦市久保田857-9	2020/4/1	2026/3/31	千葉県袖ヶ浦市久保田857-9	社会福祉法人慈協会
8	1273400893	介護相談みどりの風そでがうら	千葉県袖ヶ浦市下泉1425	2018/11/1	2024/10/31	千葉県袖ヶ浦市下泉1424-3	社会福祉法人みどりの風
9	1273400794	入道雲	千葉県袖ヶ浦市下宮田525-2	2020/9/1	2026/8/31	千葉県袖ヶ浦市下宮田525-2	株式会社正業
10	1273401016	AIST横田居宅介護支援事業所	千葉県袖ヶ浦市横田1095	2021/3/1	2027/2/28	千葉県袖ヶ浦市阿部116-1	合同会社Next door
11	1273401032	居宅介護支援事業所わらく	千葉県袖ヶ浦市上泉1308	2022/8/1	2028/7/31	千葉県袖ヶ浦市上泉1308	有限会社ワイエム
12	1271100446	金田在宅介護支援センター	千葉県木更津市中島2366-1	2020/9/1	2026/8/31	千葉県袖ヶ浦市奈良輪535-1	医療法人社団恒久会
13	1271102806	フォレスト	千葉県木更津市大和2-6-8 101	2020/3/1	2026/2/28	千葉県木更津市矢那2390番地	株式会社ReCUEST
14	1271102004	エルケア木更津ケアプランセンター	千葉県木更津市大和2-4-1 VIOS木更津B号室	2020/1/1	2025/12/31	大阪府大阪市北区中崎西2-4-12 梅田センタービル25階	エルケア株式会社
15	1271100552	有限会社ウエルネス上総	千葉県木更津市大和1-4-10-102	2020/12/1	2026/11/30	千葉県木更津市大和1-4-10-102	有限会社ウエルネス上総
16	1271101287	木更津ムツミ居宅支援センター	千葉県木更津市太田4-12-21	2019/11/1	2025/10/31	千葉県市原市姉崎東3-3-7	株式会社サービスワン
17	1271102111	ケアプランセンターしほな	千葉県木更津市清見台2-9-9	2020/6/1	2026/5/31	千葉県木更津市清見台2-9-9	合同会社H・S・N
18	1271101147	いわい介護支援事業所	千葉県木更津市清見台1-6-1	2018/9/1	2024/8/31	千葉県木更津市清見台1-6-1	合資会社いわいケア
19	1271102293	かもめ指定居宅介護支援事業所	千葉県木更津市菅生689	2021/8/1	2027/7/31	千葉県木更津市菅生725-1	医療法人社団邦清会
20	1271101923	ウィズユー介護相談	千葉県木更津市若葉町2-19	2019/7/1	2025/6/30	千葉県木更津市若葉町2-19	株式会社MAHALO
21	1271102673	介護相談みどりの風きさらづ	千葉県木更津市笹子553	2018/11/1	2024/10/31	千葉県袖ヶ浦市下泉1424-3	社会福祉法人みどりの風
22	1271102459	ケアマネジャー事業所シンフォニー	千葉県木更津市祇園3-26-6	2022/4/1	2028/3/31	千葉県木更津市祇園3-26-6	合同会社ル・リアン
23	1271100594	介護支援センターたんぼぼ	千葉県木更津市祇園2-30-21	2021/5/1	2027/4/30	千葉県木更津市犬成906	有限会社リ・ライフ
24	1271100065	中郷記念館介護相談センター	千葉県木更津市井尻951	2020/4/1	2026/3/31	千葉県木更津市井尻951	社会福祉法人かずさ萬燈会
25	1273000073	株式会社ノバ・メディクス	千葉県君津市東坂田4-8-23	2020/4/1	2026/3/31	千葉県君津市東坂田4-8-23	株式会社ノバ・メディクス
26	1273000883	居宅介護支援事業所るびなす	千葉県君津市長谷川1234	2023/4/1	2029/3/31	千葉県君津市長谷川1234	株式会社M&F
27	1211110063	玄々堂君津病院	千葉県君津市東坂田4-7-20	2020/4/1	2026/3/31	千葉県君津市東坂田4-7-20	医療法人新都市医療研究会「君津」会
28	1273101061	居宅介護支援事業所「わたしたちの生きる証」	千葉県富津市長崎字熊ノ下274	2023/6/1	2029/5/31	千葉県富津市長崎331-3	医療法人社団俊真会
29	1273100089	在宅介護支援センター金谷の里	千葉県富津市金谷1912番地2	2020/4/1	2026/3/31	千葉県富津市金谷1912番地2	社会福祉法人金谷温清会
30	1272403096	ケアステーションちいきのわ居宅介護支援	千葉県市原市椎津生雁2644-1	2020/12/1	2026/11/30	千葉県市原市桜台2-7-14	株式会社ちいきのわ
31	1272400308	在宅介護支援センターグランモア和光苑	千葉県市原市椎津5番地1号	2020/4/1	2026/3/31	千葉県市原市椎津5-1	社会福祉法人和光会
32	1272400100	姉ヶ崎居宅介護支援センター	千葉県市原市椎津2558番1 (姉崎病院内)	2020/4/1	2026/3/31	千葉県市原市椎津2558-1	医療法人社団健老会
33	1272402312	介護センターなのはな	千葉県市原市中高根699-2	2022/5/1	2028/4/30	千葉県市原市中高根699-2	企業組合あざみ
34	1272400837	ムツミ居宅介護支援事業所	千葉県市原市姉崎東3-3-7	2021/6/1	2027/5/31	千葉県市原市姉崎東3-3-7	株式会社サービスワン
35	1272401876	KT在宅サポートセンター	千葉県市原市姉崎1575-18	2019/5/1	2025/4/30	千葉県市原市姉崎東二丁目2番地6 ケイビル1階	株式会社ケイ・ティ・サービス
36	1272402189	スマイル居宅支援事業所	千葉県市原市光風台2-380-3	2021/6/1	2027/5/31	千葉県市原市光風台2-380-3	株式会社えがおの友

議題(2) 介護予防・日常生活支援総合事業におけるサービス事業者の指定について

●介護予防・日常生活支援総合事業：高齢者が要介護状態等となることを予防したり、要介護状態等の軽減や悪化の防止、要介護状態等となった場合においても、可能な限り地域において自立した生活を営むことができるよう支援する事業。

●介護予防・日常生活支援総合事業におけるサービス事業者の指定について、新規指定が1件あったことから報告するものです。なお、令和5年6月1日現在、第1号訪問事業（訪問介護相当サービス）については41事業所、第1号訪問事業（訪問型サービスA）については4事業所、第1号通所事業（通所介護相当サービス）については45事業所を指定。

【新規】

事業所名	住所	サービス種別	運営主体			指定有効期間	
			法人名	代表者役職	代表者	指定開始日	指定終了日
フォレスト・ケア	千葉県木更津市大和2-6-8ミユキマンション304	第1号訪問事業 (介護予防訪問介護相当サービス)	株式会社ReCUEST	代表取締役	松田 直美	令和5年5月1日	令和10年6月30日

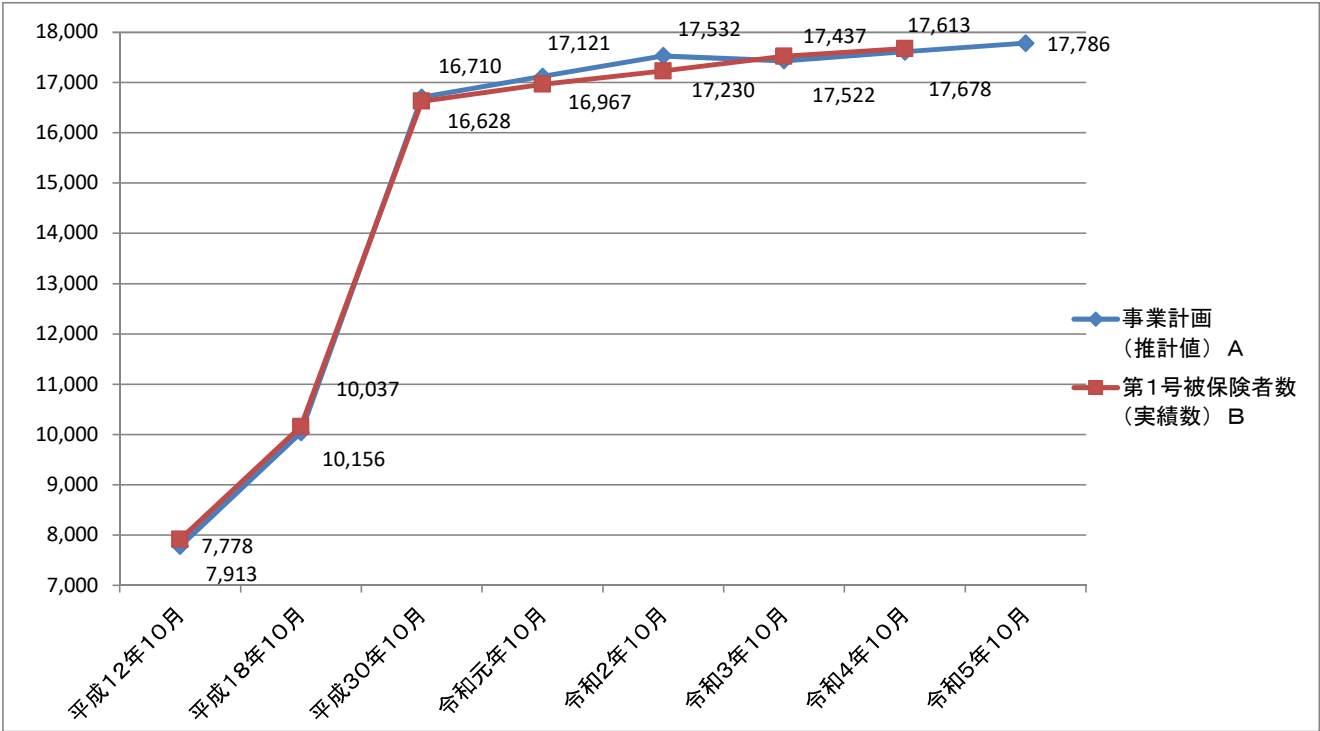
議題(3) 令和4年度介護保険事業の実績について

議題(3) 資料

1. 第1号被保険者数の推移

令和4年10月1日現在の65歳以上の高齢者数(第1号被保険者)は17,678人で、事業計画における見込みよりも65人多い状況となっています。
 なお、事業計画値との増減率については、100.4%となっています。

(人)						
		事業計画 (推計値) A	第1号被保険者数 (実績数) B	推計値と実績値の差 B－A	対計画比 B/A	
		平成12年10月	7,778	7,913	135	101.7%
		平成18年10月	10,037	10,156	119	101.2%
第7期		平成30年10月	16,710	16,628	△ 82	99.5%
		令和元年10月	17,121	16,967	△ 154	99.1%
		令和2年10月	17,532	17,230	△ 302	98.3%
第8期		令和3年10月	17,437	17,522	85	100.5%
		令和4年10月	17,613	17,678	65	100.4%
		令和5年10月	17,786			



2. 要介護認定者数の推移

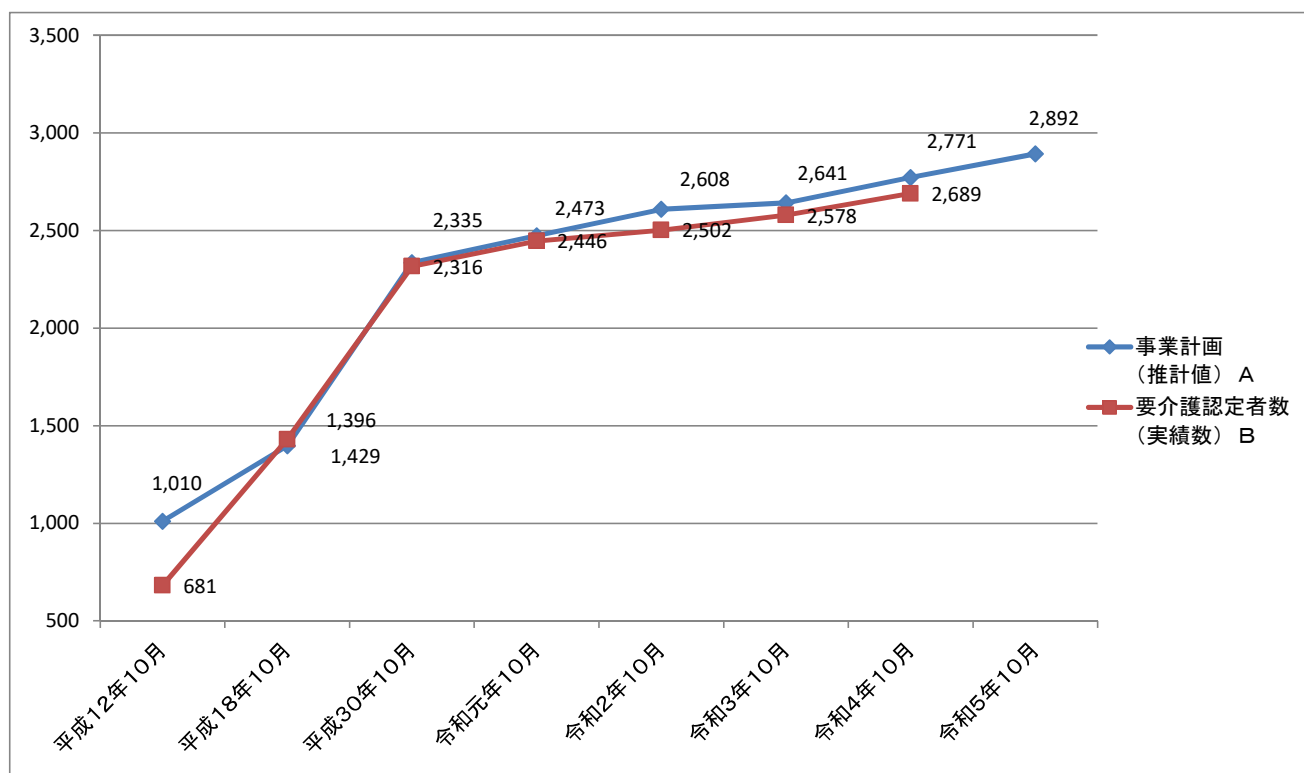
令和4年10月1日現在の要支援・要介護認定者数は2,689人で、事業計画における見込みよりも82人少ない状況となっています。

なお、事業計画値との増減率については、97.0%となっています。

(人)

	事業計画 (推計値) A	要介護認定者数 (実績数) B	推計値と実績値の差 B－A	対計画比 B/A	
	平成12年10月	1,010	681	△ 329	67.4%
	平成18年10月	1,396	1,429	33	102.4%
第7期	平成30年10月	2,335	2,316	△ 19	99.2%
	令和元年10月	2,473	2,446	△ 27	98.9%
	令和2年10月	2,608	2,502	△ 106	95.9%
第8期	令和3年10月	2,641	2,578	△ 63	97.6%
	令和4年10月	2,771	2,689	△ 82	97.0%
	令和5年10月	2,892			

※第2号被保険者数を含む。



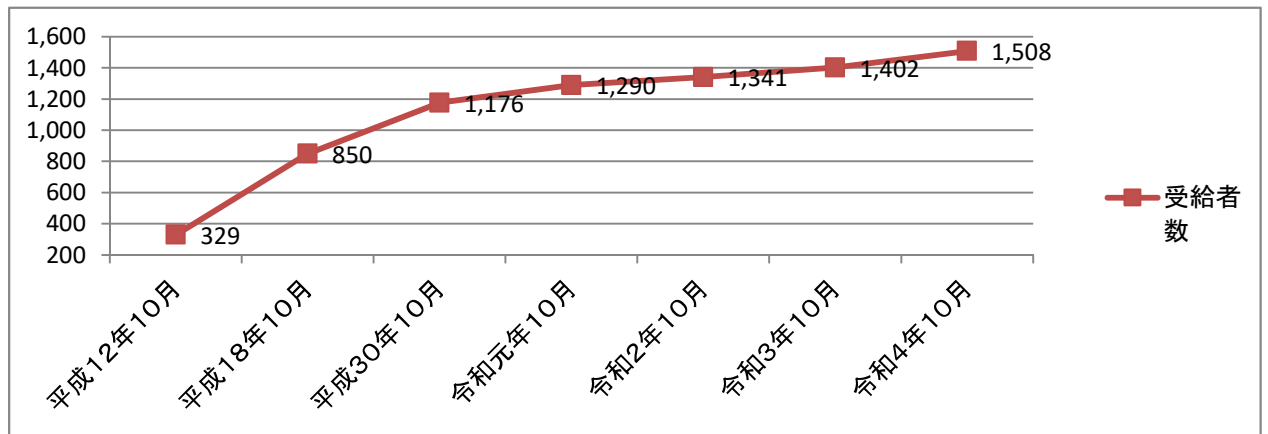
3. サービス受給者数の推移

令和4年10月のサービス受給者数は、居宅介護サービスが1,508人、地域密着型サービスが403人、施設介護サービスが357人で、いずれも前年度から増加しています。

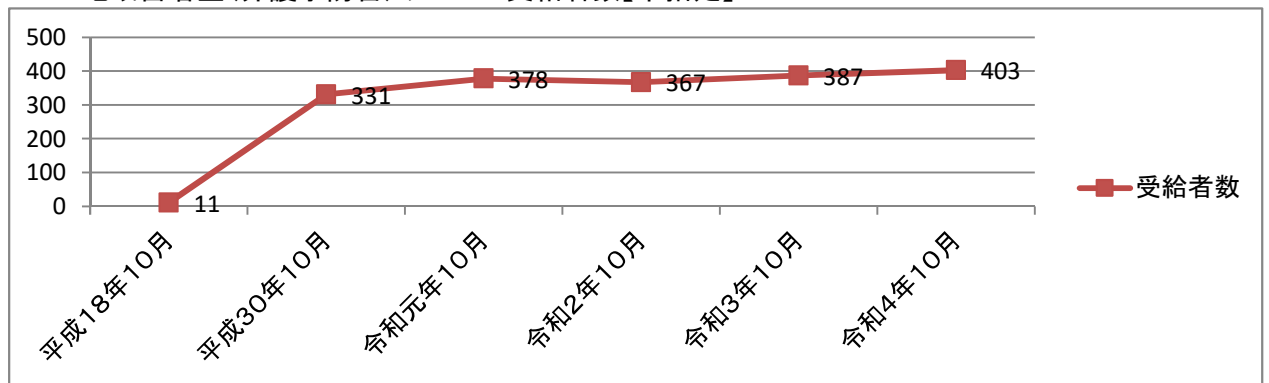
(人)

		居宅介護(介護予防含) サービス【県指定】	地域密着型(介護予防含) サービス【市指定】	施設介護サービス
		受給者数	受給者数	受給者数
第7期	平成12年10月	329		219
	平成18年10月	850	11	272
	平成30年10月	1,176	331	355
	令和元年10月	1,290	378	335
	令和2年10月	1,341	367	350
	令和3年10月	1,402	387	350
	令和4年10月	1,508	403	357
第8期	令和5年10月			

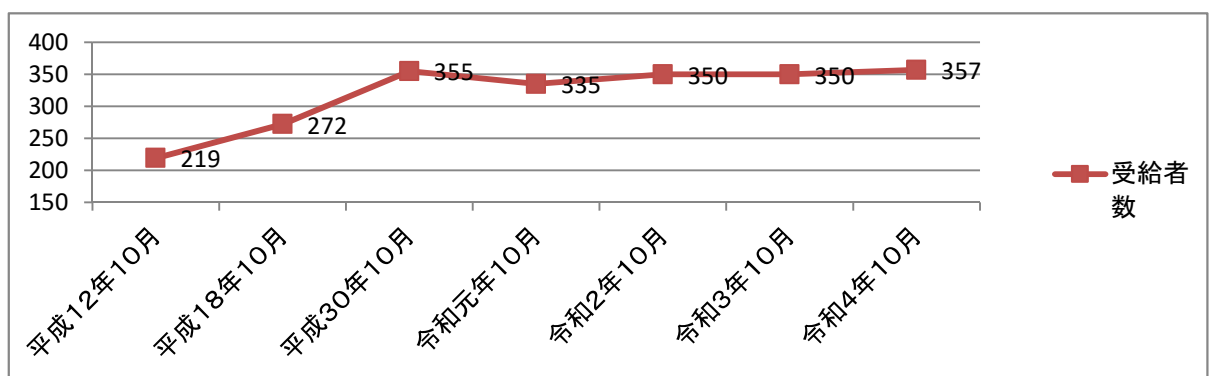
居宅介護(介護予防含)サービス受給者数【県指定】



地域密着型(介護予防含)サービス受給者数【市指定】



施設介護サービス受給者数



4. 介護保険給付費等の推移

保険給付費の執行額は年々増加しており、令和4年度は介護保険がスタートした平成12年度の約4.07倍となっています。

また、地域支援事業費の執行額については、平成18年度の事業開始から介護予防・日常生活支援総合事業や認知症施策推進事業などの実施により約7.87倍となっています。

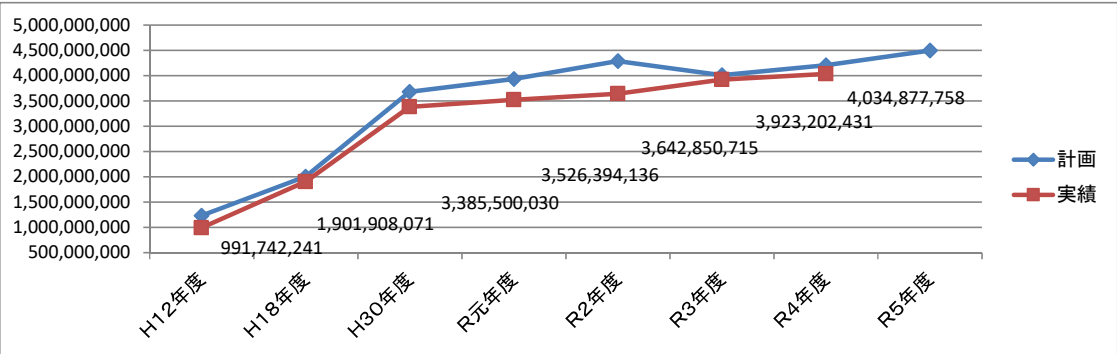
(単位:円)

年度		保険給付費	地域支援事業費	合計
H12年度	実績	991,742,241		991,742,241
H18年度	実績	1,901,908,071	26,665,735	1,928,573,806

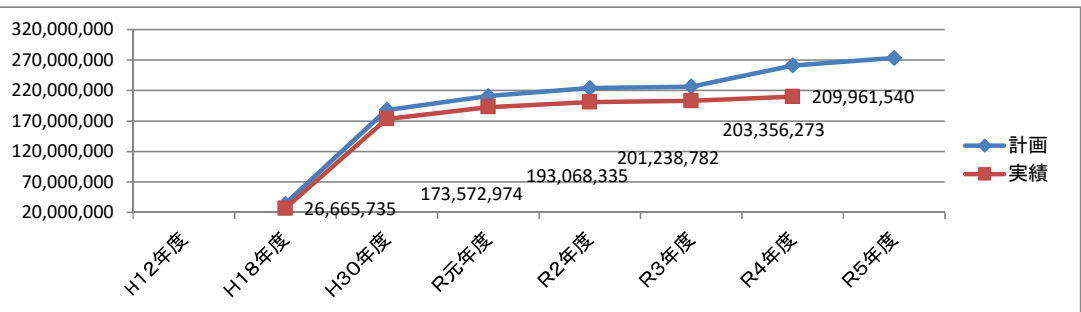
	年度		保険給付費	地域支援事業費	合計
第7期	H30年度	計画	3,684,727,829	188,336,000	3,873,063,829
		実績	3,385,500,030	173,572,974	3,559,073,004
		執行率	91.9%	92.2%	91.9%
	R元年度	計画	3,936,416,771	211,012,095	4,147,428,866
		実績	3,526,394,136	193,068,335	3,719,462,471
		執行率	89.6%	91.5%	89.7%
	R2年度	計画	4,292,789,846	224,354,008	4,517,143,854
		実績	3,642,850,715	201,238,782	3,844,089,497
		執行率	84.9%	89.7%	85.1%
	3力年合計	計画	11,913,934,446	623,702,103	12,537,636,549
		実績	10,554,744,881	567,880,091	11,122,624,972
		執行率	88.6%	91.0%	88.7%

	年度		保険給付費	地域支援事業費	合計
第8期	R3年度	計画	4,010,424,558	226,700,000	4,237,124,558
		実績	3,923,202,431	203,356,273	4,126,558,704
		執行率	97.8%	89.7%	97.4%
	R4年度	計画	4,205,889,523	261,354,335	4,467,243,858
		実績	4,034,877,758	209,961,540	4,244,839,298
		執行率	95.9%	80.3%	95.0%
	R5年度	計画	4,500,418,033	273,681,028	4,774,099,061
		実績			0
		執行率	0.0%	0.0%	0.0%
	3力年合計	計画	12,716,732,114	761,735,363	13,478,467,477
		実績	7,958,080,189	413,317,813	8,371,398,002
		執行率	62.6%	54.3%	62.1%

保険給付費



地域支援事業費



5. 介護サービス事業所の参入状況

袖ヶ浦市内に所在する事業所のみ計上しています。

令和2年2月に定員80名の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)が開設し、市内の施設の定員が大きく増加しました。また、令和3年4月に看護小規模多機能型居宅介護が開設いたしました。

なお、平成28年4月から、通所介護のうち利用定員が19名未満の事業所の指定が県から市に移り、地域密着型サービスに移行しました。

(1) 居宅介護支援事業所・介護予防支援事業所

サービス名	H29年4月	H30年4月	H31年4月	R2年4月	R3年4月	R4年4月	R5年4月
居宅介護支援	16	14	13	12	13	12	12

(2) 居宅サービス事業所・介護予防サービス事業所

サービス名	H29年4月	H30年4月	H31年4月	R2年4月	R3年4月	R4年4月	R5年4月
訪問介護	13	12	12	11	13	13	15
訪問入浴介護	1	1	1	1	2	2	2
訪問看護	25	22	22	23	18	19	20
訪問リハビリテーション	22	20	21	21	16	16	16
居宅療養管理指導	71	70	72	69	62	63	65
通所介護(デイサービス)	4	4	4	4	5	5	5
通所リハビリテーション(デイケア)	3	3	3	3	3	3	3
短期入所生活介護(ショートステイ)	11	11	11	13	13	13	13
短期入所療養介護(ショートステイ)	2	2	2	2	2	2	2
福祉用具貸与	1	1	1	1	1	1	1
特定福祉用具購入	1	1	1	1	1	1	1
事業所数合計	154	147	150	149	136	138	143

(3) 地域密着型サービス事業所・地域密着型介護予防サービス事業所

サービス名	H29年4月	H30年4月	H31年4月	R2年4月	R3年4月	R4年4月	R5年4月
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	0	2	2	2	2
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0	0	0
認知症対応型通所介護	1	1	1	1	1	1	1
小規模多機能型居宅介護	1	1	1	1	1	1	1
看護小規模多機能型居宅介護	0	0	0	0	1	1	1
認知症対応型共同生活介護	3	3	3	3	3	3	3
定員(人)	36	36	36	36	36	36	36
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	3	3	3	3	3	3	3
定員(人)	87	87	87	87	87	87	87
地域密着型通所介護	16	16	14	13	13	13	13
事業所数合計	24	24	22	23	24	24	24

(4) 介護保険施設

サービス名	H29年4月	H30年4月	H31年4月	R2年4月	R3年4月	R4年4月	R5年4月
介護老人福祉施設	3	3	3	4	4	4	4
定員(人)	215	215	215	295	295	295	295
介護老人保健施設	2	2	2	2	2	2	2
定員(人)	190	190	190	190	190	190	190
介護療養型医療施設	0	0	0	0	0	0	0
定員(人)	0	0	0	0	0	0	0
介護医療院	—	0	0	0	0	0	0
定員(人)	—	0	0	0	0	0	0
施設数合計	5	5	5	6	6	6	6

6. 令和4年度 介護保険特別会計 決算見込み

介護保険を運営していくための介護保険特別会計の決算見込みです。

【歳入】

(単位:円)

区 分	当初予算額	予算現額A	収入済額B	差引 B-A	説 明
1 介護保険料	1,097,902,000	1,108,644,000	1,118,371,490	9,727,490	第1号被保険者(65歳以上)の保険料 ※基準月額5,200円
2 使用料及び手数料	1,000	1,000	0	△ 1,000	
3 国庫支出金	846,375,000	817,251,000	818,043,893	792,893	国からの介護給付費負担金(居宅20%・施設15%)など
4 支払基金交付金	1,166,529,000	1,156,290,000	1,123,497,000	△ 32,793,000	社会保険診療報酬支払基金からの介護給付費交付金(27%)など ※第2号被保険者(40～64歳)の保険料分
5 県支出金	629,206,000	627,366,000	627,763,399	397,399	千葉県からの介護給付費負担金(居宅12.5%・施設17.5%)など
6 財産収入	11,000	12,000	12,182	182	介護給付費準備基金の運用益
7 繰入金	859,976,000	766,960,000	724,224,098	△ 42,735,902	
1 一般会計繰入金	763,884,000	746,996,000	724,224,098	△ 22,771,902	市の介護給付費負担分(12.5%)などの一般会計からの繰入金
2 基金繰入金	96,092,000	19,964,000	0	△ 19,964,000	
8 繰越金	1,000	78,304,000	78,304,044	44	前年度繰越金
9 諸収入	8,999,000	7,510,000	7,694,906	184,906	
歳入合計	4,609,000,000	4,562,338,000	4,497,911,012	△ 64,426,988	

【歳出】

(単位:円)

区 分	当初予算額	予算現額A	支出済額B	不用額等 A-B	説 明
1 総務費	152,977,000	142,448,000	137,917,586	4,530,414	
1 総務管理費	99,971,000	102,816,000	101,153,576	1,662,424	人件費、介護保険事務費など
2 徴収費	2,663,000	2,494,000	2,344,543	149,457	賦課事務費、徴収事務費
3 介護認定審査会費	46,220,000	34,763,000	32,146,125	2,616,875	介護認定審査会費、認定調査等費
4 計画策定委員会費	4,123,000	2,375,000	2,273,342	101,658	介護保険事業計画等策定事業
2 保険給付費	4,205,891,000	4,166,656,000	4,034,877,758	131,778,242	
1 介護サービス等諸費	3,859,716,000	3,859,716,000	3,740,440,029	119,275,971	要介護者に係る介護サービス給付費
2 介護予防サービス等諸費	81,848,000	66,590,000	62,539,916	4,050,084	要支援者に係る介護予防サービス給付費
3 その他諸費	3,044,000	3,044,000	2,921,300	122,700	国民健康保険団体連合会への審査支払手数料
4 高額介護サービス等費	110,825,000	101,087,000	97,781,932	3,305,068	利用者負担が一定額を超えた場合の給付
5 高額医療合算介護サービス等費	12,606,000	12,150,000	10,582,515	1,567,485	利用者負担(介護と医療を合算)が一定額を超えた場合の給付
6 特定入所者介護サービス等費	137,852,000	124,069,000	120,612,066	3,456,934	低所得者の施設サービス利用時の居住費と食費に対する給付
3 地域支援事業費	244,058,000	223,650,000	209,961,540	13,688,460	
1 介護予防・生活支援サービス事業費	103,777,000	95,673,000	90,680,394	4,992,606	要支援者等に係る訪問・通所のサービス費など
2 一般介護予防事業費	19,306,000	13,496,000	11,744,404	1,751,596	介護予防に係る事業費
3 包括的支援事業・任意事業	120,718,000	114,251,000	107,321,742	6,929,258	高齢者の相談対応や家族介護者への支援などに係る事業費
4 その他諸費	257,000	230,000	215,000	15,000	国民健康保険団体連合会への審査支払手数料
4 基金積立金	14,000	12,182	12,182	0	
1 基金積立金	14,000	12,182	12,182	0	前年度繰越金等の介護給付費準備基金への積立
5 諸支出金	1,060,000	24,572,000	24,203,990	368,010	
1 償還金及び還付加算金	1,060,000	24,572,000	24,203,990	368,010	介護給付費国庫支出金等返還金など
6 予備費	5,000,000	4,999,818	0	4,999,818	
歳出合計	4,609,000,000	4,562,338,000	4,406,973,056	155,364,944	

※決算額については、議会での認定前のものです。今後、9月議会定例会に上程する予定です。

議題(4) 令和4年度地域包括支援センター事業の実績について

議題(4) 資料

1 指定介護予防支援及び介護予防ケアマネジメント

(1) 指定介護予防支援

予防給付の対象となる要支援者の自立支援を目的とした介護予防サービスの適切な利用に向けての支援

	令和2年度(うち新規)	令和3年度(うち新規)	令和4年度(うち新規)
ケアプラン作成数(総数)	2,201(60)	2,091(45)	1,982(45)
(総数)のうち包括担当数	1,170(23)	1,016(11)	917(26)
(総数)のうち委託事業所担当数	1,031(37)	1,075(34)	1,065(19)
委 託 率	47%	51%	54%

(2) 介護予防ケアマネジメント

介護予防・日常生活支援総合事業対象者の介護予防や生活支援を目的とした、適切なサービスの利用に向けた支援であり、介護予防・日常生活支援総合事業の平成27年度開始に伴い実施

	令和2年度(うち新規)	令和3年度(うち新規)	令和4年度(うち新規)
ケアプラン作成数(総数)	1,534(52)	1,576(60)	1,412(52)
(総数)のうち包括担当数	777(34)	782(22)	630(31)
(総数)のうち委託事業所担当数	757(18)	794(38)	782(21)
委 託 率	49%	50%	55%

【参考】委託契約締結事業所

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
委託契約締結事業所数	48	44	43
うち 実績あり(稼働率)	35(73%)	35(80%)	31(72%)

2 包括的支援事業

(1) 総合相談支援業務・権利擁護業務

地域の高齢者に対する様々な相談の対応(総合相談支援業務)・高齢者虐待の予防と対応や成年後見制度利用に向けた支援等、判断力の低下した高齢者に対する支援等の対応(権利擁護業務)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(総 計)	3,455	3,795	3,576
(総計)のうち地域包括支援センター対応(実人員)	606	539	549
(総計)のうち地域包括支援センター対応(延対応回数)	2,649	2,972	2,979
(総計)のうちランチ対応(延対応回数)	806	823	597
(総計)のうち虐待に関する数	実11/延73 (うち市が虐待と判断した実人員1)	実19/延269 (うち市が虐待と判断した実人員1)	実23/延304 (うち市が虐待と判断した実人員9)
(総計)のうち日常生活自立支援事業に関する数	実7/延28	実7/延29	実13/延48
(総計)のうち成年後見制度に関する数	実31/延227	実31/延218	実38/延326
(参考)成年後見制度市長申立件数	10件	8件	7件

(2) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

高齢者の包括的な支援に向けたネットワークづくりやケアマネジャーに対する個別支援等

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
ケアマネジャーからの相談	実42/延93	実48/延112	実71/延153

※上記のほか、地域ケア会議(困難事例の解決に向けた会議、地域課題の解決に向けた会議及び自立支援に資するケアマネジメントの振り返りのための会議等)を開催した。

【センター別相談件数】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
(総 計)	2,649	2,972	2,979
(総計)のうち地域包括支援センター対応	実327/延763	実198/延525	実198/延622
(総計)のうち地域包括支援なうらサブセンター対応	実208/延1,184	実251/延1,417	実259/延1,369
(総計)のうち地域包括支援ひらかわサブセンター対応	実138/延702	実146/延1,030	実136/延988

3 在宅医療・介護連携推進事業

医療と介護の両方を必要とする高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、医療と介護機関の連携を推進し、在宅において切れ目のないサービスを受けられるような体制の整備を図る。（平成27年度より実施）

【実施状況】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
在宅医療・介護連携推進協議会 開催回数	2	3	3
多職種研修会 開催回数	0	3	5
市民への普及啓発 開催回数	1	0	2

※平成30年度より地域の医療・介護関係者等からの相談受付を行う「在宅医療・介護連携支援相談窓口」を地域包括支援センターに開設した。

4 生活支援体制整備事業

住民同士の助け合いやNPO等多様な主体による生活支援サービスの充実を図り、地域における支え合いの体制づくりを進める。（平成28年度より実施）

【実施状況】

●協議体の開催

平成28年度より事業開始し、市内3圏域（昭和・根形圏域、長浦・蔵波圏域及び平岡・中富圏域）で第2層圏域協議体を発足

現在、市内5圏域（昭和、根形、長浦、蔵波、平岡・中富）とし、各圏域で協議体を開催している。

●生活支援コーディネーター（SC）の配置及び活動

市内全域を担当する第一層SCを地域包括支援班内に1名配置し、2層5圏域を社会福祉協議会への委託により5名のSCが担当し、協議体の運営・講座開催による普及啓発・事業周知の広報活動等を行った。

●令和4年度の主な取り組み例

地域での助け合い・支え合い活動をする個人や団体、活動に興味のある方に対し、担い手育成講座（移動支援、生活支援等）を実施し、住民主体の通いの場の充実・創設につながった。

5 認知症施策

（1）認知症施策推進検討委員会

認知症初期集中支援チームの運営や認知症施策の推進について検討。（平成27年度より実施）

【実施状況】

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
開催回数	3	3	3

（2）認知症初期集中支援チーム

認知症の人（疑いを含む）とその家族に対し、初期の段階から複数の専門職で構成されるチームが包括的、集中的に関わり、自立した生活に向けての支援、介護負担の軽減を図る。（平成27年度より実施）

【実施状況】

チーム員による訪問活動を実施。また、効果的な支援を検討するため、チーム員会議を月2回実施。

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新規対象者	5	11	10
訪問回数（延）	5	14	11

（3）認知症カフェ

認知症の人、家族、地域住民、介護職等が集い、認知症の人を支えるつながりを支援し、交流や情報交換を通じて認知症の人の家族の介護負担の軽減等を図る。

【現状】

現在市内に地域住民、ボランティア等により3箇所の認知症カフェが開設されており、市としては周知活動とともに、必要に応じて職員の派遣を行う等、後方支援を行っている。

（4）認知症おでかけ安心シールの交付

認知症の人（疑いを含む）に対し、あらかじめ家族等の申請によりQRコードが記載されたシールを交付し、衣服や所持品に貼付しておくことにより、発見した際にQRコードを携帯等の端末で読み取ると、登録した家族や市へメールが届き、早期に家族へ引渡しができるもの。

令和4年度

交付件数 5件

（５）認知症家族のつどい

認知症の方を介護する家族同士が介護経験や思いを分かち合ったり、アドバイスをし合い、交流を深め、支え合いとつながりを促進し、介護負担の軽減を図る。（平成２２年度より実施）

【実施状況】

年４回開催。毎回、袖ヶ浦さつき台病院医師・介護福祉士が出席。

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
開催回数	3	3	3
人数（延）	22	19	9

（６）認知症サポーター養成講座

認知症についての理解を深め、認知症の人やその家族の暮らしやすい地域をつくる。（平成１９年度より実施）

【実施状況】

市内小中高等学校、地区サロン、福祉施設等の他、オープンクラスの開催。

	平成１９～令和元	令和２年度	令和３年度	令和４年度
開催回数	267	6	5	10
人 数	9,279	86	54	235

６ 介護予防・生活支援総合事業

要支援者及び介護予防・生活支援サービス事業対象者に対して、多様な主体による多様なサービスを提供し、効果的・効率的に介護予防や日常生活支援を行う。

【多様なサービスの実施状況】

●訪問型サービスＡ（平成２８年度より開始）

４事業所を指定し、市内２事業所においてサービス提供。令和５年３月末現在（４月審査）、利用者３人。

●訪問型サービスＢ・訪問型サービスＤ・通所型サービスＢ（令和２年度より開始）

令和５年３月末現在	登録団体数	利用者延人数
訪問型サービスＢ・Ｄ	3	1,057
通所型サービスＢ	2	722

※訪問型サービスＢのうち２団体が訪問型サービスＤも同時実施。

※利用者延人数は、事業対象者・要支援認定者以外を含む団体全体の延人数。

●訪問・通所一体型短期集中サービスＣ（平成２９年度より開始）

リハビリテーション専門職との連携により、サービス開始。令和４年度 利用者６２人。

７ 一般介護予防事業

あらゆる高齢者を対象とした住民主体の通いの場の充実等、地域の実情に応じた効果的かつ効率的な介護予防の取り組みの実施及び推進を図る。

	令和２年度	令和３年度	令和４年度
おらが出張講座	54回実施 762人参加	61回実施 921人参加	71回実施 1,044人参加
袖ヶ浦いきいき百歳体操 参加者数／団体数	1,238人／66団体	1,130人／63団体	1,099人／64団体
認知症予防教室（頭の元気トレーニング）	7回実施 75人参加	11回実施 112人参加	11回実施 123人参加

８ その他

（１）家族介護教室

特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人３法人に委託して、家族介護者が介護方法や介護のサービスについて学ぶ「家族介護教室」を開催し、安心して介護を続けることができるよう支援を行った。

令和４年度

7回実施 46人参加

（２）頭の元気測定会

認知機能評価支援システムを使用した簡易な検査で、おおまかな認知機能を判定し、認知機能の自己確認や認知症への関心を高める。希望者へ出張測定を実施

令和４年度

2回実施 23人参加

令和4年度

高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画

進捗状況

基本理念
ふれあいとささえあい
ともに安心して暮らせる まちづくり

各事業の評価一覧(基本施策別)

基本目標	基本施策	事業数	評価区分			
			A	B	C	D
1 介護予防と健康づくりの推進	(1) 介護予防・重度化防止の推進	7事業	2	4	1	
	(2) 健康づくりの推進	12事業	1	8	2	1
2 住み慣れた地域での生活支援	(1) 相談支援体制の充実	8事業	1	7		
	(2) 生活支援サービスの充実	13事業	5	7	1	
	(3) 介護保険サービスの充実	4事業	1	3		
	(4) 在宅医療・介護の連携	1事業	1			
	(5) 安心して暮らせるまちづくり	10事業	4	6		
	(6) 権利擁護施策の推進	6事業	4	2		
	(7) 介護人材の確保・定着支援	3事業		3		
3 地域で支え合う仕組みづくり	(1) 支え合い活動の推進	8事業	4	4		
	(2) 認知症予防・共生に向けた取組	4事業		4		
4 生きがいづくりと社会参加の推進	(1) 地域でのふれあいづくりの推進	7事業	1	4	2	
	(2) 社会貢献活動の推進	4事業	1	3		
計		87事業	25	55	6	1

評価区分 A:目標以上に達成した B:おおむね達成した C:目標を下回った D:実施しなかった

基本目標	施策の方向性 (基本施策)	事業名	担当課	頁
1 介護予防と健康づくりの推進	(1)介護予防・重度化防止の推進	①介護予防・生活支援サービス事業	高齢者支援課	1～2
		②介護予防普及啓発事業	高齢者支援課	
		③袖ヶ浦いきいき百歳体操	高齢者支援課	
		④地域介護予防活動支援事業	高齢者支援課	
		⑤介護予防把握事業	高齢者支援課	
		⑥地域リハビリテーション活動支援事業	高齢者支援課	
		⑦一般介護予防事業評価事業	高齢者支援課	
	(2)健康づくりの推進	①健康づくり推進事業【新規】	健康推進課	3～4
		②健康づくり支援センター管理事業	健康推進課	
		③成人保健事業事務事業(生活習慣病予防講演会)	健康推進課	
		④がん検診事業	健康推進課	
		⑤健康相談事業	健康推進課	
		⑥予防接種事業	健康推進課	
		⑦成人・高齢者歯科保健事業	健康推進課	
		⑧後期高齢者健康診査等の実施	保険年金課 健康推進課 高齢者支援課	
		⑨人間ドック検診料の助成	保険年金課	
		⑩特定健康診査及び特定保健指導の実施	保険年金課 健康推進課	
		⑪総合型地域スポーツクラブ活性化事業	スポーツ振興課	
		⑫敬老事業(長寿祝金)	高齢者支援課	
2 住み慣れた地域での生活支援	(1)相談支援体制の充実	①地域包括支援センターの体制強化	高齢者支援課	5～6
		②地域包括支援センターによる相談支援の実施	高齢者支援課	
		③認知症に対する早期対応と支援	高齢者支援課	
		④介護技術の講習や介護サービスなどの情報提供	高齢者支援課	
		⑤エンディングサポート事業【新規】	高齢者支援課	
		⑥介護相談員派遣等事業	介護保険課	
		⑦適切なケアマネジメントに向けた支援	介護保険課 高齢者支援課	
		⑧生活困窮者自立支援事業	地域福祉課	
	(2)生活支援サービスの充実	①生活支援短期宿泊事業	高齢者支援課	7～9
		②はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業	高齢者支援課	
		③理容師派遣事業	高齢者支援課	
		④介護予防・生活支援サービス事業【再掲】	高齢者支援課	
		⑤世代間支え合い家族支援事業	高齢者支援課	
		⑥紙おむつ等支給事業	高齢者支援課	
		⑦高齢者等住宅整備資金貸付事業	高齢者支援課	
		⑧老人保護措置事業(養護老人ホーム)	高齢者支援課	
		⑨高齢者移動支援事業	高齢者支援課	
		⑩生活困窮者自立支援事業【再掲】	地域福祉課	
		⑪移送サービス事業	社会福祉協議会	
		⑫木造住宅耐震化促進事業	都市整備課	
		⑬一人暮らし高齢者宅防火診断	消防本部予防課	
	(3)介護保険サービスの充実	①在宅介護サービスの充実	介護保険課	10
		②介護保険サービス事業所整備事業	介護保険課	
		③介護相談員派遣等事業【再掲】	介護保険課	
		④介護給付等費用適正化事業	介護保険課	
	(4)在宅医療・介護の連携	①在宅医療・介護連携推進事業	高齢者支援課	11
	(5)安心して暮らせるまちづくり	①救急医療情報キット配布事業	高齢者支援課	12 ～ 13
		②緊急通報システム等給付貸付事業	高齢者支援課	
		③高齢者の見守り・徘徊への対応の実施	高齢者支援課	
		④高齢者見守りネットワーク事業	高齢者支援課	
		⑤介護施設等の防災活動に対する支援【新規】	介護保険課 防災安全課	
		⑥災害時要援護者の支援	防災安全課 市民協働推進課 地域福祉課 障がい者支援課 高齢者支援課	
		⑦地域防犯体制強化事業	防災安全課	
		⑧交通安全対策事業	防災安全課	
		⑨消費生活相談・消費者意識啓発事業	商工観光課	
		⑩福祉教育の推進	学校教育課	
	(6)権利擁護施策の推進	①高齢者虐待の防止と高齢者保護	高齢者支援課	14 ～ 15
		②成年後見制度利用支援事業	高齢者支援課	
		③生活支援短期宿泊事業【再掲】	高齢者支援課	
		④法人後見事業	社会福祉協議会	
		⑤日常生活自立支援事業	社会福祉協議会	
		⑥消費生活相談・消費者意識啓発事業【再掲】	商工観光課	
	(7)介護人材の確保・定着支援	①就業に対する動機付けへの支援	介護保険課	16
		②福祉教育の推進【再掲】	学校教育課	
		③介護人材確保育成支援事業	介護保険課	

基本 目標	施策の方向性 (基本施策)	事 業 名	担当課	頁
3 地域で 支え合 う仕組 み	(1) 支え合い活動の推進	①地域ケア会議の実施(地域ケア個別会議)	高齢者支援課	17 ~ 18
		②高齢者見守りネットワーク事業【再掲】	高齢者支援課	
		③はつらつシニアサポーターの養成、活動支援	高齢者支援課	
		④介護支援ボランティア事業	高齢者支援課	
		⑤生活支援体制整備事業	高齢者支援課	
		⑥ボランティアセンターの運営	社会福祉協議会	
		⑦地区社会福祉協議会活動の運営	社会福祉協議会	
		⑧救急・救護体制の整備	消防本部警防課	
	(2) 認知症予防・共生に向けた取組	①認知症サポーターの養成、活動支援	高齢者支援課	19
		②認知症の家族への支援	高齢者支援課	
		③認知症に対する早期対応と支援【再掲】	高齢者支援課	
		④認知症予防の推進	高齢者支援課	
4 生きが いづく りと社 会参 加の推 進	(1) 地域でのふれあいづくりの推進	①老人福祉会館運営事業	高齢者支援課	20 ~ 21
		②シニアクラブ活動支援事業	高齢者支援課	
		③袖ヶ浦いきいき百歳体操【再掲】	高齢者支援課	
		④地域ふれあいサロンの設置	社会福祉協議会	
		⑤保育所(園)地域活動事業	保育幼稚園課	
		⑥市民活動情報サイトによる情報提供	市民協働推進課	
		⑦高齢者いきがい促進事業(高齢者学級)	市民会館 各公民館	
	(2) 社会貢献活動の推進	①シルバー人材センター支援事業	高齢者支援課	22
		②市民活動情報サイトによる情報提供【再掲】	市民協働推進課	
		③介護支援ボランティア事業【再掲】	高齢者支援課	
		④生活支援体制整備事業【再掲】	高齢者支援課	

基本目標1：介護予防と健康づくりの推進
基本施策(1)：介護予防・重度化防止の推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	介護予防・生活支援サービス事業	要支援者及び介護予防・生活支援サービス事業対象者に対し、地域の実情に合わせた多様なサービスを提供します。 生活支援体制整備事業と連携し、地域の支え合いによる生活支援の拡大を図ります。	計画	・継続 ・住民主体の支援活動団体数 6団体	A	訪問型サービスAや短期集中サービスC、訪問型サービスB・D、通所型サービスBなどのサービスを実施し利用者へ多様なサービスの提供を行うことができた。また、サービスB・Dの補助要件緩和により、団体活動の活性化や新規団体創設に寄与することができた。 これらの介護予防・日常生活支援総合事業の制度において、本人の能力にあった日常生活支援を行うことにより重度化の防止を図った。	高齢者支援課
			実績	・従来のホームヘルパー・デイサービスよりも緩和した基準により行う【訪問型サービスA】を実施した。 【利用者数延41人】 ・理学療法士等の専門職による「通いの教室」と「自宅訪問支援」を組み合わせ短期間に行う教室【短期集中サービスC】を実施した。 【利用者計62人】 ・ボランティア等の住民が主体となり実施される生活支援を行う【訪問型サービスB】、移動支援を行う【訪問型サービスD】、通いの場を実施する【通所型サービスB】を実施した。なお、令和4年度より補助対象事業の利用者について、団体の利便性向上のため制度の緩和を実施。 【訪問型サービスB(D含む)利用者数延1, 057人】 【通所型サービスB利用者数延722人】 ・上記を含む住民主体の活動団体数は新たに2団体増え10団体となった。 【住民主体の支援活動団体数10団体】			
②	介護予防普及啓発事業	保健師等専門職による「おらが出張講座」の開催のほか介護予防の必要性について、広報紙への掲載やイベント時に啓発パンフレットの配布を行う等の普及啓発活動を行います。 その他、食べる楽しみを持ち続けられるよう口腔機能の維持の取組や、活動的な生活のための失禁予防の取組等、各種介護予防の講習会、相談等を実施します。	計画	・継続 ・おらが出張講座実施回数 61回	A	おらが出張講座や認知症予防等に関する講座の開催により、高齢者が介護予防を通して自分自身に興味を持ち、生活を見直す、新しい取り組みを始める等活動的な生活を送る一助となった。	高齢者支援課
			実績	・保健師等専門職による「おらが出張講座」を実施した。 【講座開催71回】 ・「認知症予防」「口腔機能向上」「尿失禁予防」「フレイル予防」について市内公民館等にて講座を行った。 【介護予防講座年間15回開催、参加延190人】 (内訳) ・認知症予防：11回、参加延123人 ・口腔機能向上：2回、参加延14人 ・尿失禁予防：1回、参加31人 ・フレイル予防：1回、参加22人			
③	袖ケ浦いきいき百歳体操	介護予防体操である「袖ケ浦いきいき百歳体操」について、実施地域や参加者のさらなる拡大を図ります。 さらに、袖ケ浦いきいき百歳体操の実施団体同士の情報共有、発表の機会を設け、モチベーションの維持に努め、活動の継続を支援します。	計画	・継続 ・参加者数 1, 553人	C	高齢者の歩いていける場所での住民主体の活動が継続的に実施され、運動機能の維持・向上による介護予防面での効果に加えて、社会性の維持・拡大が図られ、居場所づくり、生きがいづくりにもつながるものとなっている。	高齢者支援課
			実績	・新たに1団体を立ち上げた。休止している団体については、保健師より代表へ連絡を取り、再開に向けた相談を受けることができたようにした。 【実施団体64団体 参加者1, 099人】 ・実施団体同士の情報共有を図るため、団体の活動内容を記事にした「百歳体操新聞」を発行し、活動団体に配布した。			
④	地域介護予防活動支援事業	介護予防活動団体に対し、保健師等による技術支援や補助金による運営支援により活動の継続を図ります。また、介護予防の取組を支援するサポーター(はつらつシニアサポーター)の支援により、介護予防活動の円滑な実施に結び付けます。	計画	・継続 ・はつらつシニアサポーター数 158人	B	住民主体の介護予防活動が補助金の交付等の後方支援により継続が図られた。 はつらつシニアサポーター数は目標を達成することはできなかったが、スキルアップ講座ではリハビリテーション専門職に講師を依頼し、サポーターが活躍する場の拡大につながる内容とし、サポーター活動につなげることができた。	高齢者支援課
			実績	・介護予防活動団体に対し、活動に使用する物品や会場使用料等を補助した。 【運営補助金交付団体29団体】 ・はつらつシニアサポーター養成講座を1回、現サポーターを対象に、スキルアップを目的とした講座を2回開催した。袖ケ浦いきいき百歳体操の体力測定や介護予防教室で活動することができるサポーターを養成することができた。 【はつらつシニアサポーター：新規養成数6人・総計139人、スキルアップ講座：開催2回・受講者21人】			
⑤	介護予防把握事業	医療機関や民生委員等からの様々な情報を活用し、生活機能が低下し支援が必要な高齢者を把握します。事業で把握した情報は、訪問通所一体型サービスC(専門職による短期集中サービス)等、各種介護予防につなげます。	計画	・継続	B	地域に潜在する虚弱高齢者を基本チェックリストや地域からの情報により把握し、袖ケ浦いきいき百歳体操やサービスCへの参加を勧奨するなど、介護予防の取組につなげることができた。	高齢者支援課
			実績	・要介護等認定を受けていない65歳以上の高齢者のうち、昭和・平岡・中川富岡地区に対して基本チェックリストを発送し、生活機能の低下した虚弱高齢者を把握し、サービスC等介護予防の取組みに繋げた。 ・医療機関や民生委員等からの連絡や、窓口、電話相談等を通して、介護予防の取組みが必要な高齢者に対して勧奨を行った。			
⑥	地域リハビリテーション活動支援事業	地域における介護予防の取組を強化するために、リハビリテーション専門職等の関与を促進します。	計画	・継続	B	地域の介護予防活動団体へのリハビリテーション専門職等の指導により、介護予防の取組みの強化につながった。また、サポーターのスキルアップ講座の講師を依頼し、サポーターの活躍の場の拡大へつなげることができた。 袖ケ浦市リハビリテーション職等連絡協議会においては、介護予防事業の充実に向けて提案をもらい、事業実施に活かすことができた。また、地域ケア会議での助言を通して、自立支援に向けた取組みを行うなど、地域へのリハビリテーション専門職の関与を図ることができた。	高齢者支援課
			実績	・地域リハビリテーション活動支援事業業務委託により、袖ケ浦いきいき百歳体操実施団体への個別評価や集団指導、介護予防の取組を支援するサポーター(はつらつシニアサポーター)のスキルアップ講座・介護予防教室の講師を依頼した。 ・袖ケ浦市リハビリテーション職等連絡協議会を開催し、介護予防の取組みに対する提案や双方の情報の共有を行った。今年度から市内リハビリテーション専門職に加えて、君津地域リハビリテーション広域支援センターの担当者にも出席を依頼した。 ・リハビリテーション専門職(理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士)が地域ケア会議に助言者として参加し、ケアマネジャーにアドバイスを行う場を設けた。			

基本目標1:介護予防と健康づくりの推進
基本施策(1):介護予防・重度化防止の推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当 課
			項目	令和4年度			
⑦	一般介護予防事業 事業評価事業	一般介護予防事業(普及啓発、地域活動支援等)の実施状況を含め、介護予防・日常生活支援総合事業全体の評価を行い、効果的な事業の推進を図ります。	計画	・継続	B	評価については、主にプロセス評価の中の定量的指標を用いた評価を行っており、その結果を地域住民へフィードバックし、介護予防の取組み開始への動機づけを図ることができた。	高齢者 支援課
			実績	・介護予防活動である袖ヶ浦いきいき百歳体操の実施状況を地図上にマッピングし、住民に啓発を図った。 ・袖ヶ浦いきいき百歳体操の活動時に行う体力測定会のデータを集計し、筋力面・社会面の評価を行った。 ・介護認定率を把握し、介護予防の取組みの評価を行った。			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	2
B	おおむね達成した	4
C	目標を下回った	1
D	実施しなかった	
計		7

基本目標1:介護予防と健康づくりの推進
基本施策(2):健康づくりの推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当 課
			項目	令和4年度			
①	健康づくり推進事業【新規】	市民一人ひとりの健康に対する意識の向上と健康的な生活習慣や食生活の定着を図り、生活習慣病の予防や健康維持に向けた環境の整備に努めます。	計画	・日常生活の中で意識的に運動をしている人の割合 66.0%	C	評価指標が計画値を下回ったものの、各種検(健)診は計画どおり実施し、予約制の導入により、市民サービスの向上が図られた。 また、健康相談や訪問指導等の実施により、生活習慣病の発症予防や重症化予防に向けた取組を推進することができた。	健康推進課
			実績	・各種(がん、若年期、特定、肝炎ウイルス)検(健)診の実施 ・健康相談の実施 ・訪問指導の実施 ・シニア運動教室の実施 ・フレイル予防の栄養講話(長浦地区社協)3回 ・日常生活の中で意識的に運動をしている人の割合 42.2%(令和5年4月6日現在)			
②	健康づくり支援センター管理事業	指定管理者による施設の適切な管理運営を行います。 市民の自主的な健康づくりを支援するため、各種運動教室の開催や健康相談を実施します。	計画	・継続 ・教室受講者数 19,500人	B	ガイドラインに沿った感染症対策を講じながら、各種運動教室を順次再開して、ほぼ予定通りに実施することができた。健康相談についても随時受付して実施しており、市民の健康増進の保持に寄与することができた。	健康推進課
			実績	各種運動教室の実施 教室受講者数 8,630人 相談事業 ・運動健康相談の実施 ・個別健康相談の実施			
③	成人保健事業事務事業(生活習慣病予防講演会)	医師会や歯科医師会との連携により生活習慣病予防講演会を開催し、生活習慣病予防への関心と理解を深めます。	計画	・継続	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、生活習慣病予防講演会は中止とした。	健康推進課
			実績	生活習慣病予防講演会 中止			
④	がん検診事業	対象者に対し、各種健(検)診を実施することにより、個人の健康状態を把握し、健康に対する意識の向上及び疾病の早期予防を図ります。	計画	・継続 ・がん検診受診者数 20,230人	C	大腸がん検診を除く集団検診を予約制に切り替え、検診の実施体制を改善することにより、生活習慣病の発症予防に向けた取組を推進することができた。	健康推進課
			実績	がん検診受診者数 17,117人 (令和5年2月末時点)			
⑤	健康相談事業	健診結果等を基に個人への保健指導を実施し、生活習慣病の発症予防や重症化予防に向けた取組を支援し、QOLの向上や健康寿命の延伸を図ります。また、健康づくり支援センターにおいても健康不安を抱える利用者からの相談や、栄養や運動等に関する相談にも随時対応します。	計画	・継続	B	高齢者を含む市民の生活習慣病による健康障害を予防し、健康の保持・増進に貢献している。	健康推進課
			実績	・すこやか相談(成人) 2回/月 全18回 (臨時開催 計5回含む) 相談人数 60人 ・ガウランド運動健康相談 実施 ガウランド個別健康相談 実施			
⑥	予防接種事業	感染症による患者の発生等の対策として、免疫を獲得し疾患の予防及び重症化の予防に努めるため、各種予防接種を実施します。	計画	・継続	B	高齢者インフルエンザ・肺炎球菌ワクチンの予防接種を実施し、疾病予防の取り組みを推進することができた。	健康推進課
			実績	実施者数 10,726人 (内訳) ・インフルエンザ 10,199人 (うち被災者3人) ・肺炎球菌 527人			
⑦	成人・高齢者歯科保健事業	市民が健康な歯で健康な生活を送ることができるよう、健康診査や個別保健指導を実施するほか、口腔がん検診を実施し、疾病の早期発見・早期治療につなげます。	計画	・継続	B	成人歯科健康診査や口腔がん検診の実施により、生活習慣病の発症予防や重症化予防に向けた取組みを推進することができた。	健康推進課
			実績	①成人歯科健康診査 (対象者)年度末年齢30、40、50、60、70歳の市民 4,279人 (受診者)232人 (受診率)5.4% ②口腔がん検診 (対象者)20歳以上の市民 (受診者)193人			
⑧	後期高齢者健康診査等の実施	後期高齢者医療制度の被保険者を対象とした健康診査について、千葉県後期高齢者医療広域連合より受託して実施します。 後期高齢者医療制度の被保険者の保健事業と介護予防の一体的実施について検討を行います。	計画	・継続 ・後期高齢者健康診査受診率 57.1%	B	健康診査や歯科健診を実施することにより、疾病の予防対策や早期発見、早期治療、健康寿命の延伸に寄与した。	高齢者支援課 被保険年金課
			実績	【後期高齢者健康診査】(令和5年4月末時点) 実施時期 個別健診:6月～9月、2月 集団検診:7月、9月～11月(4日間) 対象者数:7,954人 受診者数:4,086人 受診率:51.37% 【76歳歯科口腔健診】(令和5年4月末時点) 実施時期:6月～12月(個別) 対象者数:858人 受診者数:141人 受診率:16.43% 保健事業と介護予防の一体的実施に向けて関係各課との会議(2回)を実施した。			

基本目標1:介護予防と健康づくりの推進
基本施策(2):健康づくりの推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
⑨	人間ドック検診料の助成	国民健康保険に6か月以上加入している満年齢35歳以上の方及び後期高齢者医療保険制度の被保険者の人間ドック受診者に対し、検診料の一部を助成します。	計画	・継続 ・国保短期人間ドック受診者数 715人 ・後期短期人間ドック受診者数 180人	B	人間ドックの費用助成を実施することにより、健康診査より詳細な検査を受けることが可能であり、健康診査同様に疾病の予防対策や早期発見、早期治療に寄与した。 国保の受診者のうち580名は60歳以上であり、高齢者の健康に対する意識の高揚と重症化予防につながっている。	保険年金課
			実績	疾病の早期発見、早期治療を図るため、人間ドックの検診料の一部を助成した。 また、国民健康保険加入者に対して、結果が「要精密検査」「要医療(要治療)」の方には医療機関の受診を促し、報告を求めた。 ・受診者数 国保加入者:665名 後期加入者:168名 ・要精密検査等結果報告書返却率(国保加入者のみ) 68.3%			
⑩	特定健康診査及び特定保健指導の実施	生活習慣病の予防・改善と医療費の適正化対策を推進するため、特定健康診査等及び特定保健指導を実施します。 健診結果により腎臓病地域連携パスを送付し、かかりつけ医・専門医・市役所が連携して、慢性腎臓病の重症化を予防します。	計画	・継続 ・特定健康診査の受診率 58.0% ・特定保健指導の実施率 58.0%	B	令和4年度も、増額した補助金を活用し、特定健診の個別通知による受診勧奨事業を行ったが、前年度ほどの効果が見られず、受診率は低下した。例年受診者の多い8月、9月に、新型コロナウイルス感染症が流行したことが、低下の要因と考えている。 なお、今年度、初めて実施した特定健診(集団健診)の完全予約制については、大きなトラブルもなく、市民の方にも好評だった。 特定保健指導の実施率は、前年度並みの57%程度になる見込みである。	保険年金課 健康推進課
			実績	実施時期:個別健診6月～9月、集団健診7月、9月～11月(4日間) 受診履歴を活用した特定健康診査の継続受診勧奨事業の実施 【特定健康診査】(令和5年4月末時点) 対象者数 9,032人 受診者数 4,286人 受診率 47.5% 【特定保健指導】(令和5年4月末時点) 対象者数 544人 実施者数 346人(初回済) 実施率 63.6%			
⑪	総合型地域スポーツクラブ活性化事業	子どもから高齢者まで、障がいの有無に関わらず市民の誰もが生涯にわたって、それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しめる環境の充実を目指し、市内5地区に設置されている総合型地域スポーツクラブを支援します。さらに、各地区の地域住民の健康保持及び相互交流を図ります。	計画	・継続 ・クラブ会員数(5クラブの総合計) 1,467人	B	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会主催の「ウォーキングフェスタ2023in袖ヶ浦」については、1,000人を超える申し込みがあり、当日参加者は920人となった。うち、9割が市内在住参加者だった。 市内初開催のボッチャ大会では、市内20チームが参加した。 交流大会では、122人が参加した。大会に向けて、チームで定期的に練習するなど、市民の運動の習慣化につながった。市民のスポーツ・レクリエーション活動のニーズに合った環境を提供することができている。	スポーツ振興課
			実績	市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が中心となり、総合型地域スポーツクラブの認知度向上と、誰もが気軽にスポーツに参加できる場の提供を目的として「交流大会」「ボッチャ大会袖ヶ浦」「ウォーキングフェスタ2023in袖ヶ浦」を実施した。 ・クラブ会員数(5クラブの総合計) 870人(令和5年3月時点)			
⑫	敬老事業(長寿祝金)	満88歳、満99歳以上の高齢者に長寿祝金を、満100歳、最高齢者に祝品を贈呈します。	計画	・継続	A	いつまでも自分らしく健康的な生活を送ることができるよう、節目となる88歳と99歳以上の高齢者に祝金を贈り、最高齢者及び100歳の高齢者に祝品を贈呈することにより、高齢者への敬老の意を表するとともに長寿を祝い、併せて高齢者福祉の増進を図った。	高齢者支援課
			実績	長寿祝金として、満88歳者に2万円、満99歳以上の者に3万円をそれぞれ支給した。 また、満100歳者及び最高齢者には長寿祝品を贈呈した。 【長寿祝金】 ・満88歳 255名 ・満99歳以上 43名 【長寿祝品】 ・満100歳者 9名 ・最高齢者(109歳)			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	1
B	おおむね達成した	8
C	目標を下回った	2
D	実施しなかった	1
計		12

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(1): 相談支援体制の充実

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	地域包括支援センターの体制強化	増加する高齢者人口に対応し、相談体制を充実するため、地域包括支援センターの体制強化を図ります。 現在1か所の地域包括支援センターを、民間活力を導入した委託による地域包括支援センターを含めた4か所の設置を目指します。 本計画期間中においては、新たに2地区（長浦地区、平岡・中川・富岡地区）に地域包括支援センターを設置します。	計画	・継続 ・支援センター数 2か所	B	当初計画で令和4年度に開設予定だった長浦地区が開設できなかったが、事業者を決定し、令和5年度開設の見込みを立てることができ、体制強化に向けた準備をすることができた。	高齢者支援課
			実績	長浦地区について、令和3年度に事業者選定ができなかったことから、平川地区と同時に事業者の選定を行って事業者を決定し、12月23日付けで2事業者と契約を締結した。 契約締結後、業務引継ぎ準備を行った。 （長浦地区） 社会福祉法人みどりの風 令和5年7月3日開設予定 （平川地区） 社会福祉法人瑞光会 令和5年10月2日開設予定			
②	地域包括支援センターによる相談支援の実施	地域包括支援センターによる相談支援の充実を図るため、研修等を活用し、専門職の資質の向上に努めます。また、地域の関係機関等との連携を密にし、高齢者やその家族のニーズを的確に把握し、包括的な支援を行っています。	計画	・継続	B	専門的な研修を受講することなどにより職員の資質の向上を図った。 関係機関等との密な連携により、包括的な支援を行うなど、相談支援体制の充実に資する取組みを行うことができた。	高齢者支援課
			実績	・専門職を含めた地域包括支援センター職員が国、県等が実施する成年後見制度に関するものなど専門的な研修に参加した。 ・民生委員や医療、介護関係者、その他市および社会福祉協会など関係機関との相互の情報提供等に努めた。			
③	認知症に対する早期対応と支援	認知症初期集中支援チームや認知症地域支援推進員が認知症の人や家族に早期に関わり、自立に向けた包括的・集中的な支援を行うとともに、家族の介護負担の軽減を図ります。	計画	・継続	B	認知症初期集中支援チーム員会議にて、認知症の人や家族の思い・介護負担に寄り添えるよう従事者間で支援方法を検討することができた。また、認知症初期集中支援チームによる訪問で早期に支援を開始することができた。	高齢者支援課
			実績	・地域包括支援センター職員と医師、介護福祉士等をメンバーとした認知症初期集中支援チームによる認知症の人及び家族への訪問支援を行った。【訪問件数11件】 ・認知症初期集中支援チーム員会議を定例的に実施し、自立に向けた個々のケースの支援方法についての検討を行った。			
④	介護技術の講習や介護サービスなどの情報提供	家族介護者が介護方法や各種サービスについて学ぶ家族介護教室の実施をはじめ、ニーズに応じた介護サービスの情報提供を行います。	計画	・継続	B	介護に関する技術や知識の習得の場の提供とあわせ、介護サービス等に関する情報を発信することができ、介護者の安心かつ安楽な介護に向けての一助となった。	高齢者支援課
			実績	・家族介護者が介護方法や各種サービスについて学ぶ家族介護教室の実施 ・特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人3法人（袖ヶ浦菜の花苑、サニーヒル、袖ヶ浦瑞穂）への委託により、介護方法や各種サービスについてなどをテーマに家族介護教室を開催した。 【教室開催回数 合計7回 参加者数46人】			
⑤	エンディングサポート事業【新規】	民間事業者との連携による終活に関する講演会等を実施し、人生の終わりをより良いものにしたいと望む高齢者への情報提供を行います。	計画	・継続	B	高齢者の終活の相談支援として、イオンライフ㈱と連携し、エンディングノートを配布することで終活に対する備えの一助として支援することができた。	高齢者支援課
			実績	終活に関する協定を締結したイオンライフ㈱と連携し、終活に関する普及啓発として窓口でエンディングノートや啓発品を配布した。			
⑥	介護相談員派遣等事業	介護相談員が市内介護保険施設等を定期的に訪問し、利用者との面談や訪問時の気づきによる施設等への意見交換等により、施設サービスの質の向上を図ります。また、新規認定者からの聞き取りを担い、利用者と介護サービス事業者との橋渡しなどを行います。	計画	・継続 ・訪問件数（施設） 420件 ・訪問件数（在宅） 480件	B	介護認定の新規認定者等への相談支援や施設訪問の再開により、地域包括支援センターや介護サービス事業所への橋渡しを行うことで、課題の解決やサービスの利用に繋げることができた。住み慣れた地域での生活を送るための相談支援体制の強化が図られている。	介護保険課
			実績	介護相談員が、新規認定者や転入者の自宅に訪問し、サービスの利用案内や相談支援を実施した。 施設への訪問については、新型コロナウイルス感染症のまん延防止の観点等から訪問を控えていたが、1月より訪問を再開した。 ・訪問件数（施設） 62件 ・訪問件数（在宅） 336件			
⑦	適切なケアマネジメントに向けた支援	利用者のニーズを適切に把握し、介護予防・自立支援に資するケアプラン（介護サービス計画）等の作成ができているか、また、地域包括支援センターによる地域ケア会議等個別の検討等を通して、マネジメント力の向上を図ります。	計画	・継続	B	自立支援型地域ケア会議をはじめ、各種地域ケア会議やケアプラン点検の実施により、個別課題や地域課題を把握し、課題解決に向けた取組みが生まれたり、マネジメント力の向上が図られている。 地域ケア個別会議により、担当事例に対して多面的に検討する機会を設け、ケアマネジャーのケアマネジメント向上が図られた。	高齢者支援課 介護保険課
			実績	・ケアプラン点検及びフィードバック研修を実施 点検数 11事業所 12件 研修 3月17日開催 ・地域ケア個別会議（自立支援型）において、市内居宅介護支援事業所ケアマネジャー参加による会議を開催した【10回開催】。助言者として参加している多職種からのアドバイスによる、自立支援の意識づけや多面的なアセスメント、インフォーマルサービスの検討等を行った。また、ケアマネネットワークを通じて、未参加のケアマネへの情報還元を1回行った。			

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(1): 相談支援体制の充実

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
⑧	生活困窮者自立支援事業	生活困窮者の尊厳の保持を図りつつ、生活困窮者の就労の状況、心身の状況、地域社会からの孤立の状況その他の状況に応じて、包括的かつ早期に支援を行います。断らない相談支援、地域における伴走型支援のコーディネートを行います。	計画	・継続 ・相談実人数 40人 ・延相談件数 130件	A	地域福祉課の自立相談支援室は、年齢を問わず相談を受け止めている。必要に応じて地域包括支援センターと連携し支援にあたることや、ケアマネジャーからの相談を受け止めることもあり、相談支援体制の充実を図ることができた。	地域福祉課
			実績	・相談実人数 171人 ・延相談件数 2,711件 計画数を上回る相談を受け、必要な支援機関と連携して対応した。 ・民生委員研修、市民後見人養成講座に講師として参加し、生活困窮者自立支援制度の周知を図った。 ・リーフレットを配布し、制度の周知を図った。			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	1
B	おおむね達成した	7
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		8

基本目標2:住み慣れた地域での生活支援
基本施策(2):生活支援サービスの充実

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	生活支援短期宿泊事業	基本的生活習慣が欠如しているなど、社会適応が困難な高齢者や虐待を受けている高齢者が特別養護老人ホーム等に短期間入所し、規則正しい生活習慣を身に付けることで、要支援・要介護状態への進行を予防します。	計画	・継続	A	社会適応が困難な高齢者又は虐待を受けている高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるようにするため、短期間の宿泊ができるよう市内特別養護老人ホーム3施設と契約を締結し、体制を確保することで、日常生活を支えるサービスの充実を図ることができた。	高齢者支援課
			実績	・市内特別養護老人ホーム3施設と契約締結し、支援が必要な高齢者の受入れの体制整備を行った。 ・利用者数 0人			
②	はり・きゅう・マッサージ施術費助成事業	保険給付等適用外のはり、きゅう、マッサージの施術を受けた75歳以上の高齢者に対し、施術費の一部を助成します。	計画	・継続	B	はり・きゅう・マッサージの施術費用の一部を助成することにより、在宅での日常生活を支えるサービスの充実が図られた。	高齢者支援課
			実績	・はり・きゅう・マッサージの施術費用の一部を助成することで、高齢者の経済的負担を軽減し、福祉の増進を図った。 ・交付人数 341人			
③	理容師派遣事業	要介護3～5と認定され、寝たきり等により理髪に行くことが困難な65歳以上の高齢者に対し、自宅での理容サービスが受けられるよう支援します。	計画	・継続	B	在宅で寝たきり等の要介護高齢者に、理容師を派遣することにより、在宅での日常生活を支えるサービスの充実が図られた。	高齢者支援課
			実績	・要介護高齢者に対し理容師を派遣することにより福祉の向上を図った。 ・利用人数 11人 ・延べ利用回数 23回			
④	介護予防・生活支援サービス事業【再掲】	要支援者及び介護予防・生活支援サービス事業対象者に対し、地域の実情に合わせた多様なサービスを提供します。 生活支援体制整備事業と連携し、地域の支え合いによる生活支援の拡大を図ります。	計画	・継続 ・住民主体の支援活動団体数 6団体	A	訪問型サービスAや短期集中サービスC、訪問型サービスB・D、通所型サービスBなどのサービスを実施し利用者へ多様なサービスの提供を行うことができた。また、サービスB・Dの補助要件緩和により、団体活動の活性化や新規団体創設に寄与することができた。 これらの介護予防・日常生活支援総合事業の制度において、本人の能力にあった日常生活支援を行うことにより重度化の防止を図った。	高齢者支援課
			実績	・従来のホームヘルパー・デイサービスよりも緩和した基準により行う【訪問型サービスA】を実施した。 【利用者数延41人】 ・理学療法士等の専門職による「通いの教室」と「自宅訪問支援」を組み合わせ短期間に行う教室【短期集中サービスC】を実施した。 【利用者計62人】 ・ボランティア等の住民が主体となり実施される生活支援を行う【訪問型サービスB】、移動支援を行う【訪問型サービスD】、通いの場を実施する【通所型サービスB】を実施した。 なお、令和4年度より補助対象事業の利用者について、団体の利便性向上のため制度の緩和を実施。 【訪問型サービスB(D含む)利用者数延1,057人】 【通所型サービスB利用者数延722人】 ・上記を含む住民主体の活動団体数は新たに2団体増え10団体となった。 【住民主体の支援活動団体数10団体】			
⑤	世代間支え合い家族支援事業	世代間でお互いに支え合いながら生活する多世代家族の形成を促進するため、高齢者とその子等が新たに本市で同居または近隣に居住するため、住宅の新築、購入、増改築、転居等に要する費用の一部を助成します。	計画	・継続 ・利用者数 13人	A	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる環境整備を実現するため、高齢者と子等が同居又は近居するために要する費用の一部を助成することで、世代間で支え合う家族形成の促進を図ることができた。	高齢者支援課
			実績	・新築等14件、転居1件の合計15件の利用があり、助成金を交付した。 また、住宅メーカーや関係団体への周知、市民の集まる各種イベントのほか、独立行政法人住宅金融支援機構の企画により新聞広告の掲示や、東京駅丸の内地下通路デジタルサイネージ掲示など様々な機会に制度をPRし事業の一層の啓発を行った。			
⑥	紙おむつ等支給事業	要介護認定を受けて在宅で紙おむつ等を必要としている高齢者の介護者及びひとり暮らしの高齢者を対象に紙おむつ等を支給します。 また、対象者など助成の見直しについて取り組みます。	計画	・継続 ・利用者数 690人	A	要介護認定を受けている65歳以上の在宅高齢者に紙おむつ等を支給することにより、要介護高齢者とその介護者の身体的、精神的及び経済的な負担軽減を図り、在宅での日常生活を支えることができた。	高齢者支援課
			実績	・要介護1以上の認定を受けている在宅で生活をする高齢者を介護する家族に対して、紙おむつ等の現物を支給し、要介護高齢者及びその介護者の身体的及び精神的ならびに経済的な負担軽減を行った。 ・利用者数 754人			
⑦	高齢者等住宅整備資金貸付事業	高齢者が自宅で日常生活を営むことができるよう浴室やトイレの改修、段差の解消、手すり、スロープの設置等の住宅改修に対し、資金を無利子で貸付します。	計画	・継続	B	高齢者等が住み慣れた自宅において自立した日常生活を安全に過ごすことができるよう、申請のあった者に住宅改修に係る資金の貸付を行い、費用の負担軽減を図ることで、在宅での日常生活を支えるサービスの充実を図ることができた。	高齢者支援課
			実績	・高齢者等が自宅において自立した日常生活を安全に過ごすことができるよう、また、その親族の介護負担を軽減するため、本事業の周知を図った。 ・新規貸付件数 0件			
⑧	老人保護措置事業(養護老人ホーム)	経済上の理由や虐待などにより、居宅での生活が困難な高齢者に対し、住まいが確保されるよう養護老人ホームに入所措置し養護します。	計画	・継続	B	環境上の理由及び経済的理由により生活が困難になった高齢者等が安心して生活できるようにするため、養護老人ホームに入所措置することにより、安心して暮らせる環境を整備した。	高齢者支援課
			実績	・環境上の理由及び経済的理由により、保護を必要としている高齢者を養護することで、生活の安定と福祉の向上を図った。 ・措置者 7名 (新規措置者 1名) ・措置入所施設 3施設			

基本目標2:住み慣れた地域での生活支援
基本施策(2):生活支援サービスの充実

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
⑨	高齢者移動支援事業	自身で自動車の運転ができない、家族等からの支援がないなど自家用車での移動が困難な高齢者、駅やバス停が遠いなど公共交通機関での移動が困難な高齢者などの移動を支援します。 【タクシー利用料金助成事業】 75歳以上のみの非課税世帯を対象に、タクシーを利用した場合の利用料金の一部を助成します。 【高齢者支援協力バス事業】 健康づくり支援センターが運行する送迎バスの空席を利用し、高齢者を対象に移動支援を行う事業を試行的に実施します。 【地域支え合い活動支援事業】 地域住民・NPO等が主体となり、高齢者等の移動手段を確保する取組に対して支援します。	計画 ・継続 ・高齢者移動支援タクシー利用率 60.0% ・地域支え合い活動支援事業各団体の平均外出支援者数 15.5人/日	実績 【タクシー利用料金助成事業】 移動手段の確保が困難な非課税世帯の75歳以上に対し、タクシー利用料金の一部助成を行った。 ・タクシー利用率 72.21% 【高齢者支援協力バス事業】 新型コロナウイルス感染症の影響により、ガウランドバスを活用した試行的な支援の実施ができなかった。 【地域支え合い活動支援事業】 活動団体1団体に対して、補助金の交付及び車両の無償貸与を行った。また、市ホームページや広報紙にて提供会員及び利用会員の募集を行うとともに事業の周知に努めた。 ・15.2人/日	B	タクシー利用料金助成事業は、令和4年度から交付対象者を65歳以上の非課税世帯に属する75歳以上の方に拡充し、在宅での日常生活を支えるサービスの充実を図った。	高齢者支援課
⑩	生活困窮者自立支援事業【再掲】	生活困窮者の尊厳の保持を図りつつ、生活困窮者の就労の状況、心身の状況、地域社会からの孤立の状況その他の状況に応じて、包括的かつ早期に支援を行います。断らない相談支援、地域における伴走型支援のコーディネートを行います。	計画 ・継続 ・相談実人数 40人 ・延相談件数 130件	実績 ・相談実人数 171人 ・延相談件数 2,711件 計画数を上回る相談を受け、必要な支援機関と連携して対応した。 ・民生委員研修、市民後見人養成講座に講師として参加し、生活困窮者自立支援制度の周知を図った。 ・リーフレットを配布し、制度の周知を図った。	A	高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう相談窓口の周知を行った。また、相談に来ることができない高齢者の方に対しては、訪問し相談体制の充実を図った。 さらに、ケアマネジャーへ制度の周知を図り、相談につながりやすい体制づくりを行った。	地域福祉課
⑪	移送サービス事業	高齢や障がいにより、一般の交通手段では通院等が困難な低所得の方を対象に、ボランティアの協力により送迎を行い、自宅から市内・近隣市の医療機関等までの移動を支援します。	計画 ・継続 ・利用登録者数 67人	実績 提供回数:80件 利用会員:59人 ボランティア登録数:67人(運転31人、付添い:36人) 令和3年度同様に利用者、ボランティア等の体温測定や手指消毒など新型コロナウイルス感染症に関する感染予防策をとったうえで事業を実施した。 また、事業の安全性を高めるため、運転ボランティアを対象とした実務教習会を行い、運転技術の向上と安全運転意識の向上に努めた。	B	コロナ禍ではあったが、感染予防策を講じ、ボランティアの協力の上で継続的に事業が実施できたことで住み慣れた地域で生活するための一助となった。	社会福祉協議会
⑫	木造住宅耐震化促進事業	平成12年以前に建築された木造住宅を対象とし、定期的に無料の耐震相談会を開催するなど、耐震化率の向上を目的とした啓発活動を実施します。 また、耐震診断及び耐震改修工事にかかる費用の補助を実施し、高齢者及び障がい者については、耐震診断の結果から一定の条件を満たした場合に、耐震改修工事にかかる補助額を増額します。	計画 ・継続 ・耐震改修工事実施件数 15件	実績 戸別訪問や耐震無料相談会などによる啓発活動及び耐震診断・耐震改修工事への補助を実施。 ・高齢者への耐震改修工事補助実績 9件	C	今年度、本事業における耐震改修工事実施者の全てが65歳以上の高齢者である。 本事業を通じて、住宅の耐震化が図られ、地震による家屋の倒壊、倒壊による近隣への二次被害を防ぎ、高齢者が安心して暮らせる住まいづくりに貢献している。 耐震改修工事の実績が減少した理由としては、耐震改修工事を希望する者の多くが65歳以上で、物価高騰の影響などにより工事費用の負担が大きいのことが挙げられる。	都市整備課
⑬	一人暮らし高齢者宅防火診断	一人暮らし高齢者宅を訪問し、防火思想の普及を図り、火災による被害の軽減、安全を確保するため、住宅用防災機器、電気、ガス器具等の防火診断を実施し、アドバイスを行います。	計画 ・継続 ・高齢者宅防火診断実施戸数 90戸	実績 ・実施戸数77戸 秋季及び春季火災予防運動中に高齢者支援課、女性消防団員、電気業者、ガス業者と協力し、一人暮らし高齢者宅防火診断を実施した。	B	不在等により計画数より下回ったが、高齢者に対して火災予防に対する意識の向上が図られた。	予防課

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(2): 生活支援サービスの充実

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当 課
			項目	令和4年度			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	5
B	おおむね達成した	7
C	目標を下回った	1
D	実施しなかった	
計		13

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(3): 介護保険サービスの充実

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	在宅介護サービスの充実	高齢者が介護を要する状態になっても、できる限り住み慣れた地域で生活できるよう、利用者の希望に応じたサービスを提供するために、必要なサービスの量の確保と質の向上に努め、介護サービスの円滑な提供を推進します。	計画	・継続	B	在宅や住み慣れた地域で生活を続けたいという利用者の希望に応じたサービスを提供し、その費用について介護(介護予防)給付を行った。 在宅サービスの利用により、要介護状態の維持・改善、重度化防止が図られ、住み慣れた地域での生活の継続につながっている。	介護保険課
			実績	・要介護・要支援認定者が利用する居宅(介護予防)サービスの費用について、7割から9割分を給付した。 ・居宅介護支援費・介護予防支援費は、10割分を給付した。			
②	介護保険サービス事業所整備事業	高齢者が住み慣れた地域で生活し続けていくためのサービスの充実を図るため、計画期間内においては、認知症対応型共同生活介護(1か所)の整備を行います。 また、地域密着型介護老人福祉施設(1か所)の整備を行うとともに、第9期開設に向けて地域密着型介護老人福祉施設(1か所)の開設準備を進めます。	計画	・継続 ・整備箇所(認知症対応型共同生活介護) 3か所 ・整備箇所(地域密着型介護老人福祉施設) 3か所	B	地域密着型サービス施設を整備することにより、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けるための基盤づくりに寄与することができる。	介護保険課
			実績	令和4年5月に地域密着型介護老人福祉施設の整備運営事業者を決定。 その後、市においては県交付金の協議を進め、同年9月に県交付金の交付決定を受けたほか、整備運営事業者においては開発協議等を進め、令和5年2月までに建築に必要な開発行為許可、農地転用許可、確認済証を取得した。 令和5年3月15日に整備運営事業者に対し市補助金の交付決定を行い、同月16日に整備運営事業者において入札公告を実施した。			
③	介護相談員派遣等事業【再掲】	介護相談員が市内介護保険施設等を定期的に訪問し、利用者との面談や訪問時の気づきによる施設等への意見交換等により、施設サービスの質の向上を図ります。また、新規認定者からの聞き取りを担い、利用者と介護サービス事業者との橋渡しなどをを行います。	計画	・継続 ・訪問件数(施設) 420件 ・訪問件数(在宅) 480件	B	介護認定の新規認定者等への相談支援や施設訪問の再開により、地域包括支援センターや介護サービス事業所への橋渡しを行うことで、課題の解決やサービスの利用に繋げることができた。住み慣れた地域での生活を送るための相談支援体制の強化が図られている。	介護保険課
			実績	介護相談員が、新規認定者や転入者の自宅に訪問し、サービスの利用案内や相談支援を実施した。 施設への訪問については、新型コロナウイルス感染症のまん延防止の観点等から訪問を控えていたが、1月より訪問を再開した。 ・訪問件数(施設) 62件 ・訪問件数(在宅) 336件			
④	介護給付等費用適正化事業	介護(予防)給付について、適正なサービス利用につなげるため、ケアプランの点検や給付情報の突合、介護給付費通知などを実施します。 また、指定権者として事業所の人員・設備等の指導等を行い、さらなる給付の適正化に取り組みます。	計画	・継続	A	介護(予防)給付について、真に必要なサービス以外の不要なサービスが提供されていないかの検証を行い、介護保険制度の趣旨の徹底や介護支援専門員の資質向上へとつなげることで、利用者に適切なサービスが提供される環境を整備し、介護給付等に要する費用の適正化を図ることができた。	介護保険課
			実績	・給付情報の突合等 ・給付費通知(年2回) 発送通数 5,395通 ・ケアプラン点検及びフィードバック研修の実施 点検数 11事業所 12件 研修 3月17日実施 ・事業所指導 9事業所			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	1
B	おおむね達成した	3
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		4

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(4): 在宅医療・介護の連携

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	在宅医療・介護連携推進事業	【推進協議会の開催】 医療・介護関係者からなる「在宅医療・介護連携推進協議会」を開催し、課題の抽出や対応策を検討するとともに協働のあり方や普及啓発等についても検討します。 【多職種間の関係づくり】 医療・介護関係者のよりよい連携・協働を可能にするために、グループワーク・ケーススタディなど多職種協働研修を実施するほか、地域の医療機関・介護事業所に関する社会支援のリストや情報共有ツールの作成、更新を行います。 【住民向け普及啓発】 医療・介護関係者の協力の下、地域住民向けに在宅医療や介護に関する講演会等を開催することにより広く周知を図ります。 【在宅医療・介護連携に関する相談体制】 地域包括支援センターに設置している「在宅医療・介護連携支援相談窓口」を通じて、関係者から在宅医療・介護連携に関する相談に応じるとともに、情報の提供など支援を行います。 住民向けには、相談に対し、必要に応じて情報提供や他の相談機関へつなぐ等の支援を行います。	計画	・継続	A	医療・介護の関係者からなる在宅医療・介護連携推進協議会や多職種協働研修により、職種間での情報交換や意見交換が行われ、協働するための関係づくりに貢献できたと考える。特に研修に関して、さらに事例検討を行って現場での多職種協働に活かしたいという意見も寄せられており、関係者から期待される取組みとなっている。	高齢者支援課
			実績	在宅医療・介護連携推進協議会を3回実施し、多職種間の関係づくりのため協働による研修等、事業内容について協議を行った。 多職種間の関係づくりの一環として、協働により事例検討会や研修を行った。 住民向け普及啓発として、認知症予防に関する講演会を開催した。【年間1回、参加延56人】 在宅医療・介護連携支援相談窓口を開設し、関係者および市民に対し相談対応および相談者への情報提供を行った。			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	1
B	おおむね達成した	
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		1

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(5): 安心して暮らせるまちづくり

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	救急医療情報 キット配布事業	ひとり暮らしの高齢者等に対し、救急時に必要となるかかりつけ医療機関や持病等の情報を記入した救急情報シートを保管する救急医療情報キットを配布します。	計画	・継続 ・配布者数 1,070人	A	ひとり暮らし高齢者の有事の備えとして、高齢者が安全で安心して生活できるよう、生活環境の確保に努めた。	高齢者支援課
			実績	救急時にかかりつけの医療機関、持病等の情報を迅速に把握し、医療機関へ搬送することができるよう、ひとり暮らし高齢者等に対し、救急医療情報キットを配布した。 また、年2回市の広報紙に掲載したほか、ホームページにて事業周知を図った。 ・配布者数 1,138人			
②	緊急通報システム等給付貸付事業	ひとり暮らしの高齢者等に対し、緊急通報システム等を貸付し、安心して自宅で生活できる環境の整備を図ります。	計画	・継続	B	高齢者が安全で安心して生活できるよう、ひとり暮らし高齢者等に緊急通報システム及び福祉電話を貸与するほか、火災警報器を給付することにより、安全で安心した生活ができるよう生活環境の確保に努めた。	高齢者支援課
			実績	在宅の高齢者等に対し、緊急通報システム・福祉電話・火災警報器を給付、又は貸与することにより、ひとり暮らし高齢者等が安心して自宅で生活できる環境の整備を図った。 ・緊急通報システム 設置台数 262台 (うち新規設置 29台) ・福祉電話貸与 2台 ・住宅用火災警報器の給付 16台			
③	高齢者の見守り・徘徊への対応の実施	高齢者等が外出の際に保護された時に、早期に身元が確認できるよう、衣服や持ち物に貼り付けられる「QRコード」が印字されている見守りシールを配布します。	計画	・継続	A	見守りシールを配布することにより、高齢者を見守るための体制づくりツールとして提供することができた。	高齢者支援課
			実績	見守りシールについて、ホームページ、高齢者福祉のしおりなどの配布物で周知を図った。 電話、窓口で問い合わせがあったうち制度を説明し5名に配布した。			
④	高齢者見守りネットワーク事業	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、協力事業者、関係団体等によるネットワークにより「さりげない見守り」を実施します。	計画	・継続 ・協力事業者の関係団体数 67団体	A	市及び見守り協力者が相互に連携し、異変のある高齢者を早期に発見・必要な支援を行い、市民・事業者、関係機関等のネットワークによる高齢者の「さりげない見守り」を実施し、地域社会全体で高齢者を見守る体制整備を図ることができた。	高齢者支援課
			実績	市及び見守り協力者が相互に連携し、異変のある高齢者を早期に発見し、必要な支援を行った。 また、市と包括連携協定を締結した事業者等に事業の周知を行い協力事業者の拡大に努めた。 ・協力事業者 69事業者 ・受理件数 6件			
⑤	介護施設等の防災活動に対する支援【新規】	災害等に備え、介護施設等の非常時の連絡先や備蓄状況などを定期的に確認するとともに、必要に応じて防災訓練等の支援を行います。	計画	・継続	B	災害においても、新型コロナウイルス感染症においても、事業所の緊急連絡先を把握し職員の待機体制を置くことで、普段から事業所と密に連絡を取れるようになり、迅速に対応できるようになった。	介護安全課
			実績	台風などの災害が多くなる夏季前に事業所に対して、非常時の連絡先や、避難先等の確認を行った。 また、新型コロナウイルス感染症の発生に備え、休日においても日直からの連絡で職員が対応できる体制をとった。 地域防災計画に位置付けている配慮者利用施設に対し、避難確保計画の作成に関する説明会を行うなど、計画策定のための支援を行った。			
⑥	災害時要援護者の支援	災害時に自力または家族の支援だけでは対応が困難な高齢者や障がいのある方を日頃から見守り、災害時に迅速に手を差し伸べられるようにするため、個人情報の保護に配慮した災害時要援護者登録台帳を作成・活用し、地域が連携して災害時要援護者の支援に努めます。 また、福祉避難所の指定整備に努め、災害時に要援護者が避難生活を送るために必要となる資機材等をあらかじめ配備するように努めます。	計画	・継続 ・福祉避難所運営訓練 1回	A	災害時要援護者台帳を更新し、地域の関係者に配布し、防災訓練時に要援護者安否確認の訓練を実施することで、地域社会全体で要援護者を見守る体制整備を図ることができた。	防他災4安全課
			実績	災害時要援護者登録台帳を避難行動要支援者名簿に名称を改め、その名簿の更新を行い、地域が連携して、避難行動要支援者の把握に努めた。 また、福祉避難所の指定整備に努め、災害時に要援護者が避難生活を送るために必要となる資機材等をあらかじめ配備するように努めた。 なお、福祉避難所運営訓練について、HUG訓練を中心に避難所運営に関する訓練を実施した。			
⑦	地域防犯体制強化事業	市民が安全で安心して暮らせる地域社会を実現するため、防犯指導員や自主防犯組織の活動を支援するとともに、木更津警察署や防犯指導員等の関係団体と連携し、高齢者を対象に電話de詐欺等を防止するための啓発活動や防犯講習会を実施します。	計画	・継続 ・自主防犯組織の設立数 44団体	B	新型コロナウイルス感染症の影響により各種イベントが中止になってしまったため、例年よりも回数は減ってしまったが、木更津警察署や関係団体と連携して啓発活動及び講習会を実施することにより、高齢者が安全で安心して生活できるまちづくりを推進することができた。	防災安全課
			実績	自主防犯組織の活動に対する支援として、防犯装備品の貸与やリーダー研修会を開催した。 新型コロナウイルス感染症の影響により例年と比べると回数は減ってしまったが、各種防犯団体と連携し、防犯パトロールや啓発活動を実施した。 ・自主防犯組織の設立数 43団体			

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(5): 安心して暮らせるまちづくり

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
⑧	交通安全対策事業	高齢者の交通事故対策として、交通安全意識の向上を図るため、木更津警察署や交通関係団体と連携し啓発活動を実施するとともに、シニアクラブ等における交通安全教育の実施及び運転免許証の自主返納を推進します。 【運転免許証自主返納事業】 高齢者の交通事故の減少を目的として、運転免許証を自主返納された高齢者を対象に、千葉県公安委員会が発行する運転経歴証明書及びバス事業者が発行するバス運賃割引優待証の交付手数料を助成します。	計画	・継続 ・交通安全教室・講習会の実施回数 133回	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベント等が中止となり目標回数を下回ったが、木更津警察署や各種団体の協力により、できる範囲での啓発活動を実施した。 高齢者の交通事故については、昨年と比較し1件の増加となり、死亡事故は1件発生している。 運転免許証の自主返納者への助成は、昨年と比較し8人減少した。	防災安全課
			実績	高齢者の交通事故防止のため、木更津警察署の協力により交通安全教室を実施するとともに、イベントやサロンに出向き交通事故防止啓発活動を110回実施。また、運転免許証自主返納事業については、運転免許証自主返納者に運転経歴証明書及びバス事業者の発行するバス運賃割引優待証の発行手数料を助成し、51人に助成金を交付した。			
⑨	消費生活相談・消費者意識啓発事業	消費者の利益を保護するため、相談業務を実施するとともに、消費者教室や消費生活相談員による出前講座を開催し、啓発を行います。	計画	・継続 ・出前講座・消費者教室の開催回数 10回	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座等の開催は3回に留まったものの、相談業務は通常通り開設し、消費者被害の未然防止に寄与することができた。	商工観光課
			実績	・消費生活相談員による出前講座や消費者教室を実施し、消費者被害の未然防止に努めた。 出前講座・消費者教室 3回開催 出前講座 7月:根形公民館 根形ニコニコ教室 2月:平岡公民館 ひらおかシニアセミナー 消費者教室 12月:オリジナル乾電池を作ろう(安全で正しい使い方を学ぶ)			
⑩	福祉教育の推進	車いすや障がい者・高齢者の疑似体験器具を使用した福祉体験学習などを実施し、児童生徒が地域の一員として、福祉に関する理解を深め、実践的な態度を育てます。	計画	・継続 ・高齢者・障がい者とふれあう体験的学習をした割合 100%	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、福祉体験学習の実施率は100%とならなかったものの、実施した学校においては、福祉に関する理解を深め、実践的な態度を育てることができた。	学校教育課
			実績	車いす体験、ボッチャ体験等の福祉体験を実施し、障がい者と触れ合う体験学習を実施した。 新型コロナウイルス感染症の影響で、実施した割合は100%とはならなかった。 実施率:91.7%			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	4
B	おおむね達成した	6
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		10

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(6): 権利擁護施策の推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	高齢者虐待の防止と高齢者保護	高齢者虐待の防止に向けて地域住民や関係機関へ普及啓発を行います。また、虐待発生時には、関係機関と連携し、対象者の保護や養護者の介護負担の軽減等適切な支援を行います。	計画	・継続	B	地域住民や支援関係者に向けた普及啓発により、虐待疑いや虐待に至る恐れのある事例についての相談・通報が促進された。また、虐待対応や成年後見制度について関係者間での認識や理解の共有が進んだ。これにより、判断能力が十分でない人の主体性や尊厳を守り、住み慣れた地域での生活を安全に継続するための支援を実施することができた。	高齢者支援課
			実績	民生委員研修・ケアマネジャーネットワーク研修・市民後見人養成講座において高齢者虐待防止について周知を図り、その他の関係機関や地域住民に対しては個別ケースの支援を通して普及啓発を行った。虐待またはその疑いのある事例を把握した場合には、迅速に事実確認と情報収集を行い、養護老人ホームへの措置と後見市長申立てにより被虐待者を保護したり、介護保険サービスの導入等により虐待者の介護負担を軽減するなど、関係者と連携して各種制度を活用し虐待の解消や再発防止を図った。			
②	成年後見制度利用支援事業	成年後見制度について市の広報、ホームページやパンフレット、市民への勉強会等による制度の普及啓発を図るとともに、司法書士会等成年後見等実施機関と連携を図り、制度利用が必要な高齢者に対して、利用に結び付けられるよう支援します。また、認知症高齢者等で親族がいない場合や虐待がある場合には、市長による後見等申立を行います。また、必要に応じて申立費用や後見人等報酬費用の一部を助成します。さらに、「成年後見制度利用促進基本計画」に沿って権利擁護支援のネットワーク及び中核機関の整備について検討します。	計画	・継続	A	「成年後見制度利用促進基本計画」に沿い、制度の普及啓発・権利擁護支援が必要な個別ケースの支援方針検討・関係機関のネットワーク構築を推進し、また後見市長申立てと費用助成を適切に実施したことにより、被虐待者や親族のいない認知症高齢者等が後見人等の支援を受け主体性と尊厳を持って住み慣れた地域や適切な施設で生活を継続できる体制づくりを進めることができた。	高齢者支援課
			実績	「成年後見制度利用促進基本計画」に位置つけた、権利擁護支援の地域連携ネットワーク構築における「中核機関」を4月から運営を開始し、一部業務を委託した社会福祉協議会と協力して、HPやパンフレット配布による普及啓発、権利擁護支援定例会議における個別ケースの支援方針の検討、権利擁護推進会議における福祉・医療・法律・金融機関等幅広い関係者間での情報共有と協力関係の構築等に取り組んだ。 また、身寄りが無い、虐待を受けているなどの認知症高齢者について後見市長申立て・費用助成を実施した。			
③	生活支援短期宿泊事業【再掲】	基本的生活習慣が欠如しているなど、社会適応が困難な高齢者や虐待を受けている高齢者が特別養護老人ホーム等に短期間入所し、規則正しい生活習慣を身に付けることで、要支援・要介護状態への進行を予防します。	計画	・継続	A	社会適応が困難な高齢者又は虐待を受けている高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるようにするため、短期間の宿泊ができるよう市内特別養護老人ホーム3施設と契約を締結し、体制を確保することで、日常生活を支えるサービスの充実を図ることができた。	高齢者支援課
			実績	市内特別養護老人ホーム3施設と契約締結し、支援が必要な高齢者の受入れの体制整備を行った。 ・利用者数 0人			
④	法人後見事業	高齢や知的障がい、精神障がいなどにより意思決定が困難な人の判断能力を補うため、社会福祉協議会が法人として成年後見人等となり、財産管理、身上監護を行います。	計画	・継続 ・新規受任件数 3件	A	・日常生活自立支援事業とともに、袖ヶ浦市の権利擁護支援を担う一助として、事業を実施している。引き続き住み慣れた地域で生活できるよう、社会福祉協議会が法人として後見人等となり、本人の生活を支援している。 ・後見類型ばかりでなく、保佐類型の受任ができることで、本人の能力を活かした、医療、福祉サービスの決定や日常生活のさまざまな場面の相談ができるよう情報提供を行うことができている。	社会福祉協議会
			実績	・新規受任件数3件(後見3件) ・後見人等候補者として依頼のあったケースについて、法人後見受任調整会議で審議を行い、3件を受任した。			
⑤	日常生活自立支援事業	障がいのある人や高齢者で、サービスの利用に必要な契約の内容を説明すれば理解できる人に対し、福祉サービス利用に関する援助、金融機関からの現金の引き出し等の財産管理サービス、重要な書類の預かり等の財産保全サービスを行います。	計画	・継続 ・新規利用契約者数 4人	A	判断能力の低下の初期の段階から支援を開始することで、地域生活の継続、自己決定の尊重の機会を保つことができている。	社会福祉協議会
			実績	・新規利用契約者数 7人			
⑥	消費生活相談・消費者意識啓発事業【再掲】	消費者の利益を保護するため、相談業務を実施するとともに、消費者教室や消費生活相談員による出前講座を開催し、啓発を行います。	計画	・継続 ・出前講座・消費者教室の開催回数 10回	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、出前講座等の開催は3回に留まったものの、相談業務は通常通り開設し、消費者被害の未然防止に寄与することができた。	商工観光課
			実績	・消費生活相談員による出前講座や消費者教室を実施し、消費者被害の未然防止に努めた。 出前講座・消費者教室 3回開催 出前講座 7月:根形公民館 根形ニコニコ教室 2月:平岡公民館 ひらおかシニアセミナー 消費者教室 12月:オリジナル乾電池を作ろう(安全で正しい使い方を学ぶ)			

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(6): 権利擁護施策の推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当 課
			項目	令和4年度			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	4
B	おおむね達成した	2
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		6

基本目標2: 住み慣れた地域での生活支援
基本施策(7): 介護人材の確保・定着支援

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	就業に対する動機付けへの支援	今後、一層高まる介護サービス需要に対応するため、次世代を担う小中学生等に介護の仕事の大切さと魅力を伝えるため周知を図ります。	計画 実績	・継続 加齢による高齢者の心身の変化や介護の重要性、介護の仕事に関して説明するチラシを作成し、令和4年7月に開催された青少年健全育成推進大会の参加者に配布した。	B	袖ヶ浦市の高齢化率や、高齢者の心身の状況を説明したり、介護の仕事にどのようなものがあるのかをチラシを用いて解説することで、社会における介護のやりがい・必要性・重要性を伝え、将来の介護人材となりうる小中学生への福祉教育の推進が図られた。	介護保険課
②	福祉教育の推進【再掲】	車いすや障がい者・高齢者の疑似体験器具を使用した福祉体験学習などを実施し、児童生徒が地域の一員として、福祉に関する理解を深め、実践的な態度を育てます。	計画 実績	・継続 ・高齢者・障がい者とふれあう体験的学習をした割合 100% 車いす体験、ボッチャ体験等の福祉体験を実施し、障がい者と触れ合う体験学習を実施した。 新型コロナウイルス感染症の影響で、実施した割合は100%とはならなかった。 実施率: 91.7%	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、福祉体験学習の実施率は100%とならなかったものの、実施した学校においては、福祉に関する理解を深め、実践的な態度を育てることができた。	学校教育課
③	介護人材確保育成支援事業	国・県等が実施する介護人材育成等に関する事業と連携を図り、市内の介護サービス事業所等に従事する人材育成の支援を行います。 また、市内の介護サービス事業所等に従事する人材の確保・定着・育成並びに介護保険サービスの安定的な提供を目的に、資格取得等にかかる費用の支援を行います。	計画 実績	・継続 ・介護職員初任者研修受講費用助成件数 10件 ・介護支援専門員資格取得費用助成件数 3件 千葉県等が実施する各種研修等について介護サービス事業所に情報提供を行うとともに、介護職を目指している方への各種支援制度を市ホームページに掲載した。 また、介護支援専門員の資格取得に要する費用や介護職員初任者研修・主任介護支援専門員研修の受講費用を助成した。 ・介護職員初任者研修受講費用助成 計画10件、実績2件 ・介護支援専門員資格取得費用助成 計画3件、実績3件 ・主任介護支援専門員研修受講費用助成 予算2件、実績1件	B	資格取得等に係る費用助成の実績については、目標数には及ばなかったものの、介護人材の確保・育成に寄与することができた。	介護保険課

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	
B	おおむね達成した	3
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		3

基本目標3: 地域で支え合う仕組みづくり
基本施策(1): 支え合い活動の推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	地域ケア会議の実施(地域ケア個別会議)	【地域ケア個別会議】 地域ケア個別会議は、①個別課題検討型、②地域課題検討型、③自立支援型という3構成で実施しています。 ①は支援困難ケースの関係者等による会議、②は地域の問題や課題をその地域の方々と検討する会議、③は事例検討を通じて自立支援に資するケアマネジメントの気づきを得る会議といった具合に、対象を個人または特定の地域に限定し検討を行うものです。 【地域ケア推進会議】 個別ケースの検討から「事例に共通する課題」について、市が取り組む課題としての検討を行います。 地域ケア個別会議の3構成と、地域ケア推進会議の計4構成を一体的に取り組むことで、個別の課題・地域の課題を地域づくりの課題につなげていきます。	計画 実績	・継続 個別課題検討型地域ケア会議では、ケアプランを通して検討を行い、ケアマネジャーの自立支援に資するケアマネジメントの質の向上を図った。【3回開催】 地域課題検討型地域ケア会議は、1地区において開催し、地域課題の共有と解決策の検討を行った。【2回開催】 自立支援型地域ケア会議を開催し、自立支援の意識づけや多面的なアセスメント、インフォーマルサービスの活用検討等がされた。【10回開催】 地域ケア推進会議では地域課題の分析等の結果を踏まえ、各会議の報告と他事業との協働を検討した。【2回開催】	A	3種の地域ケア個別会議により、地域課題や事例検討を重ねることでケアマネジメント向上や多職種・地域のネットワークづくりが進められている。 地域ケア推進会議では、地域ケア個別会議の検討の積み重ねを踏まえて、ワーキンググループを実施し、他事業との協働により具体的な解決策を検討していく方向性を見いだせた。	高齢者支援課
②	高齢者見守りネットワーク事業【再掲】	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、協力事業者、関係団体等によるネットワークにより「さりげない見守り」を実施します。	計画 実績	・継続 ・協力事業者の関係団体数 67団体 市及び見守り協力者が相互に連携し、異変のある高齢者を早期に発見し、必要な支援を行った。 また、市と包括連携協定を締結した事業者等に事業の周知を行い協力事業者の拡大に努めた。 ・協力事業者 69事業者 ・受理件数 6件	A	市及び見守り協力者が相互に連携し、異変のある高齢者を早期に発見・必要な支援を行い、市民・事業者、関係機関等のネットワークによる高齢者の「さりげない見守り」を実施し、地域社会全体で高齢者を見守る体制整備を図ることができた。	高齢者支援課
③	はつらつシニアサポーターの養成、活動支援	介護予防の取組を支援するはつらつシニアサポーターの養成の促進に加え、地域の通いの場への支援等、活動に結び付けられるよう支援を行うとともに、サポーターのさらなる知識の習得に向け研修を行います。	計画 実績	・継続 ・はつらつシニアサポーター数 158人 ・はつらつシニアサポーター養成講座を1回、現サポーターを対象に、スキルアップを目的とした講座を2回開催した。袖ヶ浦いきいき百歳体操の体力測定や介護予防教室で活動することができるサポーターを養成することができた。 【はつらつシニアサポーター:新規養成数6人、総計139人 スキルアップ講座:開催2回、受講者21人】	B	はつらつシニアサポーター数は目標を達成することはできなかったが、スキルアップ講座ではリハビリテーション専門職に講師を依頼し、サポーターの活躍の場の拡大につながる内容とし、サポーター活動につなげることができた。	高齢者支援課
④	介護支援ボランティア事業	高齢者の介護予防を促進するため、介護支援ボランティア活動の実績に応じポイントを付与し、ポイント交換により寄附または地産地消に資する商品券を交付します。	計画 実績	・継続 高齢者がボランティア活動により地域貢献することを奨励し活動を支援するため、介護支援ボランティア登録研修会を3回計画し、広報等による周知を行った。 1回開催(申込がなかった2回は中止)し、高齢者自身の社会参加活動を通じた介護予防が推進できた。 開催回数 1回 参加人数 1人	B	高齢者がボランティア活動により地域貢献を行い、地域の活性化が図られた。	高齢者支援課
⑤	生活支援体制整備事業	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、従来の給付等のサービスだけではなく、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人など多様な主体が地域の高齢者を支援していく生活支援サービスの提供に向けた取組を実施します。	計画 実績	・継続 ・住民主体の支援活動団体数 6団体 市内を5地区に分けた協議体ごとに、社会福祉協議会への委託による生活支援コーディネーター(SC)を配置し、協議体の実施ならびに住民主体の生活支援等の活動創出を促進する取組を行った。 取組の結果、SCへの相談や地域の情報提供が多く行われた。希望する地区に移動販売が開始となる等の成果があった。また、住民主体の活動団体は10団体となった(昨年度8から2増加。) 【住民主体の支援活動団体数10団体】	A	活動団体が増加しており、地域の高齢者を支援する生活支援サービスの提供の充実が図られた。	高齢者支援課

基本目標3: 地域で支え合う仕組みづくり
基本施策(1): 支え合い活動の推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
⑥	ボランティアセンターの運営	地域や施設で実施される行事や施設入所者の日常生活支援など、ボランティア活動を希望する方と支援を希望する方との連絡調整を行い、様々なニーズに合ったボランティア活動を支援できるよう、ボランティアセンターの機能強化と事業の充実に努めます。 (主な活動: ボランティア登録・マッチング・ボランティア保険の加入・移送サービス・ペットボトルキャップ、使用済み切手及び使用済みテレフォンカードの収集整理・ほっとテレフォンサービス・声の広報貸出し・ボランティア養成事業・災害ボランティアセンターの運営)	計画	・継続	B	コロナ禍ではあったが、ボランティア活動を通じて社会参加につながり、生きがいづくりの一助となった。	社会福祉協議会
			実績	延べ1,130名がボランティア活動に参加した。市内の施設でも受入れ再開の目途が立たずに活動が停止しているボランティア活動が多い中、一部の施設では、ボランティア活動を再開し、徐々に受入れができるような状態になってきている。 また、各種ボランティア講座(音訳・傾聴・災害など)などを実施し、ボランティアの養成に努めた。			
⑦	地区社会福祉協議会活動の運営	地域福祉を地域住民主体で推進するため、6つの地区社会福祉協議会(昭和地区、長浦地区、蔵波地区、根形地区、平岡地区、中川・富岡地区)を設置し、活動の充実に努めます。(主な活動: ひとり暮らし高齢者等見守り訪問・敬老会・ふれあいバスハイク・地区サロン・お花見昼食会・広報紙発行)	計画	・継続	B	ひとり暮らし高齢者等の見守りや集いの場の増設、その他事業を通じての高齢者の安否確認や交流・社会参加を促した。 高齢者の孤立を防止し、地域住民同士がお互いに支え合う地域づくりを推進した。	社会福祉協議会
			実績	共同募金配分金及び市補助金を財源に、昭和、長浦、蔵波、根形、平岡及び中富地区の6地区において各種活動を行った。			
⑧	救急・救護体制の整備	市民等を対象に、応急手当・救命講習の実施により適切な知識と技術の習得に努め、市民による応急手当の拡大を図ります。	計画	・継続 ・応急手当啓発講習会参加者数 600人	A	市民が救命講習等へ参加することにより、応急手当の知識・技術の普及が期待できる。また、高齢者への安全・安心な生活を保証する効果に繋がる。	警防課
			実績	一般公募で普通救命講習を5回24人、上級救命講習を1回7人、企業(団体)を対象とした講習会を41回265人実施した。(合計47回296人) 救急指導を年間41回608人に指導した。 新型コロナウイルス感染症における規制等が緩和されたが、参加者の体温測定や健康チェックを実施し、感染拡大防止に努めながら実施したことが、参加者増加に繋がったと考える。			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	4
B	おおむね達成した	4
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		8

基本目標3: 地域で支え合う仕組みづくり
基本施策(2): 認知症予防・共生に向けた取組

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	認知症サポーターの養成、活動支援	認知症に対する正しい理解を深め、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者となる認知症サポーターの養成を地域住民や企業等、幅広く実施します。また、ステップアップ研修の実施により、サポーターが地域で自主的に活動できるよう意識付けや情報提供を行います。	計画 実績	・継続 ・認知症サポーター 累計数 10,769人 認知症サポーター養成講座を10回開催し、認知症に関する正しい理解を広めた。 【年間養成数 235人 累計数9,654人】 過去に認知症サポーター養成講座を受講した方を対象に参加を募り、認知症サポーターステップアップ講座を実施した。 【実施回数1回 21人参加】	B	認知症サポーターを養成することで、認知症の人やその家族に対する理解を深めることができた。 また、過去に認知症サポーター養成講座を受講した方のうち希望のあった方を対象にステップアップ講座を実施することにより、さらなる適切な支援のための理解を深め、認知症サポーターとしての具体的な活動に繋がるような意識づけができた。	高齢者支援課
②	認知症の家族への支援	地域における家族の交流の場や認知症カフェの設置の支援、認知症初期集中支援チームによる支援等により、認知症の人を介護する家族の不安の軽減や認知症への正しい理解を広める等、家族支援を充実します。	計画 実績	・継続 市内3か所で定期的に開催された認知症カフェの周知に協力した。認知症を発症した家族への対応やサービス利用等について悩みや不安を抱える介護者に対し、認知症初期集中支援チームにおいて多職種により支援方針を検討し、チーム員による訪問やサービス導入等の支援を行った。 認知症の家族を介護する人が思いや経験を共有したり専門職からのアドバイスを得る場として、「家族のつどい」を開催した。【年3回実施】	B	認知症初期集中支援チームにより、認知症高齢者及び介護する家族への適切な支援を行い、認知症になっても安心して暮らし続けることのできる地域づくりの一助とした。また、認知症カフェや家族のつどいにおいて介護者同士の分かち合いや専門職による対応等を実施したことで、介護者の負担の軽減を図ったほか、地域住民に対しても疾患や制度への正しい理解を図ることができた。	高齢者支援課
③	認知症に対する早期対応と支援【再掲】	認知症初期集中支援チームや認知症地域支援推進員が認知症の人や家族に早期に関わり、自立に向けた包括的・集中的な支援を行うとともに、家族の介護負担の軽減を図ります。	計画 実績	・継続 ・地域包括支援センター職員と医師、介護福祉士等をメンバーとした認知症初期集中支援チームによる認知症の人及び家族への訪問支援を行った。【訪問件数11件】 ・認知症初期集中支援チーム員会議を定例的に実施し、自立に向けた個々のケースの支援方法についての検討を行った。	B	認知症初期集中支援チーム員会議にて、認知症の人や家族の思い・介護負担に寄り添えるよう従事者間で支援方法を検討することができた。また、認知症初期集中支援チームによる訪問で早期に支援を開始することができた。	高齢者支援課
④	認知症予防の推進	認知症予防のための講習会等を開催するなど、認知症予防に関しての普及啓発を充実します。	計画 実績	・継続 「頭の元気トレーニング」を実施し、脳の元気を保つための頭と体のトレーニングを通じて認知症予防に関する普及啓発を行った。 【11回実施 123人参加】 認知症予防に関するパンフレットの窓口での配布及び希望する団体への出張講座時の配布を通じて普及啓発を図った。	B	認知症予防教室の開催等を通じて、認知症予防に関する知識の普及啓発を行うことができた。	高齢者支援課

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	
B	おおむね達成した	4
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		4

基本目標4: 生きがいづくりと社会参加の推進
基本施策(1): 地域でのふれあいづくりの推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	老人福祉会館運営事業	高齢者等の憩いの場となる老人福祉会館の維持管理・運営を行います。	計画	・継続	A	高齢者が生きがいを持って暮らしていけるよう、趣味や学習、交流の活動の場や、世代間の交流を行う機会のある場として、老人福祉会館の指定管理者による適切な管理運営に努め、高齢者の憩いの場を提供することができた。	高齢者支援課
			実績	施設の維持管理及び施設利用の事務等を指定管理者へ委託し、モニタリング等を活用し適切な管理運営を行った。 施設の老朽化対応として、1階和室エアコンの更新工事を実施した。 また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、指定管理者と連携し、感染症対策を図った。 ・指定管理者 公益社団法人袖ヶ浦市シルバー人材センター ・利用者数 7,625名 ・利用団体数 976団体			
②	シニアクラブ活動支援事業	単位シニアクラブ及びシニアクラブ連合会の社会参加活動、文化活動、体力・健康づくり事業などの支援を行います。	計画	・継続	B	高齢者の主たる活動団体であるシニアクラブ(連合会・14単位クラブ)の活動支援、参加促進を図るため、補助金を交付することにより、社会参加活動、文化活動、体力・健康づくり事業の支援及び会員の生きがいと健康づくりを推進することができた。	高齢者支援課
			実績	シニアクラブ(連合会・14単位クラブ)へ補助金を交付し、社会参加活動、文化活動、体力・健康づくり事業の支援及び会員の生きがいと健康づくりの推進を図った。			
③	袖ヶ浦いきいき百歳体操【再掲】	介護予防体操である「袖ヶ浦いきいき百歳体操」について、実施地域や参加者のさらなる拡大を図ります。 さらに、袖ヶ浦いきいき百歳体操の実施団体同士の情報共有、発表の機会を設け、モチベーションの維持に努め、活動の継続を支援します。	計画	・継続 ・袖ヶ浦いきいき百歳体操参加者数 1,553人	C	高齢者の歩いていける場所での住民主体の活動が継続的に実施され、運動機能の維持・向上による介護予防面での効果に加えて、社会性の維持・拡大が図られ、居場所づくり、生きがいづくりにもつながるものとなっている。	高齢者支援課
			実績	・新たに1団体を立ち上げた。休止している団体については、保健師より代表へ連絡を取り、再開に向けた相談を受けることができるようにした。 【実施団体64団体 参加者数1,099人】 ・実施団体同士の情報共有を図るため、団体の活動内容を記事にした「百歳体操新聞」を発行し、活動団体に配布した。			
④	地域ふれあいサロンの設置	高齢者が孤立しないよう、地域の中に集える場所(サロン)をつくり、住民、ボランティア等との交流機会を設けることで、地域で顔の見える関係づくりと高齢者の地域参加を促進します。	計画	・継続 ・参加者数 3,500人	B	高齢者が地域で集う場所(サロン)の開催に努めた。 住民同士やボランティアとの交流や活動の場を提供することにより、孤立防止や健康づくりを推進した。	社会福祉協議会
			実績	6地区社会福祉協議会にて実施 総参加者数:1,935人 【内訳】 昭和地区:398人(市民会館等) 長浦地区:348人(長浦駅前自治会館等) 蔵波地区:191人(蔵波台自治会館) 根形地区:67人(のぞみ野第一自治会館) 平岡地区:533人(川原井青年館等) 中富地区:398人(成蔵公民館等)			
⑤	保育所(園)地域活動事業	高齢者と保育所児童との世代間の交流機会を充実させ、安心して子どもを生き育てる地域づくりを推進するとともに、世代間の支え合いの精神を育みます。	計画	・継続 ・交流事業実施保育所数 9か所	C	新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの世代間交流事業が中止となったため、目標に対し大幅に減少となっているが、昨年と比べ微増となっている。	保育幼稚園課
			実績	高齢者と保育所児童が保育所の行事を通じ交流を図った。 ・実施保育所 4箇所(公立0箇所、私立4箇所) ・実施回数 延べ7回			
⑥	市民活動情報サイトによる情報提供	市民活動情報サイト「ガウラ・ナビ」により、市内で活動する市民活動団体・ボランティア団体等の情報提供を行います。	計画	・継続 ・市民活動情報サイトへの登録団体数 71団体	B	シニアクラブをはじめ、市民活動団体の活動等を情報発信することにより、市内での地域貢献活動等を把握するとともに、社会参加を促すことができた。	市民協働推進課
			実績	サイトの充実を図るため、広報紙において新規登録団体を募集するとともに、既存登録団体に対し、積極的に情報発信するよう働きかけたほか、新たに団体の登録内容を一新した。 登録団体数:61団体			
⑦	高齢者いきがい促進事業(高齢者学級)	健康で充実した生活を送ることができるよう、学習活動や交流活動を通じて一人ひとりの生きがい創出を促進するとともに、仲間づくりの場を提供します。	計画	・継続 ・高齢者学級等の延参加人数 1,580人	B	参加者数は目標を下回ったものの、開催回数及び参加者数ともに昨年度を上回り、学習や交流活動を通して仲間づくりや、一人ひとりの生きがいづくりに資する場の提供を行うことで、高齢者が健康でいきいきとした暮らしを実現するための一助となった。	各市民会館
			実績	開催回数:38回 参加者数:1,086人 【内訳】 市民会館:8回・293人 平川公民館:7回・132人 長浦公民館:5回・203人 根形公民館:10回・291人 平岡公民館:8回・167人 新型コロナウイルス感染症の影響等により、参加者数は目標を下回ったものの、開催回数及び参加者数ともに昨年度を上回った。			

基本目標4: 生きがいづくりと社会参加の推進
基本施策(1): 地域でのふれあいづくりの推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価 区分	取組の効果	担当 課
			項目	令和4年度			

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	1
B	おおむね達成した	4
C	目標を下回った	2
D	実施しなかった	
計		7

基本目標4: 生きがいづくりと社会参加の推進
基本施策(2): 社会貢献活動の推進

No.	事業名	取組概要	第8期計画の取組		評価区分	取組の効果	担当課
			項目	令和4年度			
①	シルバー人材センター支援事業	高齢者が健康でいきいきとした暮らし、生活の充実を図るため、高齢者の経験と技能を活かした就労の場を確保するシルバー人材センターの運営を支援します。	計画 実績	・継続 ・業務の受託件数 1,485件 補助金の交付等により事業の円滑な運営を支援し、高齢者の生きがいづくりや社会参画の推進を図った。 また、自治会等への会員募集のチラシを配布し、新規会員の増加に努めた。 ・受託件数 1,315件 ・会員数 239人	B	袖ヶ浦市シルバー人材センターの運営事業費を補助することにより、円滑かつ安定的な運営を支援ただけでなく、高齢者の就労の機会が提供されることで、高齢者自身が主体的に働くことで生きがいづくりや健康増進にもつながり、高齢者がこれまで培ってきた知識、技能、経験を活かすことができるような就労の場の確保・提供ができた。	高齢者支援課
②	市民活動情報サイトによる情報提供【再掲】	市民活動情報サイト「ガウラ・ナビ」により、市内で活動する市民活動団体・ボランティア団体等の情報提供を行います。	計画 実績	・継続 ・市民活動情報サイトへの登録団体数 71団体 サイトの充実を図るため、広報紙において新規登録団体を募集するとともに、既存登録団体に対し、積極的に情報発信するよう働きかけたほか、新たに団体の登録内容を一新した。 登録団体数:61団体	B	シニアクラブをはじめ、市民活動団体の活動等を情報発信することにより、市内での地域貢献活動等を把握するとともに、社会参加を促すことができた。	市民協働推進課
③	介護支援ボランティア事業【再掲】	高齢者の介護予防を促進するため、介護支援ボランティア活動の実績に応じポイントを付与し、ポイント交換により寄附または地産地消に資する商品券を交付します。	計画 実績	・継続 高齢者がボランティア活動により地域貢献することを奨励し活動を支援するため、介護支援ボランティア登録研修会を3回計画し、広報等による周知を行った。 1回開催(申込がなかった2回は中止)し、高齢者自身の社会参加活動を通じた介護予防が推進できた。 開催回数 1回 参加人数 1人	B	高齢者がボランティア活動により地域貢献を行い、地域の活性化が図られた。	高齢者支援課
④	生活支援体制整備事業【再掲】	高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、従来の給付等のサービスだけではなく、ボランティア、NPO、民間企業、社会福祉法人など多様な主体が地域の高齢者を支援していく生活支援サービスの提供に向けた取組を実施します。	計画 実績	・継続 ・住民主体の支援活動団体数 6団体 市内を5地区に分けた協議体ごとに、社会福祉協議会への委託による生活支援コーディネーター(SC)を配置し、協議体の実施ならびに住民主体の生活支援等の活動創出を促進する取組を行った。 取組の結果、SCへの相談や地域の情報提供が多く行われた。希望する地区に移動販売が開始となる等の成果があった。また、住民主体の活動団体は10団体となった(昨年度8から2増加。) 【住民主体の支援活動団体数10団体】	A	活動団体が増加しており、地域の高齢者を支援する生活支援サービスの提供の充実が図られた。	高齢者支援課

「基本施策」における事業評価の合計

評価区分		令和4年度
A	目標以上に達成した	1
B	おおむね達成した	3
C	目標を下回った	
D	実施しなかった	
計		4

袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第９期介護保険事業計画策定に係る アンケート結果について

１ 調査の目的

袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第９期介護保険事業計画の策定に当たり、高齢者の生活の状況や生活支援サービスの必要性等を把握する基礎資料とするため、各種アンケート調査を行いました。

２ 調査の概要

調査の概要は以下のとおりです。

- ・調査方法：郵送法
- ・調査期間：令和４年１２月１日から令和４年１２月２８日まで

No.	調査種別	対象者	配布数 (票)	有効回収数 (票)	有効回収率 (%)
1	介護予防・日常生活圏域ニース [※] 調査	市内に居住する一般高齢者（要介護認定を受けていない 65 歳以上の市民）	1, 6 3 8	1, 0 9 7	6 7. 0
		市内に居住する一般高齢者（要支援 1・2 認定者、総合事業対象者）	5 5 7	4 0 1	7 2. 0
2	介護保険・高齢者福祉に関する調査	市内に居住する要介護 1・2 認定者	5 3 3	3 0 3	5 6. 8
		市内に居住する要介護 3～5 認定者	2 5 9	1 2 8	4 9. 4
		市内に居住する満 40～64 歳の市民（第 2 号被保険者）	4 0 0	1 7 5	4 3. 8
3	在宅介護実態調査	在宅で生活をしている要支援・要介護認定を受けている者のうち、更新・区分変更申請をしたもの	5 9 1	3 5 9	6 0. 7
4	介護サービス事業者調査	市内介護サービス事業者	1 0 3	5 0	4 8. 5
5	特別養護老人ホーム入所希望者実態調査	特別養護老人ホーム入所希望者	1 1 4	5 7	5 0. 0

袖ヶ浦市
介護予防・日常生活圏域二一ズ調査
結果報告書

令和5年3月

袖ヶ浦市

目 次

I	調査の概要及び対象者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査結果報告書の基本的な事項	2
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	2
(2)	一般高齢者・要支援認定者・総合事業対象者について	2
3	対象者の属性	3
(1)	回答者	3
(2)	性別	3
(3)	年齢	3
(4)	要介護度	4
(5)	居住地区	4
II	調査結果	5
1	あなたのご家族や生活状況について	5
(1)	家族構成	5
(2)	日常生活での介護・介助の必要性	7
(3)	経済的にみた現在の暮らしの状況	8
2	からだを動かすことについて	9
(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇る	9
(2)	椅子から何もつかまらずに立ち上がる	10
(3)	15分位続けて歩く	11
(4)	過去1年間の転倒経験	12
(5)	転倒に対する不安	13
(6)	週に1回以上の外出	14
(7)	外出の目的	15
(8)	昨年と比べて外出の回数が減っているか	17
(9)	外出の移動手段	19
3	食べることについて	31
(1)	身長・体重	31
(2)	半年前と比べて固いものが食べにくくなったか	32
(3)	お茶や汁物等でむせることがあるか	33
(4)	口の渇きが気になるか	34
(5)	歯の数と入れ歯の利用状況	35
(6)	6か月間で2～3kg以上の体重減少があったか	36
(7)	誰かと食事をとにする機会はあるか	37

4	毎日の生活について.....	38
(1)	物忘れが多いと感じるか.....	38
(2)	自分で電話番号を調べて電話をかけるか.....	39
(3)	今日が何月何日かわからないときがあるか.....	40
(4)	バスや電車を使って1人で外出しているか.....	41
(5)	自分で食品・日用品の買い物をしているか.....	42
(6)	自分で食事の用意をしているか.....	43
(7)	自分で請求書の支払いをしているか.....	44
(8)	自分で預貯金の出し入れをしているか.....	45
(9)	友人の家を訪ねているか.....	46
(10)	家族や友人の相談にのっているか.....	47
(11)	趣味はあるか.....	48
(12)	生きがいはあるか.....	50
5	地域での活動について.....	52
(1)	会・グループ等への参加状況.....	52
(2)	地域活動に参加者として参加したいか.....	62
(3)	地域活動に企画・運営として参加したいか.....	63
(4)	地域での助け合いや支え合いとしてできること.....	64
6	たすけあいについて.....	65
(1)	あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人.....	65
(2)	あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人.....	67
(3)	病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人.....	69
(4)	あなたが看病や世話をしてあげる人.....	71
(5)	家族や友人、知人以外の相談相手.....	73
(6)	友人・知人と会う頻度.....	75
(7)	1か月間に何人の友人・知人に会ったか.....	76
(8)	よく会う友人・知人の関係.....	77
(9)	普段の生活で困りごとがあるか.....	79
(10)	困りごとの内容.....	80
(11)	支援をお願いしたい人.....	82
7	健康について.....	84
(1)	現在の健康状態.....	84
(2)	現在の幸せの程度.....	85
(3)	気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか.....	86
(4)	物事に対して興味がわかない、心から楽しめないことがあったか.....	87
(5)	タバコを吸っているか.....	88
(6)	現在治療中または後遺症のある病気.....	89
(7)	かかりつけの医師はいるか.....	91
(8)	かかりつけの医師に相談、指導を受けているか.....	92
(9)	かかりつけの歯科医はいるか.....	93
(10)	かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか.....	94

(11) 相談できる薬剤師（薬局）はいるか.....	95
8 在宅の福祉施策.....	96
(1) 市が実施する生活支援サービスの認知度と利用意向.....	96
9 災害時のことについて.....	116
(1) 災害時の避難を助けてくれる人はいるか.....	116
(2) 災害時の避難を助けてくれる人.....	117
(3) 災害時のことで不安に感じていること.....	119
10 認知症に関する相談窓口の把握について.....	121
(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか.....	121
(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか.....	122
(3) 認知症について今後力を入れてほしい取り組み.....	123
11 地域で暮らす意向について.....	125
(1) 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか.....	125
(2) 地域で暮らし続けたい理由、暮らし続けたくない理由.....	126
12 人生の最終段階において過ごす場について.....	127
(1) 将来最期を迎えたい場.....	127
(2) 家族が最期を迎える場としてよいところ.....	128
13 成年後見制度について.....	129
(1) 成年後見制度を知っているか.....	129
(2) 成年後見制度についての相談窓口を知っているか.....	130
(3) 市民後見制度を知っているか.....	131

I 調査の概要及び対象者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、国のモデル事業に基づき、袖ヶ浦市の日常生活圏域における高齢者の生活実態やニーズを詳細に把握し、袖ヶ浦市高齢者福祉計画の見直し及び第9期介護保険事業計画の策定のための基礎資料とするために実施したものである。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	①市内にお住まいの 65 歳以上の方 ②市内にお住まいの 65 歳以上の方で、要支援 1・2 に認定されている方、総合事業対象者の方
配布数	① 1,638 票 ② 557 票
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和4年12月
調査地域	袖ヶ浦市全域

(3) 配布数及び回収結果

	①	②	計
配布数	1,638	557	2,195
有効回収数	1,097	401	1,498
有効回収率	67.0%	72.0%	68.2%

2 本調査結果報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率は全て百分率（％）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100％を上下する場合がある。
- ②基数となるべき実数は、“n＝〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100％として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、したがって各回答の合計比率は100％を超える場合がある。

(2) 一般高齢者・要支援認定者・総合事業対象者について

要介護度についての本文中での表現は次のとおり。

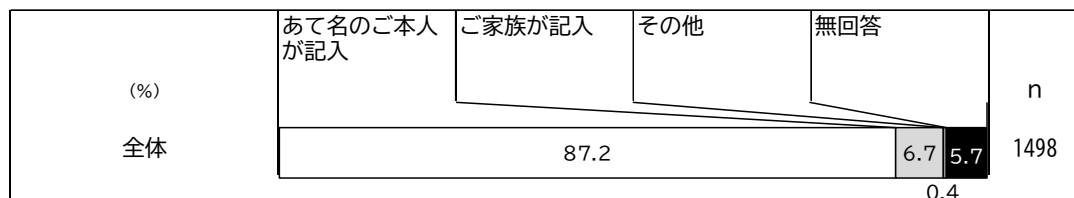
区分	内容
一般高齢者	要介護認定（要支援・要介護）を受けていない高齢者
要支援認定者	要支援1及び要支援2のいずれかの認定を受けている高齢者
総合事業対象者	「基本チェックリスト」による判定で、要介護・要支援となるリスクが高いと判定された高齢者

3 対象者の属性

(1) 回答者

調査票を記入した人は、「あて名の本人」が87.2%、「家族」が6.7%となっている。

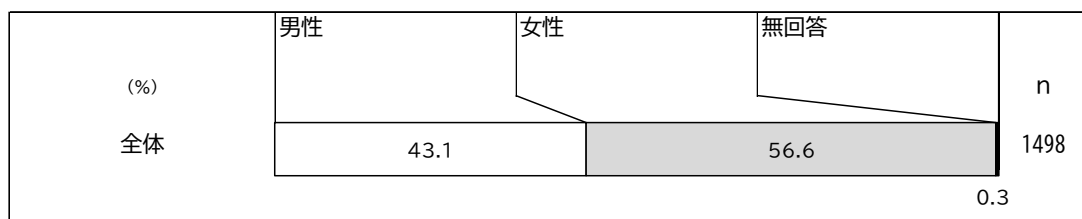
図表 回答者



(2) 性別

対象者の性別は、「女性」が56.6%、「男性」が43.1%となっている。

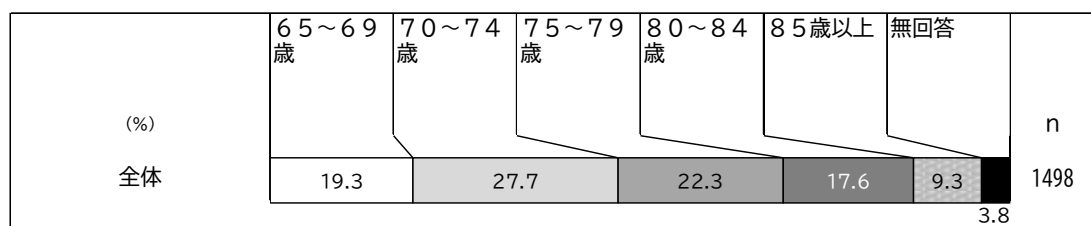
図表 対象者の性別



(3) 年齢

対象者の年齢は、「70～74 歳」が27.7%、「75～79 歳」が22.3%、「65～69 歳」が19.3%、「80～84 歳」が17.6%、「85 歳以上」が9.3%となっている。

図表 対象者の年齢



(4) 要介護度

対象者の要介護度は、「認定を受けていない」が72.9%、「要支援1」が10.3%、「要支援2」が8.8%、「総合事業対象者」が7.7%となっている。

図表 対象者の要介護度

	要支援1	要支援2	認定を受けていない	総合事業対象者	無回答	n
(%)						
全体	10.3	8.8	72.9	7.7	0.3	1498

(5) 居住地区

居住地区は、「長浦地区」が42.5%、「昭和地区」が23.0%、「平岡地区」が12.7%、「根形地区」が12.1%、「中川・富岡地区」が9.4%となっている。

図表 対象者の居住地区

	昭和地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川・富岡地区	無回答	n
(%)							
全体	23.0	42.5	12.1	12.7	9.4	0.3	1498

Ⅱ 調査結果

1 あなたのご家族や生活状況について

(1) 家族構成

問2 家族構成をお教えてください。(○は1つ)

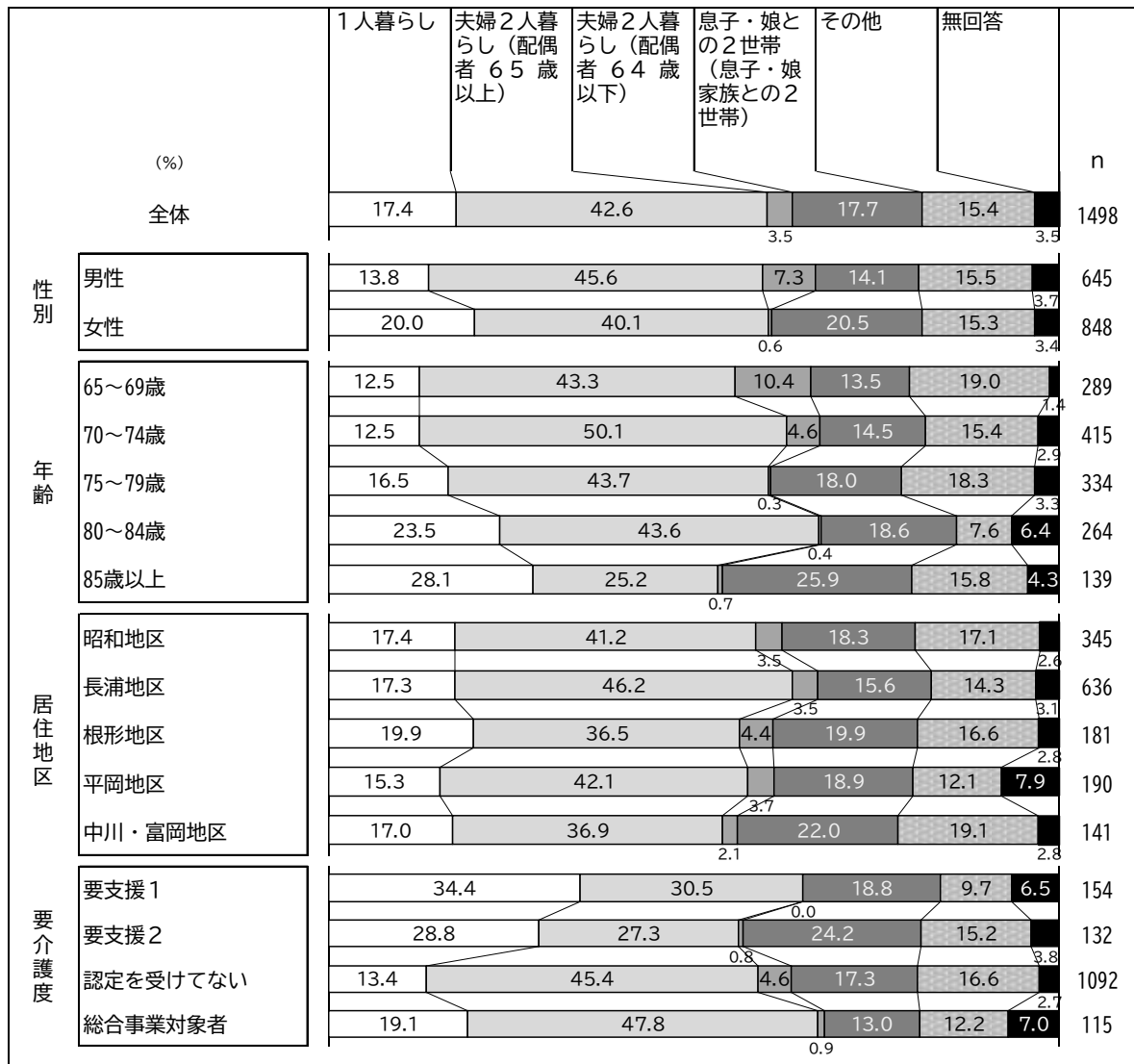


- 「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が4割強を占める。「1人暮らし」は1割台を占める。

家族構成については、「夫婦2人暮らし(配偶者 65 歳以上)」が42.6%、「息子・娘との2世帯」が17.7%、「1人暮らし」が17.4%、「夫婦2人暮らし(配偶者 64 歳以下)」が3.5%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「1人暮らし」と「息子・娘との2世帯」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 家族構成



(2) 日常生活での介護・介助の必要性

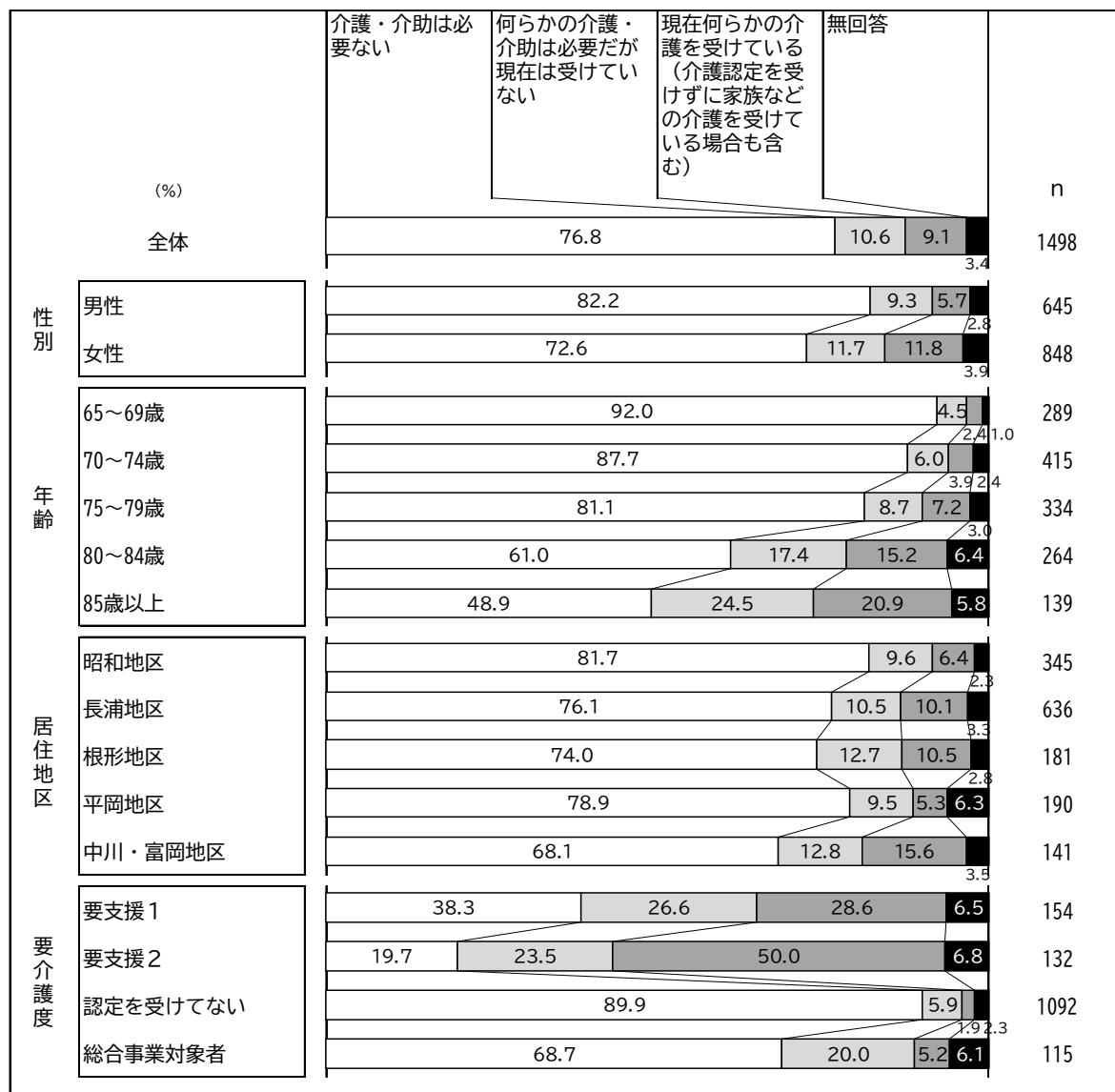
問3 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。(○は1つ)

● 「介護・介助は必要ない」が7割台を占める。

日常生活での介護・介助の必要性については、「介護・介助は必要ない」が76.8%、「何らかの介護・介助は必要だが現在は受けていない」が10.6%、「現在何らかの介護を受けている」が9.1%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて介護・介助の必要性が高くなり、実際に介護・介助を受けている割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 日常生活での介護・介助の必要性



(3) 経済的にみた現在の暮らしの状況

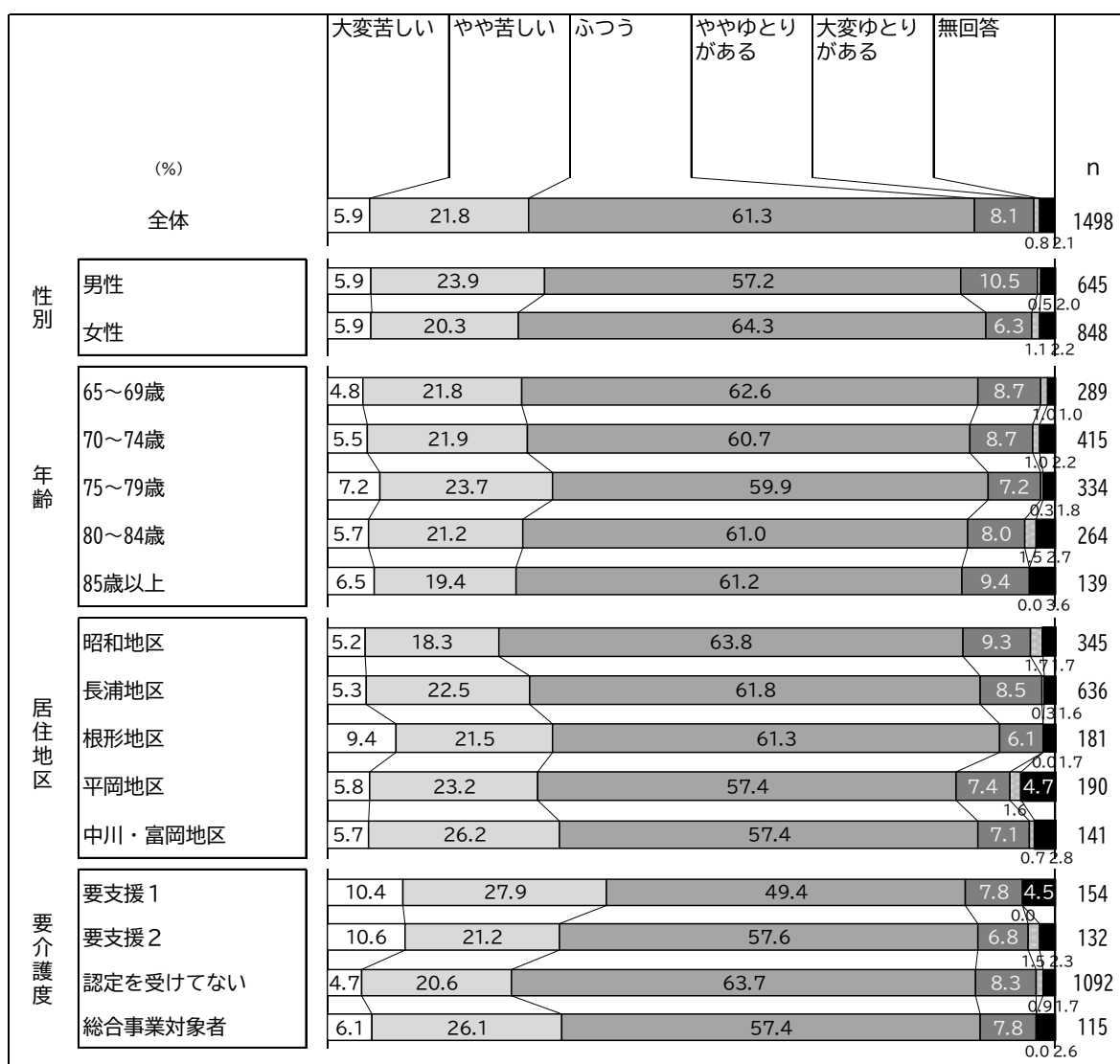
問4 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(○は1つ)

- 「ふつう」が6割強、「苦しい」が3割弱を占める。

経済的にみた現在の暮らしの状況については、「ふつう」が61.3%を占める。「大変苦しい」(5.9%)と「やや苦しい」(21.8%)を合わせた“苦しい”は27.7%、「ややゆとりがある」(8.1%)と「大変ゆとりがある」(0.8%)を合わせた“ゆとりがある”は8.9%となっている。

年齢でみると、75～79歳では“苦しい”が3割強を占め、その他の年齢で2割台となっている。

図表 経済的にみた現在の暮らしの状況



2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇る

問5 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(○は1つ)

- 「できるし、している」が5割台、「できない」が2割台を占める。

階段を手すりや壁をつたわずに昇るについては、「できるし、している」が55.3%、「できない」が23.8%、「できるけれどしていない」が18.5%となっている。

年齢で見ると、高齢になるにつれて「できない」の割合が高くなり、「できるし、している」の割合が低くなる傾向がうかがえる。

図表 階段を手すりや壁をつたわずに昇る

		できるし、している	できるけれどしていない	できない	無回答	n
(%)						
性別	全体	55.3	18.5	23.8	2.3	1498
	男性	64.5	19.8	13.5	2.2	645
	女性	48.6	17.1	31.8	2.5	848
年齢	65～69歳	75.1	14.2	9.0	1.7	289
	70～74歳	65.5	18.6	13.7	2.2	415
	75～79歳	53.3	24.3	20.4	2.1	334
	80～84歳	40.2	18.6	38.6	2.7	264
	85歳以上	28.8	15.1	52.5	3.6	139
居住地区	昭和地区	56.8	22.3	19.4	1.4	345
	長浦地区	56.8	16.7	24.1	2.3	636
	根形地区	51.9	16.0	31.5	0.6	181
	平岡地区	56.8	16.3	21.1	5.8	190
	中川・富岡地区	48.9	21.3	28.4	1.4	141
要介護度	要支援1	28.6	13.6	54.5	3.2	154
	要支援2	12.1	10.6	75.0	2.3	132
	認定を受けてない	67.8	18.9	11.2	2.2	1092
	総合事業対象者	24.3	27.8	45.2	2.6	115

(2) 椅子から何もつかまらずに立ち上がる

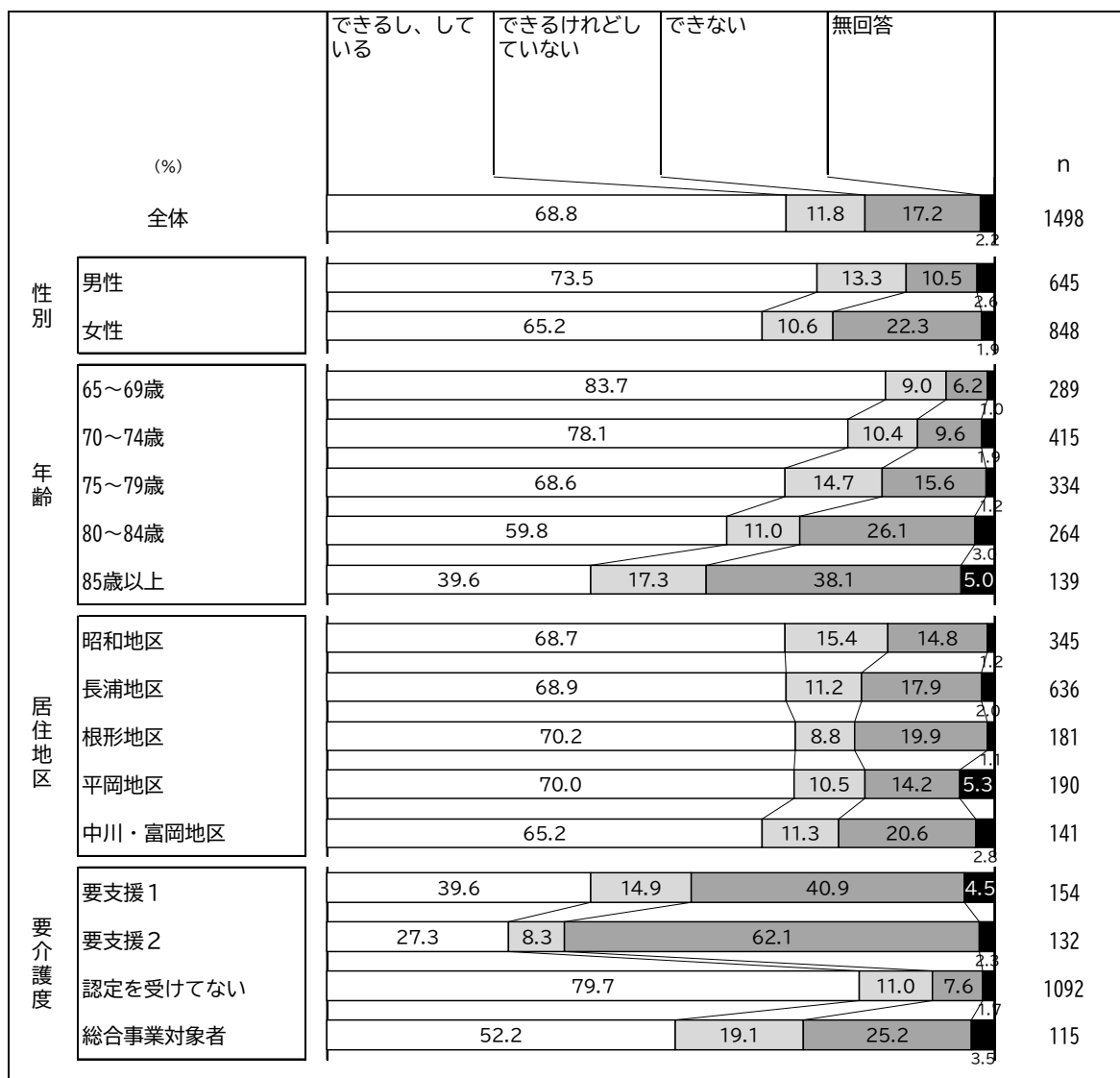
問6 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。(○は1つ)

- 「できるし、している」が7割弱、「できない」が1割台を占める。

椅子から何もつかまらずに立ち上がるについては、「できるし、している」が68.8%、「できない」が17.2%、「できるけれどしていない」が11.8%となっている。

年齢で見ると、高齢になるにつれて「できない」の割合が高くなり、「できるし、している」の割合が低くなる傾向がうかがえる。

図表 椅子から何もつかまらずに立ち上がる



(3) 15 分位続けて歩く

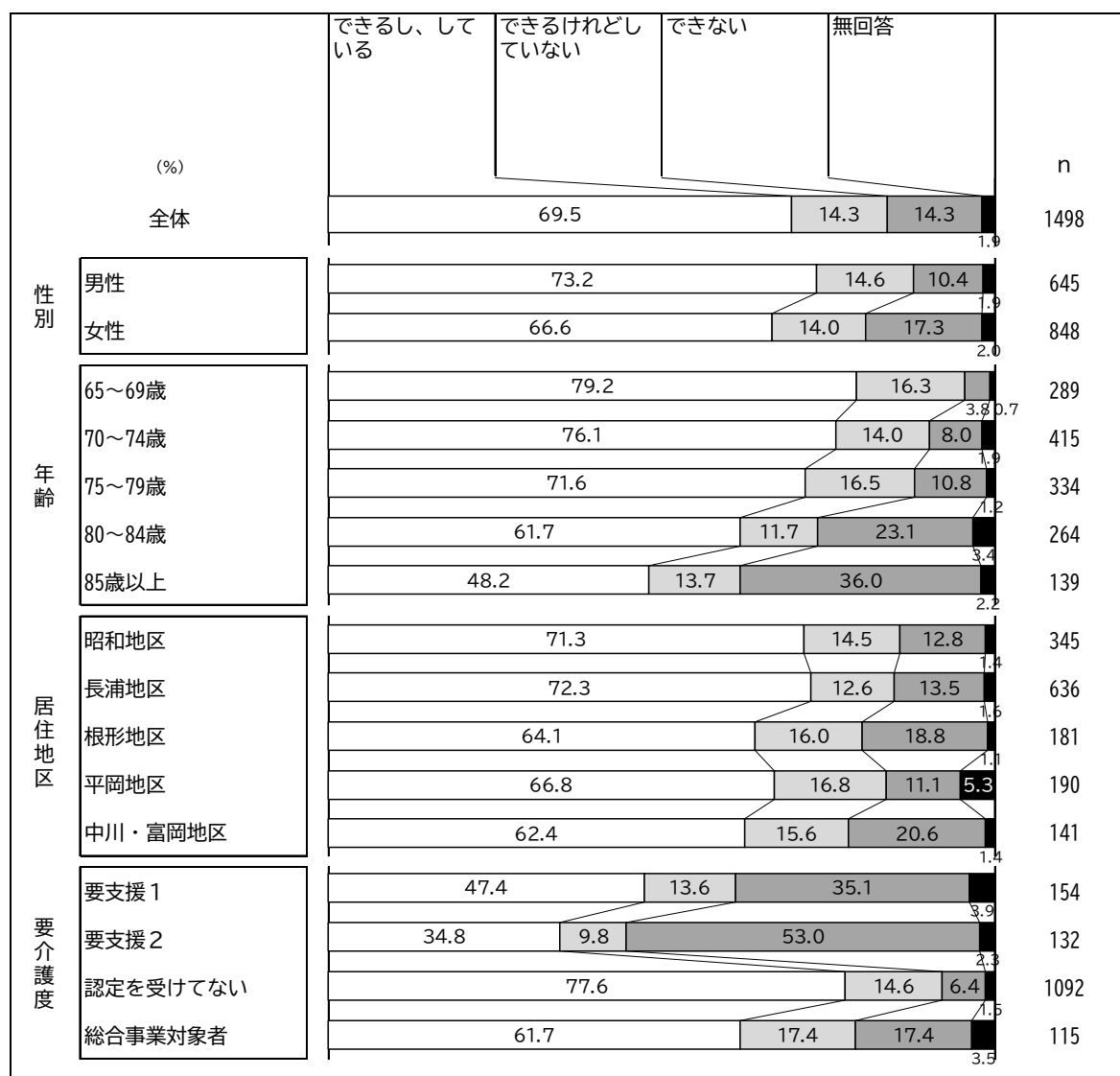
問7 15 分位続けて歩いていますか。(○は1つ)

- 「できるし、している」が7割弱、「できない」が1割台を占める。

15 分位続けて歩いているかどうかについては、「できるし、している」が69.5%、「できない」が14.3%、「できるけれどしていない」が14.3%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「できない」の割合が高くなり、「できるし、している」の割合が低くなる傾向がうかがえる。

図表 15 分位続けて歩く



(4) 過去1年間の転倒経験

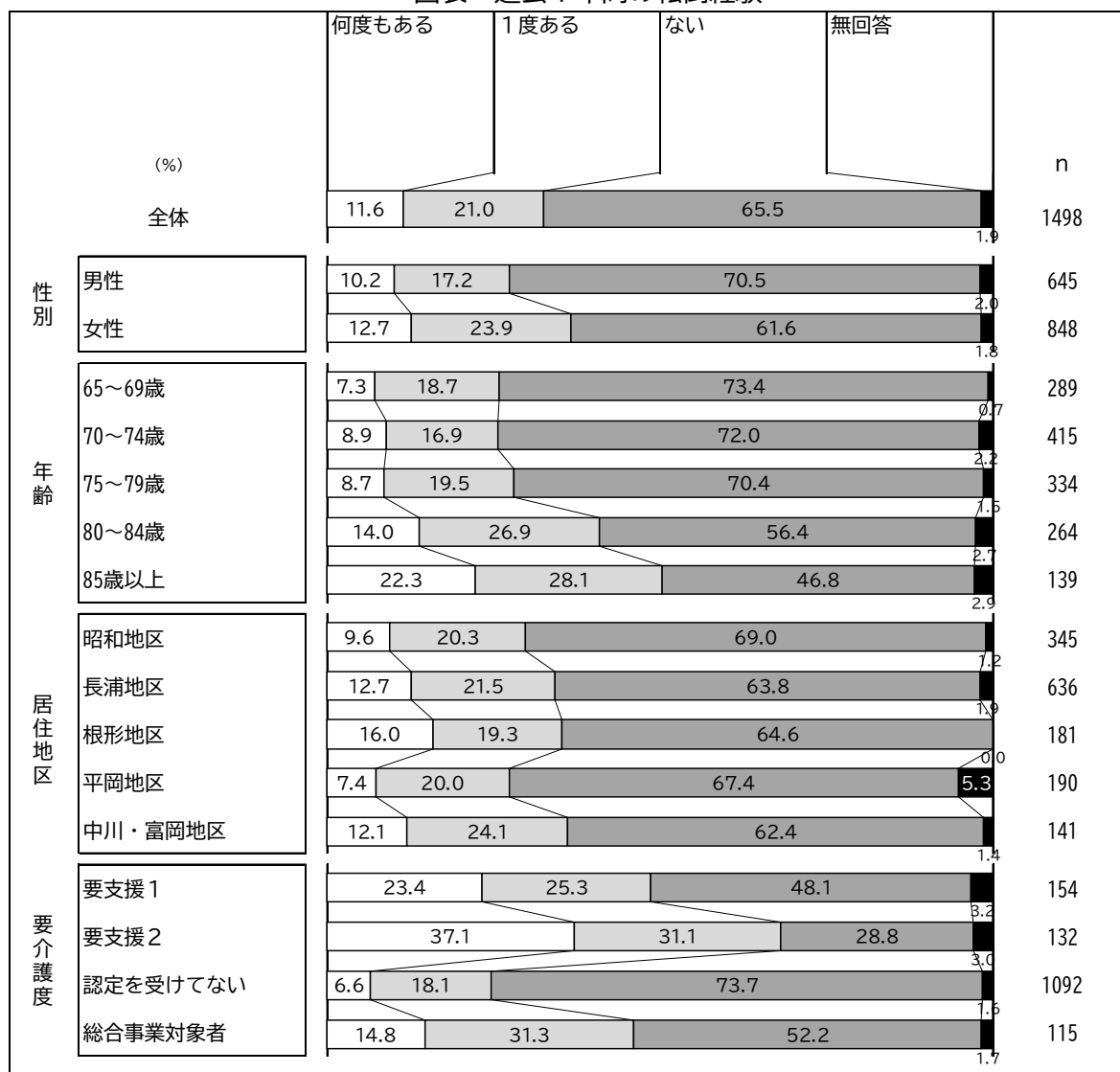
問8 過去1年間に転んだ経験がありますか。(○は1つ)

- 「ない」が6割台、「1度ある」が約2割強、「何度もある」が1割強を占める。

過去1年間の転倒経験については、「ない」が65.5%、「1度ある」が21.0%、「何度もある」が11.6%となっている。

年齢で見ると、高齢になるにつれて「何度もある」と「1度ある」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 過去1年間の転倒経験



(5) 転倒に対する不安

問9 転倒に対する不安は大きいですか。(○は1つ)

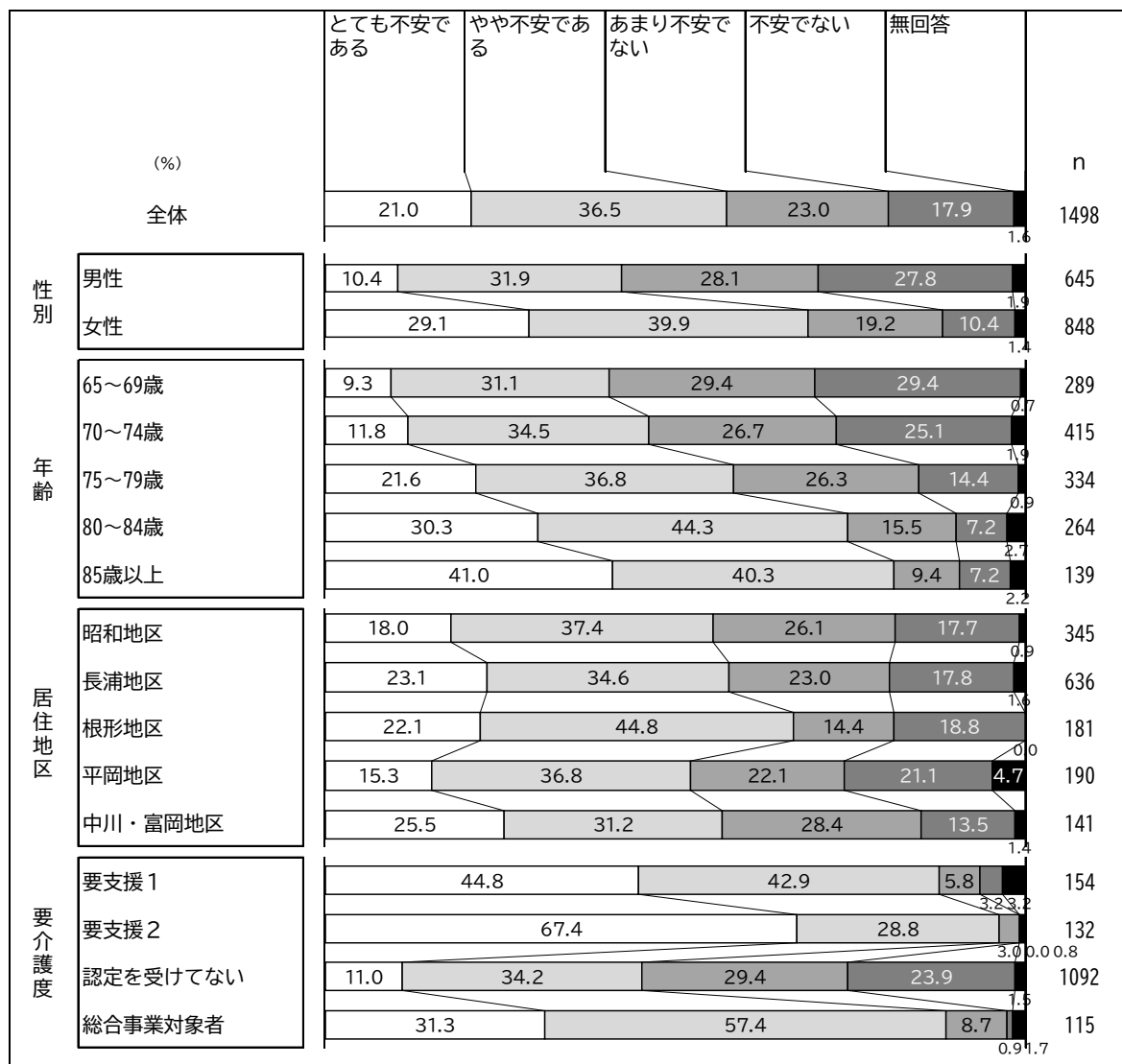
- “不安である” が5割台、“不安ではない” が4割強を占める。

転倒に対する不安については、「とても不安である」(21.0%)と「やや不安である」(36.5%)を合わせた“不安である”が57.5%、「あまり不安はない」(23.0%)と「不安ではない」(17.9%)を合わせた“不安ではない”が40.9%となっている。

性別でみると、男性と比べて女性の“不安である”の割合が高くなっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて“不安である”の割合が高くなっている。

図表 転倒に対する不安



(6) 週に1回以上の外出

問 10 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ) ※散歩も含みます。

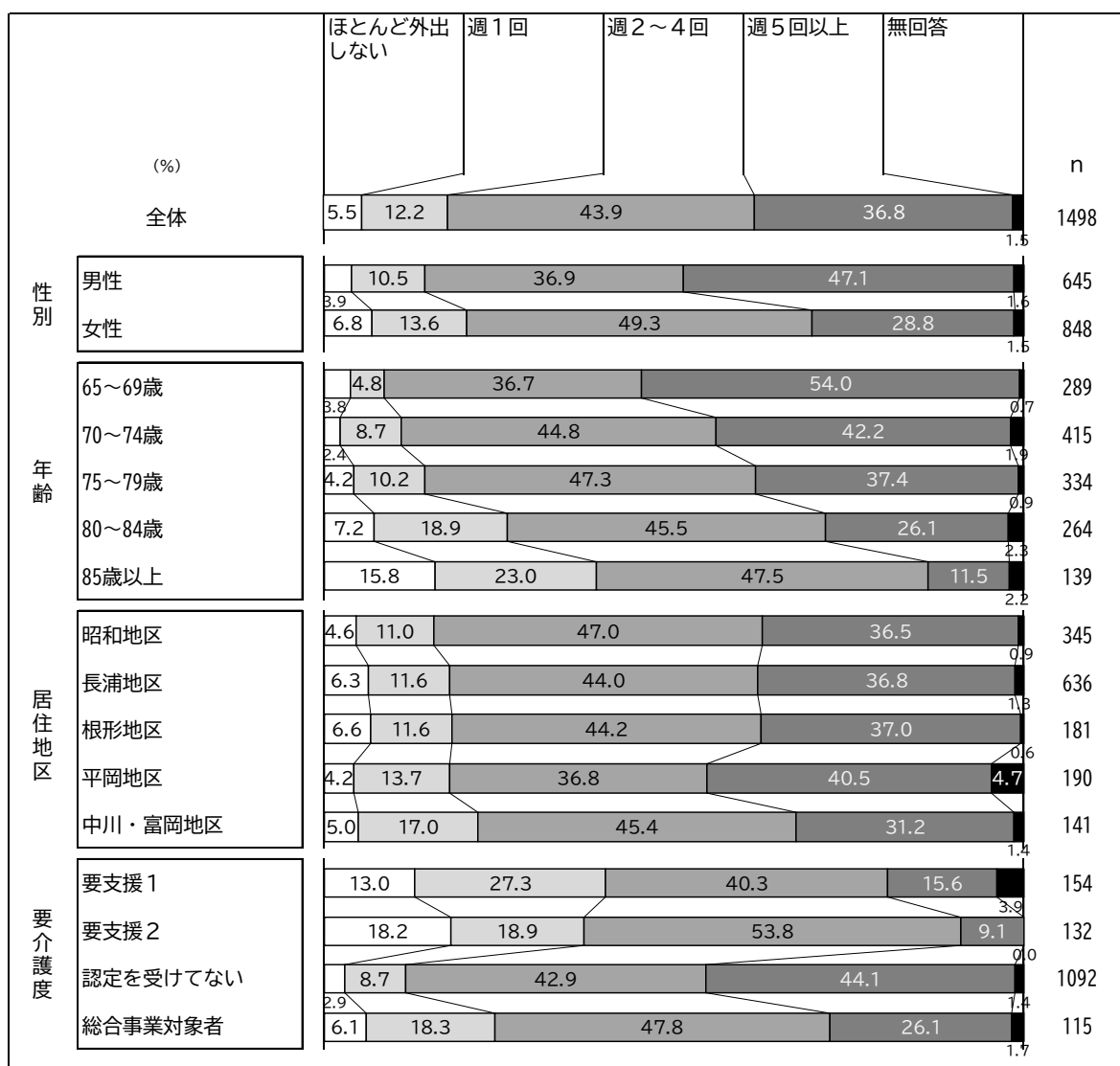
● 「週2～4回」が4割台、「週5回以上」が3割台を占める。

週に1回以上の外出については、「週2～4回」が43.9%、「週5回以上」が36.8%、「週1回」が12.2%、「ほとんど外出しない」が5.5%となっている。

性別でみると、男性と比べて女性の「ほとんど外出しない」の割合が高くなっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「ほとんど外出しない」の割合が高くなる傾向がうかがえ、85歳以上では15.8%となっている。

図表 週に1回以上の外出



(7) 外出の目的

問 11 外出の目的（用事）は何ですか。（あてはまるものすべてに○）【複数回答】

- 「買い物」が他を大きく引き離して8割強を占める。

外出の目的については、「買い物」（80.8%）が最も多く、次いで「気分転換」（30.6%）、「友人に会う」（25.7%）、「仕事」（23.8%）、「習い事」（13.2%）、「地域の集まり」（12.2%）、「ボランティア活動」（6.7%）などとなっている。

居住地区でみると、根形地区、平岡地区では「仕事」、中川・富岡地区では「友人に会う」が第2位となっている。

図表 外出の目的（全体）

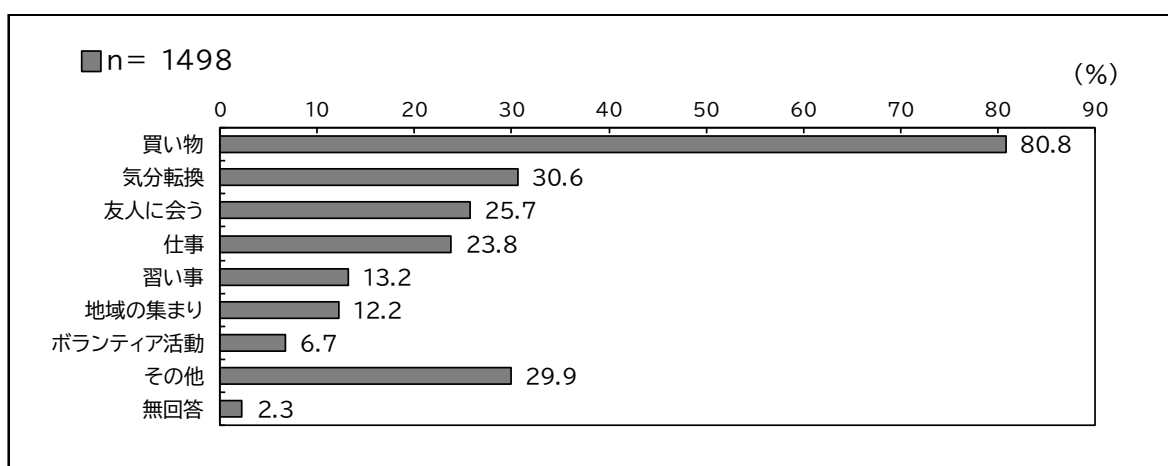


表 外出の目的（全体・属性別－上位３位）

（単位：％）

		第１位	第２位	第３位
全体		買い物 80.8	気分転換 30.6	友人に会う 25.7
性別	男性	買い物 74.0	気分転換 34.6	仕事 32.7
	女性	買い物 85.8	友人に会う 31.3	気分転換 27.7
年齢	65～69 歳	買い物 81.0	仕事 46.4	気分転換 27.7
	70～74 歳	買い物 85.1	気分転換 35.7	仕事 30.6
	75～79 歳	買い物 84.4	気分転換 33.5	友人に会う 27.8
	80～84 歳	買い物 79.9	気分転換 28.4	友人に会う 25.4
	85 歳以上	買い物 68.3	気分転換 20.1	友人に会う 16.5
居住地区	昭和地区	買い物 85.2	気分転換 32.8	友人に会う 26.1
	長浦地区	買い物 81.1	気分転換 34.6	友人に会う 25.5
	根形地区	買い物 77.3	仕事 32.0	気分転換 28.2
	平岡地区	買い物 74.7	仕事 33.2	友人に会う 30.5
	中川・富岡地区	買い物 80.1	友人に会う 27.7	仕事 27.0
要介護度	要支援１	買い物 68.8	気分転換 20.8	友人に会う 18.2
	要支援２	買い物 67.4	気分転換 16.7	友人に会う 15.9
	認定を受けていない	買い物 83.3	気分転換 33.0	仕事 30.6
	総合事業対象者	買い物 87.0	気分転換 38.3	友人に会う 27.0

(8) 昨年と比べて外出の回数が減っているか

問 12 昨年と比べて外出の回数が減っていますか。(○は1つ)



- “減っていない” が6割台、“減っている” が3割強を占める。

昨年と比べて外出の回数が減っているかについては、「あまり減っていない」(33.7%)と「減っていない」(29.6%)を合わせた“減っていない”が63.3%、「とても減っている」(7.2%)と「減っている」(24.1%)を合わせた“減っている”が31.3%となっている。

年齢で見ると、高齢になるにつれて“減っている”の割合が高くなる傾向がうかがえ、85歳以上では“減っている”が47.4%となっている。

要介護度で見ると、認定を受けていないでは“減っている”が2割強であるのに対し、要支援1は5割台、要支援2では6割程度を占めている。また、総合事業対象者でも“減っている”が5割弱を占めている。

図表 昨年と比べて外出の回数が減っているか

		とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答	n
(%)							
性別	全体	7.2	24.1	33.7	29.6	5.3	1498
	男性	5.0	18.8	35.0	36.9	4.3	645
	女性	9.0	28.3	32.7	23.9	6.1	848
年齢	65～69歳	2.8	15.6	35.3	42.2	4.2	289
	70～74歳	8.4	18.8	39.8	34.9	3.1	415
	75～79歳	6.3	26.9	32.3	28.7	5.7	334
	80～84歳	12.5	31.8	29.2	21.6	4.9	264
	85歳以上	16.5	30.9	29.5	10.8	12.2	139
居住地区	昭和地区	5.8	22.9	35.1	31.0	5.2	345
	長浦地区	8.0	27.4	31.4	28.5	4.7	636
	根形地区	8.8	23.8	34.3	29.3	3.9	181
	平岡地区	4.2	19.5	37.4	34.2	4.7	190
	中川・富岡地区	9.2	19.9	34.8	24.8	11.3	141
要介護度	要支援1	14.9	39.6	27.9	11.0	6.5	154
	要支援2	21.2	42.4	18.9	6.8	10.6	132
	認定を受けてない	4.1	18.4	36.6	36.3	4.6	1092
	総合事業対象者	10.4	37.4	30.4	16.5	5.2	115

(9) 外出の移動手段

問 13 以下のような用事の際、どのような移動手段で目的地まで行っていますか。
※①～⑥それぞれに回答してください。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 85 歳以上では「自動車（家族が運転）」や「タクシー」などの回答が増加。

①通院

通院の移動手段を全体でみると、「自動車（自分で運転）」(52.9%) が最も多く、次いで「自動車（家族が運転）」(24.7%)、「徒歩のみ」(15.7%)、「タクシー」(6.5%)、「自転車・バイク」(6.0%) などとなっている。

年齢でみると、80～84 歳、85 歳以上では「自動車（家族が運転）」が第 1 位となっている。

図表 外出の移動手段（通院／全体）

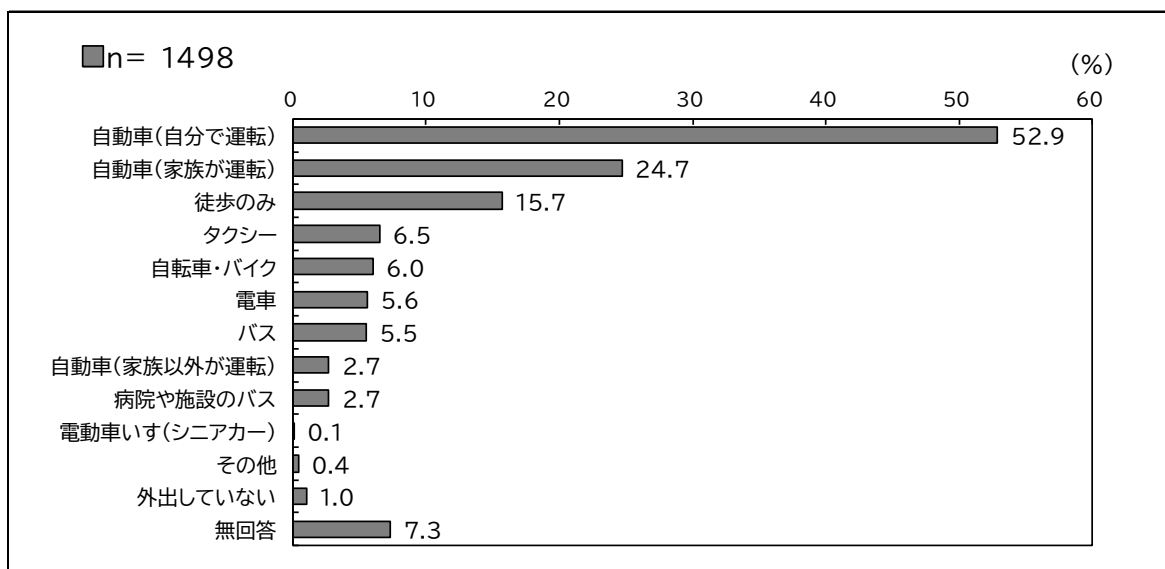


表 外出の移動手段（通院／全体・属性別－上位３位）

（単位：％）

		第１位	第２位	第３位
全体		自動車（自分で運転） 52.9	自動車（家族が運転） 24.7	徒歩のみ 15.7
性別	男性	自動車（自分で運転） 67.4	自動車（家族が運転） 14.0	徒歩のみ 13.2
	女性	自動車（自分で運転） 41.6	自動車（家族が運転） 32.9	徒歩のみ 17.6
年齢	65～69 歳	自動車（自分で運転） 78.2	自動車（家族が運転）／徒歩のみ 12.1	
	70～74 歳	自動車（自分で運転） 64.8	自動車（家族が運転） 17.3	徒歩のみ 15.2
	75～79 歳	自動車（自分で運転） 53.3	自動車（家族が運転） 24.0	徒歩のみ 18.0
	80～84 歳	自動車（家族が運転） 34.8	自動車（自分で運転） 33.3	徒歩のみ 19.7
	85 歳以上	自動車（家族が運転） 47.1	タクシー 15.7	自動車（自分で運転） 14.1
居住地区	昭和地区	自動車（自分で運転） 55.4	自動車（家族が運転） 24.9	徒歩のみ 16.8
	長浦地区	自動車（自分で運転） 47.2	徒歩のみ 25.5	自動車（家族が運転） 24.4
	根形地区	自動車（自分で運転） 61.9	自動車（家族が運転） 19.9	バス 8.3
	平岡地区	自動車（自分で運転） 60.0	自動車（家族が運転） 24.7	自転車・バイク 5.3
	中川・富岡地区	自動車（自分で運転） 50.4	自動車（家族が運転） 31.9	電車 7.1
要介護度	要支援１	自動車（家族が運転） 40.9	自動車（自分で運転） 23.4	タクシー 18.2
	要支援２	自動車（家族が運転） 59.1	タクシー 18.2	自動車（自分で運転） 15.2
	認定を受けていない	自動車（自分で運転） 62.4	自動車（家族が運転） 17.9	徒歩のみ 15.5
	総合事業対象者	自動車（自分で運転） 44.3	自動車（家族が運転） 28.7	徒歩のみ 23.5

②日用品の買い物

日用品の買い物の移動手段を全体でみると、「自動車（自分で運転）」（54.2％）が最も多く、次いで「自動車（家族が運転）」（25.3％）、「徒歩のみ」（20.9％）、「自転車・バイク」（7.5％）、「バス」（3.2％）などとなっている。

年齢でみると、80～84歳、85歳以上では「自動車（家族が運転）」が第1位となっている。

図表 外出の移動手段（日用品の買い物／全体）

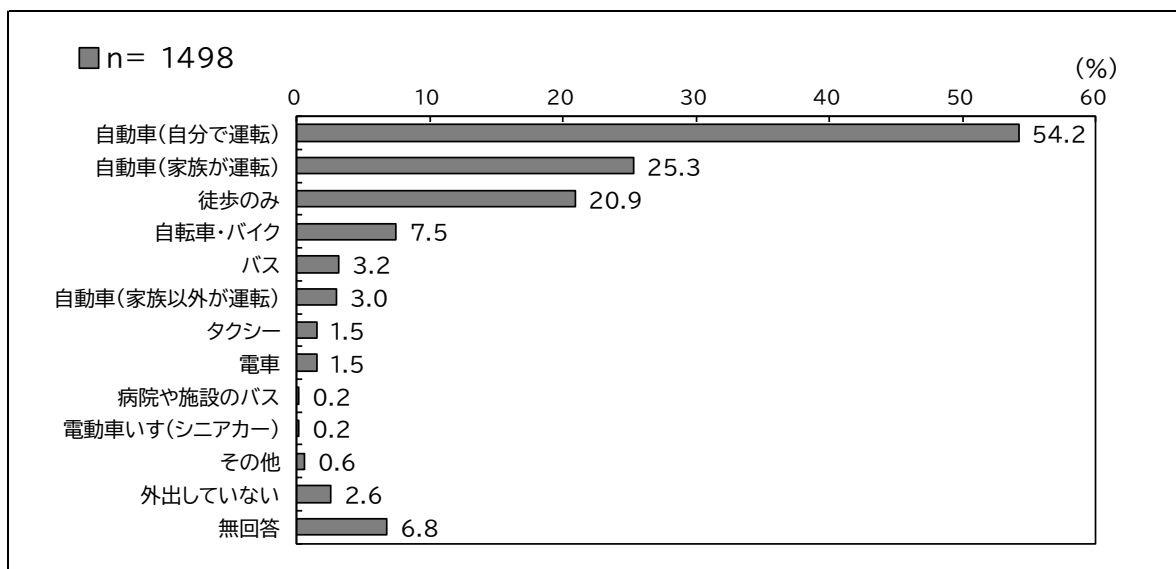


表 外出の移動手段（日用品の買い物／全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自動車（自分で運転） 54.2	自動車（家族が運転） 25.3	徒歩のみ 20.9
性別	男性	自動車（自分で運転） 69.9	徒歩のみ 18.1	自動車（家族が運転） 11.5
	女性	自動車（自分で運転） 42.1	自動車（家族が運転） 35.8	徒歩のみ 23.1
年齢	65～69 歳	自動車（自分で運転） 79.9	自動車（家族が運転） 15.9	徒歩のみ 15.2
	70～74 歳	自動車（自分で運転） 67.2	自動車（家族が運転） 21.7	徒歩のみ 20.5
	75～79 歳	自動車（自分で運転） 54.2	自動車（家族が運転） 24.3	徒歩のみ 21.3
	80～84 歳	自動車（家族が運転） 34.5	自動車（自分で運転） 34.1	徒歩のみ 28.8
	85 歳以上	自動車（家族が運転） 36.6	徒歩のみ 19.4	自動車（自分で運転） 14.1
居住地区	昭和地区	自動車（自分で運転） 55.4	自動車（家族が運転） 27.5	徒歩のみ 24.1
	長浦地区	自動車（自分で運転） 49.1	徒歩のみ 32.4	自動車（家族が運転） 24.5
	根形地区	自動車（自分で運転） 64.6	自動車（家族が運転） 18.2	徒歩のみ 8.8
	平岡地区	自動車（自分で運転） 61.1	自動車（家族が運転） 25.3	自転車・バイク 6.3
	中川・富岡地区	自動車（自分で運転） 51.1	自動車（家族が運転） 32.6	自動車（家族以外が運転） 8.5
要介護度	要支援 1	自動車（家族が運転） 32.5	徒歩のみ 23.4	自動車（自分で運転） 22.1
	要支援 2	自動車（家族が運転） 50.8	徒歩のみ 17.4	自動車（自分で運転） 12.9
	認定を受けていない	自動車（自分で運転） 64.7	自動車（家族が運転） 20.9	徒歩のみ 19.6
	総合事業対象者	自動車（自分で運転） 44.3	徒歩のみ 34.8	自動車（家族が運転） 28.7

③スポーツ・体操などの体を動かす活動

スポーツ・体操などの体を動かす活動の移動手段を全体でみると、「自動車（自分で運転）」（26.2％）が最も多く、次いで「徒歩のみ」（21.0％）、「自転車・バイク」（3.8％）、「自動車（家族が運転）」（3.7％）、「病院や施設のバス」（2.3％）などとなっている。

年齢でみると、80～84 歳、85 歳以上では「徒歩のみ」が第 1 位となっている。

図表 外出の移動手段（スポーツ・体操などの体を動かす活動／全体）

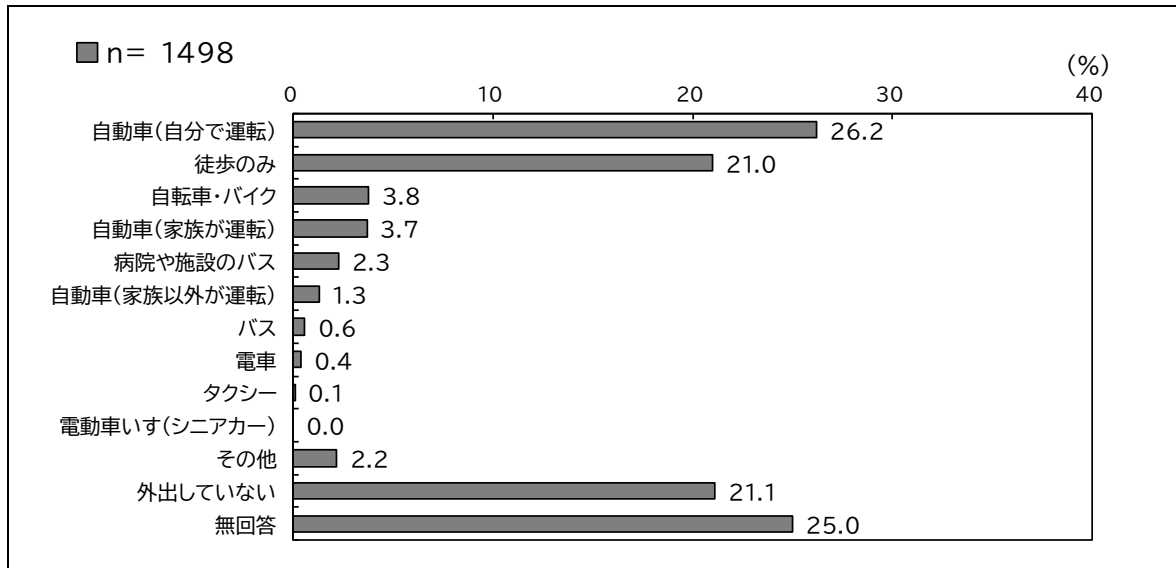


表 外出の移動手段（スポーツ・体操などの体を動かす活動／全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自動車（自分で運転） 26.2	徒歩のみ 21.0	自転車・バイク 3.8
性別	男性	自動車（自分で運転） 34.1	徒歩のみ 24.7	自転車・バイク 5.6
	女性	自動車（自分で運転） 20.0	徒歩のみ 18.4	自動車（家族が運転） 4.2
年齢	65～69 歳	自動車（自分で運転） 38.4	徒歩のみ 21.1	自転車・バイク 3.8
	70～74 歳	自動車（自分で運転） 33.0	徒歩のみ 24.8	自動車（家族が運転） 5.1
	75～79 歳	自動車（自分で運転） 27.5	徒歩のみ 22.5	自転車・バイク 4.2
	80～84 歳	徒歩のみ 21.6	自動車（自分で運転） 15.2	自動車（家族が運転） 3.4
	85 歳以上	徒歩のみ 9.9	病院や施設のバス 6.3	自動車（自分で運転） 5.2
居住地区	昭和地区	自動車（自分で運転） 28.1	徒歩のみ 24.9	自転車・バイク 4.3
	長浦地区	自動車（自分で運転） 24.8	徒歩のみ 23.9	自動車（家族が運転） 5.3
	根形地区	自動車（自分で運転） 25.4	徒歩のみ 16.6	自動車（家族が運転） 3.9
	平岡地区	自動車（自分で運転） 28.4	徒歩のみ 14.2	自転車・バイク 3.7
	中川・富岡地区	自動車（自分で運転） 24.8	徒歩のみ 14.2	自動車（家族が運転）／ 病院や施設のバス 5.0
要介護度	要支援1	徒歩のみ 11.0	病院や施設のバス 9.1	自動車（自分で運転） 7.1
	要支援2	徒歩のみ 12.1	病院や施設のバス 10.6	自動車（自分で運転）／ 自動車（家族が運転） 5.3
	認定を受けていない	自動車（自分で運転） 31.2	徒歩のみ 23.9	自転車・バイク 4.6
	総合事業対象者	自動車（自分で運転） 27.0	徒歩のみ 18.3	自動車（家族が運転） 6.1

④趣味活動

趣味活動の移動手段を全体でみると、「自動車（自分で運転）」（33.2%）が最も多く、次いで「徒歩のみ」（9.1%）、「自動車（家族が運転）」（4.1%）、「自転車・バイク」（3.5%）などとなっている。

年齢でみると、85 歳以上では「徒歩のみ」が第 1 位となっている。

図表 外出の移動手段（趣味活動／全体）

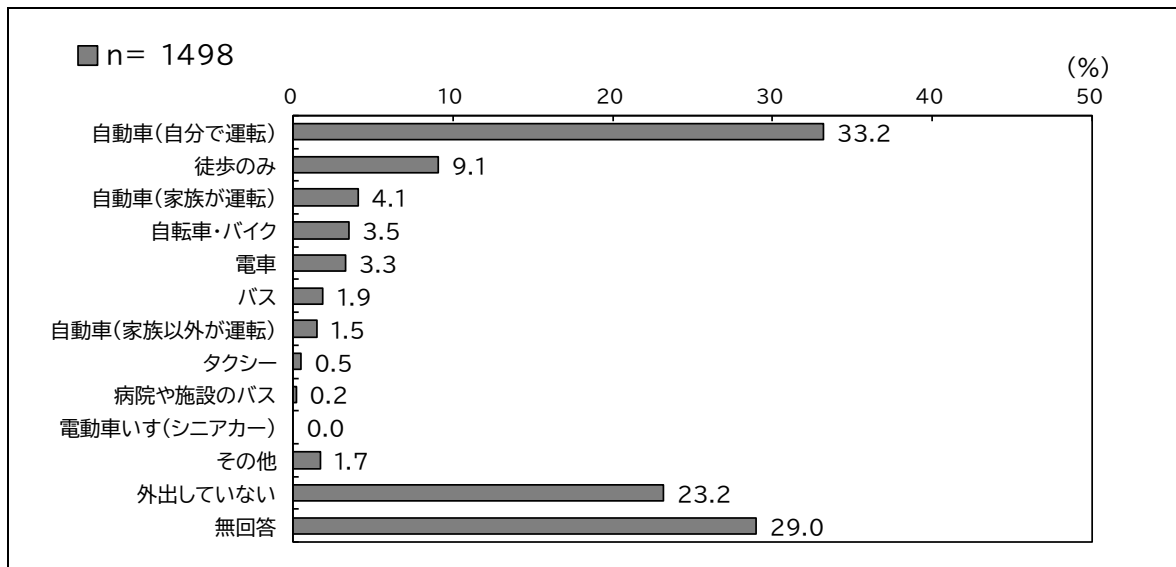


表 外出の移動手段（趣味活動／全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自動車（自分で運転） 33.2	徒歩のみ 9.1	自動車（家族が運転） 4.1
性別	男性	自動車（自分で運転） 44.0	徒歩のみ 10.7	自転車・バイク 5.4
	女性	自動車（自分で運転） 24.8	徒歩のみ 7.9	自動車（家族が運転） 5.0
年齢	65～69 歳	自動車（自分で運転） 52.6	徒歩のみ 10.0	自転車・バイク 5.5
	70～74 歳	自動車（自分で運転） 41.7	徒歩のみ 8.7	自動車（家族が運転） 4.6
	75～79 歳	自動車（自分で運転） 32.9	徒歩のみ 9.6	自動車（家族が運転） 4.5
	80～84 歳	自動車（自分で運転） 18.6	徒歩のみ 9.8	自転車・バイク 3.0
	85 歳以上	徒歩のみ 6.8	自動車（家族が運転） 6.3	自動車（自分で運転） 5.2
居住地区	昭和地区	自動車（自分で運転） 36.8	徒歩のみ 9.6	電車 4.6
	長浦地区	自動車（自分で運転） 31.1	徒歩のみ 12.6	自動車（家族が運転） 6.0
	根形地区	自動車（自分で運転） 33.1	徒歩のみ／自転車・バイク 3.3	
	平岡地区	自動車（自分で運転） 35.3	徒歩のみ 3.7	自転車・バイク 2.6
	中川・富岡地区	自動車（自分で運転） 29.8	徒歩のみ 7.1	自転車・バイク／ 自動車（家族が運転） 2.8
要介護度	要支援1	自動車（自分で運転） 9.1	徒歩のみ 4.5	自動車（家族が運転） 3.2
	要支援2	自動車（自分で運転）／自動車（家族が運転） 5.3		徒歩のみ 3.0
	認定を受けていない	自動車（自分で運転） 40.7	徒歩のみ 10.4	自転車・バイク 4.3
	総合事業対象者	自動車（自分で運転） 25.2	徒歩のみ 9.6	自動車（家族が運転） 7.0

⑤ボランティア活動

ボランティア活動の移動手段を全体でみると、「自動車（自分で運転）」（13.9％）が最も多く、次いで「徒歩のみ」（5.6％）、「自転車・バイク」（1.3％）などとなっている。

要介護度でみると、どの種別でも「自動車（自分で運転）」が第1位となっている。

図表 外出の移動手段（ボランティア活動／全体）

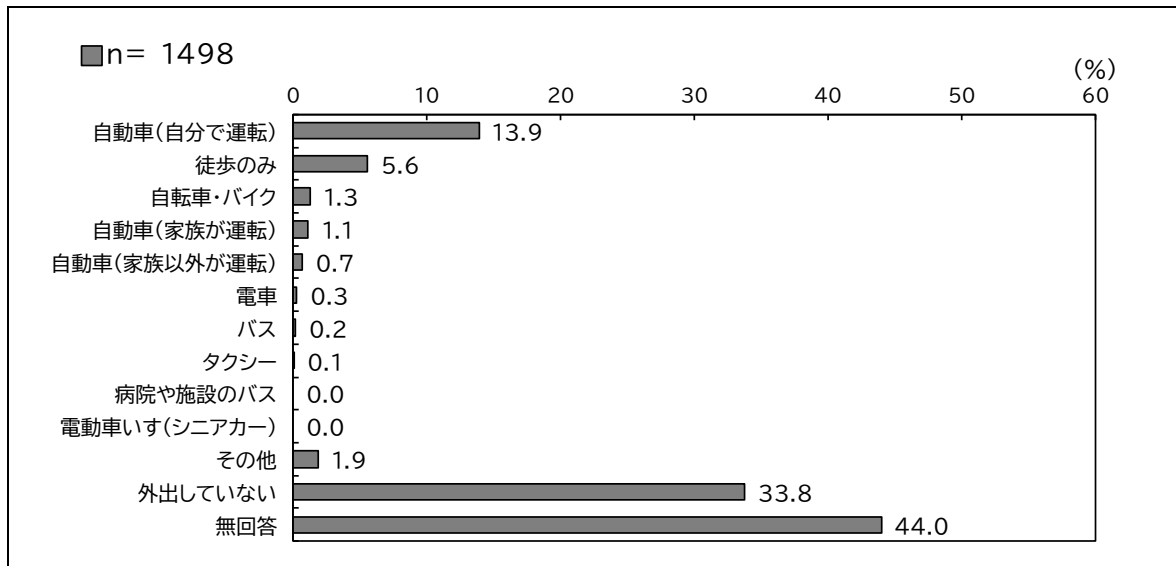


表 外出の移動手段（ボランティア活動／全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自動車（自分で運転） 13.9	徒歩のみ 5.6	自転車・バイク 1.3
性別	男性	自動車（自分で運転） 19.1	徒歩のみ 9.0	自転車・バイク 2.2
	女性	自動車（自分で運転） 9.8	徒歩のみ 3.1	自動車（家族が運転）／ 自動車（家族以外が運転） 1.1
年齢	65～69 歳	自動車（自分で運転） 22.8	徒歩のみ 6.9	自転車・バイク 1.7
	70～74 歳	自動車（自分で運転） 16.4	徒歩のみ 6.5	自転車・バイク 1.2
	75～79 歳	自動車（自分で運転） 12.9	徒歩のみ 6.6	自動車（家族が運転） 2.4
	80～84 歳	自動車（自分で運転） 9.5	徒歩のみ 4.5	自動車（家族が運転） 1.5
	85 歳以上	自動車（自分で運転） 2.1	徒歩のみ／自転車・バイク 1.6	
居住地区	昭和地区	自動車（自分で運転） 14.2	徒歩のみ 7.5	自転車・バイク 1.4
	長浦地区	自動車（自分で運転） 12.1	徒歩のみ 6.0	自動車（家族が運転） 2.0
	根形地区	自動車（自分で運転） 16.0	徒歩のみ 3.3	自転車・バイク 1.1
	平岡地区	自動車（自分で運転） 17.9	徒歩のみ 5.3	自転車・バイク／ 自動車（家族以外が運転） 0.5
	中川・富岡地区	自動車（自分で運転） 12.1	徒歩のみ 2.8	自動車（家族が運転） 1.4
要介護度	要支援1	自動車（自分で運転） 3.2	徒歩のみ／自転車・バイク／自動車（家族が運転）／ 自動車（家族以外が運転） 0.6	
	要支援2	自動車（自分で運転）／自動車（家族が運転） 2.3		自動車（家族以外が運転） 1.5
	認定を受けていない	自動車（自分で運転） 16.9	徒歩のみ 7.1	自転車・バイク 1.7
	総合事業対象者	自動車（自分で運転） 11.3	徒歩のみ／自動車（家族が運転） 5.2	

⑥友人・知人との交流の場への参加

友人・知人との交流の場への参加の移動手段を全体でみると、「自動車（自分で運転）」（38.7%）が最も多く、次いで「徒歩のみ」（12.6%）、「電車」（7.9%）、「自動車（家族が運転）」（7.0%）、「自動車（家族以外が運転）」（5.3%）、「バス」（4.3%）などとなっている。

年齢でみると、85歳以上では「自動車（家族が運転）」が第1位となっている。

要介護度でみると、要支援2では「自動車（家族が運転）」が第1位となっている。

図表 外出の移動手段（友人・知人との交流の場への参加／全体）

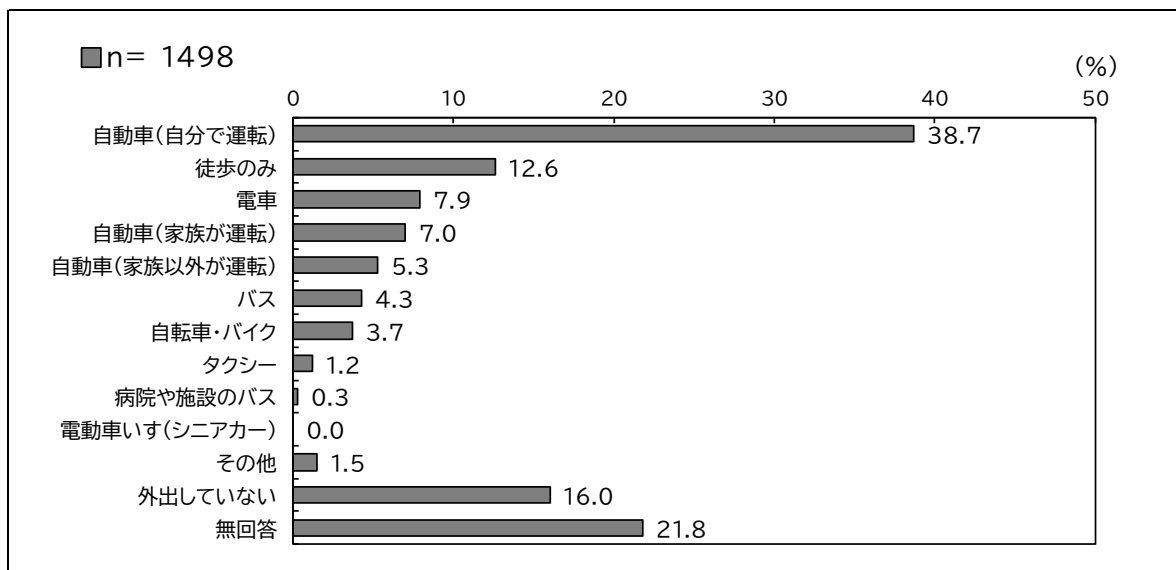


表 外出の移動手段（友人・知人との交流の場合への参加／全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		自動車（自分で運転） 38.7	徒歩のみ 12.6	電車 7.9
性別	男性	自動車（自分で運転） 44.3	徒歩のみ 10.4	電車 10.2
	女性	自動車（自分で運転） 34.1	徒歩のみ 14.4	自動車（家族が運転） 8.6
年齢	65～69 歳	自動車（自分で運転） 60.2	徒歩のみ 10.0	電車 9.7
	70～74 歳	自動車（自分で運転） 48.2	徒歩のみ／電車 10.4	
	75～79 歳	自動車（自分で運転） 39.5	徒歩のみ 15.6	電車 8.7
	80～84 歳	自動車（自分で運転） 20.8	徒歩のみ 17.0	自動車（家族以外が運転） 9.1
	85 歳以上	自動車（家族が運転） 11.0	徒歩のみ 10.5	自動車（家族以外が運転） 7.9
居住地区	昭和地区	自動車（自分で運転） 40.9	徒歩のみ 12.8	電車 10.1
	長浦地区	自動車（自分で運転） 34.1	徒歩のみ 18.4	電車 11.0
	根形地区	自動車（自分で運転） 43.1	徒歩のみ 6.1	自動車（家族が運転） 5.5
	平岡地区	自動車（自分で運転） 43.7	自動車（家族が運転） 7.4	自転車・バイク 5.3
	中川・富岡地区	自動車（自分で運転） 39.7	自動車（家族以外が運転） 7.8	自動車（家族が運転） 6.4
要介護度	要支援1	自動車（自分で運転） 12.3	徒歩のみ 10.4	自動車（家族以外が運転） 8.4
	要支援2	自動車（家族が運転） 15.2	自動車（自分で運転） 9.8	徒歩のみ／ 自動車（家族以外が運転） 6.8
	認定を受けていない	自動車（自分で運転） 46.9	徒歩のみ 13.0	電車 9.2
	総合事業対象者	自動車（自分で運転） 27.0	徒歩のみ 19.1	自動車（家族が運転） 12.2

3 食べることについて

(1) 身長・体重

問 14 身長・体重

- 「普通体重」が6割台、「肥満」が2割強を占める。「低体重」は1割に満たない。

身長・体重から算出される BMI についてみると、「普通体重($18.5 \leq \text{BMI} < 25$)」が64.4%、「肥満($25 \leq \text{BMI}$)」が22.5%、「低体重($\text{BMI} < 18.5$)」が7.5%となっている。

図表 BMI

		低体重 (BMI < 18.5)	普通体重 ($18.5 \leq \text{BMI} < 25$)	肥満 ($25 \leq \text{BMI}$)	無回答	n
(%)						
性別	全体	7.5	64.4	22.5	5.6	1498
	男性	4.7	66.4	24.5	4.5	645
	女性	9.7	63.1	20.8	6.5	848
年齢	65～69歳	5.2	65.4	23.9	5.5	289
	70～74歳	9.6	63.1	24.1	3.1	415
	75～79歳	6.3	67.1	20.7	6.0	334
	80～84歳	5.3	66.7	22.0	6.1	264
	85歳以上	11.5	56.1	22.3	10.1	139
居住地区	昭和地区	7.5	68.4	20.0	4.1	345
	長浦地区	8.6	62.9	22.6	5.8	636
	根形地区	7.7	63.0	24.3	5.0	181
	平岡地区	4.7	67.9	21.1	6.3	190
	中川・富岡地区	5.7	59.6	26.2	8.5	141
要介護度	要支援1	11.7	60.4	20.8	7.1	154
	要支援2	9.8	55.3	23.5	11.4	132
	認定を受けてない	6.8	66.1	22.3	4.8	1092
	総合事業対象者	6.1	65.2	23.5	5.2	115

(2) 半年前と比べて固いものが食べにくくなったか

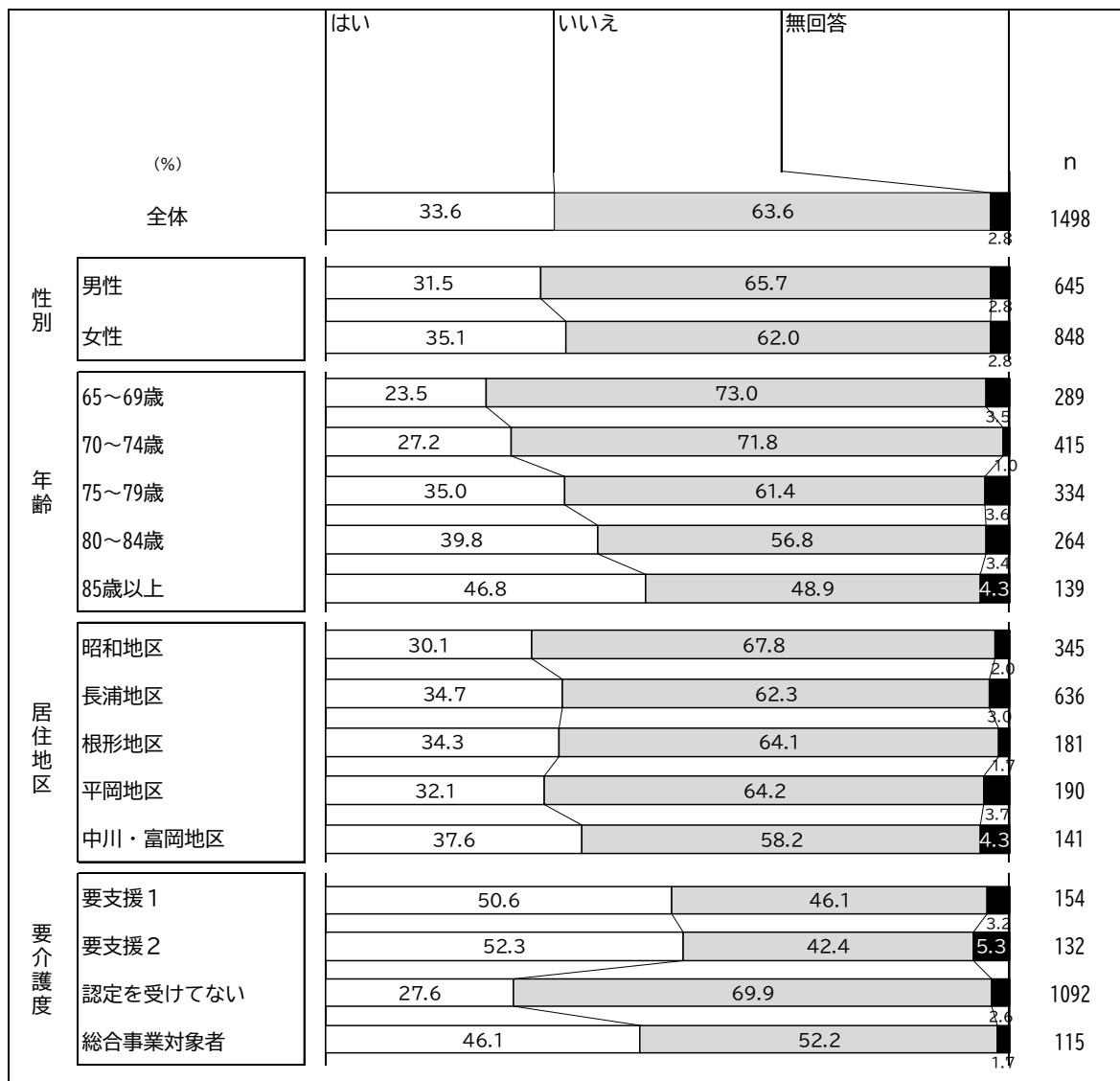
問 15 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。(〇は1つ)

● 「いいえ」が6割台、「はい」が3割台を占める。

半年前と比べて固いものが食べにくくなったかたずねたところ、「いいえ」が63.6%、「はい」が33.6%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 半年前と比べて固いものが食べにくくなったか



(3) お茶や汁物等でむせることがあるか

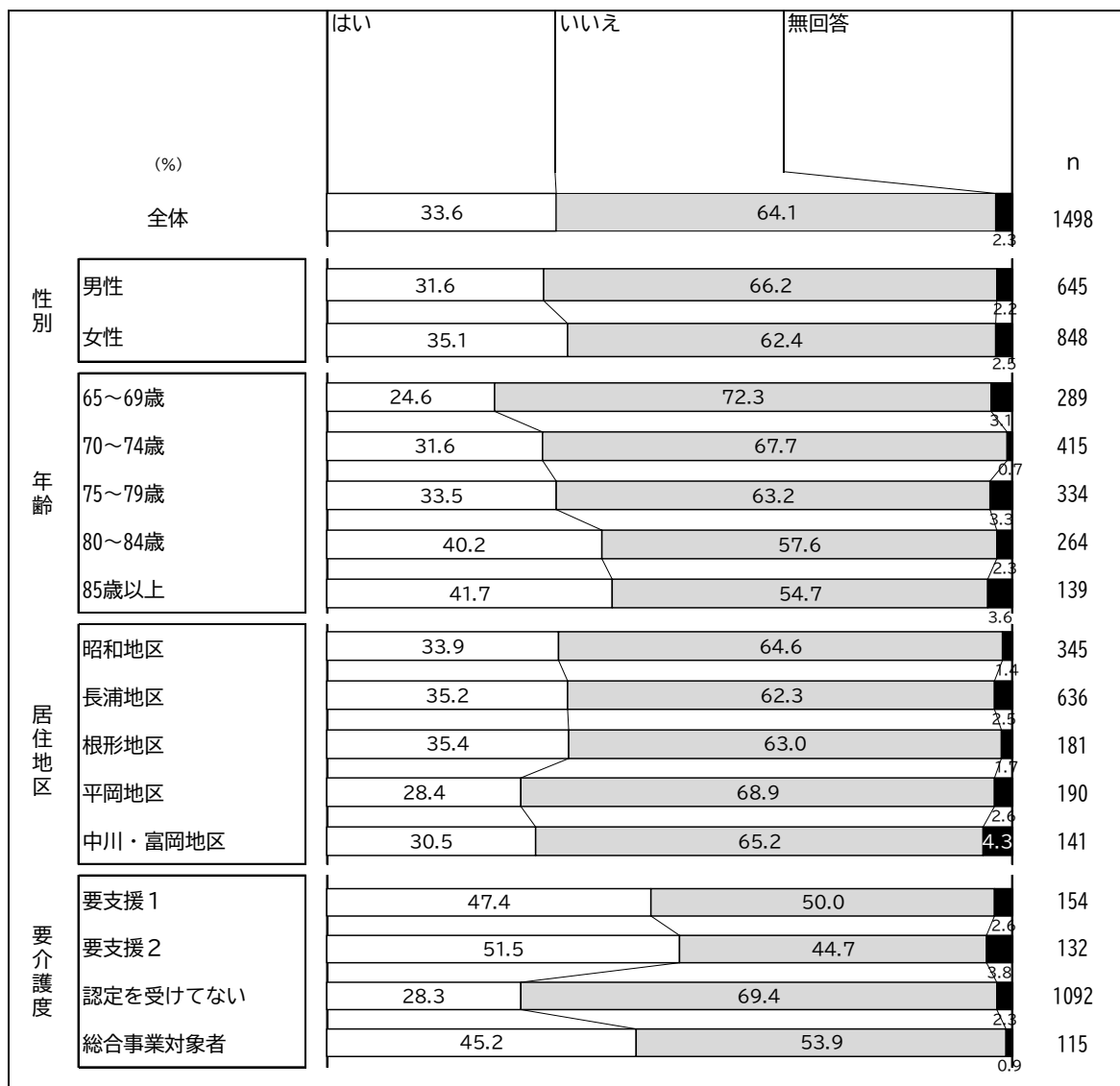
問 16 お茶や汁物等でむせることがありますか。(○は1つ)

● 「いいえ」が6割台、「はい」が3割台を占める。

お茶や汁物等でむせることがあるかたずねたところ、「いいえ」が64.1%、「はい」が33.6%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 お茶や汁物等でむせることがあるか



(4) 口の渇きが気になるか

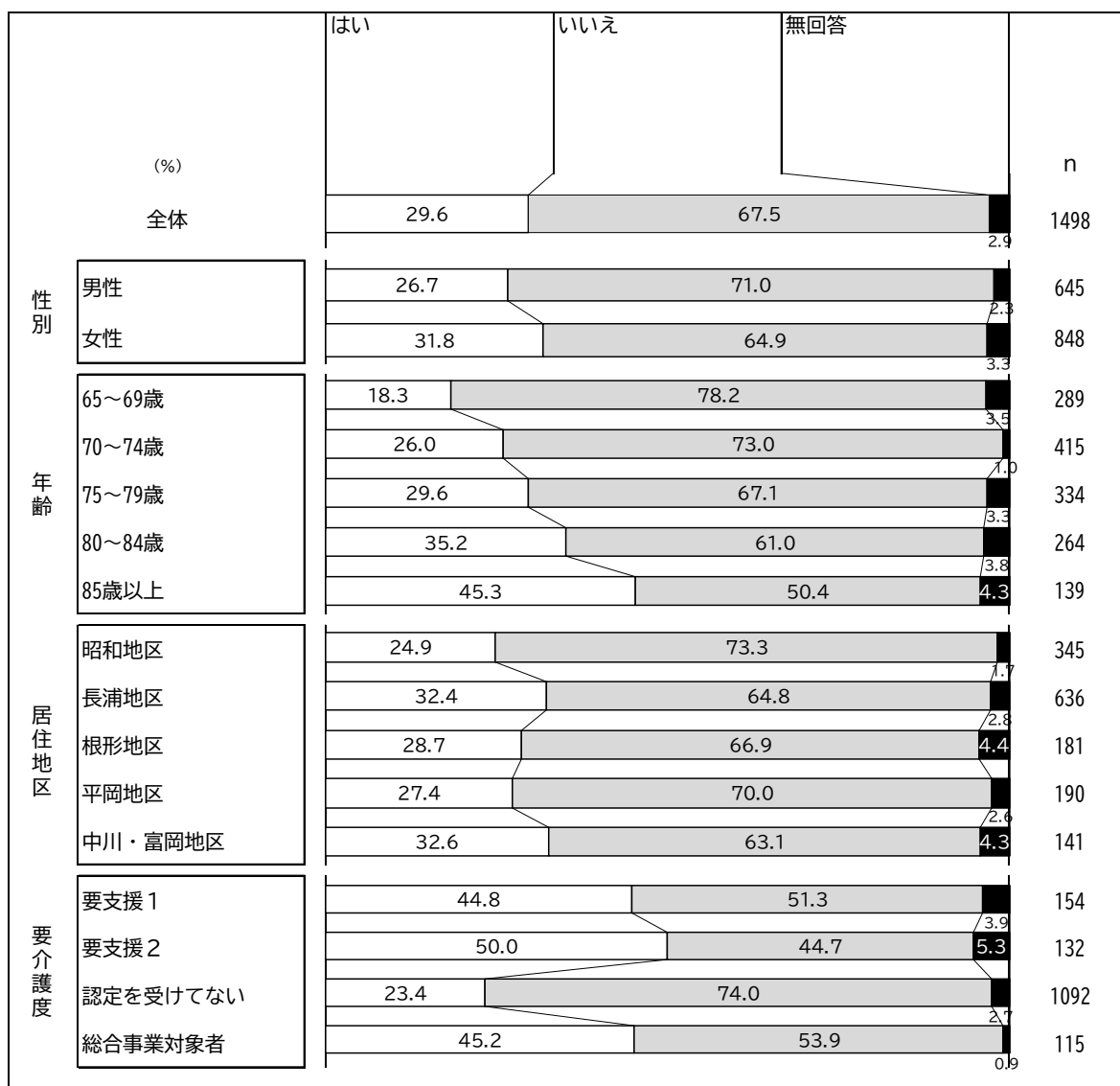
問 17 口の渇きが気になりますか。(○は1つ)

- 「いいえ」が6割台、「はい」が3割弱を占める。

口の渇きが気になるかたずねたところ、「いいえ」が67.5%、「はい」が29.6%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表口の渇きが気になるか



(5) 歯の数と入れ歯の利用状況

問 18 歯の数と入れ歯の利用状況をお教えてください。(○は1つ)
※成人の歯の総本数は、親知らずを含めて 32 本です。

- 「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が3割合を占める。

歯の数と入れ歯の利用状況については、「自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用」が 37.4%、「自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用はなし」が 28.6%、「自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用」が 16.3%、「自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用はなし」が 11.8%となっている。“自分の歯は 20 本以上”は 44.9%、“自分の歯は 19 本以下”は 49.2%、“入れ歯を利用”は 53.7%、“入れ歯はなし”は 40.4%となっている。

年齢で見ると、高齢になるにつれて“自分の歯は 19 本以下”の割合が高くなり、“入れ歯を利用”の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 歯の数と入れ歯の利用状況

		自分の歯は 20 本以上、かつ入れ歯を利用	自分の歯は 20 本以上、入れ歯の利用はなし	自分の歯は 19 本以下、かつ入れ歯を利用	自分の歯は 19 本以下、入れ歯の利用はなし	無回答	n
(%)							
性別	全体	16.3	28.6	37.4	11.8	5.9	1498
	男性	16.7	27.4	39.2	12.4	4.2	645
	女性	16.0	29.2	36.1	11.3	7.3	848
年齢	65～69歳	16.6	39.8	24.6	14.5	4.5	289
	70～74歳	16.9	35.7	33.3	11.8	2.4	415
	75～79歳	13.5	26.6	41.6	11.4	6.9	334
	80～84歳	20.1	18.2	43.9	9.8	8.0	264
	85歳以上	15.1	18.0	46.0	10.1	10.8	139
居住地区	昭和地区	19.4	29.6	33.3	13.3	4.3	345
	長湍地区	17.8	29.4	36.3	10.4	6.1	636
	根形地区	12.7	30.9	42.0	11.6	2.8	181
	平岡地区	15.3	23.7	40.0	13.2	7.9	190
	中川・富岡地区	8.5	24.8	43.3	12.8	10.6	141
要介護度	要支援 1	15.6	14.3	47.4	13.6	9.1	154
	要支援 2	6.1	12.9	50.8	13.6	16.7	132
	認定を受けてない	17.1	33.5	34.0	11.2	4.2	1092
	総合事業対象者	21.7	17.4	41.7	13.0	6.1	115

(6) 6か月間で2～3 kg以上の体重減少があったか

問 19 6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか。(○は1つ)

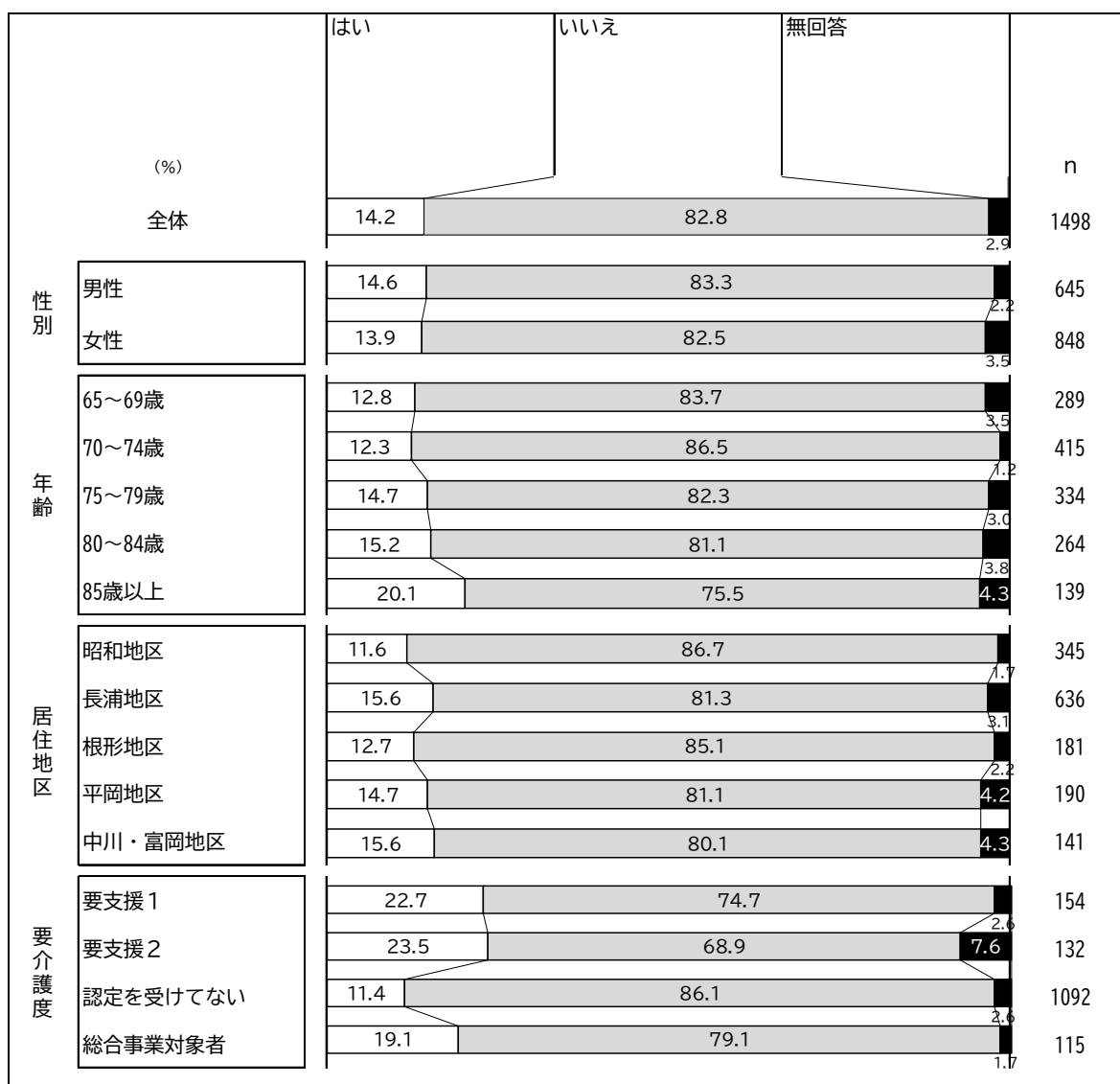
● 「いいえ」が8割強、「はい」が1割台を占める。

6か月間で2～3 kg以上の体重減少があったかたずねたところ、「いいえ」が82.8%、「はい」が14.2%となっている。

年齢でみると、85歳以上では「はい」が20.1%となっており、他の年齢層よりも若干高くなっている。

要介護度でみると、「はい」が要支援1は2割強、要支援2は2割台となっており、他に比べ高くなっている。

図表 6か月間で2～3 kg以上の体重減少があったか



(7) 誰かと食事をとる機会はあるか

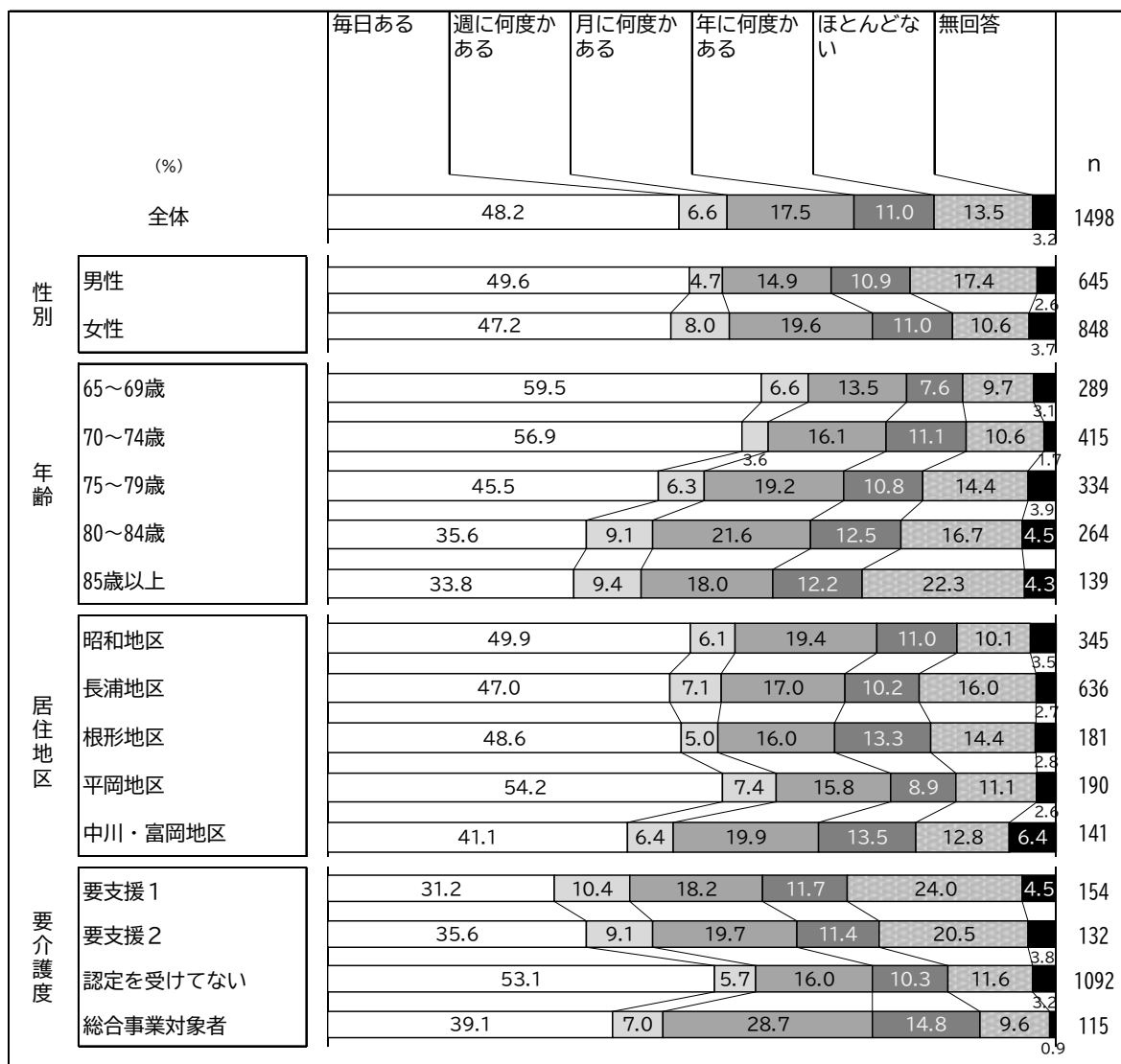
問 20 どなたかと食事をとる機会がありますか。(○は1つ)

- 「毎日ある」が5割弱、「月に何度かある」が1割台を占める。

誰かと食事をとる機会はあるかたずねたところ、「毎日ある」が48.2%、「月に何度かある」が17.5%、「ほとんどない」が13.5%、「年に何度かある」が11.0%、「週に何度かある」が6.6%となっている。

年齢で見ると、85歳以上では「ほとんどない」が2割強を占めている。

図表 誰かと食事をとる機会はあるか



4 毎日の生活について

(1) 物忘れが多いと感じるか

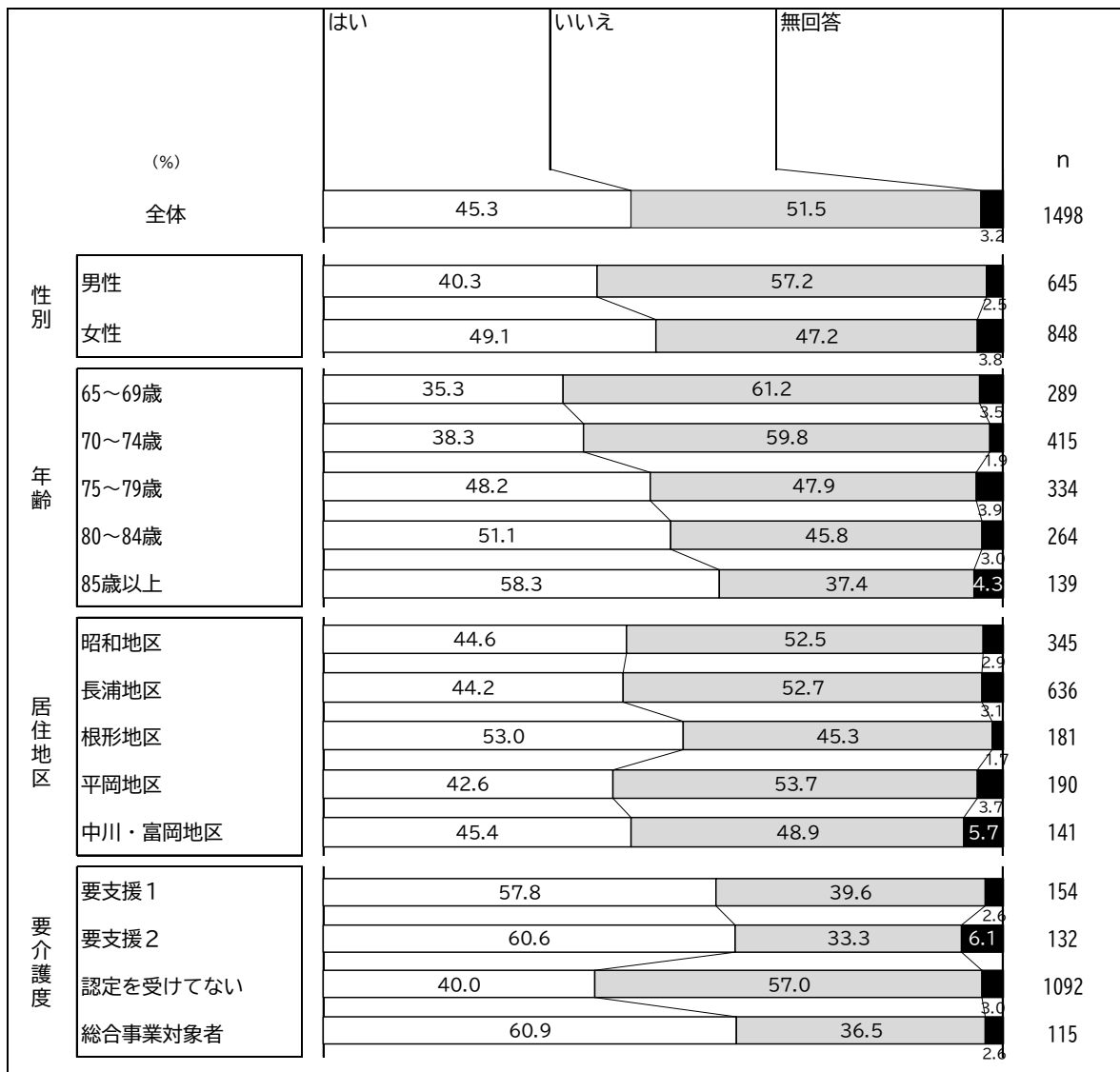
問 21 物忘れが多いと感じますか。(○は1つ)

● 「いいえ」が5割強、「はい」が4割台を占める。

物忘れが多いと感じるかたずねたところ、「いいえ」が51.5%、「はい」が45.3%となっている。

年齢でみると80歳以上になると「はい」が5割以上を占めており、85歳以上では6割弱を占めている。

図表 物忘れが多いと感じるか



(2) 自分で電話番号を調べて電話をかけるか

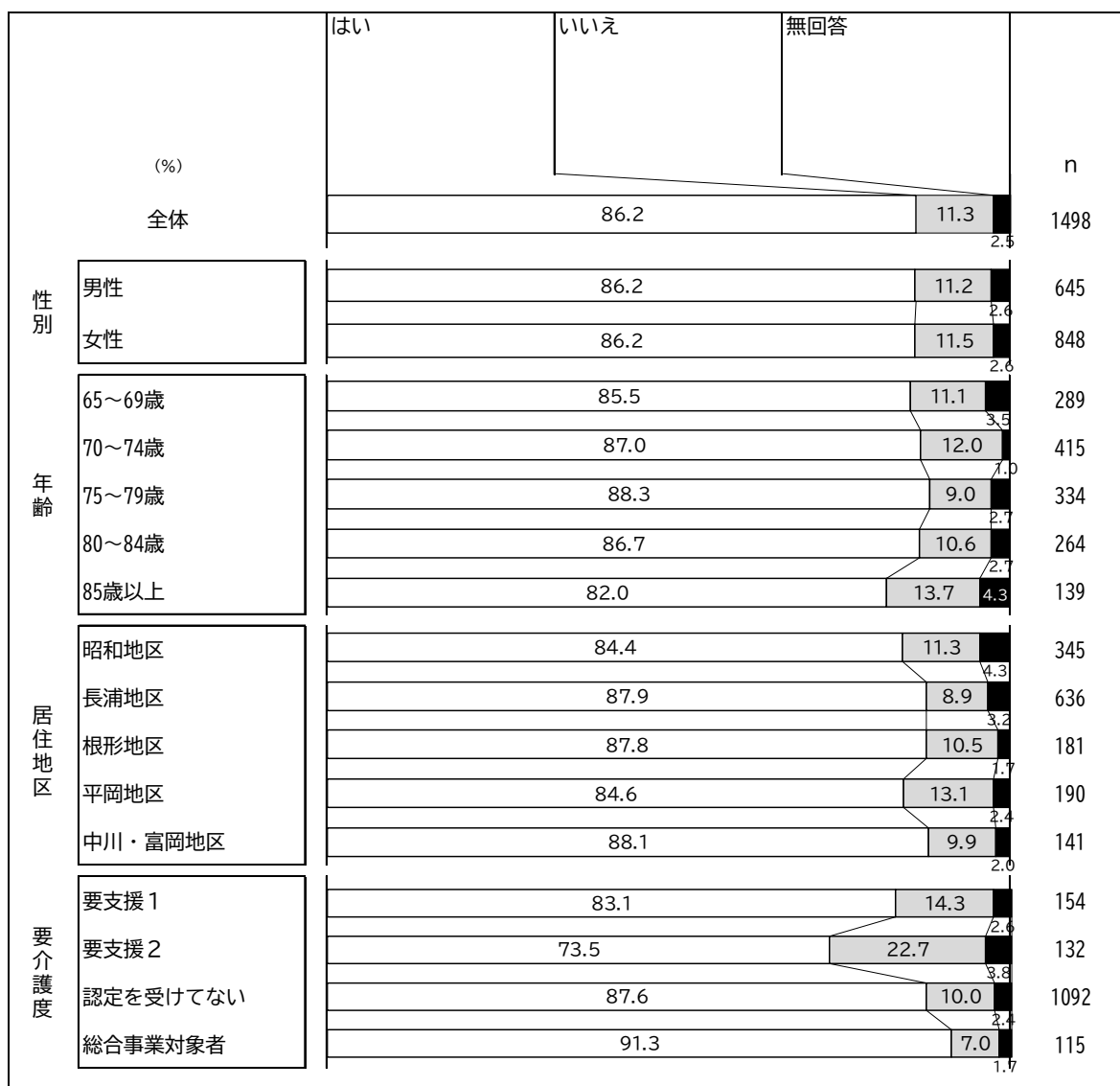
問 22 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか。(○は1つ)

● 「はい」が8割台、「いいえ」が1割強を占める。

自分で番号を調べて電話をかけるかたずねたところ、「はい」が86.2%、「いいえ」が11.3%となっている。

要介護度でみると、要支援2では「いいえ」が2割強を占めている。

図表 自分で電話番号を調べて電話をかけるか



(3) 今日が何月何日かわからないときがあるか

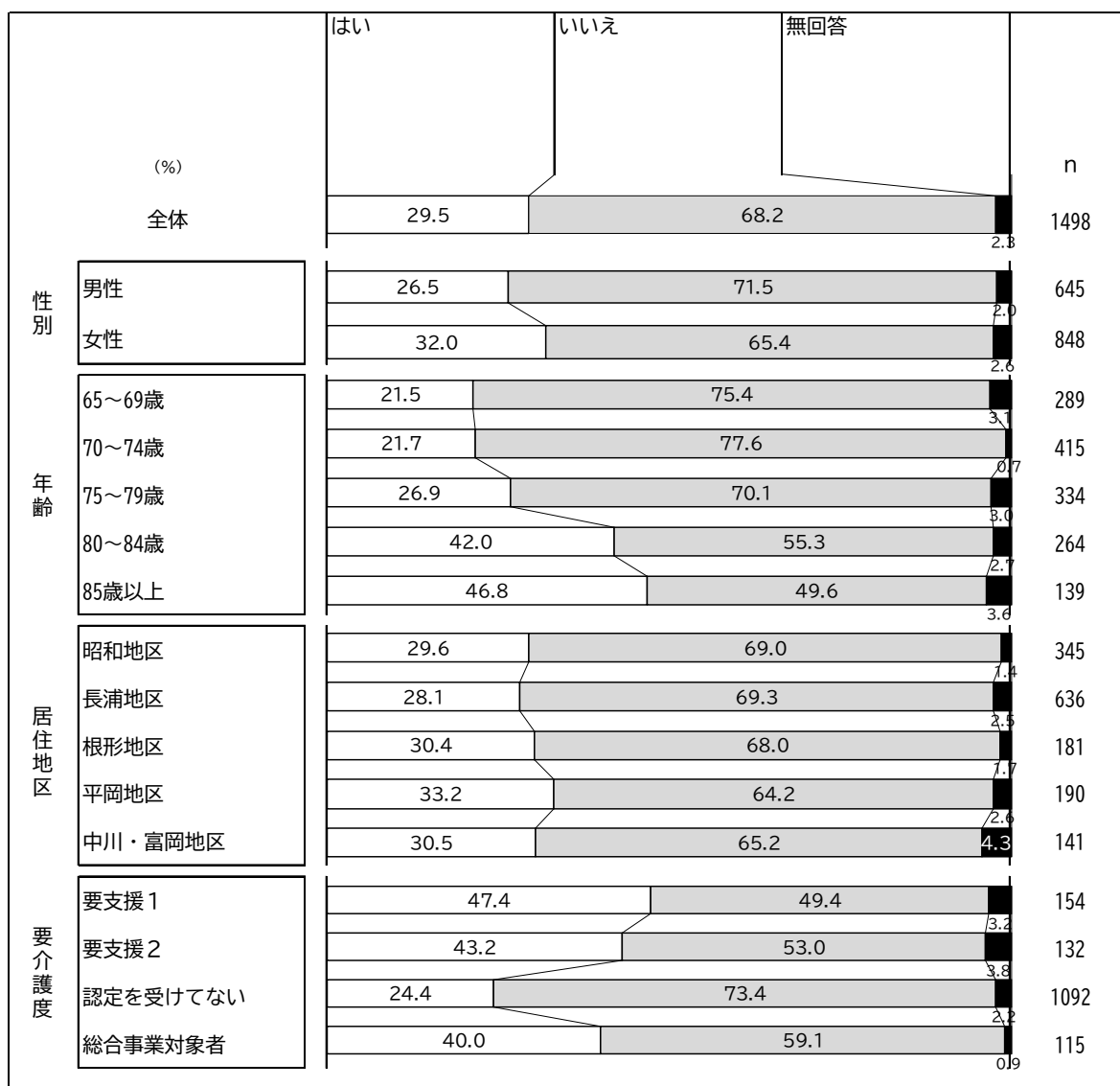
問 23 今日が何月何日かわからないときがありますか。(○は1つ)

● 「いいえ」が7割弱、「はい」が3割弱を占める。

今日が何月何日かわからないときがあるかたずねたところ、「いいえ」が68.2%、「はい」が29.5%となっている。

年齢で見ると、75歳未満では「はい」が2割程度を占めるのに対し、80歳以上では4割以上を占めている。

図表 今日が何月何日かわからないときがあるか



(4) バスや電車を使って1人で外出しているか

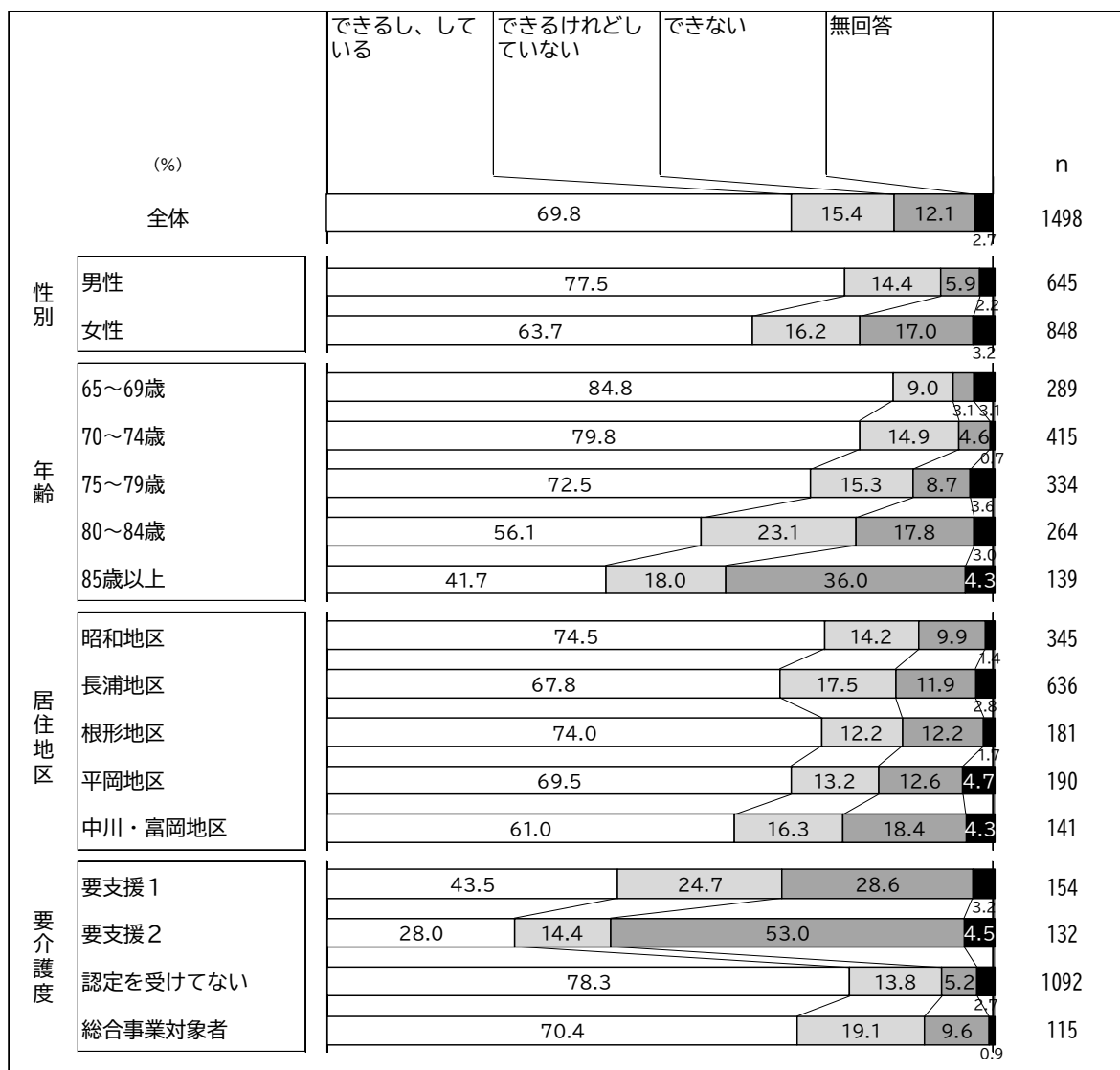
問 24 バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車でもよい）。（○は1つ）

- 「できるし、している」が7割弱を占める。

バスや電車を使って1人で外出しているかたずねたところ、「できるし、している」が69.8%、「できるけれどしていない」が15.4%、「できない」が12.1%となっている。

年齢で見ると、高齢になるにつれて「できるし、している」の割合が低くなり、「できない」の割合が高くなっている。

図表 バスや電車を使って1人で外出しているか



(5) 自分で食品・日用品の買い物をしているか

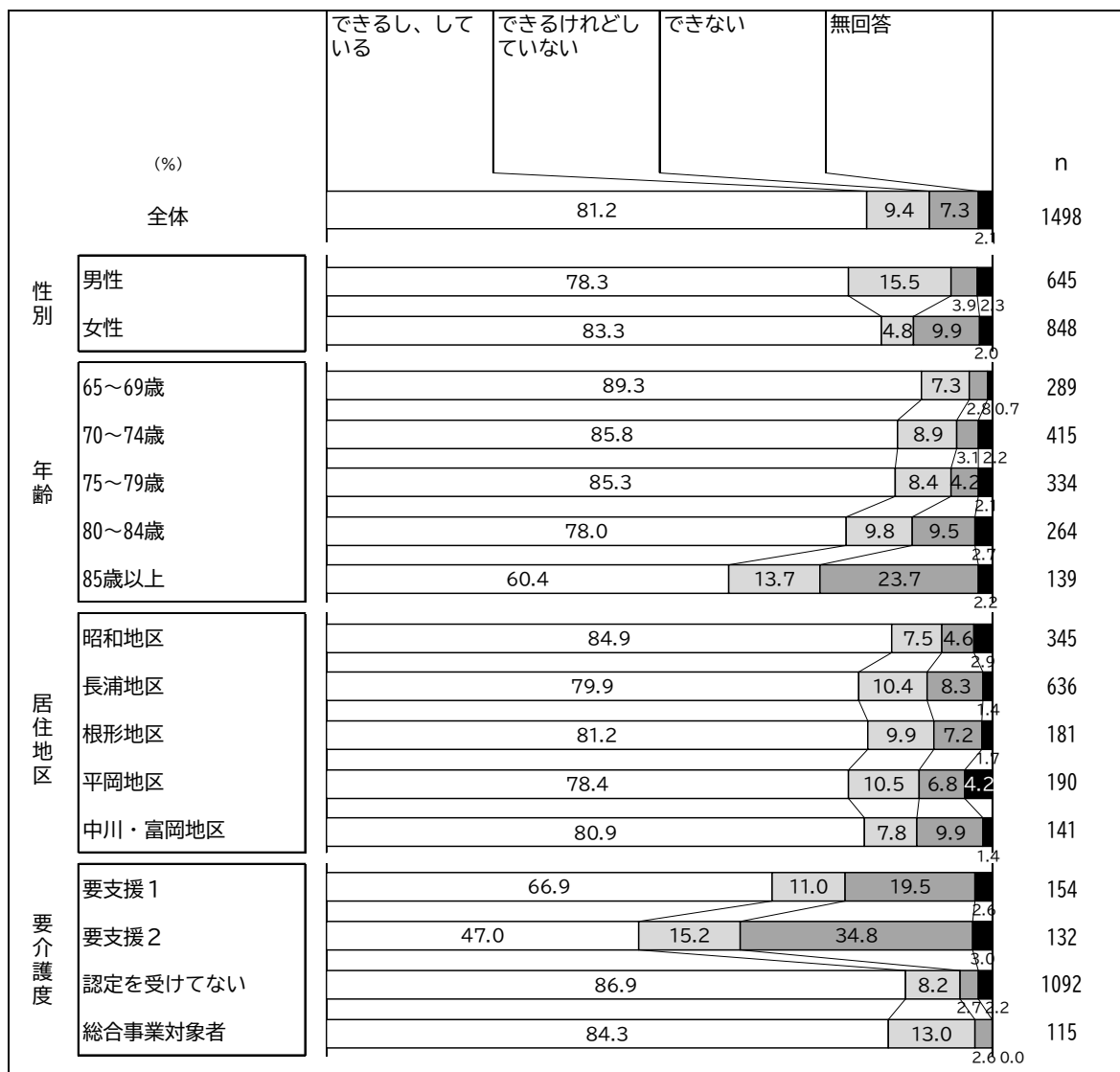
問 25 自分で食品・日用品の買い物をしていますか。(○は1つ)

- 「できるし、している」が8割強を占める。

自分で食品・日用品の買い物をしているかたずねたところ、「できるし、している」が81.2%、「できるけれどしていない」が9.4%、「できない」が7.3%となっている。

年齢で見ると、高齢になるにつれて「できるし、している」の割合が低くなり、「できない」の割合が高くなっている。

図表 自分で食品・日用品の買い物をしているか



(6) 自分で食事の用意をしているか

問 26 自分で食事の用意をしていますか。(○は1つ)

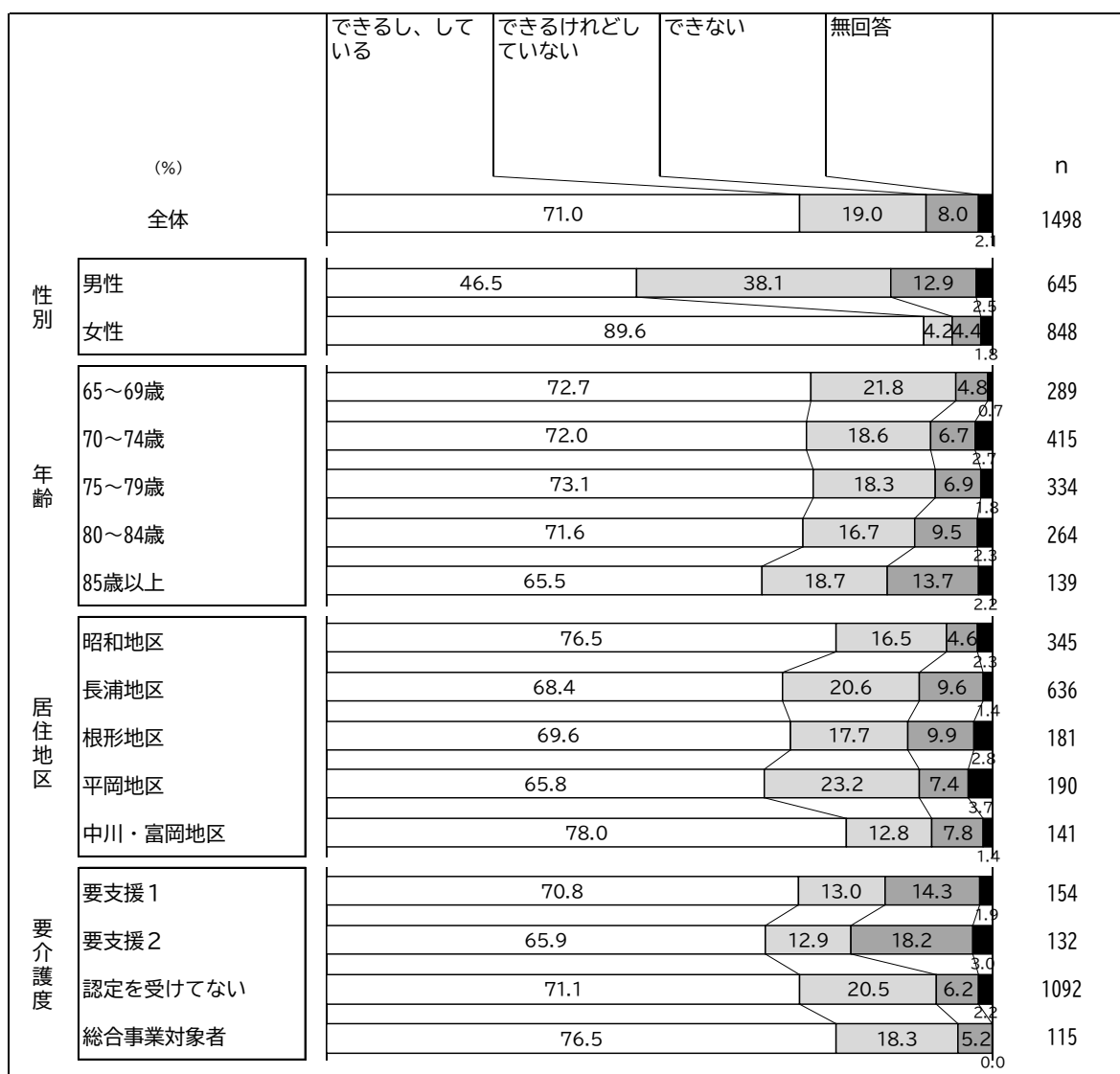
- 「できるし、している」が7割強、「できるけれどしていない」が2割弱を占める。

自分で食事の用意をしているかたずねたところ、「できるし、している」が71.0%、「できるけれどしていない」が19.0%、「できない」が8.0%となっている。

性別でみると、女性では「できるし、している」が9割弱を占めるのに対し、男性では5割未満となっている。

年齢でみると、85歳以上で「できるし、している」の割合が6割台、「できない」の割合が1割台となっている。

図表 自分で食事の用意をしているか



(7) 自分で請求書の支払いをしているか

問 27 自分で請求書の支払いをしていますか。(○は1つ)

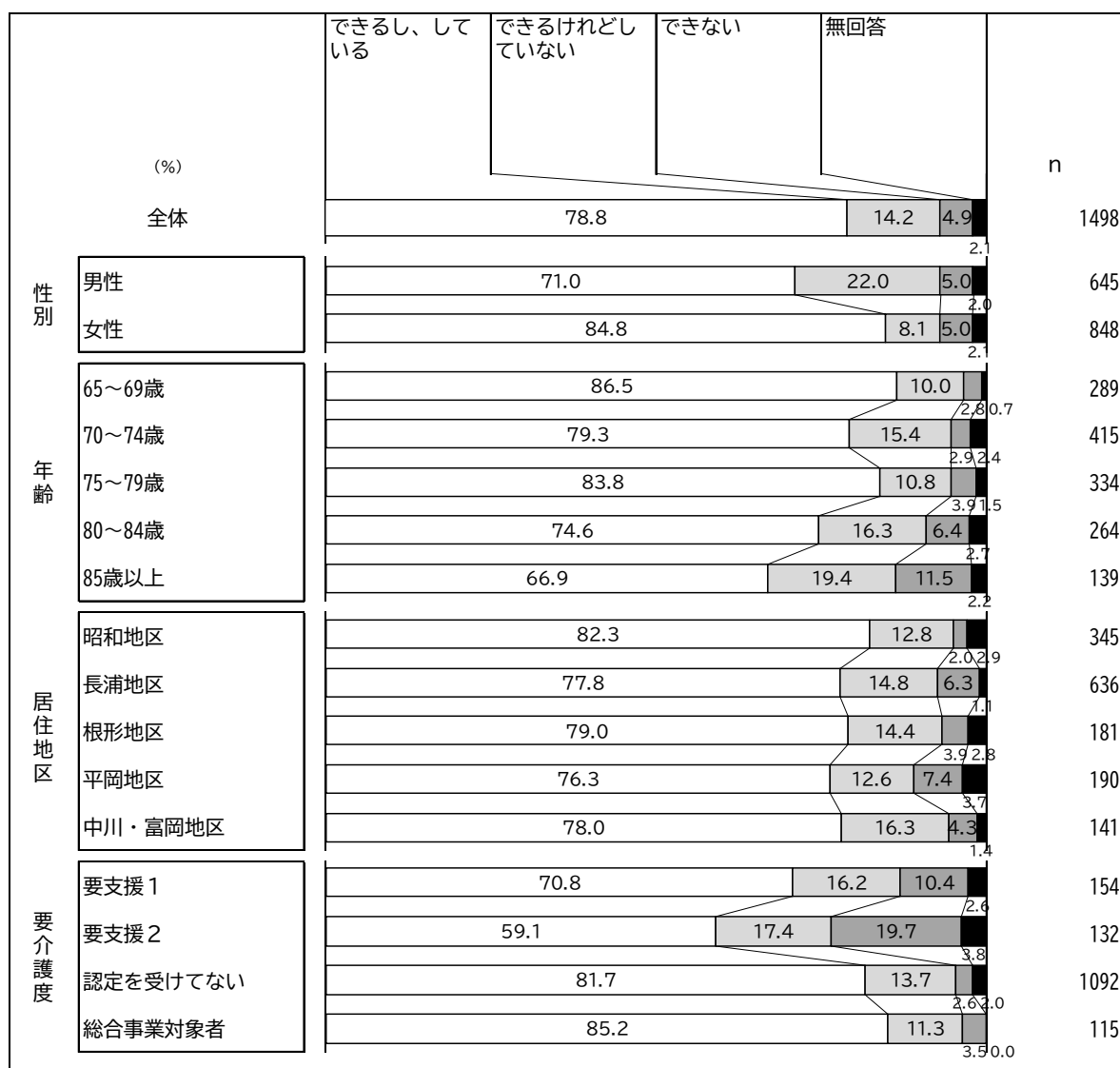
- 「できるし、している」が8割弱、「できるけれどしていない」が1割台を占める。

自分で請求書の支払いをしているかたずねたところ、「できるし、している」が78.8%、「できるけれどしていない」が14.2%、「できない」が4.9%となっている。

性別でみると、女性では「できるし、している」が8割台を占めるのに対し、男性では7割強となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「できるし、している」の割合が低くなり、「できない」の割合が高くなっている。

図表 自分で請求書の支払いをしているか



(8) 自分で預貯金の出し入れをしているか

問 28 自分で預貯金の出し入れをしていますか。(○は1つ)

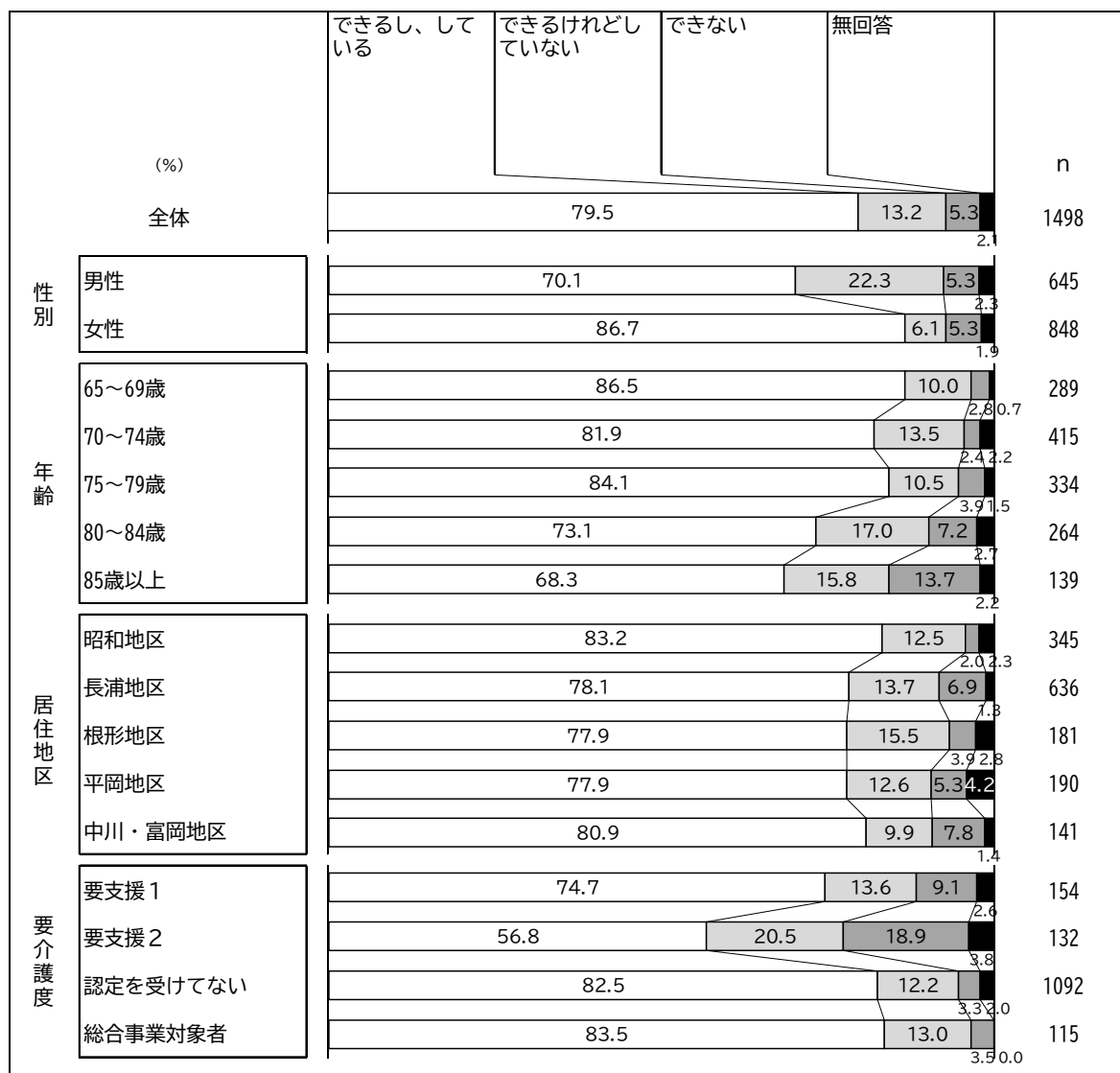
- 「できるし、している」が8割弱、「できるけれどしていない」が1割台を占める。

自分で預貯金の出し入れをしているかたずねたところ、「できるし、している」が79.5%、「できるけれどしていない」が13.2%、「できない」が5.3%となっている。

性別でみると、女性では「できるし、している」が8割台を占めるのに対し、男性では7割強となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「できるし、している」の割合が低くなり、「できない」の割合が高くなっている。

図表 自分で預貯金の出し入れをしているか



(9) 友人の家を訪ねているか

問 29 友人の家を訪ねていますか。(○は1つ)

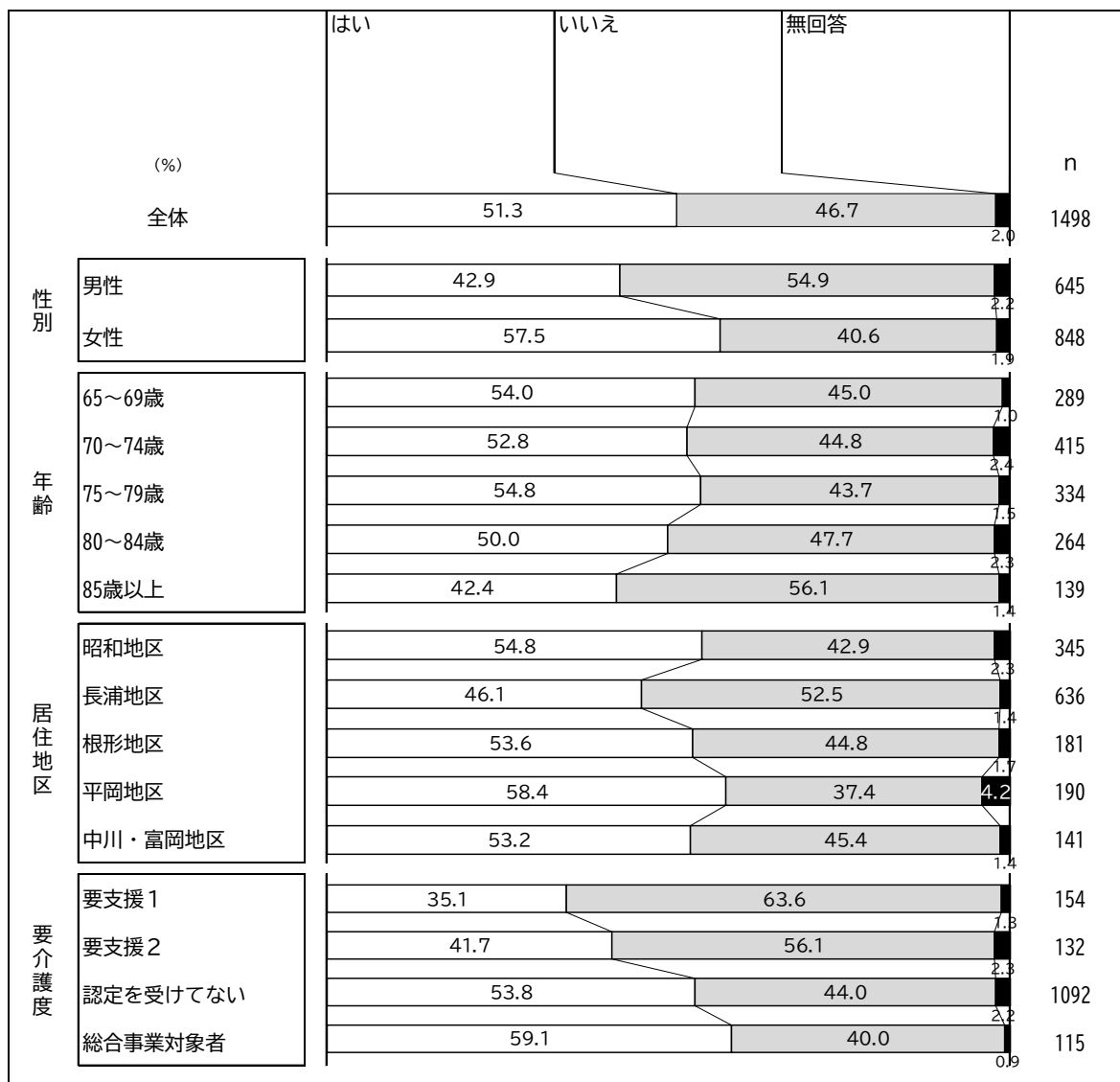
● 「はい」が5割強、「いいえ」が4割台を占める。

友人の家を訪ねているかたずねたところ、「はい」が51.3%、「いいえ」が46.7%となっている。

性別でみると、女性では「はい」が5割台を占めるのに対し、男性では4割強となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「はい」の割合が低くなっている。

図表 友人の家を訪ねているか



(10) 家族や友人の相談にのっているか

問 30 家族や友人の相談にのっていますか。(○は1つ)

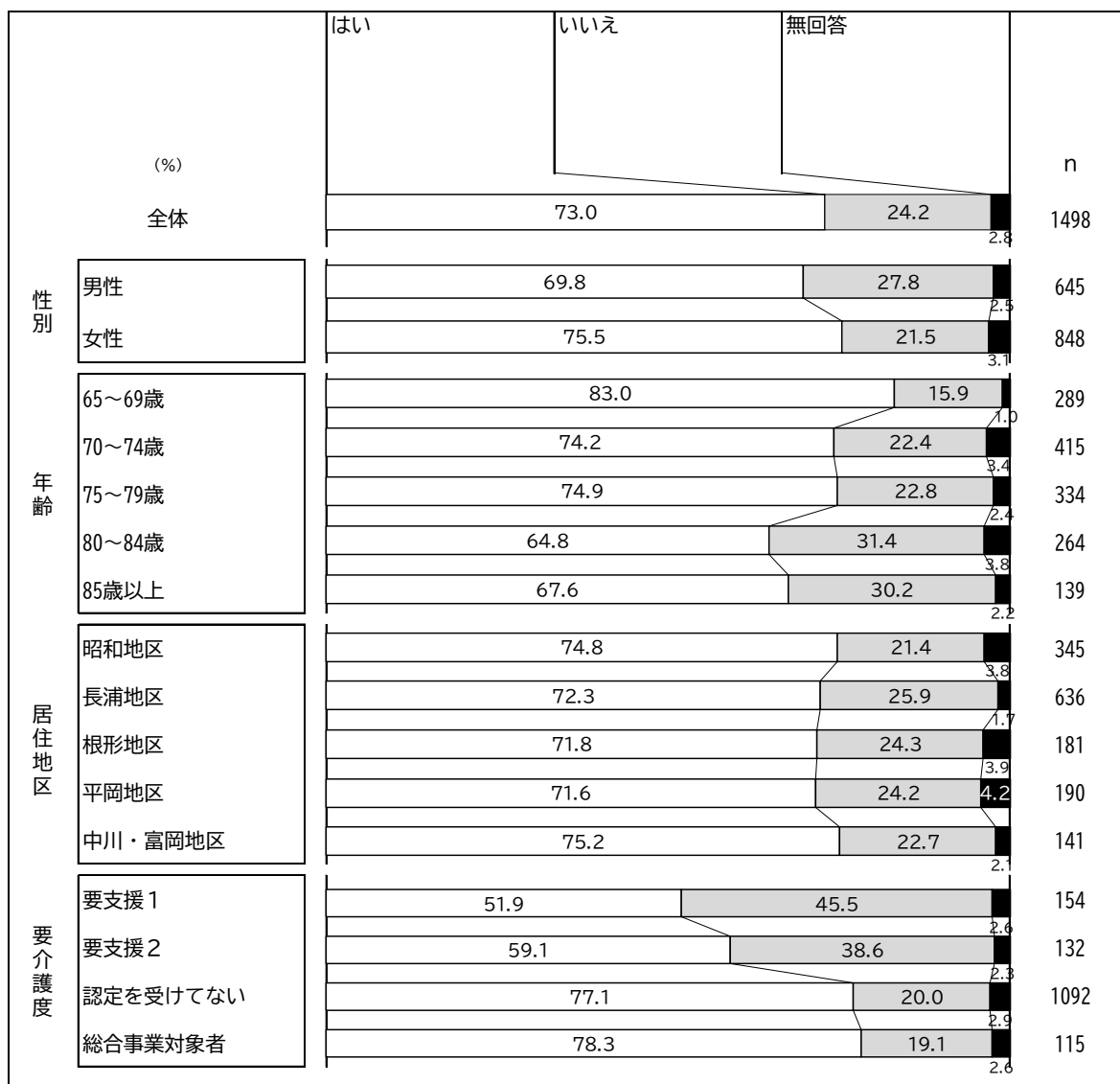
● 「はい」が7割台、「いいえ」が2割台を占める。

家族や友人の相談にのっているかたずねたところ、「はい」が73.0%、「いいえ」が24.2%となっている。

年齢でみると、80歳以上では「はい」の割合が6割程度となり、「いいえ」の割合が3割強となっている。

要介護度でみると、要支援1と要支援2では「はい」が5割台にとどまっている。

図表 家族や友人の相談にのっているか



(11) 趣味はあるか

問 31 趣味はありますか。(○は1つ)

● 「趣味あり」が6割台、「思いつかない」が2割台を占める。

趣味はあるかたずねたところ、「趣味あり」が66.2%、「思いつかない」が26.2%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「趣味あり」の割合が低くなる傾向がうかがえ、85歳以上では52.5%となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「趣味あり」が71.0%となっているのに対し、要支援2では43.9%にとどまっている。

図表 趣味はあるか

		趣味あり	思いつかない	無回答	n
(%)					
性 別	全体	66.2	26.2	7.6	1498
	男性	67.6	25.9	6.5	645
	女性	65.2	26.3	8.5	848
年 齢	65～69歳	75.4	21.5	3.1	289
	70～74歳	69.9	23.9	6.3	415
	75～79歳	64.4	27.8	7.8	334
	80～84歳	62.9	27.7	9.5	264
	85歳以上	52.5	30.9	16.5	139
居 住 地 区	昭和地区	69.6	22.3	8.1	345
	長湍地区	66.8	26.4	6.8	636
	根形地区	64.6	28.2	7.2	181
	平岡地区	62.6	26.8	10.5	190
	中川・富岡地区	62.4	30.5	7.1	141
要 介 護 度	要支援1	55.8	36.4	7.8	154
	要支援2	43.9	42.4	13.6	132
	認定を受けてない	71.0	22.3	6.8	1092
	総合事業対象者	60.9	30.4	8.7	115

①どのような趣味か

「趣味あり」と回答した方に、どのような趣味かたずねたところ、以下のような回答があった。

表 趣味はあるか（一般高齢者）

スポーツ	○テニス ○卓球 ○ボウリング ○体操 ○ウォーキング ○筋トレ ○水中ウォーク ○水泳 ○ゴルフ ○グラウンドゴルフ ○バドミントン ○ジョギング ○マラソン ○ペタンク ○バレーボール○ダンス など
アウトドア	○ハイキング ○旅行 ○釣り ○ドライブ ○登山 ○散歩 など
文化	○園芸 ○将棋 ○書道 ○編み物 ○裁縫 ○パッチワーク ○パソコン ○カラオケ ○詩吟 ○家庭菜園 ○盆栽 ○陶芸 ○料理 ○コーラス ○手芸○絵画 ○楽器演奏 ○合唱 ○写真 ○木工 ○日曜大工 ○ゲーム ○花の栽培 ○コレクション ○ガーデニング など
鑑賞	○読書 ○映画鑑賞 ○音楽鑑賞 ○観劇 ○DVD 鑑賞 ○テレビでドラマ鑑賞 ○テレビでスポーツ観戦 など

表 趣味はあるか（要支援認定者）

スポーツ	○グラウンドゴルフ ○ゴルフ ○ダンス ○太極拳 ○体操 など
アウトドア	○散歩 ○釣り ○ドライブ ○野鳥の観察 ○旅行 など
文化	○園芸 ○家庭菜園 ○カラオケ ○編物○ ○手芸 ○縫物 ○パッチワーク ○囲碁 ○将棋 ○麻雀 ○詩吟 など
鑑賞	○読書 ○音楽 ○映画 ○テレビ ○スポーツ観戦 ○美術館博物館へ行く ○展示会鑑賞 ○落語 など

(12) 生きがいはあるか

問 32 生きがいがありますか。(○は1つ)

● 「生きがいあり」が6割弱、「思いつかない」が3割台を占める。

生きがいはあるかたずねたところ、「生きがいあり」が58.3%、「思いつかない」が34.0%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「生きがいあり」の割合が低くなる傾向にあり、75歳以上では5割台となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「生きがいあり」が62.1%となっているのに対し、要支援1と要支援2ではいずれも4割程度にとどまっている。

図表 生きがいはあるか

		生きがいあり	思いつかない	無回答	n
(%)					
性別	全体	58.3	34.0	7.7	1498
	男性	55.8	38.0	6.2	645
	女性	60.1	31.0	8.8	848
年齢	65～69歳	64.4	31.5	4.2	289
	70～74歳	62.9	30.1	7.0	415
	75～79歳	52.7	36.5	10.8	334
	80～84歳	56.8	34.5	8.7	264
	85歳以上	52.5	40.3	7.2	139
居住地区	昭和地区	59.4	30.4	10.1	345
	長浦地区	55.5	37.6	6.9	636
	根形地区	56.4	35.9	7.7	181
	平岡地区	62.6	27.9	9.5	190
	中川・富岡地区	64.5	32.6	2.8	141
要介護度	要支援1	48.1	44.2	7.8	154
	要支援2	43.9	48.5	7.6	132
	認定を受けてない	62.1	30.3	7.6	1092
	総合事業対象者	52.2	39.1	8.7	115

①どのような生きがいがあるか

「生きがいあり」と回答した方に、どのような生きがいかたずねたところ、以下のような記述があった。

表 生きがいはあるか（一般高齢者）

家族	○子供の成長 ○孫の成長 ○家族の健康 ○ペットの世話 など
友人	○友人との交流 ○友人とのランチ、旅行 など
趣味	○趣味の野菜づくり ○旅行 ○庭いじり ○ゴルフ ○パソコン ○ドライブ など
地域活動	○ボランティア活動 ○自治会活動 ○地域活性化 など
仕事	○自分の仕事 ○家族のための仕事 など
その他	○資格取得 ○健康 ○美味しいものを食べる など

表 生きがいはあるか（要支援認定者）

家族	○孫の成長 ○子供が来る時 ○ペット など
友人	○友人とのつながり ○友人と話し合うこと など
趣味	○家庭菜園 ○日帰り旅行をすること ○絵画サークル など
仕事	○家事の仕事 ○趣味の料理をいかし仕事をしている。 など

5 地域での活動について

(1) 会・グループ等への参加状況

問 33 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。
(①～⑨それぞれに○は1つ)



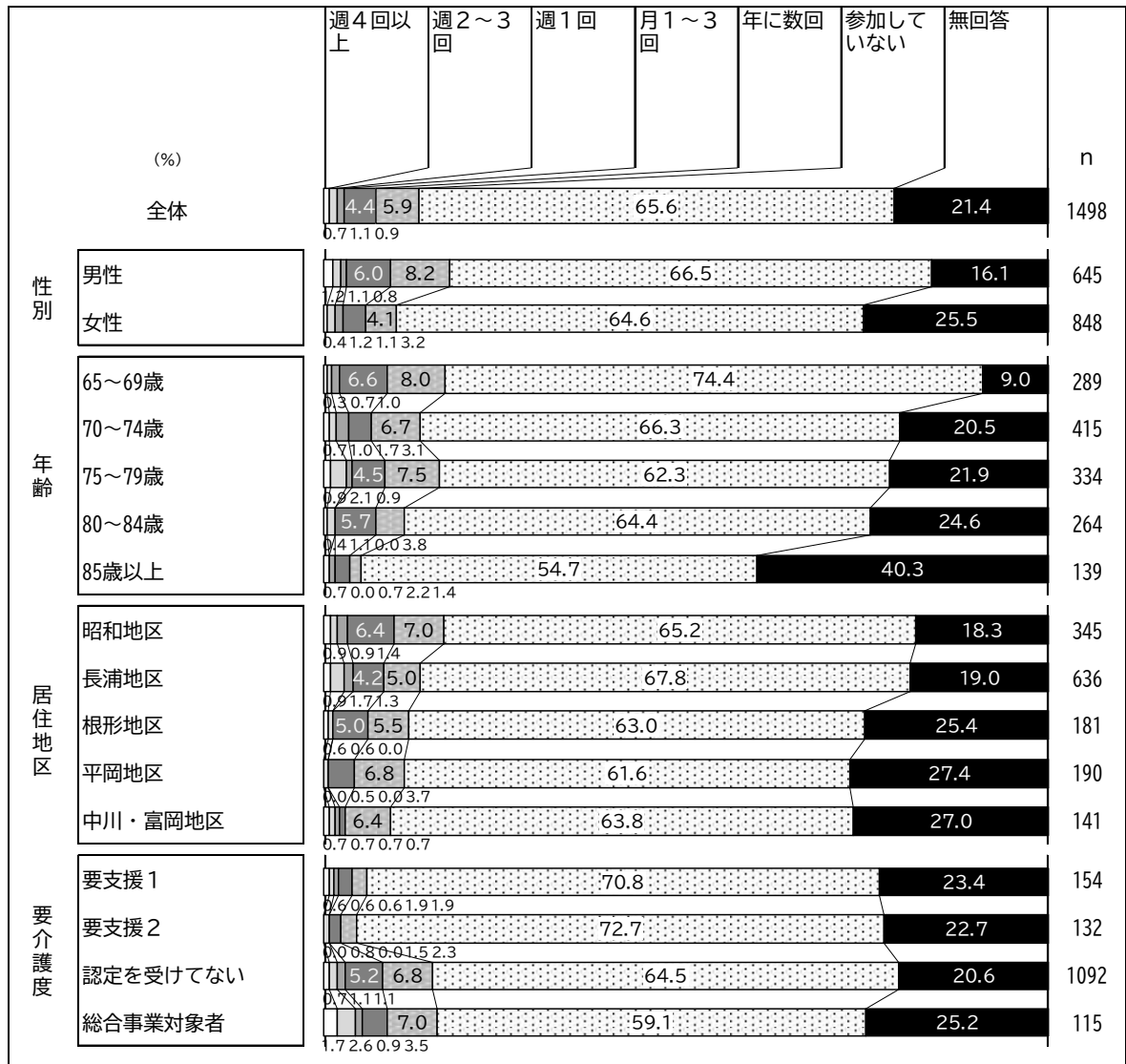
- スポーツ関係のグループや趣味関係のグループ、町内会・自治会などでは“参加している”の割合が高い。

①ボランティアのグループ

ボランティアのグループの参加状況については、「参加していない」が 65.6%、「年に数回」が 5.9%、「月 1～3 回」が 4.4%、「週 2～3 回」が 1.1%、「週 1 回」が 0.9%、「週 4 回以上」が 0.7%、となっている。「週 4 回以上」と「週 2～3 回」、「週 1 回」、「月 1～3 回」、「年に数回」を合わせた“参加している”は 13.0%となっている。

年齢でみると、80 歳未満では“参加している”が 1 割台となっているのに対し、80 歳以上では 1 割未満となっている。

図表 ボランティアのグループ

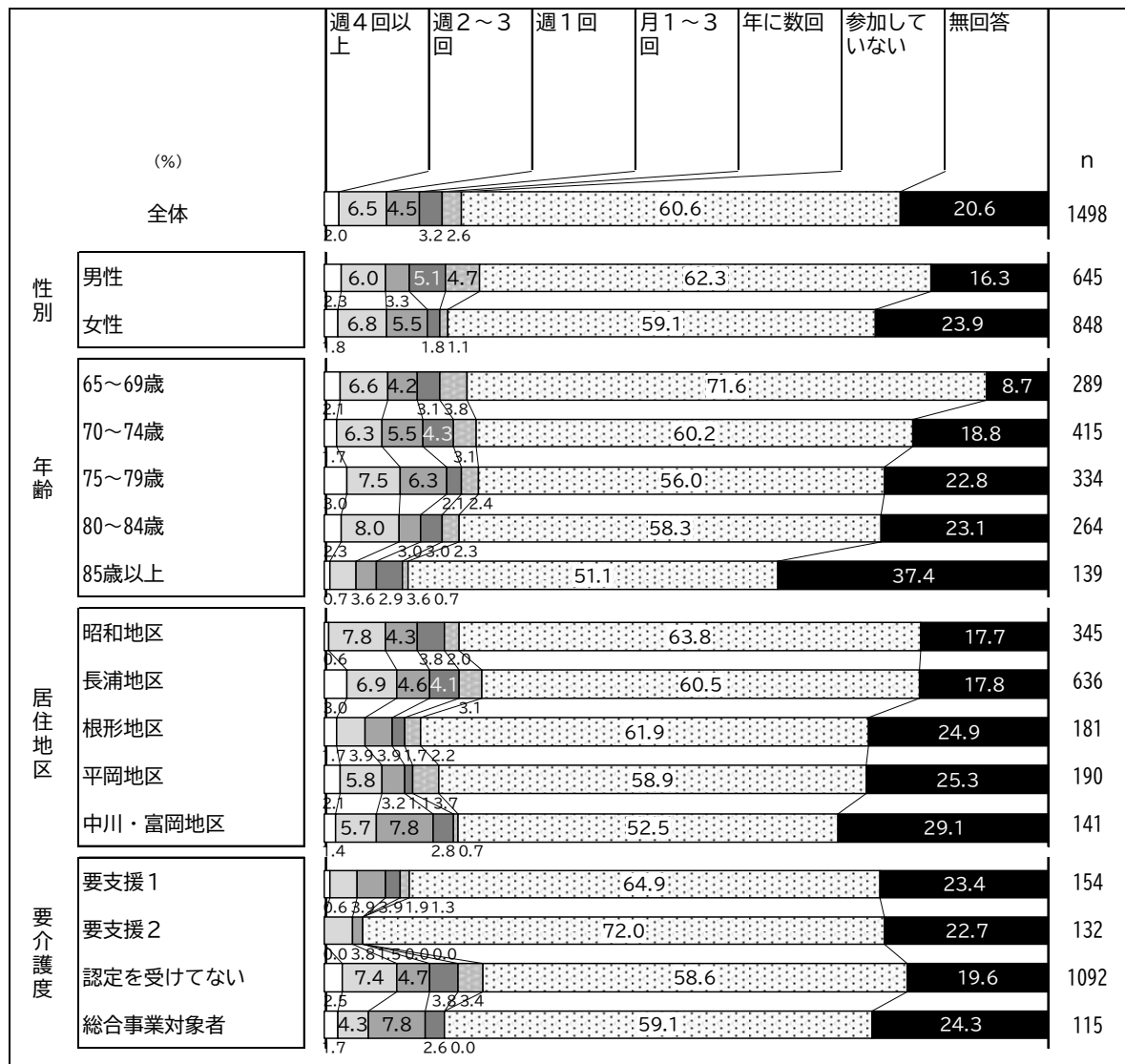


②スポーツ関係のグループ

スポーツ関係のグループの参加状況については、「参加していない」が 60.6%、「週2～3回」が 6.5%、「週1回」が 4.5%、「月1～3回」が 3.2%、「年に数回」が 2.6%、「週4回以上」が 2.0%となっている。

性別でみると、男性は“参加している”の割合が2割強を占めており、女性よりも高くなっている。

図表 スポーツ関係のグループ

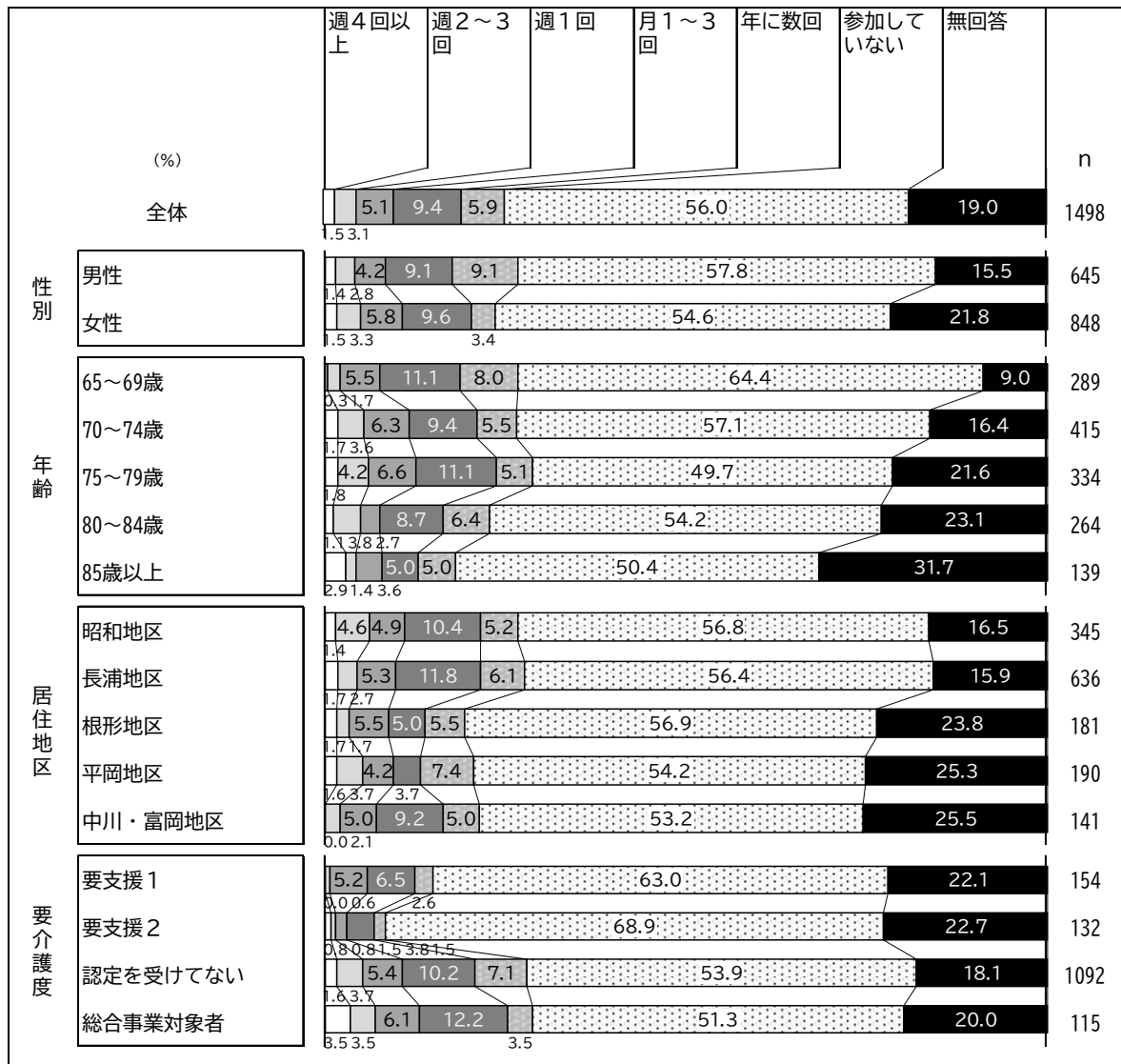


③趣味関係のグループ

趣味関係のグループの参加状況については、「参加していない」が 56.0%、「月 1～3 回」が 9.4%、「年に数回」が 5.9%、「週 1 回」が 5.1%、「週 2～3 回」が 3.1%、「週 4 回以上」が 1.5%となっている。

年齢でみると、80 歳未満では“参加している”が 2 割以上を占める。

図表 趣味関係のグループ

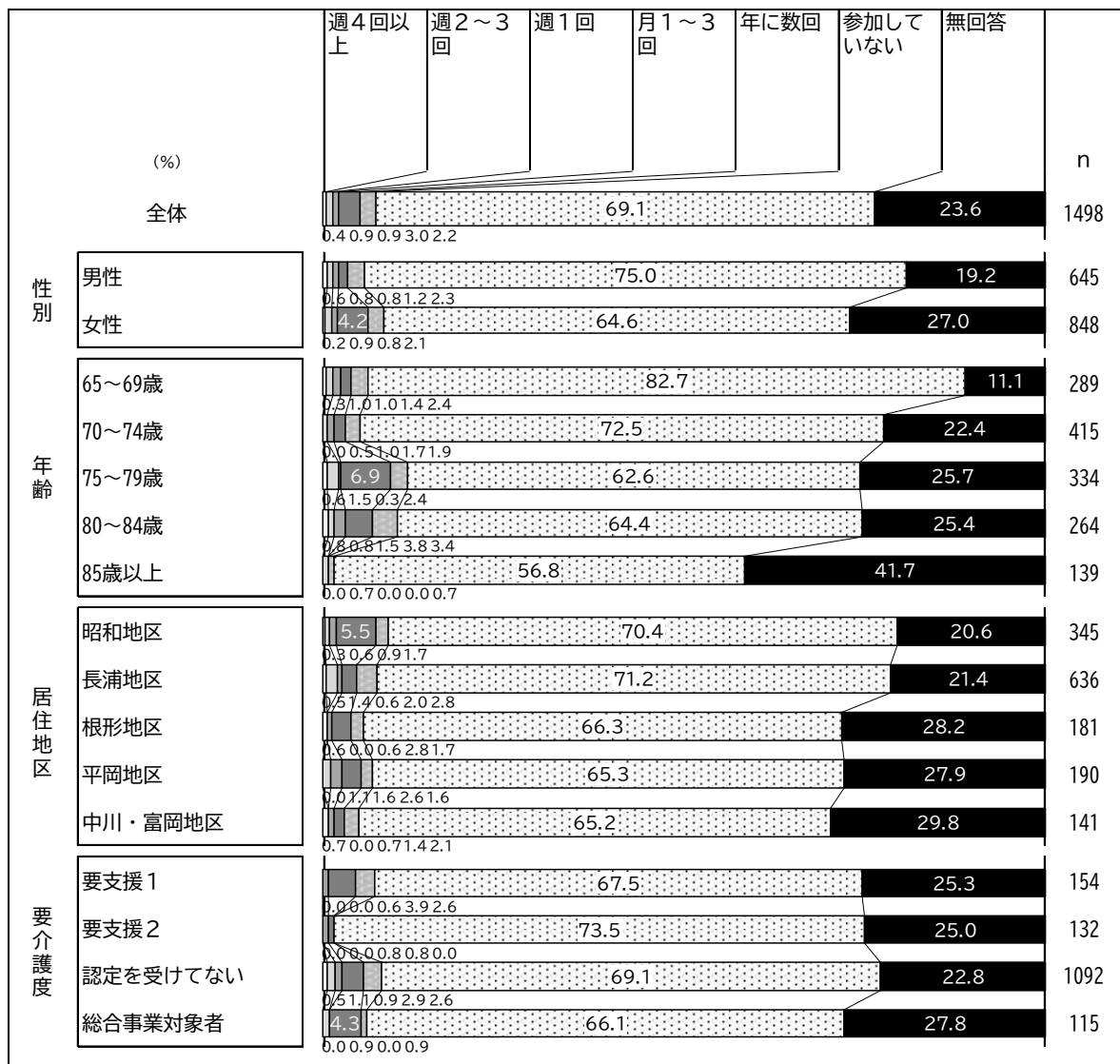


④学習・教養サークル

学習・教養サークルの参加状況については、「参加していない」が 69.1%、「月1～3回」が 3.0%、「年に数回」が 2.2%、「週1回」・「週2～3回」が 0.9%、「週4回以上」が 0.4%となっている。

年齢でみると、75歳未満では「参加していない」が7割以上を占めるのに対し、75歳以上では6割以下となっている。

図表 学習・教養サークル

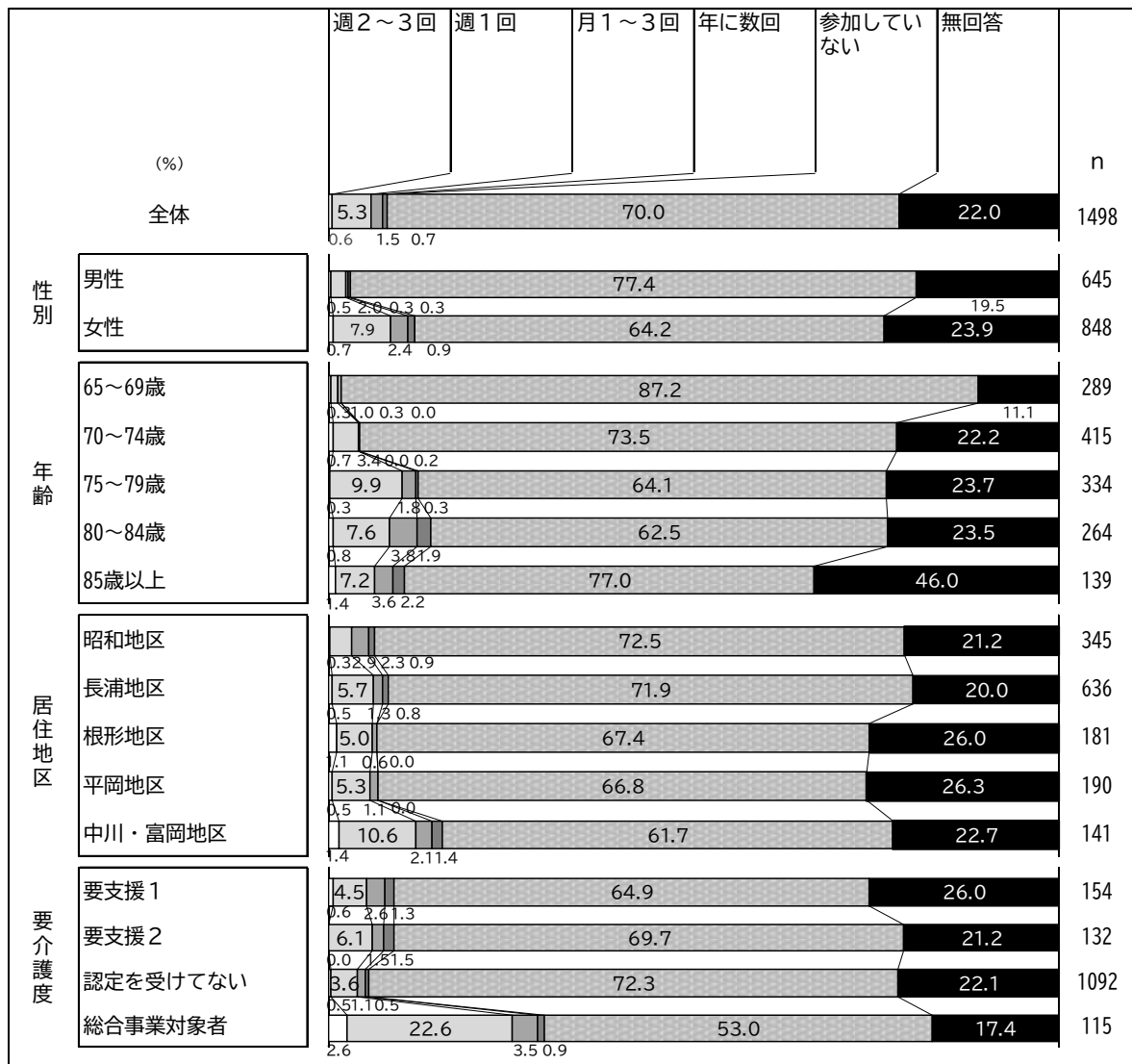


⑤袖ケ浦いきいき百歳体操

袖ケ浦いきいき百歳体操の参加状況については、「参加していない」が70.0%、「週1回」が5.3%、「月1～3回」が1.5%、「年に数回」が0.7%、「週2～3回」が0.6%となっている。

要介護度でみると、総合事業対象者は「参加していない」が5割台と他に比べて低くなっています。

図表 袖ケ浦いきいき百歳体操

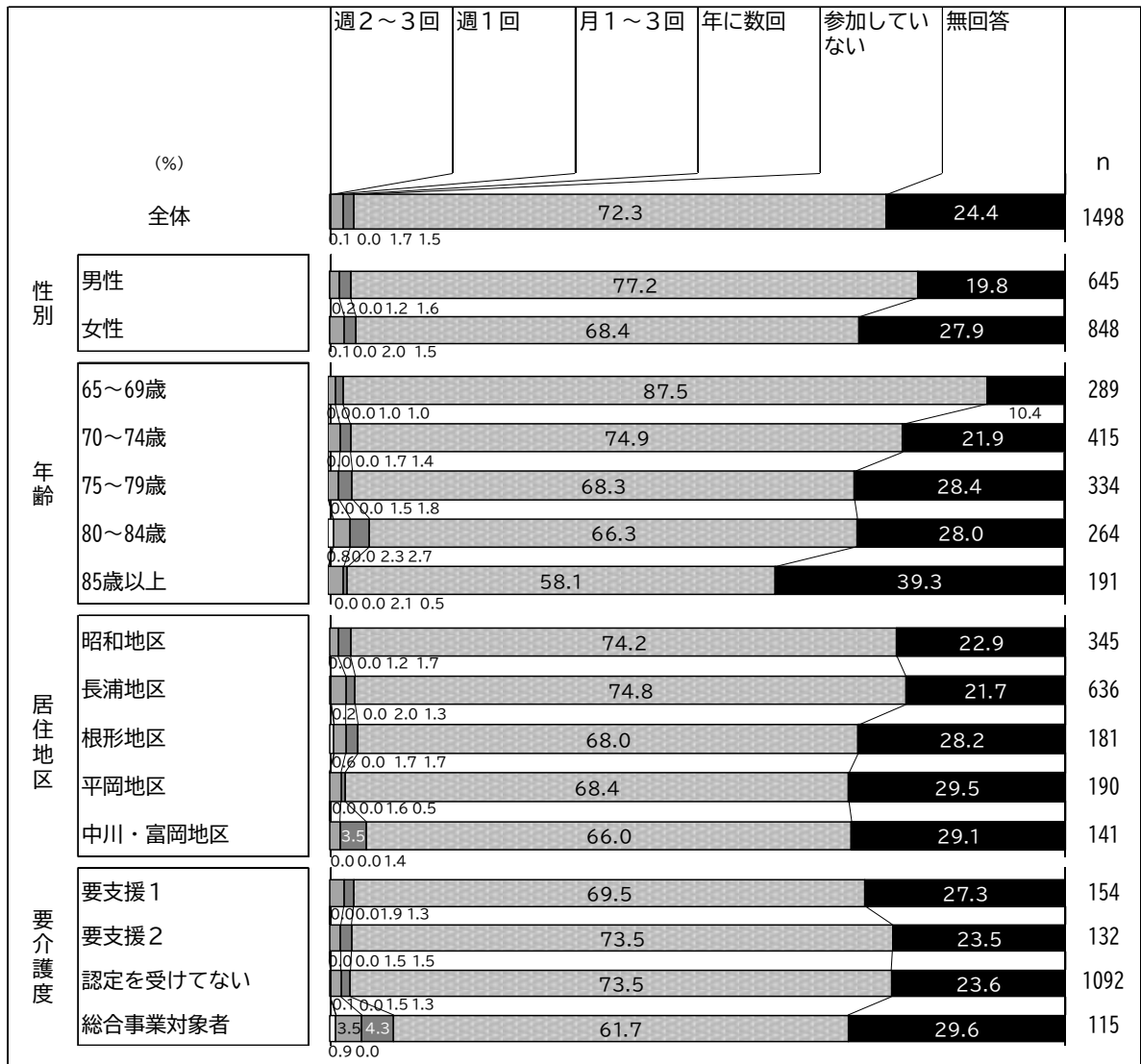


⑥地区サロン

地区サロンの参加状況については、「参加していない」が72.3%、「月1～3回」が1.7%、「年に数回」が1.5%、「週2～3回」が0.1%、「週1回」が0.0%となっている。

居住地区でみると中川・富岡地区で、要介護度でみると総合事業対象者で、“参加している”の割合が比較的高くなっている。

図表 地区サロン

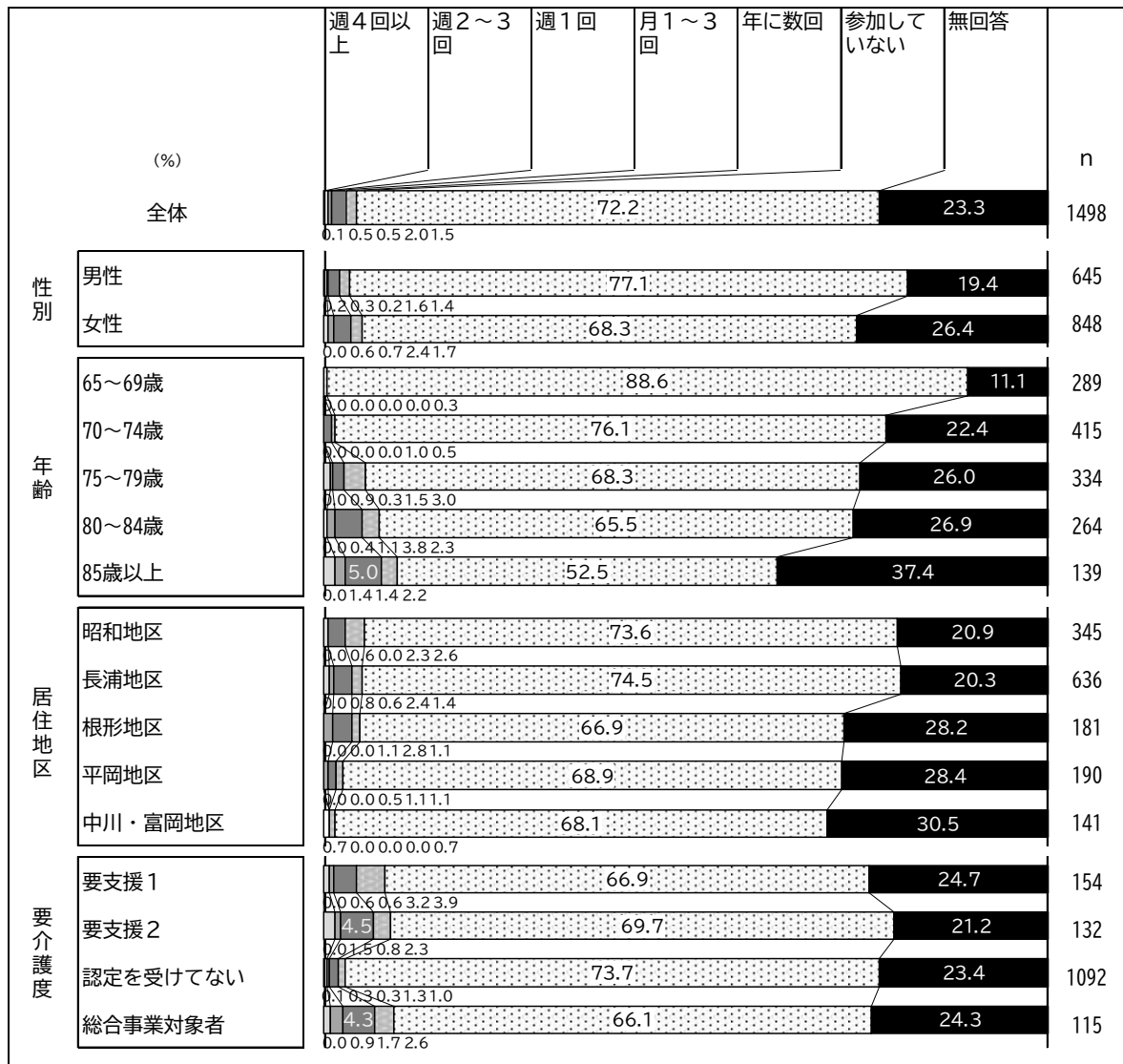


⑦老人クラブ・シニアクラブ

老人クラブ・シニアクラブの参加状況については、「参加していない」が72.2%「月1～3回」が2.0%、「年に数回」が1.5%、「週1回」・「週2～3回」が0.5%、「週4回以上」が0.1%となっている。

年齢でみると、85歳以上では「参加していない」が5割台となっている。“参加している”の割合は75歳以上で高くなっている。

図表 老人クラブ・シニアクラブ



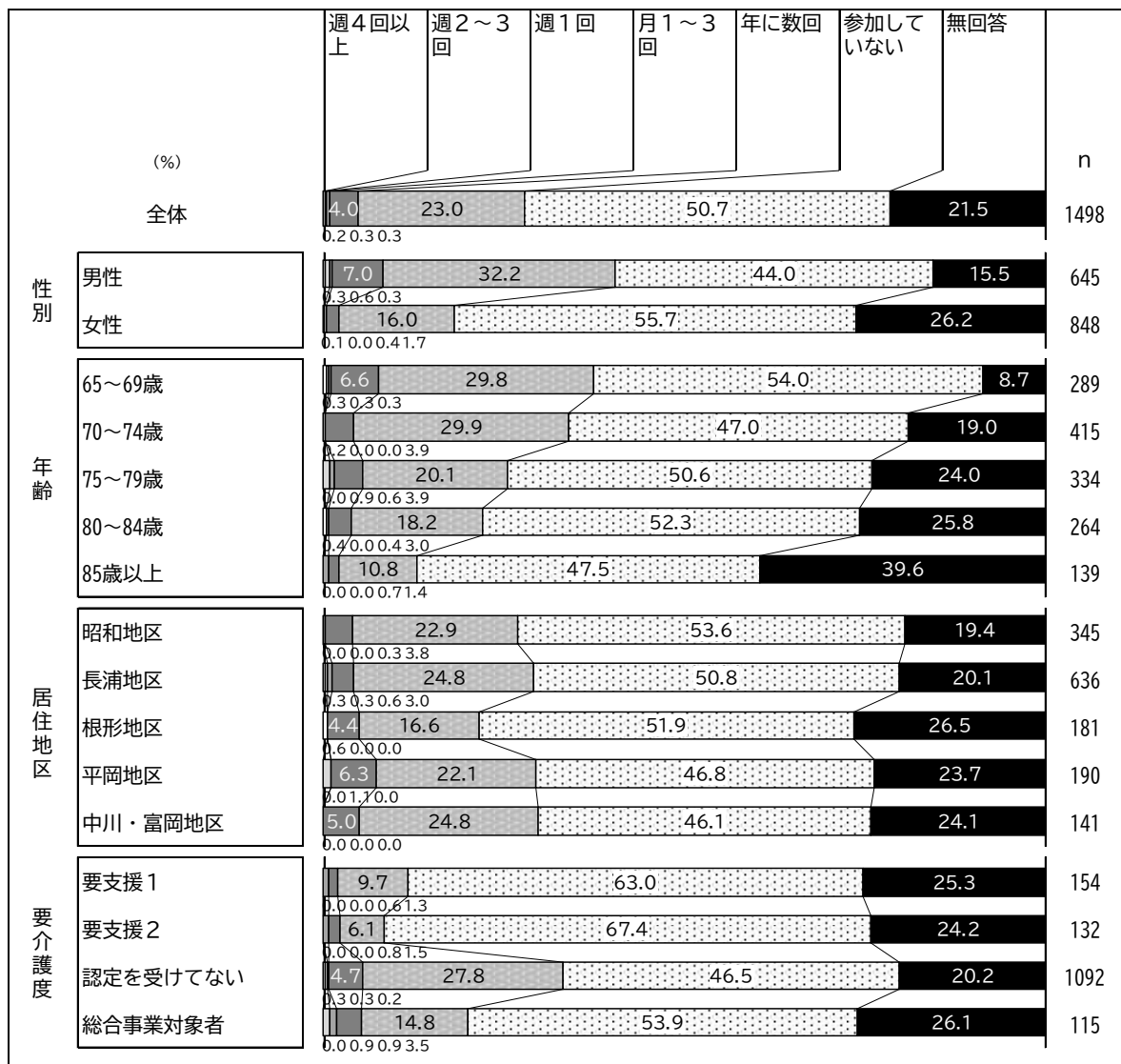
⑧町内会・自治会

町内会・自治会の参加状況については、「参加していない」が 50.7%、「年に数回」が 23.0%、「月 1～3 回」が 4.0%、「週 1 回」・「週 2～3 回」が 0.3%、「週 4 回以上」が 0.2%となっている。

性別でみると、男性よりも女性の「参加していない」の割合が高くなっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて “参加している” の割合が低くなっている。

図表 町内会・自治会



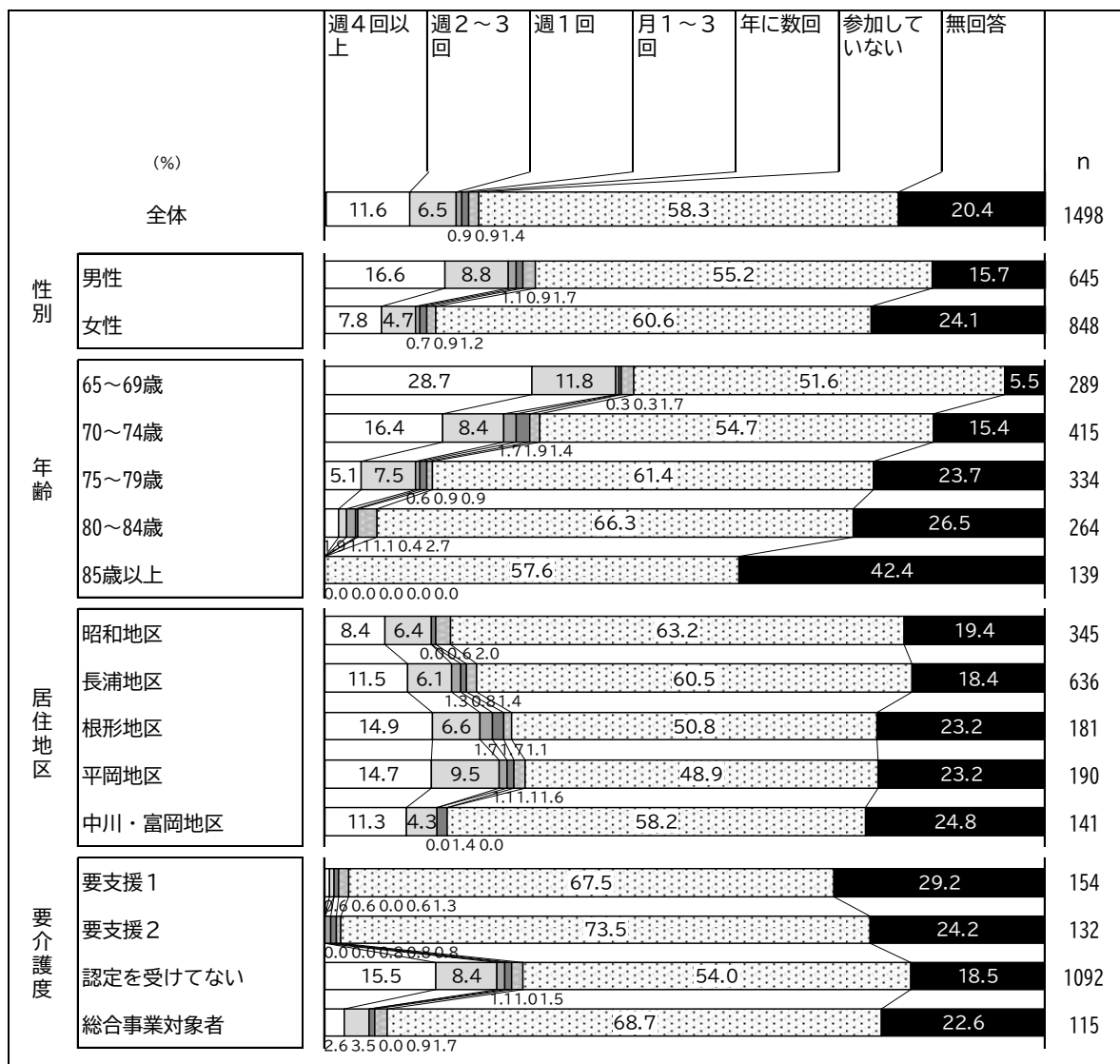
⑨収入のある仕事

収入のある仕事の状況については、「参加していない」が58.3%、「週4回以上」が11.6%、「週2～3回」が6.5%、「週1回」が0.9%、「月1～3回」が0.9%、「年に数回」が1.4%、「月1～3回」・「週1回」が0.9%となっている。

性別でみると、男性よりも女性の「参加していない」の割合が高くなっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて“参加している”の割合が低くなっている。

図表 収入のある仕事



(2) 地域活動に参加者として参加したいか

問 34 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(〇は1つ)

- 「参加してもよい」が4割強を占める。

地域活動に参加者として参加したいかたずねたところ、「参加してもよい」が42.7%、「参加したくない」が38.3%、「是非参加したい」が7.5%、「既に参加している」が6.5%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「参加してもよい」の割合が低くなる傾向がうかがえる。

図表 地域活動に参加者として参加したいか

		是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	既に参加している	無回答	n
(%)							
性別	全体	7.5	42.7	38.3	6.5	4.9	1498
	男性	6.4	44.0	39.7	6.0	3.9	645
	女性	8.4	41.6	37.3	7.0	5.8	848
年齢	65～69歳	6.6	51.2	35.6	4.8	1.7	289
	70～74歳	6.3	45.1	38.8	5.5	4.3	415
	75～79歳	9.6	42.2	33.5	10.5	4.2	334
	80～84歳	9.1	38.6	40.2	6.4	5.7	264
	85歳以上	5.0	33.8	46.8	10.8		139
居住地区	昭和地区	8.4	42.0	37.1	7.0	5.5	345
	長浦地区	9.0	45.6	34.7	6.9	3.8	636
	根形地区	5.0	39.8	43.6	5.5	6.1	181
	平岡地区	5.3	39.5	42.6	4.7	7.9	190
	中川・富岡地区	5.0	39.0	44.7	7.8		141
要介護度	要支援1	9.7	33.1	50.0	3.5		154
	要支援2	5.3	28.8	54.5	9.1	3.2	132
	認定を受けてない	6.4	44.9	36.7	7.2	4.8	1092
	総合事業対象者	17.4	50.4	19.1	8.7	4.3	115

(3) 地域活動に企画・運営として参加したいか

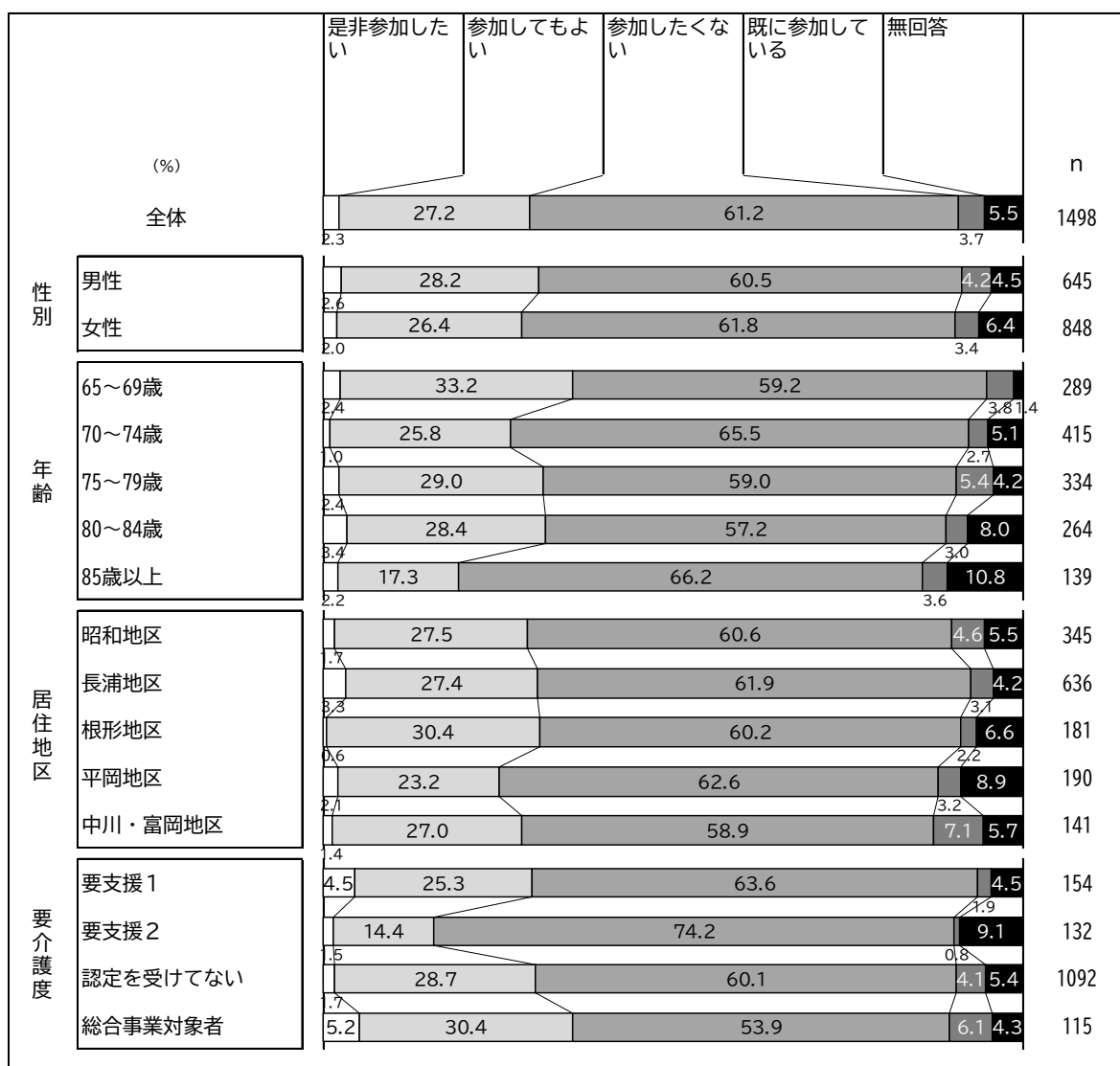
問 35 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。（○は1つ）

● 「参加したくない」が6割強を占める。

地域活動に企画・運営として参加したいかたずねたところ、「参加したくない」が61.2%、「参加してもよい」が27.2%、「既に参加している」が3.7%、「是非参加したい」が2.3%となっている。

要介護度でみると、要支援2では「参加したくない」が7割台を占めており、他に比べ高くなっている。

図表 地域活動に企画・運営として参加したいか



(4) 地域での助け合いや支え合いとしてできること

問 36 地域での助け合いや支え合いとしてあなたができることがあれば教えてください。

地域での助け合いや支え合いとしてできることについてたずねたところ、以下のような回答があった。

表 地域での助け合いや支え合いとしてできること（一般高齢者）

○家事・料理のお手伝い	○着物の着付けの手伝い、指導
○防犯パトロール	○樹木の剪定作業
○庭の手入れや草とり	○ごみ出し
○買い物代行、送迎などの車の運転	○囲碁など趣味の指導
○公園やゴミステーションの清掃	○散歩同行
○傾聴ボランティア	○詩吟・囲碁・将棋等を教えることができる
○話し相手	など

表 地域での助け合いや支え合いとしてできること（要支援認定者）

○物の作りの手伝い	○話し相手、簡単な料理、お手玉作り
○ボランティア（話し相手）	○子供達に英語の本の読み聞かせ など

6 たすけあいについて

(1) あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人

問 37 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（あてはまるものすべてに○）
【複数回答】

- 「配偶者」が5割台で第1位を占める。「友人」、「別居の子ども」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」などが続く。

心配事や愚痴を聞いてくれる人についてたずねたところ、「配偶者」（53.7%）が最も多く、次いで「友人」（41.9%）、「別居の子ども」（38.1%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（30.0%）、「同居の子ども」（21.2%）、「近隣」（13.0%）などとなっている。なお、「そのような人はいない」は4.7%となっている。

性別でみると、男性では「配偶者」が第1位となっているのに対し、女性では「友人」が第1位となっている。

年齢でみると、80歳未満ではいずれも「配偶者」が第1位となっているのに対し、80歳以上では「別居の子ども」が第1位となっている。

図表 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答／全体）

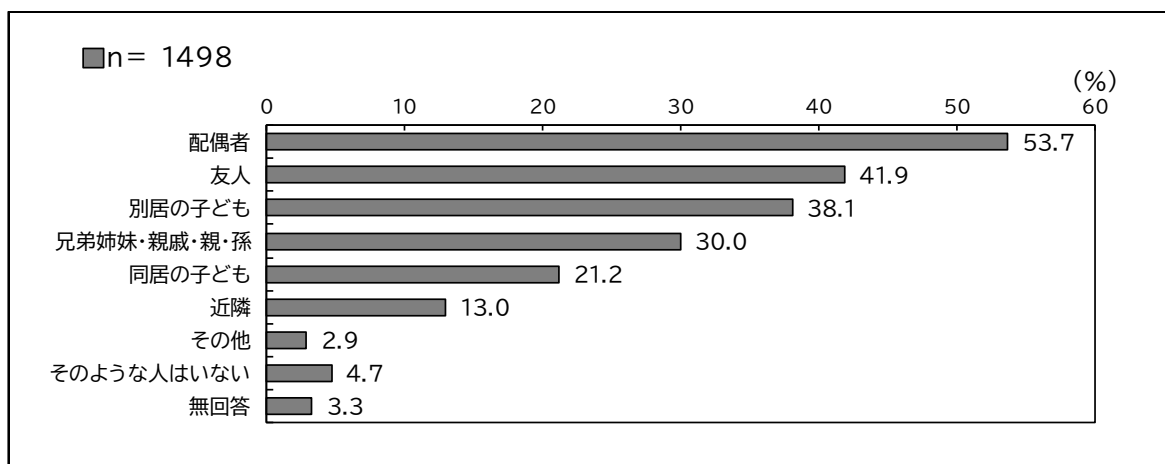


表 あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		配偶者 53.7	友人 41.9	別居の子ども 38.1
性別	男性	配偶者 67.0	友人 29.1	別居の子ども 28.4
	女性	友人 51.8	別居の子ども 45.5	配偶者 43.5
年齢	65～69 歳	配偶者 65.1	友人 51.9	兄弟姉妹・親戚・親・孫 33.6
	70～74 歳	配偶者 64.6	友人 44.1	別居の子ども 34.0
	75～79 歳	配偶者 55.1	友人 44.9	別居の子ども 41.6
	80～84 歳	別居の子ども 43.9	配偶者 42.0	友人 38.3
	85 歳以上	別居の子ども 41.7	配偶者 31.7	同居の子ども 29.5
居住地区	昭和地区	配偶者 51.9	友人 47.8	別居の子ども 39.4
	長浦地区	配偶者 57.5	友人 39.6	別居の子ども 37.6
	根形地区	配偶者 46.4	別居の子ども 37.6	別居の子ども 37.6
	平岡地区	配偶者 57.4	友人 42.6	別居の子ども 38.4
	中川・富岡地区	配偶者 44.7	友人 43.3	別居の子ども 37.6
要介護度	要支援 1	配偶者 53.7	友人 41.9	別居の子ども 38.1
	要支援 2	別居の子ども 39.6	兄弟姉妹・親戚・親・孫 28.6	友人 27.3
	認定を受けていない	別居の子ども 46.2	友人 35.6	配偶者 30.3
	総合事業対象者	配偶者 61.2	友人 43.2	別居の子ども 36.5

(2) あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人

問 38 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。
（あてはまるものすべてに○）【複数回答】

- 「配偶者」が5割弱で第1位を占める。「友人」、「別居の子ども」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」などが続く。

あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人についてたずねたところ、「配偶者」（49.5%）が最も多く、次いで「友人」（41.9%）、「別居の子ども」（34.3%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（32.4%）、「同居の子ども」（16.8%）、「近隣」（13.7%）などとなっている。なお、「そのような人はいない」は7.3%となっている。

性別でみると、男性では「配偶者」が第1位となっているのに対し、女性では「友人」が第1位となっている。

年齢でみると、85歳未満では「配偶者」が第1位となっているのに対し、85歳以上では「別居の子ども」が第1位となっている。

また、要介護度でみると、要支援1と総合事業対象者では「友人」が第1位となっているのに対し、要支援2では「別居の子ども」、認定を受けていないでは「配偶者」が第1位となっている。

図表 あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答／全体）

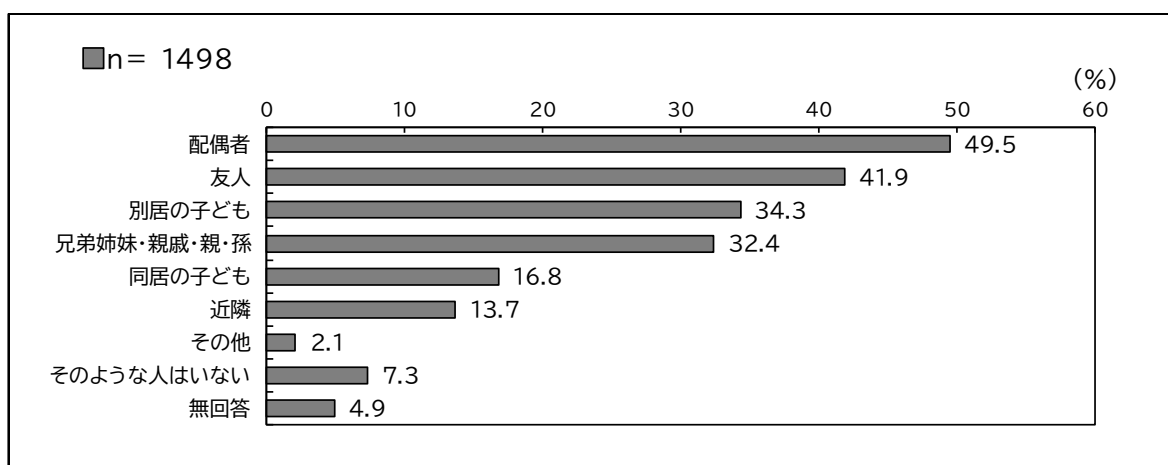


表 あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		配偶者 49.5	友人 41.9	別居の子ども 34.3
性別	男性	配偶者 64.7	友人 29.6	別居の子ども 29.5
	女性	友人 51.4	兄弟姉妹・親戚・親・孫 40.8	別居の子ども 38.0
年齢	65～69歳	配偶者 61.6	友人 54.0	別居の子ども 35.6
	70～74歳	配偶者 59.5	友人 44.3	兄弟姉妹・親戚・親・孫 39.0
	75～79歳	配偶者 50.9	友人 42.5	別居の子ども 37.4
	80～84歳	配偶者 38.6	友人 37.9	別居の子ども 31.1
	85歳以上	別居の子ども 30.9	兄弟姉妹・親戚・親・孫 28.1	配偶者 27.3
居住地区	昭和地区	配偶者 46.4	配偶者 46.4	兄弟姉妹・親戚・親・孫 35.4
	長浦地区	配偶者 53.5	友人 39.9	別居の子ども 36.3
	根形地区	配偶者 43.6	友人 38.1	別居の子ども 31.5
	平岡地区	配偶者 51.1	友人 42.1	兄弟姉妹・親戚・親・孫 37.4
	中川・富岡地区	友人 45.4	配偶者 44.0	兄弟姉妹・親戚・親・孫 31.2
要介護度	要支援1	友人 27.9	兄弟姉妹・親戚・親・孫 26.0	別居の子ども 24.0
	要支援2	別居の子ども 32.6	友人 31.1	兄弟姉妹・親戚・親・孫 27.3
	認定を受けていない	配偶者 56.8	友人 43.9	別居の子ども 36.3
	総合事業対象者	友人 55.7	配偶者 43.5	兄弟姉妹・親戚・親・孫 33.9

(3) 病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人

問 39 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「配偶者」が他を大きく引き離して6割弱で第1位を占める。

看病や世話をしてくれる人についてたずねたところ、「配偶者」(59.5%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(34.0%)、「同居の子ども」(27.5%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(12.8%)、「友人」(6.2%)、「近隣」(2.3%)などとなっている。なお、「そのような人はいない」は7.1%となっている。

年齢でみると、85歳以上では「別居の子ども」が第1位となっている。

要介護度でみると、要支援1、要支援2では「別居の子ども」が第1位となっている。

図表 病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人(複数回答/全体)

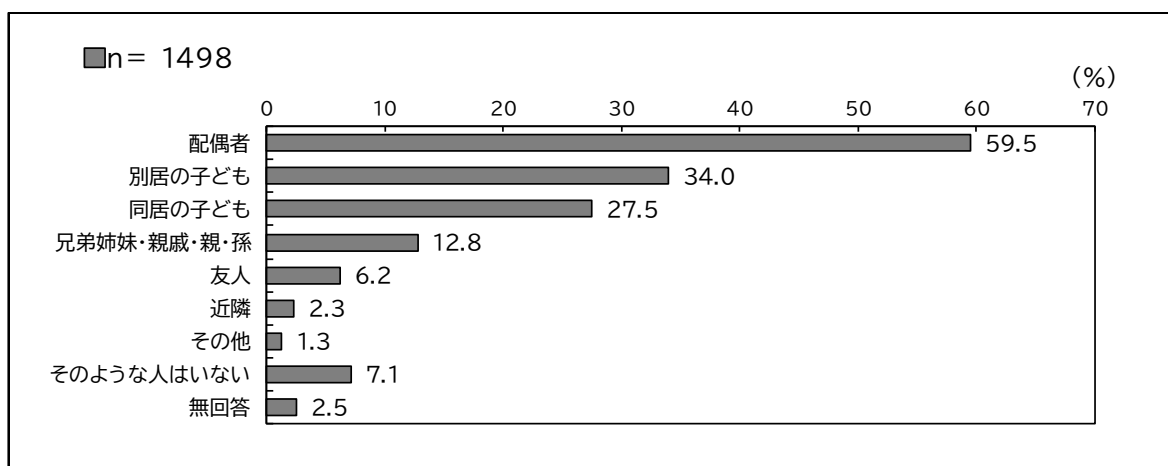


表 病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人（全体・属性別－上位３位）

（単位：％）

		第１位	第２位	第３位
全体		配偶者 59.5	別居の子ども 34.0	同居の子ども 27.5
性別	男性	配偶者 72.4	別居の子ども 27.3	同居の子ども 19.7
	女性	配偶者 49.5	別居の子ども 39.0	同居の子ども 33.6
年齢	65～69 歳	配偶者 70.9	別居の子ども 26.0	同居の子ども 21.8
	70～74 歳	配偶者 72.0	別居の子ども 29.6	同居の子ども 23.1
	75～79 歳	配偶者 62.3	別居の子ども 35.3	同居の子ども 29.9
	80～84 歳	配偶者 45.5	別居の子ども 41.7	同居の子ども 28.0
	85 歳以上	別居の子ども 41.0	同居の子ども 35.3	配偶者 34.5
居住地区	昭和地区	配偶者 59.7	別居の子ども 34.5	同居の子ども 29.9
	長浦地区	配偶者 61.9	別居の子ども 32.7	同居の子ども 24.7
	根形地区	配偶者 52.5	別居の子ども 32.0	同居の子ども 27.6
	平岡地区	配偶者 62.1	別居の子ども 37.4	同居の子ども 28.9
	中川・富岡地区	配偶者 52.5	別居の子ども 36.2	同居の子ども 33.3
要介護度	要支援 1	配偶者／別居の子ども 35.1		同居の子ども 27.3
	要支援 2	別居の子ども 42.4	同居の子ども 38.6	配偶者 34.8
	認定を受けていない	配偶者 67.0	別居の子ども 32.3	同居の子ども 26.8
	総合事業対象者	配偶者 47.8	別居の子ども 38.3	同居の子ども 22.6

(4) あなたが看病や世話をしあける人

問 40 反対に、看病や世話をしあける人。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「配偶者」が他を大きく引き離して5割台で第1位を占める。

看病や世話をしあける人についてたずねたところ、「配偶者」(57.4%)が最も多く、次いで「別居の子ども」(24.4%)、「同居の子ども」(21.6%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(18.9%)、「友人」(8.9%)、「近隣」(3.7%)などとなっている。なお、「そのような人はいない」は14.4%となっている。

いずれの属性でも「配偶者」が第1位となっている。

図表 あなたが看病や世話をしあける人(複数回答/全体)

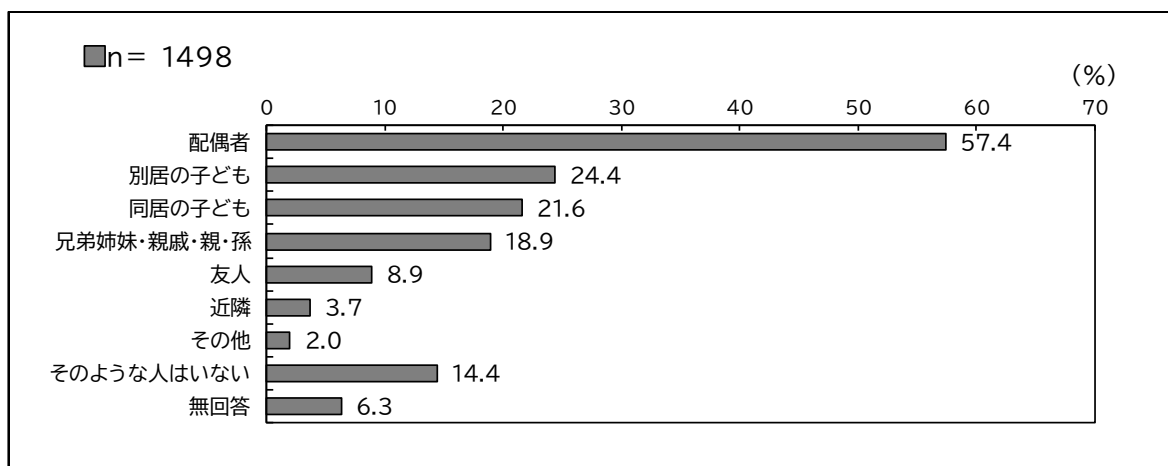


表 あなたが看病や世話をしあける人（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		配偶者 57.4	別居の子ども 24.4	同居の子ども 21.6
性別	男性	配偶者 67.4	別居の子ども 20.9	同居の子ども 17.7
	女性	配偶者 49.8	別居の子ども 27.1	同居の子ども 24.6
年齢	65～69歳	配偶者 69.9	別居の子ども 29.4	兄弟姉妹・親戚・親・孫 28.0
	70～74歳	配偶者 67.5	別居の子ども 26.7	兄弟姉妹・親戚・親・孫 23.9
	75～79歳	配偶者 59.9	同居の子ども 24.9	別居の子ども 24.6
	80～84歳	配偶者 45.5	別居の子ども 21.2	同居の子ども 17.0
	85歳以上	配偶者 34.5	別居の子ども 17.3	同居の子ども 16.5
居住地区	昭和地区	配偶者 59.4	同居の子ども 26.4	別居の子ども 24.9
	長浦地区	配偶者 58.0	別居の子ども 25.5	同居の子ども 19.3
	根形地区	配偶者 51.4	同居の子ども／別居の子ども 19.3	
	平岡地区	配偶者 62.1	別居の子ども 25.8	兄弟姉妹・親戚・親・孫 23.7
	中川・富岡地区	配偶者 51.1	同居の子ども 24.1	別居の子ども 23.4
要介護度	要支援1	配偶者 29.9	別居の子ども 17.5	同居の子ども 14.3
	要支援2	配偶者 29.5	同居の子ども 18.9	別居の子ども 16.7
	認定を受けていない	配偶者 65.3	別居の子ども 26.6	同居の子ども 23.4
	総合事業対象者	配偶者 51.3	別居の子ども 22.6	同居の子ども 17.4

(5) 家族や友人、知人以外の相談相手

問 41 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「医師・歯科医師・看護師」が2割台で第1位を占める。「そのような人はいない」は4割強を占める。

家族や友人、知人以外の相談相手についてたずねたところ、「医師・歯科医師・看護師」(25.5%)が最も多く、次いで「地域包括支援センター・市役所」(19.3%)、「ケアマネジャー」(8.1%)、「社会福祉協議会・民生委員児童委員」(5.9%)、「自治会・シニアクラブ」(4.0%)などとなっている。なお、「そのような人はいない」は41.7%となっている。

要介護度でみると、要支援1と総合事業者対象者では「地域包括支援センター・市役所」、要支援2では「ケアマネジャー」が第1位となっている。

図表 家族や友人、知人以外の相談相手（複数回答／全体）

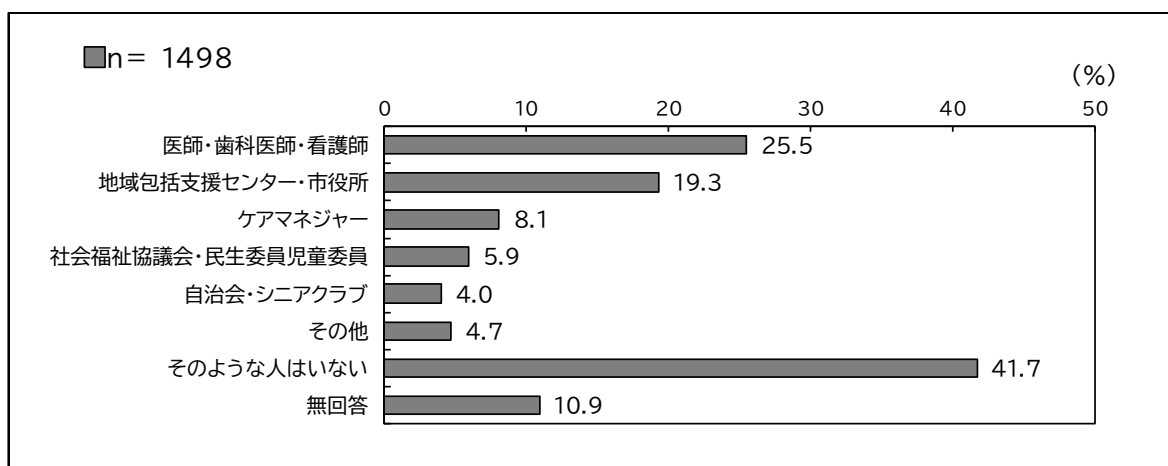


表 家族や友人、知人以外の相談相手（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		医師・歯科医師・看護師 25.5	地域包括支援センター・市役所 19.3	ケアマネジャー 8.1
性別	男性	医師・歯科医師・看護師 26.5	地域包括支援センター・市役所 15.5	自治会・シニアクラブ 5.9
	女性	医師・歯科医師・看護師 24.9	地域包括支援センター・市役所 22.3	ケアマネジャー 11.1
年齢	65～69歳	医師・歯科医師・看護師 27.7	地域包括支援センター・市役所 14.2	社会福祉協議会・民生委員 4.8
	70～74歳	医師・歯科医師・看護師 24.3	地域包括支援センター・市役所 16.1	ケアマネジャー 5.3
	75～79歳	医師・歯科医師・看護師 24.0	地域包括支援センター・市役所 24.0	ケアマネジャー 7.5
	80～84歳	医師・歯科医師・看護師 26.9	地域包括支援センター・市役所 24.6	ケアマネジャー 11.4
	85歳以上	医師・歯科医師・看護師 25.9	地域包括支援センター・市役所 20.9	ケアマネジャー 18.0
居住地区	昭和地区	医師・歯科医師・看護師 25.8	地域包括支援センター・市役所 19.7	ケアマネジャー 6.4
	長浦地区	医師・歯科医師・看護師 26.3	地域包括支援センター・市役所 20.4	ケアマネジャー 8.0
	根形地区	医師・歯科医師・看護師 24.3	地域包括支援センター・市役所 17.1	ケアマネジャー 11.0
	平岡地区	医師・歯科医師・看護師 22.6	地域包括支援センター・市役所 15.8	社会福祉協議会・民生委員 7.9
	中川・富岡地区	医師・歯科医師・看護師 27.7	地域包括支援センター・市役所 21.3	ケアマネジャー 16.3
要介護度	要支援1	地域包括支援センター・市役所 27.3	ケアマネジャー 26.0	医師・歯科医師・看護師 24.0
	要支援2	ケアマネジャー 34.8	地域包括支援センター・市役所 23.5	医師・歯科医師・看護師 22.7
	認定を受けていない	医師・歯科医師・看護師 26.7	地域包括支援センター・市役所 16.1	社会福祉協議会・民生委員 5.2
	総合事業対象者	地域包括支援センター・市役所 34.8	医師・歯科医師・看護師 20.0	社会福祉協議会・民生委員 10.4

(6) 友人・知人と会う頻度

問 42 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。(○は1つ)

● 「週に何度かある」「月に何度かある」が2割台を占める。

友人・知人に会う頻度を訪ねたところ、「週に何度かある」が26.1%、「月に何度かある」が25.3%、「ほとんどない」が20.3%、「年に何度かある」が19.0%、「毎日ある」が5.8%となっている。

年齢でみると、80歳以上で「ほとんどない」が2割台を占めている。

図表 友人・知人と会う頻度

		毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答	n
		(%)						
性別	全体	5.8	26.1	25.3	19.0	20.3	3.5	1498
	男性	7.8	21.4	21.7	20.8	24.3	4.0	645
	女性	4.4	29.7	28.1	17.6	17.2	3.1	848
年齢	65～69歳	7.6	22.8	26.6	24.2	15.6	3.1	289
	70～74歳	8.2	24.8	26.5	19.8	19.3	1.4	415
	75～79歳	3.9	30.5	26.3	17.1	18.9	3.3	334
	80～84歳	4.2	26.9	23.5	17.8	21.2	6.4	264
	85歳以上	8.6	28.1	21.6	12.2	28.1	6.5	139
		4.3	25.8	26.7	22.3	18.3	2.6	345
居住地区	昭和地区	6.8	23.9	25.2	17.1	23.4	3.6	636
	長浦地区	5.5	27.1	22.7	22.7	19.9	2.2	181
	根形地区	5.3	31.6	25.8	16.8	14.7	5.8	190
	平岡地区	6.4	28.4	25.5	17.0	19.1	3.5	141
	中川・富岡地区	1.3	27.3	18.2	11.7	33.1	8.4	154
要介護度	要支援1	1.3	25.8	16.7	20.5	30.3	3.8	132
	要支援2	6.0	26.0	27.5	19.4	17.4	2.9	1092
	認定を受けてない	6.1	26.1	24.3	22.6	19.1	1.7	115
	総合事業対象者							

(7) 1 か月間に何人の友人・知人に会ったか

問 43 この1 か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1 人と数えることにします。(○は1 つ)

● 「3 人～5 人」「1 人～2 人」が2 割台を占める。

1 か月間に何人の友人・知人に会ったかたずねたところ、「3 人～5 人」が26.6%、「1 人～2 人」が23.2%、「10 人以上」が19.2%、「0 人 (いない)」が15.7%、「6 人～9 人」が12.2%となっている。

要介護度でみると、要支援1 と要支援2 では「0 人 (いない)」が2 割台を占めており、他に比べ高くなっている。

図表 1 か月間に会った友人・知人の人数

		0人 (いない)	1人～2人	3人～5人	6人～9人	10人以上	無回答	n
全体		15.7	23.2	26.6	12.2	19.2	3.1	1498
性別	男性	19.2	22.3	24.5	11.0	18.9	4.0	645
	女性	13.0	23.7	28.2	13.2	19.6	2.4	848
年齢	65～69歳	14.2	20.4	28.0	10.7	23.5	3.1	289
	70～74歳	16.1	21.4	25.1	15.2	19.8	2.4	415
	75～79歳	14.7	24.3	25.7	14.1	19.5	1.8	334
	80～84歳	13.6	25.8	28.4	9.8	18.2	4.2	264
	85歳以上	18.0	25.9	27.3	7.9	15.1	5.8	139
居住地区	昭和地区	17.1	20.3	28.4	13.3	18.3	2.6	345
	長浦地区	17.6	24.2	24.8	10.5	19.0	3.8	636
	根形地区	14.9	23.8	24.9	13.3	21.5	1.7	181
	平岡地区	9.5	23.2	31.6	13.7	18.9	3.2	190
	中川・富岡地区	12.8	24.1	25.5	14.2	20.6	2.8	141
要介護度	要支援1	22.7	25.3	26.6	11.7	7.1	6.5	154
	要支援2	20.5	29.5	25.8	8.3	11.4	4.5	132
	認定を受けてない	14.7	21.4	26.3	13.1	22.2	2.4	1092
	総合事業対象者	10.4	28.7	30.4	9.6	17.4	3.5	115

(8) よく会う友人・知人の関係

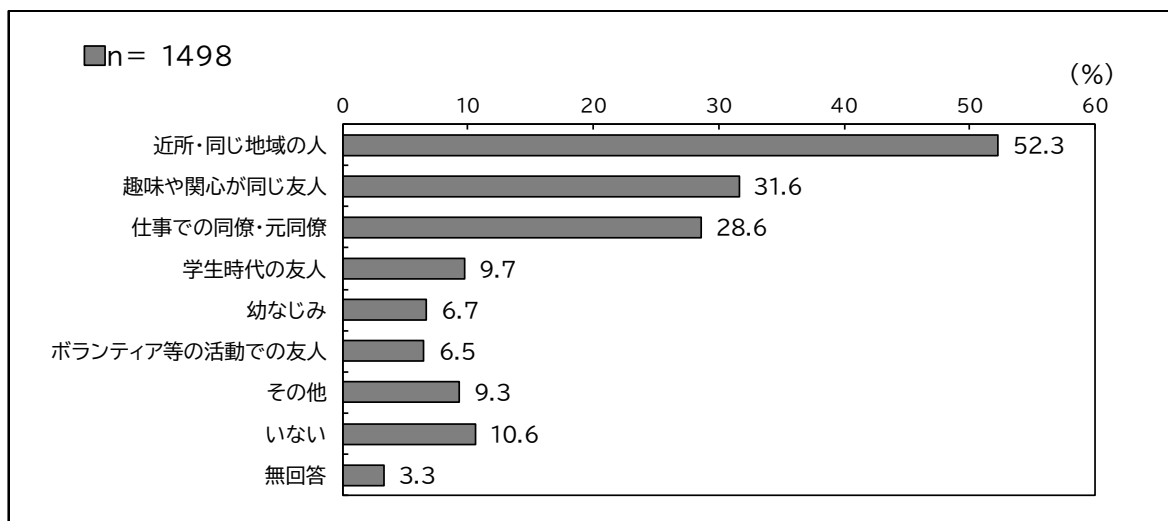
問 44 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】

- 「近所・同じ地域の人」が5割強で第1位を占める。「趣味や関心が同じ友人」、「仕事での同僚・元同僚」などが続く。

よく会う友人・知人の関係についてたずねたところ、「近所・同じ地域の人」(52.3%)が最も多く、次いで「趣味や関心が同じ友人」(31.6%)、「仕事での同僚・元同僚」(28.6%)、「学生時代の友人」(9.7%)、「幼なじみ」(6.7%)、「ボランティア等の活動での友人」(6.5%)となっている。なお、「いない」は10.6%となっている。

年齢でみると、65～69歳では「仕事での同僚・元同僚」が第1位となっている。

図表 よく会う友人・知人の関係（複数回答／全体）



図表 よく会う友人・知人の関係（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		近所・同じ地域の人 52.3	趣味や関心が同じ友人 31.6	仕事での同僚・元同僚 28.6
性別	男性	近所・同じ地域の人 44.2	仕事での同僚・元同僚 35.5	趣味や関心が同じ友人 28.5
	女性	近所・同じ地域の人 58.7	趣味や関心が同じ友人 34.0	仕事での同僚・元同僚 23.5
年齢	65～69歳	仕事での同僚・元同僚 48.1	近所・同じ地域の人 46.4	趣味や関心が同じ友人 28.7
	70～74歳	近所・同じ地域の人 49.2	仕事での同僚・元同僚 36.9	趣味や関心が同じ友人 32.5
	75～79歳	近所・同じ地域の人 57.5	趣味や関心が同じ友人 39.8	仕事での同僚・元同僚 21.3
	80～84歳	近所・同じ地域の人 58.3	趣味や関心が同じ友人 31.8	仕事での同僚・元同僚 19.3
	85歳以上	近所・同じ地域の人 54.0	趣味や関心が同じ友人 20.9	仕事での同僚・元同僚 8.6
居住地区	昭和地区	近所・同じ地域の人 47.5	趣味や関心が同じ友人 35.7	仕事での同僚・元同僚 30.7
	長浦地区	近所・同じ地域の人 49.1	趣味や関心が同じ友人 34.0	仕事での同僚・元同僚 27.8
	根形地区	近所・同じ地域の人 54.7	仕事での同僚・元同僚 28.7	趣味や関心が同じ友人 18.2
	平岡地区	近所・同じ地域の人 62.6	趣味や関心が同じ友人 29.5	仕事での同僚・元同僚 28.9
	中川・富岡地区	近所・同じ地域の人 63.1	趣味や関心が同じ友人 31.2	仕事での同僚・元同僚 27.0
要介護度	要支援1	近所・同じ地域の人 43.5	趣味や関心が同じ友人 24.7	仕事での同僚・元同僚 16.9z
	要支援2	近所・同じ地域の人 53.0	趣味や関心が同じ友人 15.2	仕事での同僚・元同僚 10.6
	認定を受けていない	近所・同じ地域の人 52.5	仕事での同僚・元同僚 34.3	趣味や関心が同じ友人 34.1
	総合事業対象者	近所・同じ地域の人 63.5	趣味や関心が同じ友人 36.5	仕事での同僚・元同僚 11.3

(9) 普段の生活で困りごとがあるか

問 45 普段の生活で困りごとはありますか。(○は1つ)

- 「いいえ」が7割弱、「はい」が1割台を占める。

普段の生活で困りごとがあるかたずねたところ、「いいえ」が68.6%、「はい」が15.1%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「はい」が1割未満となっているのに対し、要支援2では4割強となっている。

図表 普段の生活で困りごとがあるか

		はい	いいえ	無回答	n
(%)					
性別	全体	15.1	68.6	16.3	1498
	男性	11.9	73.8	14.3	645
	女性	17.6	64.5	17.9	848
年齢	65～69歳	5.2	86.5	8.3	289
	70～74歳	9.4	77.3	13.3	415
	75～79歳	13.8	67.4	18.9	334
	80～84歳	26.1	56.1	17.8	264
	85歳以上	26.6	41.0	32.4	139
居住地区	昭和地区	10.7	72.8	16.5	345
	長浦地区	16.4	68.6	15.1	636
	根形地区	16.6	63.5	19.9	181
	平岡地区	12.1	71.6	16.3	190
	中川・富岡地区	22.7	60.3	17.0	141
要介護度	要支援1	38.3	31.8	29.9	154
	要支援2	40.9	31.1	28.0	132
	認定を受けてない	7.9	79.2	12.9	1092
	総合事業対象者	23.5	59.1	17.4	115

(10) 困りごとの内容

※問 45 で「1. はい」を選んだ方のみお答えください。

問 45-1 「はい」の場合どのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「庭の手入れ(草取り等)」が5割台で第1位を占める。「通院」、「電球の交換」、「日用品の買い物」などが続く。

問 45 で「1. はい」を選んだ方に、困りごとはどのようなことかたずねたところ、「庭の手入れ(草取り等)」(54.4%) が最も多く、次いで「通院」(45.6%)、「電球の交換」(38.5%)、「日用品の買い物」(32.3%)、「身の回りの掃除」(26.1%)、「ゴミ出し」(25.7%)、「毎日の食事作り」(19.5%)、「洗濯・洗濯物干し」(17.3%)となっている。

年齢でみると、85 歳以上では「通院」が第1位となっている。

居住地区でみると、平岡地区では「通院」が第1位となっている。

図表 困りごとの内容(複数回答/全体)

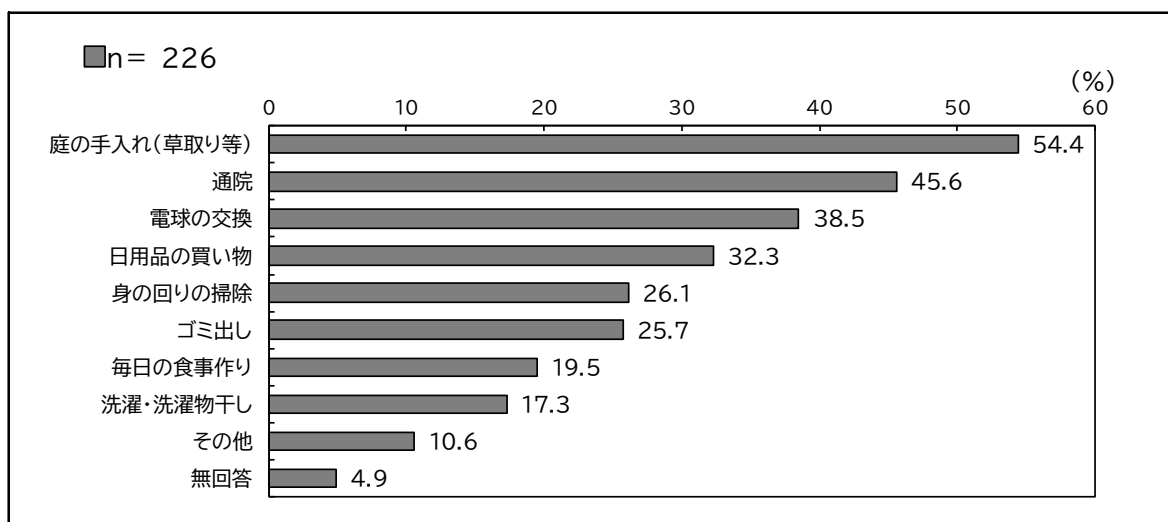


表 困りごとの内容（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		庭の手入れ（草取り等） 54.4	通院 45.6	電球の交換 38.5
性別	男性	庭の手入れ（草取り等） 54.5	通院 36.4	身の回りの掃除 33.8
	女性	庭の手入れ（草取り等） 54.4	通院 50.3	電球の交換 45.0
年齢	65～69 歳	庭の手入れ（草取り等） 46.7	通院 33.3	日用品の買い物／ ゴミ出し 26.7
	70～74 歳	庭の手入れ（草取り等） 56.4	電球の交換 38.5	通院 35.9
	75～79 歳	庭の手入れ（草取り等） 52.2	電球の交換 50.0	日用品の買い物 39.1
	80～84 歳	庭の手入れ（草取り等） 60.9	通院 49.3	日用品の買い物 37.7
	85 歳以上	通院 51.4	庭の手入れ（草取り等） 48.6	電球の交換 43.2
居住地区	昭和地区	庭の手入れ（草取り等） 62.2	通院 40.5	電球の交換 35.1
	長浦地区	庭の手入れ（草取り等） 51.9	通院 40.4	電球の交換 36.5
	根形地区	庭の手入れ（草取り等） 60.0	通院 46.7	電球の交換 36.7
	平岡地区	通院 51.6	毎日の食事作り 39.1	日用品の買い物／ 庭の手入れ（草取り等） 34.8
	中川・富岡地区	庭の手入れ（草取り等） 62.5	電球の交換 59.4	通院 50.0
要介護度	要支援1	庭の手入れ（草取り等） 50.8	通院 47.5	日用品の買い物 40.7
	要支援2	庭の手入れ（草取り等） 61.1	電球の交換 51.9	通院 50.0
	認定を受けていない	庭の手入れ（草取り等） 52.3	通院 43.0	電球の交換 27.9
	総合事業対象者	庭の手入れ（草取り等） 55.6	電球の交換 44.4	通院 40.7

(11) 支援をお願いしたい人

※問 45 で「1. はい」を選んだ方のみお答えください。

問 45-2 誰に支援をお願いしたいですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「別居の子ども」が3割台で第1位を占める。「民間のサービス事業者」、「同居の子ども」、「配偶者」などが続く。

問 45 で「1. はい」を選んだ方に、支援をお願いしたい人は誰かたずねたところ、「別居の子ども」(33.2%)が最も多く、次いで「民間のサービス事業者」(28.8%)、「同居の子ども」(26.5%)、「配偶者」(25.7%)、「ボランティア」(15.5%)、「近隣住人」(9.3%)、「友人」(8.8%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(7.1%)となっている。なお、「誰からも支援は受けたくない」は3.5%となっている。

性別でみると、男性では「配偶者」が第1位となっているのに対し、女性では「別居の子ども」が第1位となっている。

年齢でみると、65～69歳、75～79歳では「民間のサービス事業者」、70～74歳では「配偶者」、80～84歳では「別居の子ども」第1位となっており、85歳以上では「同居の子ども」と「別居の子ども」が同率1位となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「配偶者」が第1位となっている。

図表 支援をお願いしたい人（複数回答／全体）

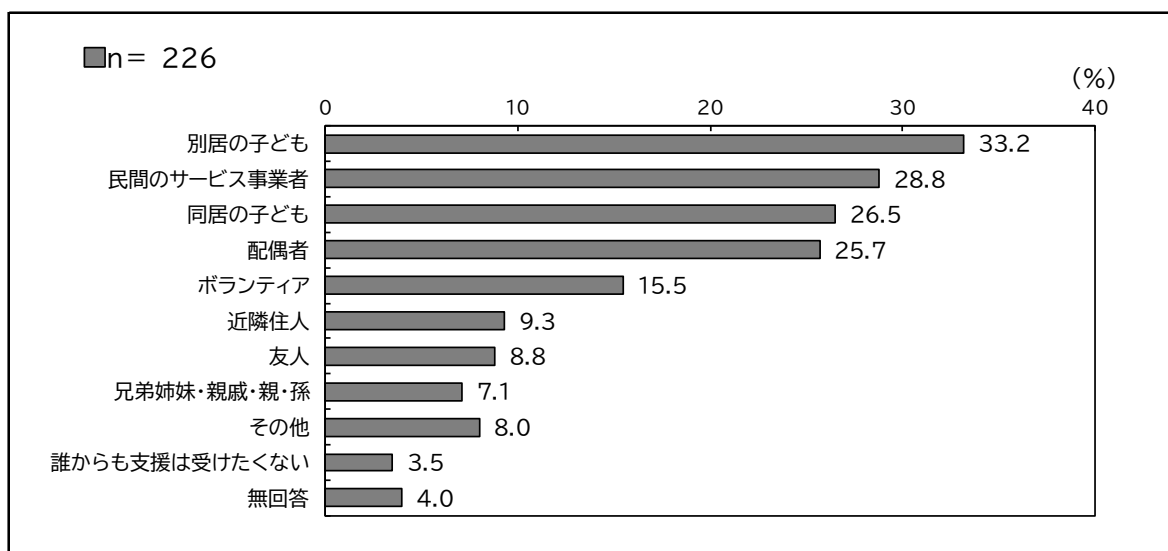


表 支援をお願いしたい人（全体・属性別－上位３位）

（単位：％）

		第 1 位	第 2 位	第 3 位
全体		別居の子ども 33.2	民間のサービス事業者 28.8	同居の子ども 26.5
性別	男性	配偶者 37.7	同居の子ども／別居の子ども 29.9	
	女性	別居の子ども 34.9	民間のサービス事業者 31.5	同居の子ども 24.8
年齢	65～69 歳	民間のサービス事業者 60.0	ボランティア 40.0	配偶者 33.3
	70～74 歳	配偶者 43.6	同居の子ども／民間のサービス事業者 25.6	
	75～79 歳	民間のサービス事業者 37.0	別居の子ども 32.6	配偶者 28.3
	80～84 歳	別居の子ども 37.7	民間のサービス事業者 27.5	配偶者 23.2
	85 歳以上	同居の子ども／別居の子ども 43.2		配偶者 18.9
居住地区	昭和地区	別居の子ども 43.2	民間のサービス事業者 27.0	配偶者 24.3
	長浦地区	民間のサービス事業者 34.6	配偶者／別居の子ども 29.8	
	根形地区	別居の子ども／同居の子ども／ボランティア 26.7		
	平岡地区	配偶者／別居の子ども 30.4		ボランティア／ 民間のサービス事業者 21.7
	中川・富岡地区	別居の子ども 40.6	同居の子ども 31.3	民間のサービス事業者 28.1
要介護度	要支援 1	別居の子ども 37.3	同居の子ども 28.8	民間のサービス事業者 25.4
	要支援 2	別居の子ども 40.7	民間のサービス事業者 33.3	同居の子ども 31.5
	認定を受けていない	配偶者 30.2	民間のサービス事業者 29.1	同居の子ども 25.6
	総合事業対象者	別居の子ども 44.4	ボランティア／民間のサービス事業者 25.9	

7 健康について

(1) 現在の健康状態

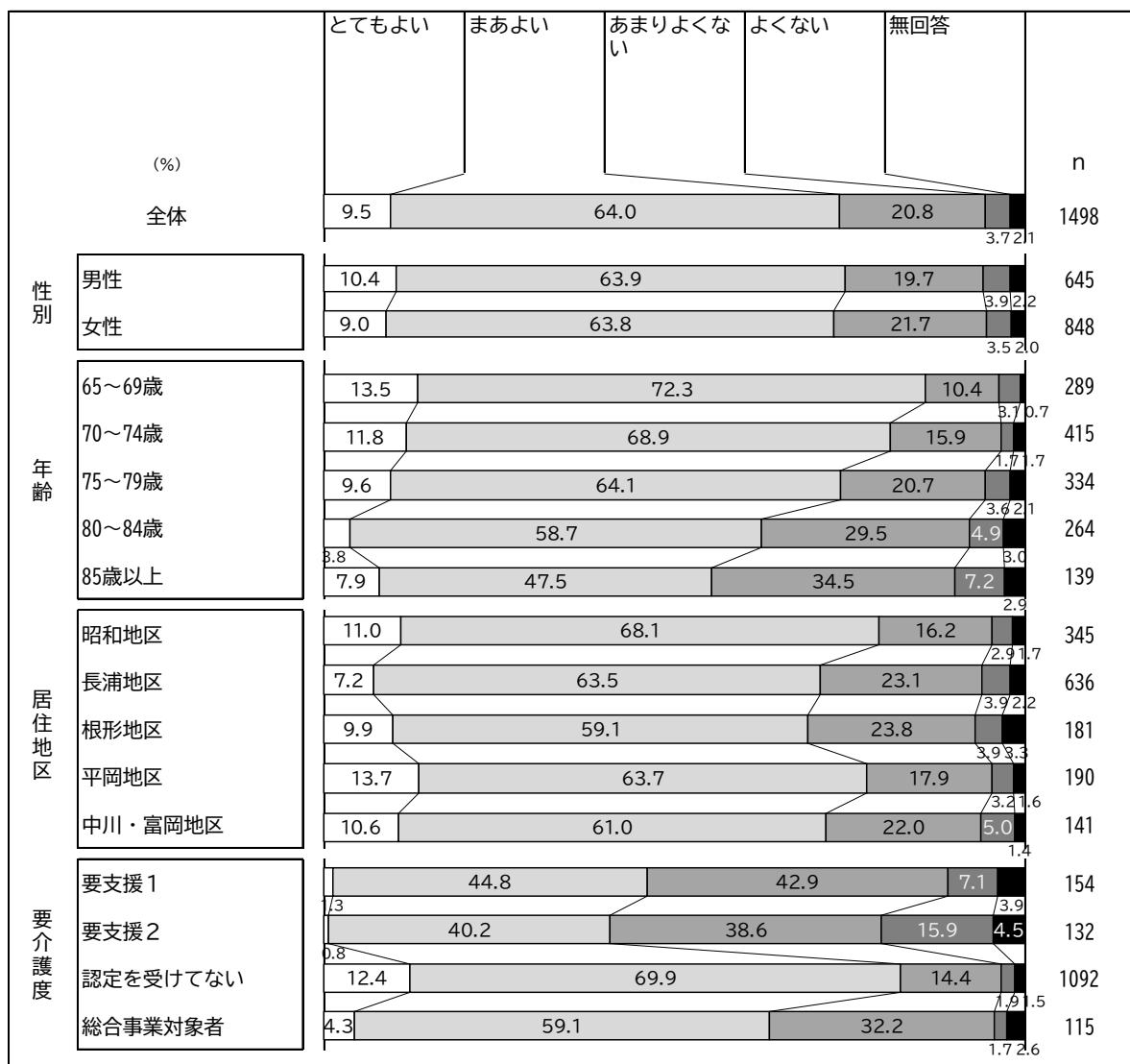
問 46 現在のあなたの健康状態はいかがですか。(○は1つ)

- “よい” が7割台、“よくない” が2割台を占める。

現在の健康状態については、「とてもよい」(9.5%)と「まあよい」(64.0%)を合わせた“よい”が73.5%、「あまりよくない」(20.8%)と「よくない」(3.7%)を合わせた“よくない”が24.5%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて“よい”の割合が低くなり、“よくない”の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 現在の健康状態



(2) 現在の幸せの程度

問 47 あなたは現在どの程度幸せですか。(○は1つ)

※「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください。

- 「5～7点」が4割台、「8～10点」が4割強を占める。

現在の幸せの程度については、「5～7点」が45.7%、「8～10点」が42.3%、「0～4点」が7.5%となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「0～4点」が1割に満たないのに対し、その他ではいずれも1割以上となっている。

図表 現在の幸せの程度

		0～4点	5～7点	8～10点	無回答	n
(%)						
全体		7.5	45.7	42.3	4.5	1498
性別	男性	9.5	48.8	37.5	4.2	645
	女性	6.1	43.3	45.8	4.8	848
年齢	65～69歳	7.3	41.2	49.8	1.7	289
	70～74歳	6.3	44.1	45.5	4.1	415
	75～79歳	7.5	48.2	40.4	3.9	334
	80～84歳	8.3	45.8	38.6	7.2	264
	85歳以上	10.1	52.5	30.9	6.5	139
居住地区	昭和地区	7.0	44.3	45.5	3.2	345
	長浦地区	8.0	43.6	43.1	5.3	636
	根形地区	9.9	51.9	33.1	5.0	181
	平岡地区	5.3	45.8	43.7	5.3	190
	中川・富岡地区	7.1	50.4	39.7	2.8	141
要介護度	要支援1	15.6	48.1	25.3	11.0	154
	要支援2	14.4	47.7	26.5	11.4	132
	認定を受けてない	5.0	44.6	47.5	2.8	1092
	総合事業対象者	13.0	50.4	32.2	4.3	115

(3) 気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか

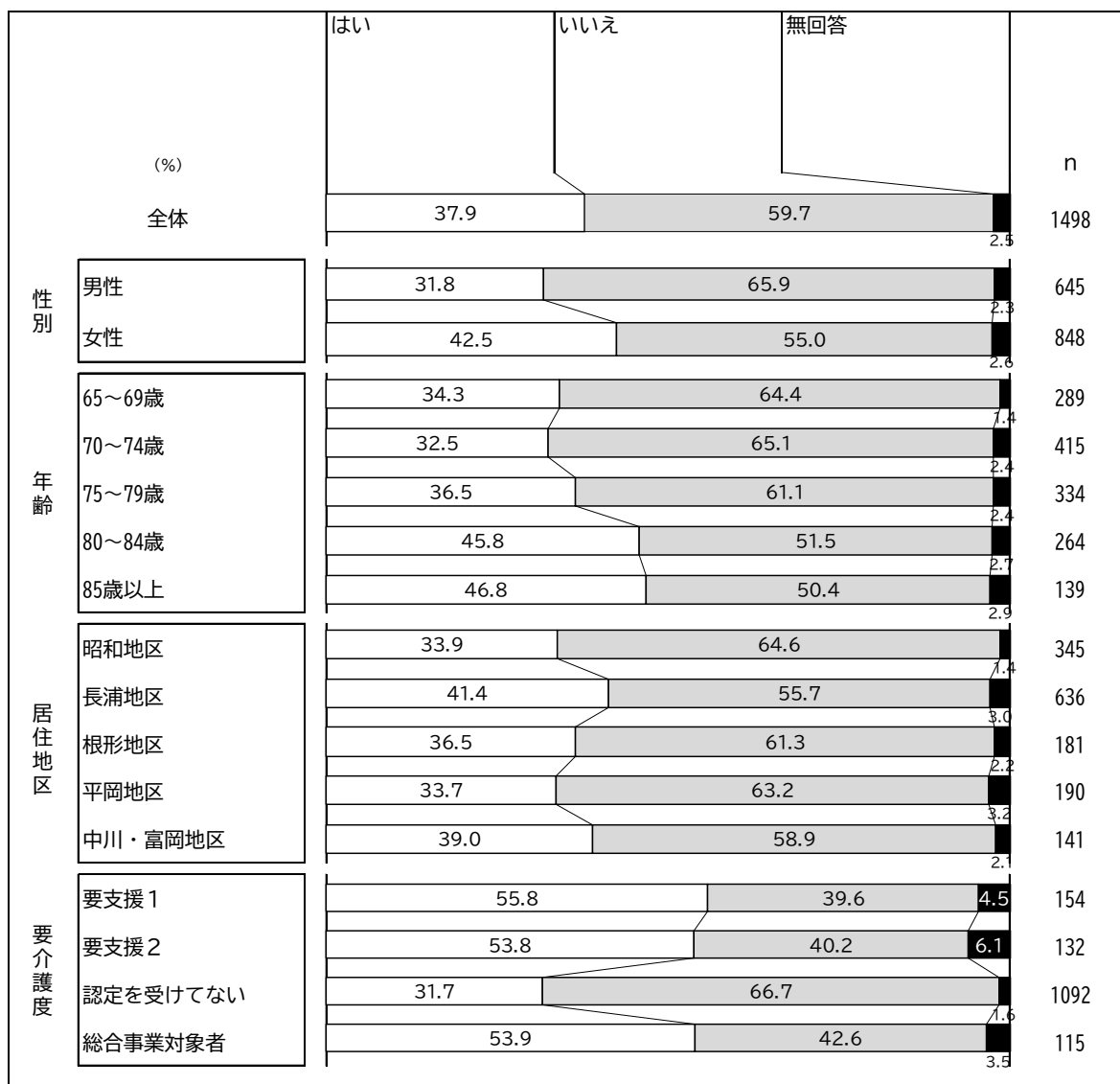
問 48 この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。(○は1つ)

- 「いいえ」が6割弱、「はい」が4割弱を占める。

気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったかたずねたところ、「いいえ」が59.7%、「はい」が37.9%となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「いいえ」が6割台を占めており、他よりも高くなっている。

図表 気分が沈んだりゆううつな気持ちになったりすることがあったか



(4) 物事に対して興味がわからない、心から楽しめないことがあったか

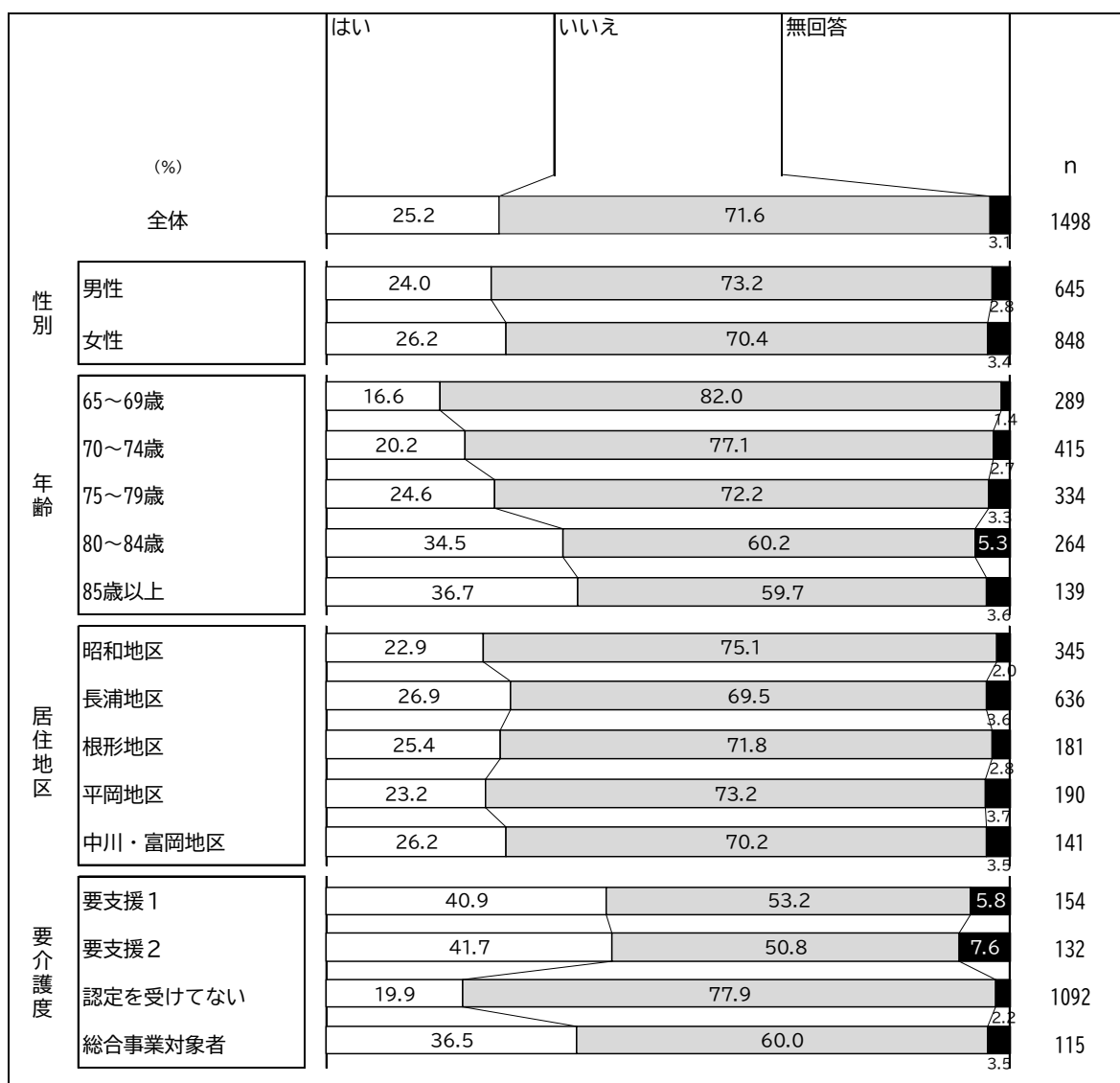
問 49 この1か月間、どうしても物事に対して興味がわからない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。(○は1つ)

● 「いいえ」が7割強、「はい」が2割台を占める。

物事に対して興味がわからない、心から楽しめないことがあったかたずねたところ、「いいえ」が71.6%、「はい」が25.2%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「はい」の割合が高くなる傾向がうかがえる。

図表 物事に対して興味がわからない、心から楽しめないことがあったか



(5) タバコを吸っているか

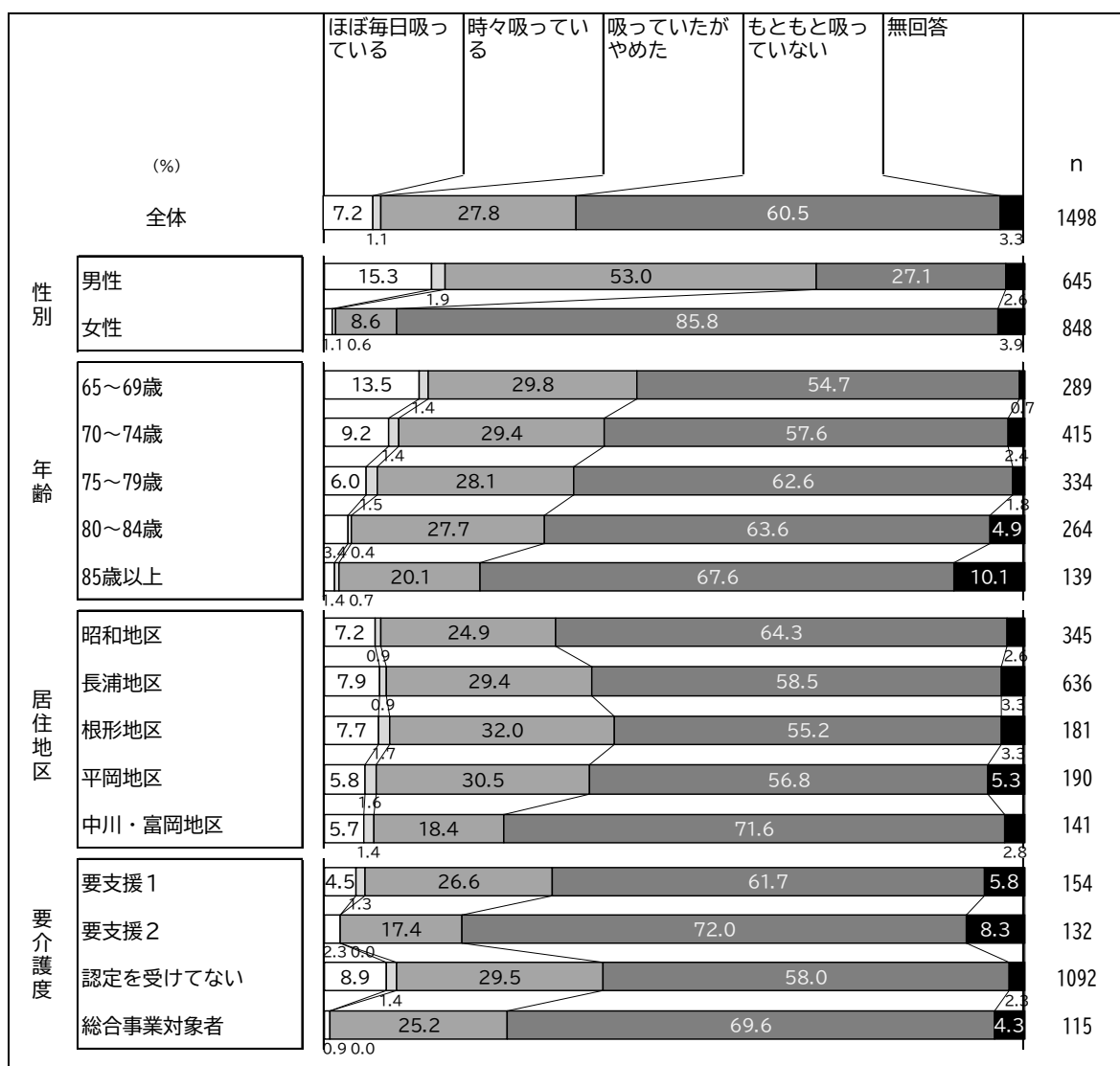
問 50 タバコは吸っていますか。(○は1つ)

- 「もともと吸っていない」が6割強、「吸っていたがやめた」が3割弱を占める。

タバコを吸っているかたずねたところ、「もともと吸っていない」が60.5%、「吸っていたがやめた」が27.8%、「ほぼ毎日吸っている」が7.2%、「時々吸っている」が1.1%となっている。

性別でみると、男性では「吸っていたがやめた」が5割台で最も高い割合を占めるのに対し、女性では「もともと吸っていない」が8割台を占めている。

図表 タバコを吸っているか



(6) 現在治療中または後遺症のある病気

問 51 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】

- 「高血圧」が4割台で第1位を占める。「目の病気」、「高脂血症」、「筋骨格の病気」などが続く。

現在治療中または後遺症のある病気については、「高血圧」(45.2%)が最も多く、次いで「目の病気」(22.0%)、「高脂血症」(17.1%)、「筋骨格の病気」(15.4%)、「糖尿病」(14.2%)、「心臓病」(9.4%)、「腎臓・前立腺の病気」(8.5%)、「耳の病気」(7.3%)、「胃腸・肝臓・胆のうの病気」(7.0%)、「呼吸器の病気」・「がん」(同率4.9%)、「外傷」(4.3%)、「脳卒中」(3.5%)などとなっている。なお、「ない」は12.0%となっている。

いずれの属性でも「高血圧」が第1位となっている。

図表 現在治療中または後遺症のある病気（複数回答／全体）

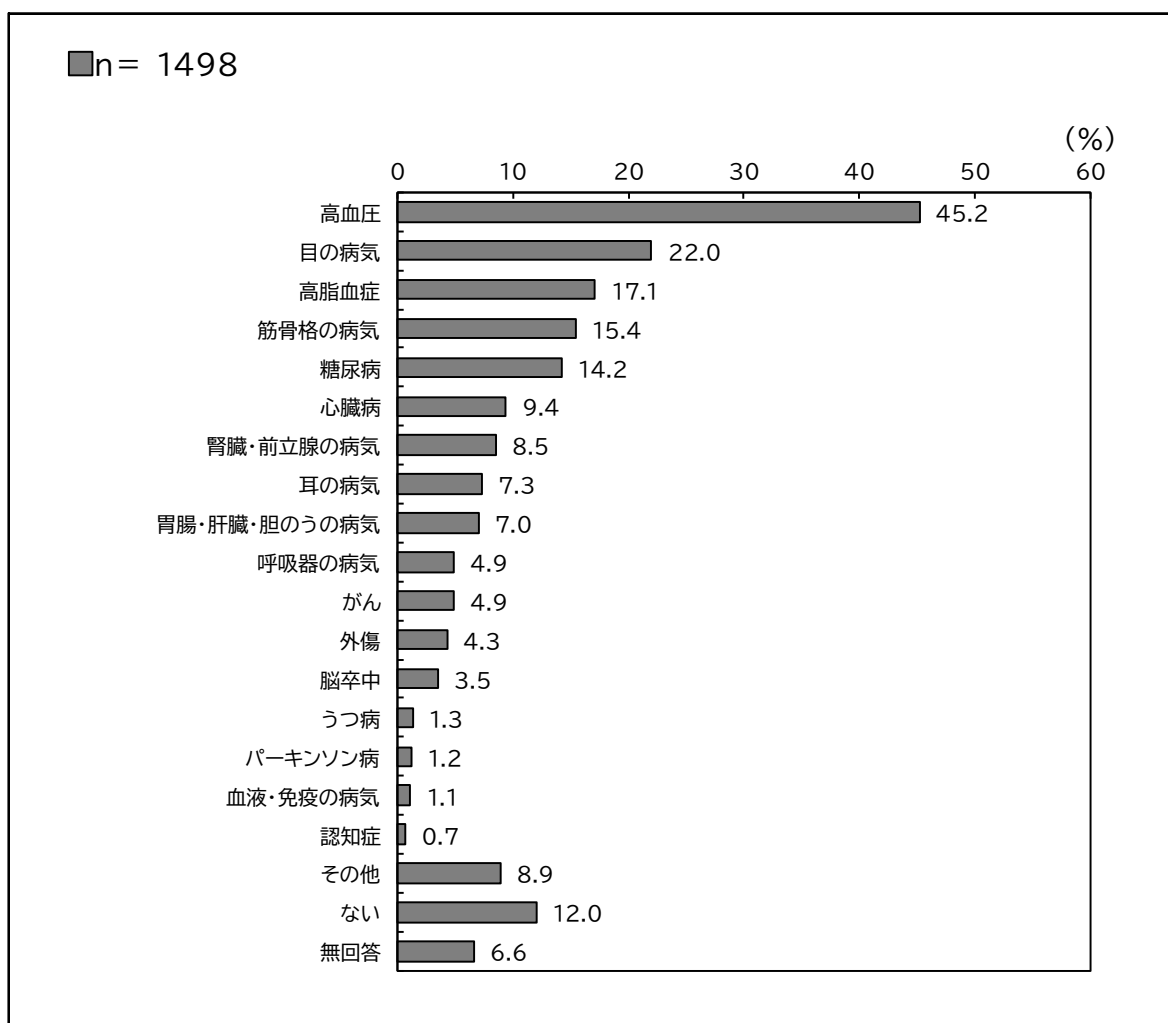


表 現在治療中または後遺症のある病気（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		高血圧 45.2	目の病気 22.0	高脂血症 17.1
性別	男性	高血圧 47.0	糖尿病 18.1	目の病気 18.0
	女性	高血圧 43.9	目の病気 25.1	筋骨格の病気 22.2
年齢	65～69 歳	高血圧 38.1	高脂血症 17.0	糖尿病 12.8
	70～74 歳	高血圧 41.5	目の病気 20.5	高脂血症 19.8
	75～79 歳	高血圧 42.8	目の病気 22.5	高脂血症 20.4
	80～84 歳	高血圧 49.2	目の病気 30.7	筋骨格の病気 21.2
	85 歳以上	高血圧 52.5	目の病気 28.8	筋骨格の病気 16.5
居住地区	昭和地区	高血圧 44.1	目の病気 24.6	高脂血症 19.4
	長浦地区	高血圧 45.6	目の病気 22.2	筋骨格の病気 17.0
	根形地区	高血圧 44.8	目の病気 20.4	筋骨格の病気 16.6
	平岡地区	高血圧 44.2	目の病気 20.0	糖尿病／高脂血症 17.9
	中川・富岡地区	高血圧 48.2	目の病気 19.9	高脂血症 15.6
要介護度	要支援 1	高血圧 48.1	目の病気 29.2	筋骨格の病気 20.1
	要支援 2	高血圧 49.2	目の病気 31.1	筋骨格の病気 28.0
	認定を受けていない	高血圧 44.3	目の病気 19.5	高脂血症 17.4
	総合事業対象者	高血圧 45.2	筋骨格の病気 28.7	目の病気 26.1

(7) かかりつけの医師はいるか

問 52 かかりつけの医師はいますか。(○は1つ)

- 「市内にいる」が6割台、「市外にいる」が1割台を占める。「いない」は1割強を占める。

かかりつけの医師はいるかたずねたところ、「市内にいる」が66.1%、「市外にいる」が17.5%、「いない」が10.9%となっている。

年齢でみると、65～69歳では「いない」が2割台を占めている。

居住地区でみると、中川・富岡地区では「いない」が1割未満となっている。

図表 かかりつけの医師はいるか

		市内にいる	市外にいる	いない	無回答	n
(%)						
全体		66.1	17.5	10.9	5.5	1498
性別	男性	62.5	20.2	13.0	4.3	645
	女性	69.0	15.4	9.1	6.5	848
年齢	65～69歳	56.1	17.3	23.2	3.5	289
	70～74歳	64.1	17.3	12.8	5.8	415
	75～79歳	65.9	21.6	8.4	4.2	334
	80～84歳	72.0	17.4	7.6	3.0	264
	85歳以上	74.1	12.9	9.4	3.6	139
居住地区	昭和地区	72.2	13.0	10.4	4.3	345
	長浦地区	68.6	14.2	11.2	6.1	636
	根形地区	63.5	16.0	13.3	7.2	181
	平岡地区	55.8	26.3	12.6	5.3	190
	中川・富岡地区	58.2	33.3	4.3	4.3	141
要介護度	要支援1	71.4	17.5	1.9	9.1	154
	要支援2	72.0	20.5	0.8	6.8	132
	認定を受けてない	64.4	17.3	13.6	4.8	1092
	総合事業対象者	69.6	15.7	7.8	7.0	115

(8) かかりつけの医師に相談、指導を受けているか

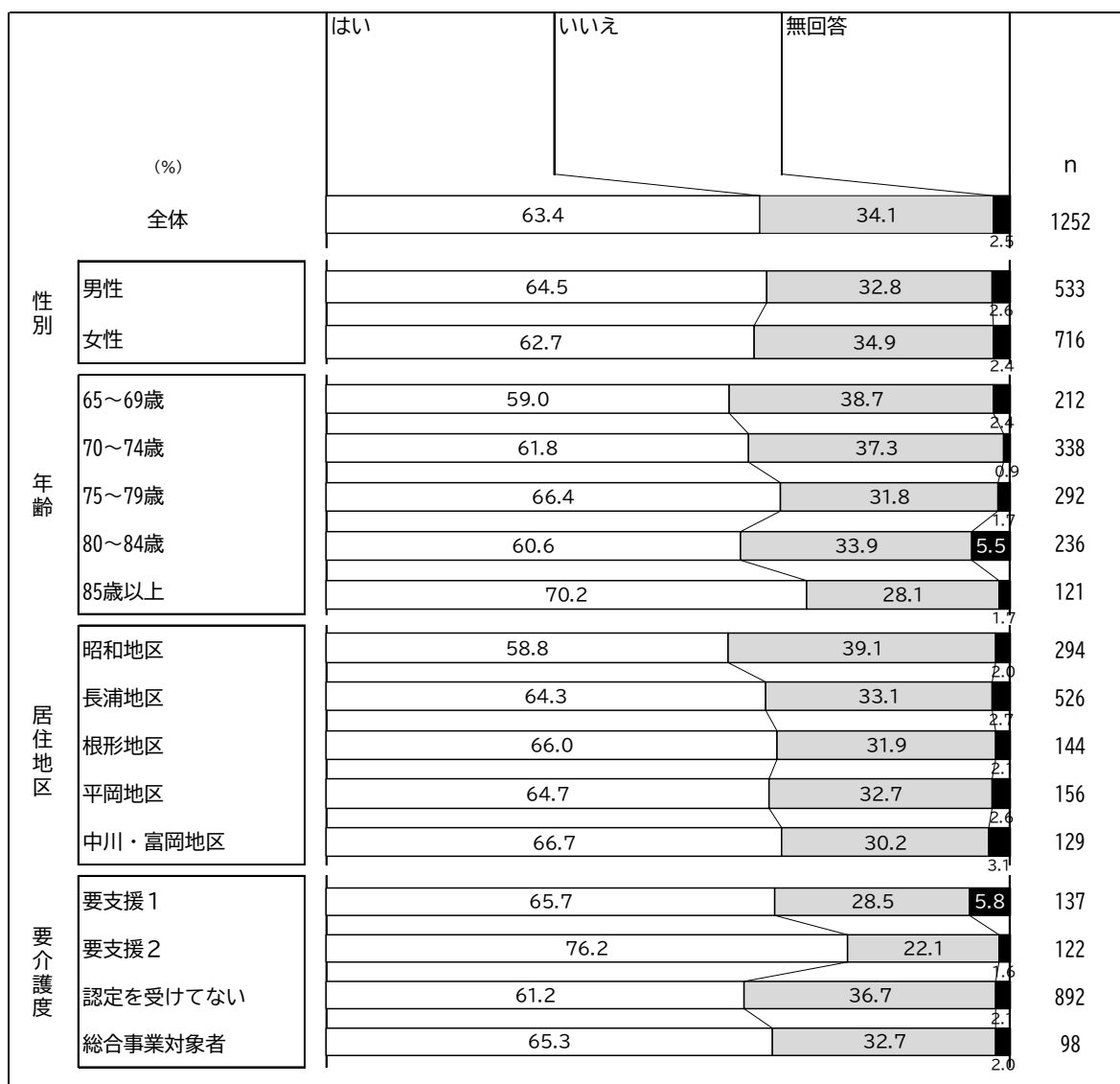
※問 52 で「1. 市内にいる」、「2. 市外にいる」に○をつけた方のみお答えください。
問 52-1 かかりつけの医師に、からだの様子・在宅での療養について相談し、指導を受けていますか。(○は1つ)

● 「はい」が6割台、「いいえ」が3割台を占める。

問 52 で「1. 市内にいる」、「2. 市外にいる」を選んだ方に、かかりつけの医師に相談、指導を受けているかたずねたところ、「はい」が 63.4%、「いいえ」が 34.1%となっている。

年齢でみると、85 歳以上は「はい」が7割強を占めている。

図表 かかりつけの医師に相談、指導を受けているか



(9) かかりつけの歯科医はいるか

問 53 かかりつけの歯科医はいますか。(○は1つ)

- 「市内にいる」が6割台、「いない」が1割台を占める。

かかりつけの歯科医はいるかたずねたところ、「市内にいる」が63.5%、「いない」が16.4%、「市外にいる」が14.0%となっている。

年齢でみると、85歳以上では「いない」が2割強を占めており、他の年齢に比べて高くなっている。

居住地区でみると、平岡地区と中川・富岡地区では「市外にいる」の割合が他の地区に比べて高くなっている。

図表 かかりつけの歯科医はいるか

		市内にいる	市外にいる	いない	無回答	n
(%)						
全体		63.5	14.0	16.4	6.2	1498
性別	男性	60.0		15.0	18.4	645
	女性	66.2		13.1	14.7	848
年齢	65～69歳	56.4		20.8	19.0	289
	70～74歳	64.6		15.2	14.9	415
	75～79歳	68.0		11.1	13.8	334
	80～84歳	65.5		10.2	16.7	264
	85歳以上	60.4		10.8	20.1	139
居住地区	昭和地区	70.7		10.7	13.3	345
	長浦地区	65.3		10.5	17.3	636
	根形地区	65.2		7.7	19.3	181
	平岡地区	53.2		23.7	18.9	190
	中川・富岡地区	49.6		31.9	12.1	141
要介護度	要支援1	58.4		13.6	17.5	154
	要支援2	60.6		10.6	20.5	132
	認定を受けてない	63.9		14.5	16.3	1092
	総合事業対象者	69.6		13.0	10.4	115

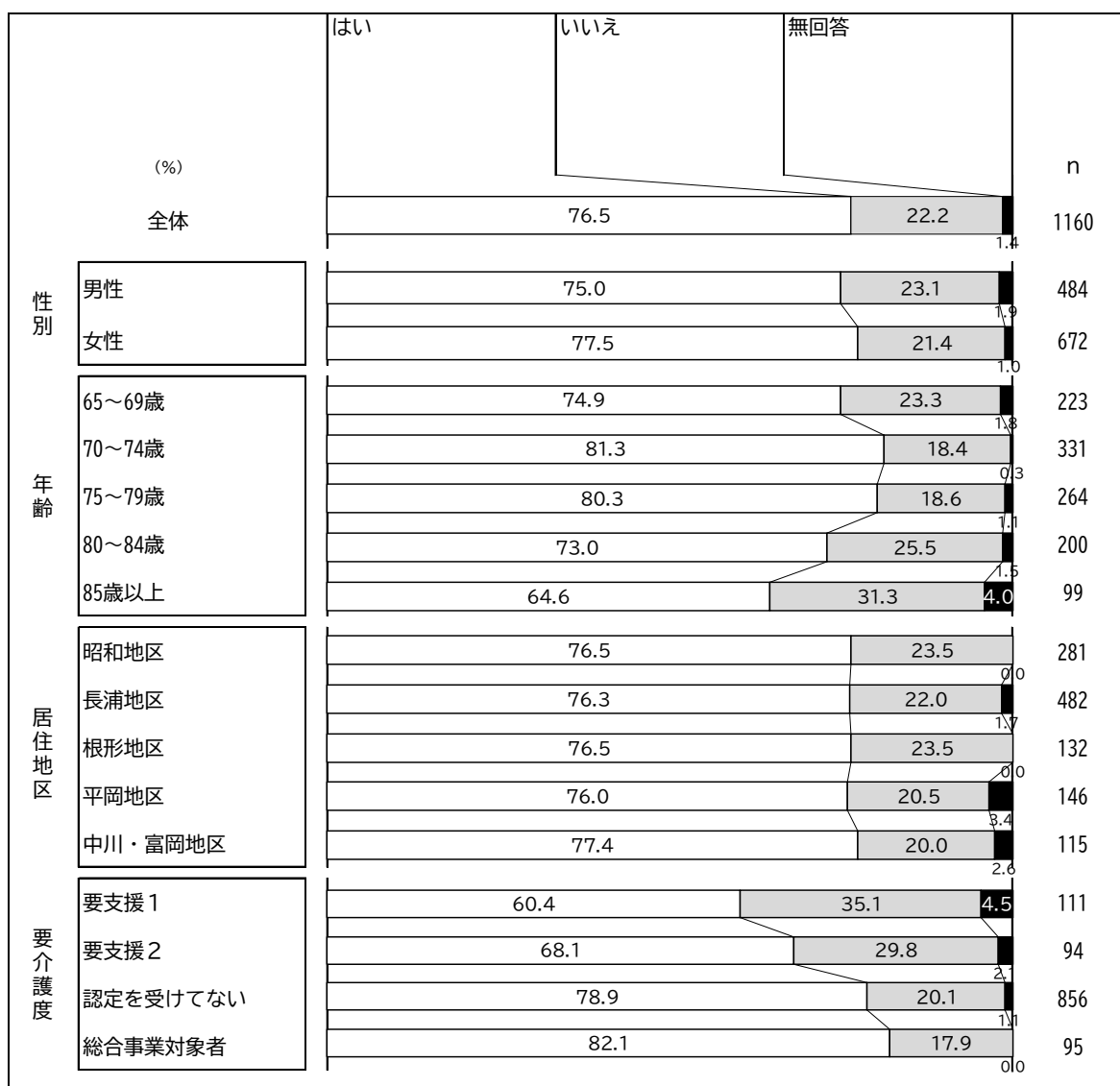
(10) かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか

※問 53 で「1. 市内にいる」、「2. 市外にいる」に○をつけた方のみお答えください。
問 53-1 かかりつけの歯科医に、歯やお口の相談をし、指導を受けていますか。(○は1つ)

● 「はい」が7割台、「いいえ」が2割強を占める。

問 53 で「1. 市内にいる」、「2. 市外にいる」を選んだ方に、かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているかたずねたところ、「はい」が76.5%、「いいえ」が22.2%となっている。

図表 かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか



(11) 相談できる薬剤師（薬局）はいるか

問 54 処方薬や市販薬について、相談できる薬剤師（薬局）がいますか。（○は1つ）

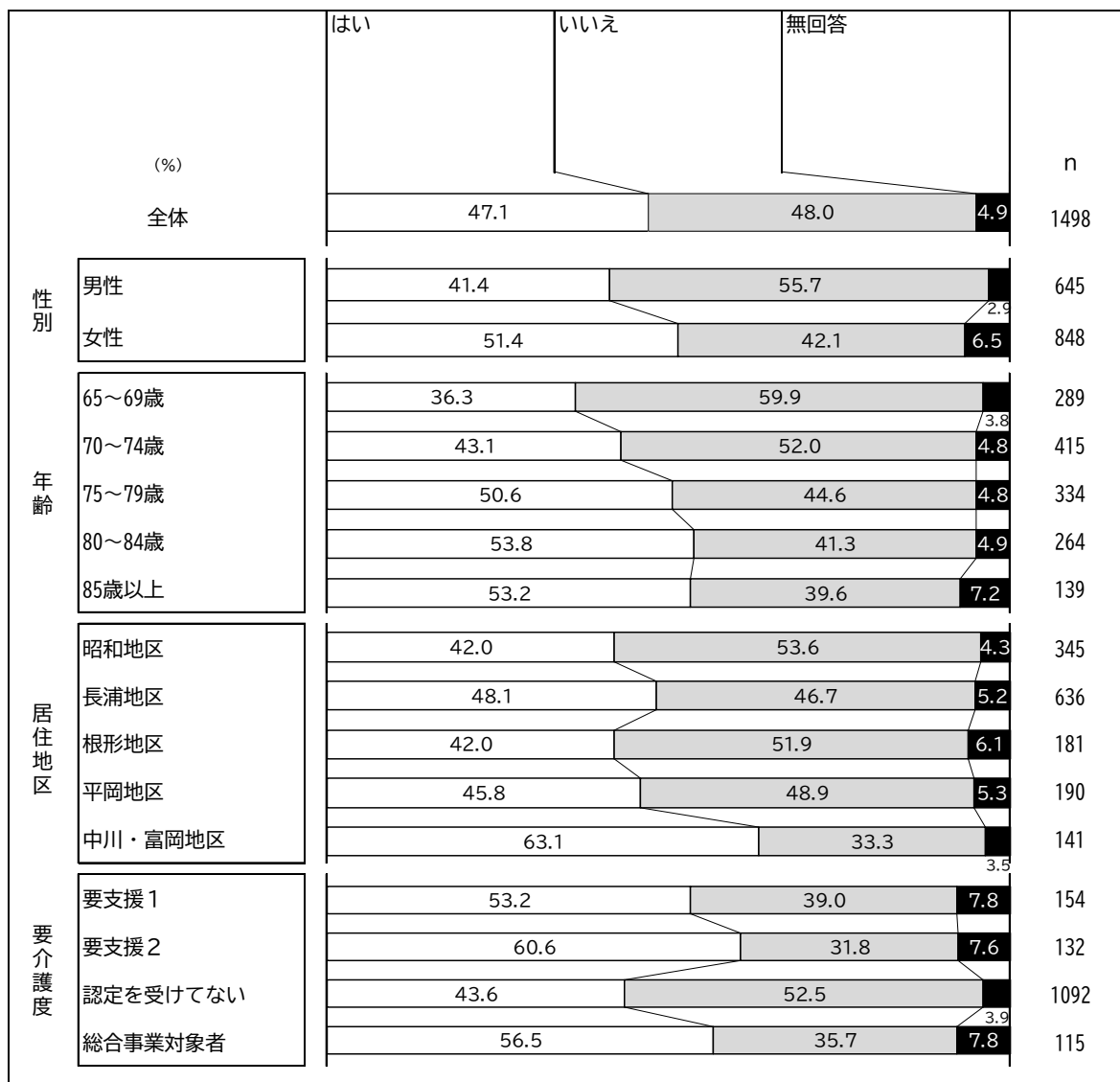
- 「はい」が4割台、「いいえ」が5割弱を占める。

相談できる薬剤師（薬局）はいるかたずねたところ、「いいえ」が48.0%、「はい」が47.1%となっている。

性別でみると、男性では「はい」が4割強となっているのに対し、女性では5割強を占めている。

要介護度でみると、要支援2では「はい」が6割強を占めている。

図表 相談できる薬剤師（薬局）はいるか



8 在宅の福祉施策

(1) 市が実施する生活支援サービスの認知度と利用意向

問 55 市で実施している生活支援サービスを知っていますか。また、利用したいですか。
(それぞれに○は1つ)

- 高齢者タクシー料金助成事業が3割台、紙おむつ等の支給が3割弱を「知っている」が占め、比較的認知度が高い。

①はり・きゅう・マッサージ施術費助成

はり・きゅう・マッサージ施術費助成の認知度については、「知らない」が60.7%、「知っている」が28.0%となっている。

要介護度でみると、総合事業対象者では「知っている」の割合が4割を超え、その他よりも高くなっている。

図表 認知度（はり・きゅう・マッサージ施術費助成）

		知っている	知らない	無回答	n
全体		28.0	60.7	11.2	1498
性別	男性	20.2	71.5	8.4	645
	女性	34.0	52.6	13.4	848
年齢	65～69歳	17.0	80.3	2.8	289
	70～74歳	25.3	65.5	9.2	415
	75～79歳	32.6	57.2	10.2	334
	80～84歳	33.7	51.1	15.2	264
	85歳以上	35.3	43.2	21.6	139
居住地区	昭和地区	27.2	64.1	8.7	345
	長浦地区	26.3	61.6	12.1	636
	根形地区	26.0	63.5	10.5	181
	平岡地区	34.2	55.3	10.5	190
	中川・富岡地区	31.9	52.5	15.6	141
要介護度	要支援1	38.3	42.9	18.8	154
	要支援2	31.8	48.5	19.7	132
	認定を受けてない	24.5	66.5	9.1	1092
	総合事業対象者	43.5	44.3	12.2	115

はり・きゅう・マッサージ施術費助成の利用意向については、「利用の予定はない」が32.6%、「利用したい」が17.4%となっている。なお、「わからない」は31.1%となっている。

図表 利用意向（はり・きゅう・マッサージ施術費助成）

		(%)	利用したい（利用し続けたい）	利用の予定はない	わからない	無回答	n
性別	全体		17.4	32.6	31.1	18.9	1498
	男性		16.0	36.7	31.5	15.8	645
	女性		18.6	29.2	30.8	21.3	848
年齢	65～69歳		18.3	39.8	33.6	8.3	289
	70～74歳		16.1	37.1	31.3	15.4	415
	75～79歳		20.1	29.0	31.7	19.2	334
	80～84歳		17.0	25.8	31.4	25.8	264
	85歳以上		14.4	25.2	25.9	34.5	139
居住地区	昭和地区		13.9	38.3	33.6	14.2	345
	長浦地区		17.5	31.9	31.0	19.7	636
	根形地区		22.1	27.1	28.2	22.7	181
	平岡地区		17.9	30.5	28.9	22.6	190
	中川・富岡地区		19.9	30.5	31.9	17.7	141
要介護度	要支援1		20.1	24.7	26.0	29.2	154
	要支援2		23.5	20.5	26.5	29.5	132
	認定を受けてない		15.1	36.5	32.4	15.9	1092
	総合事業対象者		29.6	18.3	30.4	21.7	115

②介護支援しあわせポイント

介護支援しあわせポイントの認知度については、「知らない」が79.1%、「知っている」が8.4%となっている。

性別でみると、女性は「知っている」が1割強を占めている。

年齢でみると、75～79歳では「知っている」が1割強を占めている。

図表 認知度（介護支援しあわせポイント）

		知っている	知らない	無回答	n
(%)					
性別	全体	8.4	79.1	12.5	1498
	男性	5.3	84.5	10.2	645
	女性	10.8	74.9	14.3	848
年齢	65～69歳	7.3	90.0	2.8	289
	70～74歳	7.2	83.4	9.4	415
	75～79歳	12.0	76.9	11.1	334
	80～84歳	8.7	75.4	15.9	264
	85歳以上	5.8	66.2	28.1	139
居住地区	昭和地区	9.9	79.4	10.7	345
	長浦地区	8.2	78.8	13.1	636
	根形地区	7.7	80.7	11.6	181
	平岡地区	9.5	77.4	13.2	190
	中川・富岡地区	5.7	79.4	14.9	141
要介護度	要支援1	8.4	70.8	20.8	154
	要支援2	7.6	71.2	21.2	132
	認定を受けてない	8.3	81.6	10.1	1092
	総合事業対象者	10.4	74.8	14.8	115

介護支援しあわせポイントの利用意向については、「利用の予定はない」が37.7%、「利用したい」が6.9%となっている。なお、「わからない」は34.5%となっている。

図表 利用意向（介護支援しあわせポイント）

		利用意向（介護支援しあわせポイント）				n
（%）		利用したい（利用し続けたい）	利用の予定はない	わからない	無回答	
性別	全体	6.9	37.7	34.5	21.0	1498
	男性	6.7	41.4	35.2	16.7	645
	女性	7.1	34.7	34.0	24.3	848
年齢	65～69歳	8.7	45.7	37.7	8.0	289
	70～74歳	4.6	42.7	37.1	15.7	415
	75～79歳	8.4	34.7	34.4	22.5	334
	80～84歳	8.3	31.8	30.3	29.5	264
	85歳以上	3.6	30.2	28.1	38.1	139
		3.6				
居住地区	昭和地区	7.0	39.4	38.0	15.7	345
	長浦地区	6.8	38.1	34.3	20.9	636
	根形地区		34.8	35.9	25.4	181
	平岡地区	3.9	8.9	38.4	28.4	190
	中川・富岡地区	8.5	33.3	33.3	24.8	141
要介護度	要支援1	8.4	28.6	30.5	32.5	154
	要支援2	7.6	28.0	25.8	38.6	132
	認定を受けてない	6.2	40.8	35.8	17.2	1092
	総合事業対象者	10.4	30.4	37.4	21.7	115

③緊急通報システムの貸与

緊急通報システムの貸与の認知度については、「知らない」が 63.9%、「知っている」が 22.4%となっている。

性別でみると、女性は「知っている」が2割台を占めており、男性より高くなっている。

図表 認知度（緊急通報システムの貸与）

		知っている	知らない	無回答	n
(%)					
性別	全体	22.4	63.9	13.8	1498
	男性	18.6	70.9	10.5	645
	女性	25.2	58.5	16.3	848
年齢	65～69歳	22.1	74.4	3.5	289
	70～74歳	19.5	70.8	9.6	415
	75～79歳	27.2	60.2	12.6	334
	80～84歳	21.6	58.3	20.1	264
	85歳以上	18.0	52.5	29.5	139
居住地区	昭和地区	26.1	61.7	12.2	345
	長浦地区	21.1	65.1	13.8	636
	根形地区	19.9	67.4	12.7	181
	平岡地区	24.2	60.5	15.3	190
	中川・富岡地区	19.9	63.1	17.0	141
要介護度	要支援1	23.4	54.5	22.1	154
	要支援2	25.8	53.0	21.2	132
	認定を受けてない	21.5	67.1	11.4	1092
	総合事業対象者	25.2	57.4	17.4	115

緊急通報システムの貸与の利用意向については、「利用の予定はない」が 33.0%、「利用したい」が 14.0%となっている。なお、「わからない」は 32.9%となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「利用したい」が 1 割強と他と比べて低くなっている。

図表 利用意向（緊急通報システムの貸与）

		利用意向（緊急通報システムの貸与）				n
		利用したい（利用し続けたい）	利用の予定はない	わからない	無回答	
（%）						
全体		14.0	33.0	32.9	20.0	1498
性別	男性	9.6	40.8	33.6	16.0	645
	女性	17.3	27.0	32.4	23.2	848
年齢	65～69歳	13.5	42.9	35.3	8.3	289
	70～74歳	10.1	39.0	35.4	15.4	415
	75～79歳	15.9	29.9	34.1	20.1	334
	80～84歳	18.2	24.6	30.3	26.9	264
	85歳以上	14.4	21.6	25.9	38.1	139
居住地区	昭和地区	12.8	39.1	33.9	14.2	345
	長湍地区	15.4	31.4	33.2	20.0	636
	根形地区	13.3	30.9	33.7	22.1	181
	平岡地区	11.6	33.7	29.5	25.3	190
	中川・富岡地区	14.9	26.2	33.3	25.5	141
要介護度	要支援1	18.8	21.4	28.6	31.2	154
	要支援2	18.9	16.7	28.8	35.6	132
	認定を受けてない	11.3	37.4	34.4	16.9	1092
	総合事業対象者	27.8	25.2	29.6	17.4	115

④救急医療情報キットの配付

救急医療情報キットの配付の認知度については、「知らない」が69.6%、「知っている」が15.6%となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「知らない」が7割台となっているのに対し、その他では「知らない」が6割程度を占めている。

図表 認知度（救急医療情報キットの配付）

		知っている	知らない	無回答	n
（%）					
性別	全体	15.6	69.6	14.8	1498
	男性	11.5	77.4	11.2	645
	女性	18.8	63.7	17.6	848
年齢	65～69歳	16.6	81.0	2.4	289
	70～74歳	14.2	75.9	9.9	415
	75～79歳	16.5	67.4	16.2	334
	80～84歳	17.8	63.3	18.9	264
	85歳以上	12.2	55.4	32.4	139
居住地区	昭和地区	18.8	67.8	13.3	345
	長浦地区	13.8	71.1	15.1	636
	根形地区	13.8	74.0	12.2	181
	平岡地区	18.4	65.3	16.3	190
	中川・富岡地区	14.2	67.4	18.4	141
要介護度	要支援1	16.2	61.0	22.7	154
	要支援2	17.4	57.6	25.0	132
	認定を受けてない	14.9	73.2	11.9	1092
	総合事業対象者	19.1	60.9	20.0	115

救急医療情報キットの配付の利用意向については、「利用の予定はない」が30.3%、「利用したい」が15.7%となっている。なお、「わからない」は32.8%となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「利用したい」が1割台となっているのに対し、その他では2割以上を占めている。

図表 利用意向（救急医療情報キットの配付）

		利用意向（救急医療情報キットの配付）				n
（%）		利用したい（利用し続けたい）	利用の予定はない	わからない	無回答	
性別	全体	15.7	30.3	32.8	21.2	1498
	男性	13.6	35.0	34.4	16.9	645
	女性	17.2	26.5	31.6	24.6	848
年齢	65～69歳	16.6	42.6	32.9	8.0	289
	70～74歳	12.5	34.9	35.7	16.9	415
	75～79歳	16.8	25.7	33.5	24.0	334
	80～84歳	17.4	22.3	31.4	28.8	264
	85歳以上	19.4	19.4	27.3	33.8	139
居住地区	昭和地区	13.9	35.4	34.2	16.5	345
	長浦地区	17.0	28.6	33.5	20.9	636
	根形地区	18.8	25.4	32.0	23.8	181
	平岡地区	10.0	34.2	30.0	25.8	190
	中川・富岡地区	17.7	25.5	31.2	25.5	141
要介護度	要支援1	22.1	18.2	26.0	33.8	154
	要支援2	20.5	18.2	29.5	31.8	132
	認定を受けてない	13.3	34.3	34.0	18.4	1092
	総合事業対象者	24.3	20.9	34.8	20.0	115

⑤高齢者等住宅整備資金の貸付

高齢者等住宅整備資金の貸付の認知度については、「知らない」が 64.6%、「知っている」が 21.7%となっている。

ほとんどの属性で「知っている」は2割前後となっている。

図表 認知度（高齢者等住宅整備資金の貸付）

属性		知っている	知らない	無回答	n
全体		21.7	64.6	13.8	1498
性別	男性	16.9	72.2	10.9	645
	女性	25.1	58.8	16.0	848
年齢	65～69歳	24.2	73.4	2.4	289
	70～74歳	18.8	71.8	9.4	415
	75～79歳	24.6	62.3	13.2	334
	80～84歳	21.6	58.7	19.7	264
	85歳以上	20.1	48.2	31.7	139
居住地区	昭和地区	20.6	67.0	12.5	345
	長浦地区	22.5	63.7	13.8	636
	根形地区	19.9	68.0	12.2	181
	平岡地区	18.9	65.8	15.3	190
	中川・富岡地区	25.5	57.4	17.0	141
要介護度	要支援1	23.4	55.8	20.8	154
	要支援2	20.5	57.6	22.0	132
	認定を受けてない	21.1	67.5	11.4	1092
	総合事業対象者	25.2	57.4	17.4	115

高齢者等住宅整備資金の貸付の利用意向については、「利用の予定はない」が 39.4%、「利用したい」が 10.1%となっている。なお、「わからない」は 29.6%となっている。
要介護度でみると、総合事業対象者では「利用したい」が 1 割台を占めている。

図表 利用意向（高齢者等住宅整備資金の貸付）

		(%)				n
		利用したい（利用し続けたい）	利用の予定はない	わからない	無回答	
性別	全体	10.1	39.4	29.6	20.9	1498
	男性	10.4	42.2	30.4	17.1	645
	女性	10.0	37.0	29.0	23.9	848
年齢	65～69歳	11.8	46.7	32.2	9.3	289
	70～74歳	9.2	43.6	31.3	15.9	415
	75～79歳	11.4	36.5	29.9	22.2	334
	80～84歳	9.5	32.6	28.8	29.2	264
	85歳以上	10.8	33.8	22.3	33.1	139
居住地区	昭和地区	9.6	45.5	29.3	15.7	345
	長浦地区	12.7	36.8	29.6	20.9	636
	根形地区	6.6	36.5	33.7	23.2	181
	平岡地区	7.4	42.1	26.3	24.2	190
	中川・富岡地区	8.5	34.8	29.8	27.0	141
要介護度	要支援 1	11.0	25.3	29.2	34.4	154
	要支援 2	12.1	30.3	23.5	34.1	132
	認定を受けてない	9.1	42.8	30.5	17.7	1092
	総合事業対象者	17.4	34.8	28.7	19.1	115

⑥家具転倒防止器具取付事業

家具転倒防止器具取付事業の認知度については、「知らない」が64.2%、「知っている」が22.0%となっている。

居住地区でみると、中川・富岡地区では「知っている」が2割未満となっており、他の地区に比べて低くなっている。

図表 認知度（家具転倒防止器具取付事業）

		知っている	知らない	無回答	n
(%)					
性別	全体	22.0	64.2	13.8	1498
	男性	19.4	70.1	10.5	645
	女性	23.9	59.7	16.4	848
年齢	65～69歳	18.0	79.6	2.4	289
	70～74歳	20.7	70.4	8.9	415
	75～79歳	26.9	59.6	13.5	334
	80～84歳	23.9	56.4	19.7	264
	85歳以上	23.0	46.0	30.9	139
居住地区	昭和地区	24.6	62.9	12.5	345
	長浦地区	21.5	64.2	14.3	636
	根形地区	20.4	68.5	11.0	181
	平岡地区	22.1	62.6	15.3	190
	中川・富岡地区	19.1	63.8	17.0	141
要介護度	要支援1	22.1	57.1	20.8	154
	要支援2	21.2	56.8	22.0	132
	認定を受けてない	21.5	67.3	11.2	1092
	総合事業対象者	27.0	52.2	20.9	115

家具転倒防止器具取付事業の利用意向については、「利用の予定はない」が38.4%、「利用したい」が13.0%となっている。なお、「わからない」は28.2%となっている。

要介護度でみると、認定を受けていないでは「利用したい」が1割程度なのに対し、総合事業対象者では2割台を占めている。

図表 利用意向（家具転倒防止器具取付事業）

利用意向（家具転倒防止器具取付事業）		利用したい（利用し続けたい）	利用の予定はない	わからない	無回答	n
（%）						
性別	全体	13.0	38.4	28.2	20.4	1498
	男性	11.0	44.8	27.8	16.4	645
	女性	14.6	33.4	28.4	23.6	848
年齢	65～69歳	14.2	44.3	33.2	8.3	289
	70～74歳	10.6	44.6	28.7	16.1	415
	75～79歳	12.3	35.0	30.8	21.9	334
	80～84歳	15.9	33.3	23.5	27.3	264
	85歳以上	15.8	29.5	20.1	34.5	139
居住地区	昭和地区	13.0	44.6	27.5	14.8	345
	長浦地区	15.4	35.5	28.8	20.3	636
	根形地区	12.2	32.6	29.8	25.4	181
	平岡地区	8.4	43.2	24.7	23.7	190
	中川・富岡地区	9.9	36.2	29.1	24.8	141
要介護度	要支援1	18.8	25.3	25.3	30.5	154
	要支援2	18.9	20.5	27.3	33.3	132
	認定を受けてない	10.3	42.9	29.1	17.8	1092
	総合事業対象者	25.2	33.0	23.5	18.3	115

⑦紙おむつ等の支給（要介護度1～5の方が対象）

紙おむつ等の支給の認知度については、「知らない」が54.3%、「知っている」が29.1%となっている。

性別でみると、男性よりも女性の「知っている」の割合が高く、3割以上を占めている。

図表 認知度（紙おむつ等の支給）

		知っている	知らない	無回答	n
(%)					
性別	全体	29.1	54.3	16.6	1498
	男性	20.8	64.5	14.7	645
	女性	35.4	46.5	18.2	848
年齢	65～69歳	33.9	59.9	6.2	289
	70～74歳	25.1	61.4	13.5	415
	75～79歳	32.6	51.8	15.6	334
	80～84歳	28.0	52.3	19.7	264
	85歳以上	27.3	38.8	33.8	139
居住地区	昭和地区	29.9	54.8	15.4	345
	長浦地区	24.1	59.3	16.7	636
	根形地区	32.6	51.9	15.5	181
	平岡地区	33.7	50.0	16.3	190
	中川・富岡地区	39.0	39.0	22.0	141
要介護度	要支援1	32.5	42.9	24.7	154
	要支援2	30.3	43.9	25.8	132
	認定を受けてない	27.8	58.2	14.0	1092
	総合事業対象者	34.8	44.3	20.9	115

紙おむつ等の支給の利用意向については、「利用の予定はない」が 36.8%、「利用したい」が 11.1%となっている。なお、「わからない」は 28.7%となっている。

年齢で見ると、75 歳未満では「利用したい」が 1 割未満と、他の年齢に比べて低くなっている。

図表 利用意向（紙おむつ等の支給）

		利用したい（利用し続けたい）		利用の予定はない	わからない	無回答	n
（%）							
性別	全体	11.1	36.8	28.7	23.4		1498
	男性	7.3	41.2	31.8	19.7		645
	女性	14.0	33.3	26.4	26.3		848
年齢	65～69歳	8.3	48.4	30.8	12.5		289
	70～74歳	7.2	41.9	32.5	18.3		415
	75～79歳	12.3	37.7	26.6	23.4		334
	80～84歳	15.5	27.3	28.0	29.2		264
	85歳以上	16.5	22.3	23.7	37.4		139
居住地区	昭和地区	9.3	40.0	31.9	18.8		345
	長浦地区	12.1	37.3	27.2	23.4		636
	根形地区	10.5	32.6	29.8	27.1		181
	平岡地区	11.1	36.8	29.5	22.6		190
	中川・富岡地区	12.1	31.2	25.5	31.2		141
要介護度	要支援 1	18.8	22.1	22.7	36.4		154
	要支援 2	20.5	22.0	26.5	31.1		132
	認定を受けてない	8.4	41.5	29.8	20.3		1092
	総合事業対象者	15.7	27.8	29.6	27.0		115

⑧理容師派遣（要介護度3～5の方が対象）

理容師派遣の認知度については、「知らない」が61.5%、「知っている」が18.8%となっている。

性別でみると、男性よりも女性の「知っている」の割合が高く、2割以上を占めている。

図表 認知度（理容師派遣）

		知っている	知らない	無回答	n
全体		18.8	61.5	19.7	1498
性別	男性	14.7	68.5	16.7	645
	女性	21.9	56.0	22.1	848
年齢	65～69歳	21.1	71.3	7.6	289
	70～74歳	16.1	69.2	14.7	415
	75～79歳	23.1	58.1	18.9	334
	80～84歳	17.0	58.7	24.2	264
	85歳以上	17.3	39.6	43.2	139
居住地区	昭和地区	20.9	61.4	17.7	345
	長浦地区	15.4	65.1	19.5	636
	根形地区	17.7	63.0	19.3	181
	平岡地区	24.7	54.7	20.5	190
	中川・富岡地区	22.7	51.8	25.5	141
要介護度	要支援1	18.8	48.7	32.5	154
	要支援2	15.9	50.0	34.1	132
	認定を受けてない	19.2	64.7	16.1	1092
	総合事業対象者	18.3	60.9	20.9	115

理容師派遣の利用意向については、「利用の予定はない」が 37.9%、「利用したい」が 7.9%となっている。なお、「わからない」は 27.2%となっている。

ほとんどの属性で「利用したい」が1割程度を占めている。

図表 利用意向（理容師派遣）

		利用したい（利用し続けたい）		利用の予定はない	わからない	無回答	n
（%）							
性別	全体	7.9	37.9	27.2	27.0		1498
	男性	5.3	43.4	29.0	22.3		645
	女性	10.0	33.4	25.9	30.7		848
年齢	65～69歳	5.9	50.5	29.8	13.8		289
	70～74歳	7.2	42.9	29.9	20.0		415
	75～79歳	9.0	38.0	26.3	26.6		334
	80～84歳	9.5	27.7	26.1	36.7		264
	85歳以上	9.4	23.7	21.6	45.3		139
居住地区	昭和地区	8.1	41.2	28.7	22.0		345
	長浦地区	8.2	37.3	27.8	26.7		636
	根形地区	7.7	35.9	26.5	29.8		181
	平岡地区	6.8	37.4	27.4	28.4		190
	中川・富岡地区	8.5	34.0	22.0	35.5		141
要介護度	要支援1	10.4	22.7	22.7	44.2		154
	要支援2	9.1	25.0	24.2	41.7		132
	認定を受けてない	7.1	42.4	27.9	22.6		1092
	総合事業対象者	12.2	27.8	30.4	29.6		115

⑨家族介護慰労金支給（要介護度3～5の方が対象）

家族介護慰労金支給の認知度については、「知らない」が69.6%、「知っている」が9.3%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「知らない」の割合が低くなる傾向がうかがえる。

図表 認知度（家族介護慰労金支給）

		知っている	知らない	無回答	n
(%)					
性別	全体	9.3	69.6	21.1	1498
	男性	8.1	73.6	18.3	645
	女性	10.3	66.4	23.3	848
年齢	65～69歳	11.4	80.6	8.0	289
	70～74歳	6.7	77.3	15.9	415
	75～79歳	10.5	69.2	20.4	334
	80～84歳	11.0	61.7	27.3	264
	85歳以上	7.9	48.9	43.2	139
居住地区	昭和地区	10.1	69.0	20.9	345
	長浦地区	7.4	72.3	20.3	636
	根形地区	8.3	71.3	20.4	181
	平岡地区	15.3	64.2	20.5	190
	中川・富岡地区	9.2	63.1	27.7	141
要介護度	要支援1	9.1	52.6	38.3	154
	要支援2	5.3	59.8	34.8	132
	認定を受けてない	10.1	73.1	16.8	1092
	総合事業対象者	7.0	69.6	23.5	115

家族介護慰労金支給の利用意向については、「利用の予定はない」が31.4%、「利用したい」が8.1%となっている。なお、「わからない」は32.2%となっている。

要介護度でみると、総合事業対象者では「利用したい」が1割台と、他に比べ高くなっている。

図表 利用意向（家族介護医療金支給）

		利用意向（家族介護医療金支給）				n
		利用したい（利用し続けたい）	利用の予定はない	わからない	無回答	
（%）						
性別	全体	8.1	31.4	32.2	28.2	1498
	男性	6.5	36.1	33.8	23.6	645
	女性	9.4	27.6	31.0	32.0	848
年齢	65～69歳	8.7	43.6	33.9	13.8	289
	70～74歳	6.5	38.8	33.5	21.2	415
	75～79歳	9.0	28.7	34.1	28.1	334
	80～84歳	10.2	20.8	30.7	38.3	264
	85歳以上	6.5	16.5	28.1	48.9	139
居住地区	昭和地区	6.7	37.1	32.5	23.8	345
	長浦地区	9.0	30.2	32.7	28.1	636
	根形地区	6.6	28.7	33.1	31.5	181
	平岡地区	9.5	31.6	31.1	27.9	190
	中川・富岡地区	8.5	24.8	29.8	36.9	141
要介護度	要支援1	9.7	18.2	24.7	47.4	154
	要支援2	6.8	18.2	29.5	45.5	132
	認定を受けてない	7.3	35.6	33.6	23.4	1092
	総合事業対象者	15.7	22.6	32.2	29.6	115

⑩高齢者タクシー料金助成事業

高齢者タクシー料金助成事業の認知度については、「知らない」が 51.6%、「知っている」が 33.5%となっている。

居住地区でみると、昭和地区では「知っている」が4割以上を占めている。

図表 認知度（高齢者タクシー料金助成事業）

		知っている	知らない	無回答	n
(%)					
性別	全体	33.5	51.6	14.9	1498
	男性	29.9	57.1	13.0	645
	女性	36.3	47.3	16.4	848
年齢	65～69歳	34.3	60.6	5.2	289
	70～74歳	35.2	52.8	12.0	415
	75～79歳	35.0	51.2	13.8	334
	80～84歳	31.8	48.1	20.1	264
	85歳以上	27.3	43.2	29.5	139
居住地区	昭和地区	41.2	45.8	13.0	345
	長湍地区	31.4	54.1	14.5	636
	根形地区	31.5	54.1	14.4	181
	平岡地区	31.1	52.1	16.8	190
	中川・富岡地区	30.5	49.6	19.9	141
要介護度	要支援1	36.4	42.9	20.8	154
	要支援2	31.1	46.2	22.7	132
	認定を受けてない	33.0	53.8	13.3	1092
	総合事業対象者	38.3	47.8	13.9	115

高齢者タクシー料金助成事業の利用意向については、「利用の予定はない」が 31.6%、「利用したい」が 18.5%となっている。なお、「わからない」は 27.7%となっている。
年齢で見ると、75 歳以上では「利用したい」が 2 割以上を占めている。

図表 利用意向（高齢者タクシー料金助成事業）

		利用したい（利用し続けたい）		利用の予定はない	わからない	無回答	n
（%）							
性別	全体	18.5	31.6	27.7	22.2		1498
	男性	12.7	39.2	29.5	18.6		645
	女性	23.0	25.5	26.4	25.1		848
年齢	65～69歳	13.1	44.6	31.5	10.7		289
	70～74歳	13.0	37.3	31.8	17.8		415
	75～79歳	21.3	29.3	28.1	21.3		334
	80～84歳	27.7	21.2	22.3	28.8		264
	85歳以上	22.3	17.3	21.6	38.8		139
居住地区	昭和地区	19.4	34.8	28.4	17.4		345
	長浦地区	19.3	30.7	28.3	21.7		636
	根形地区	15.5	30.4	29.3	24.9		181
	平岡地区	16.8	33.7	24.7	24.7		190
	中川・富岡地区	19.1	24.8	25.5	30.5		141
要介護度	要支援1	35.7	14.9	20.8	28.6		154
	要支援2	23.5	17.4	23.5	35.6		132
	認定を受けてない	14.0	36.6	29.6	19.8		1092
	総合事業対象者	33.0	20.0	24.3	22.6		115

9 災害時のことについて

(1) 災害時の避難を助けてくれる人はいるか

問 56 地震などの災害時の避難を助けてくれる人はいますか。(○は1つ)

● 「いる」が6割台、「いない」が2割台を占める。

災害時の避難を助けてくれる人はいるかたずねたところ、「いる」が64.2%、「いない」が24.6%となっている。

ほとんどの属性で「いる」が6割前後を占めている。

居住地区では、中川・富岡地区では「いる」が7割強を占めている。

図表 災害時の避難を助けてくれる人はいるか

		いる	いない	無回答	n
(%)					
全体		64.2	24.6	11.3	1498
性別	男性	61.6	29.0	9.5	645
	女性	66.2	21.1	12.7	848
年齢	65～69歳	69.9	23.2	6.9	289
	70～74歳	65.1	24.6	10.4	415
	75～79歳	65.0	23.4	11.7	334
	80～84歳	59.5	27.7	12.9	264
	85歳以上	58.3	26.6	15.1	139
居住地区	昭和地区	64.6	25.8	9.6	345
	長浦地区	63.4	25.8	10.8	636
	根形地区	59.1	29.3	11.6	181
	平岡地区	65.8	22.1	12.1	190
	中川・富岡地区	70.9	12.8	16.3	141
要介護度	要支援1	51.3	28.6	20.1	154
	要支援2	59.8	24.2	15.9	132
	認定を受けてない	67.9	23.0	9.2	1092
	総合事業対象者	51.3	33.9	14.8	115

(2) 災害時の避難を助けてくれる人

※問 56 で「1. いる」を選んだ方のみお答えください。

問 56-1 地震などの災害時の避難を助けてくれる人はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「同居のご家族」が他を大きく引き離して8割強で第1位を占める。

問 56 で「1. いる」を選んだ方に、災害時の避難を助けてくれる人は誰かたずねたところ、「同居のご家族」(81.1%)が最も多く、次いで「同居以外のご家族」(35.6%)、「近所の住民(親族を含む)」(33.4%)、「民生委員」(3.3%)、「ボランティア」(1.5%)となっている。

いずれの属性でも「同居のご家族」が第1位となっている。

図表 災害時の避難を助けてくれる人(複数回答/全体)

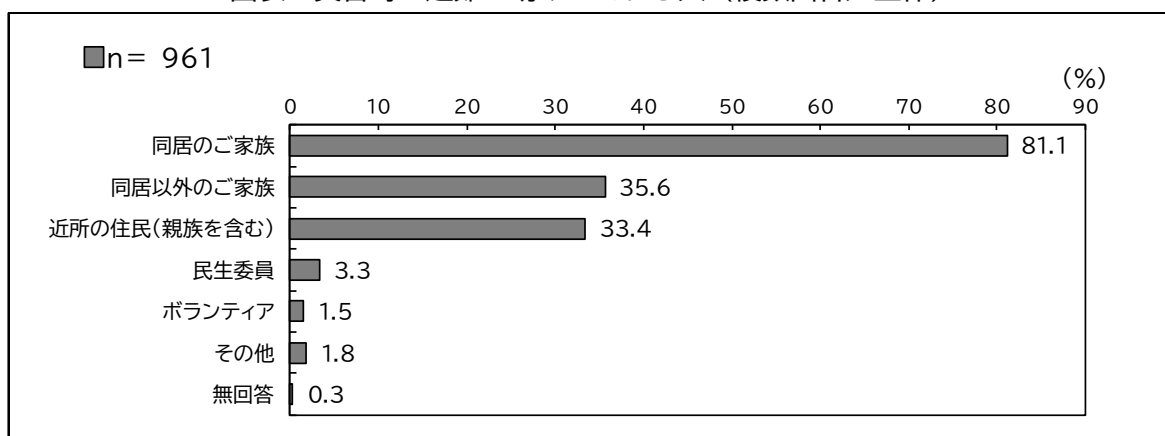


表 災害時の避難を助けてくれる人（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		同居のご家族 81.1	同居以外のご家族 35.6	近所の住民（親族を含む） 33.4
性別	男性	同居のご家族 82.4	近所の住民（親族を含む） 38.5	同居以外のご家族 35.3
	女性	同居のご家族 80.2	同居以外のご家族 35.8	近所の住民（親族を含む） 29.9
年齢	65～69 歳	同居のご家族 82.2	同居以外のご家族 34.2	近所の住民（親族を含む） 31.2
	70～74 歳	同居のご家族 85.2	同居以外のご家族 36.3	近所の住民（親族を含む） 33.7
	75～79 歳	同居のご家族 82.0	近所の住民（親族を含む） 35.9	同居以外のご家族 34.1
	80～84 歳	同居のご家族 77.7	近所の住民（親族を含む） 37.6	同居以外のご家族 36.3
	85 歳以上	同居のご家族 70.4	同居以外のご家族 35.8	近所の住民（親族を含む） 29.6
居住地区	昭和地区	同居のご家族 79.4	同居以外のご家族 35.9	近所の住民（親族を含む） 30.0
	長浦地区	同居のご家族 80.6	近所の住民（親族を含む） 36.7	同居以外のご家族 33.0
	根形地区	同居のご家族 87.9	同居以外のご家族 31.8	近所の住民（親族を含む） 26.2
	平岡地区	同居のご家族 82.4	同居以外のご家族 44.0	近所の住民（親族を含む） 33.6
	中川・富岡地区	同居のご家族 78.0	同居以外のご家族 39.0	近所の住民（親族を含む） 36.0
要介護度	要支援 1	同居のご家族 68.4	同居以外のご家族 43.0	近所の住民（親族を含む） 17.7
	要支援 2	同居のご家族 79.7	同居以外のご家族／近所の住民（親族を含む） 27.8	
	認定を受けていない	同居のご家族 83.1	同居以外のご家族 36.0	近所の住民（親族を含む） 35.0
	総合事業対象者	同居のご家族 74.6	近所の住民（親族を含む） 44.1	同居以外のご家族 30.5

(3) 災害時のことで不安に感じていること

問 57 地震などの災害時のことで、あなたが普段不安に感じていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「災害発生直後に必要な情報を得られるか」が4割台で第1位を占める。「避難所まで移動できるか」、「救助が必要なことを人に知らせることができるか」などが続く。

災害時のことで不安に感じていることについてたずねたところ、「災害発生直後に必要な情報を得られるか」(46.3%)が最も多く、次いで「避難所まで移動できるか」(42.1%)、「救助が必要なことを人に知らせることができるか」(40.3%)、「近所の人に救助してもらえるか」(27.7%)、「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」(25.4%)となっている。なお、「特に不安はない」は17.2%となっている。

年齢でみると、80歳未満では「災害発生直後に必要な情報を得られるか」が第1位となっているのに対し、80歳以上では「救助が必要なことを人に知らせることができるか」が第1位となっている。

居住地区でみると、中川・富岡地区では「避難所まで移動できるか」が第1位となっている。

図表 災害時のことで不安に感じていること（複数回答／全体）

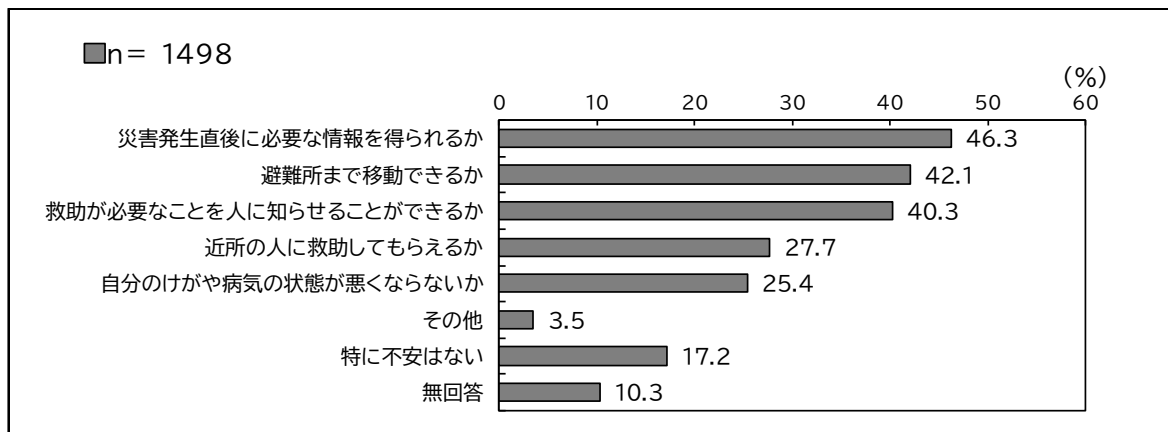


表 災害時のことで不安に感じていること（全体・属性別－上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		災害発生直後に必要な情報を得られるか 46.3	避難所まで移動できるか 42.1	救助が必要なことを人に知らせることができるか 40.3
性別	男性	災害発生直後に必要な情報を得られるか 41.1	避難所まで移動できるか 34.4	救助が必要なことを人に知らせることができるか 34.0
	女性	災害発生直後に必要な情報を得られるか 50.1	避難所まで移動できるか 48.0	救助が必要なことを人に知らせることができるか 44.9
年齢	65～69歳	災害発生直後に必要な情報を得られるか 52.9	避難所まで移動できるか 37.0	救助が必要なことを人に知らせることができるか 33.9
	70～74歳	災害発生直後に必要な情報を得られるか 47.2	避難所まで移動できるか 38.1	救助が必要なことを人に知らせることができるか 32.5
	75～79歳	災害発生直後に必要な情報を得られるか 46.7	避難所まで移動できるか 44.9	救助が必要なことを人に知らせることができるか 44.0
	80～84歳	救助が必要なことを人に知らせることができるか 50.0	避難所まで移動できるか 48.9	災害発生直後に必要な情報を得られるか 43.9
	85歳以上	救助が必要なことを人に知らせることができるか 46.8	避難所まで移動できるか 43.2	災害発生直後に必要な情報を得られるか 39.6
居住地区	昭和地区	災害発生直後に必要な情報を得られるか 53.0	避難所まで移動できるか 42.9	救助が必要なことを人に知らせることができるか 38.6
	長浦地区	災害発生直後に必要な情報を得られるか 42.8	避難所まで移動できるか 41.8	救助が必要なことを人に知らせることができるか 41.4
	根形地区	災害発生直後に必要な情報を得られるか 50.3	避難所まで移動できるか 38.1	救助が必要なことを人に知らせることができるか 35.9
	平岡地区	災害発生直後に必要な情報を得られるか 43.2	避難所まで移動できるか 40.5	救助が必要なことを人に知らせることができるか 39.5
	中川・富岡地区	避難所まで移動できるか 48.9	災害発生直後に必要な情報を得られるか 45.4	救助が必要なことを人に知らせることができるか 44.0
要介護度	要支援1	避難所まで移動できるか 54.5	救助が必要なことを人に知らせることができるか 48.7	災害発生直後に必要な情報を得られるか 45.5
	要支援2	避難所まで移動できるか 56.1	救助が必要なことを人に知らせることができるか 53.0	自分のけがや病気の状態が悪くならないか 45.5
	認定を受けていない	災害発生直後に必要な情報を得られるか 46.7	避難所まで移動できるか 37.4	救助が必要なことを人に知らせることができるか 35.9
	総合事業対象者	救助が必要なことを人に知らせることができるか／避難所まで移動できるか 54.8		災害発生直後に必要な情報を得られるか 47.0

10 認知症に関する相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか

問 58 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいますか。(1つに○)

- 「いいえ」が9割弱を占める。「はい」は1割に満たない。

認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるかたずねたところ、「いいえ」が87.7%、「はい」が7.1%となっている。

年齢でみると、85歳以上では「はい」が1割台と他の年齢に比べて高くなっている。

図表 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか

		はい	いいえ	無回答	n
	(%)				
	全体	7.1	87.7	5.1	1498
性別	男性	6.4	88.4	5.3	645
	女性	7.8	87.1	5.1	848
年齢	65～69歳	6.6	90.3	3.1	289
	70～74歳	4.6	92.5	2.9	415
	75～79歳	6.6	87.4	6.0	334
	80～84歳	8.0	86.4	5.7	264
	85歳以上	15.1	75.5	9.4	139
居住地区	昭和地区	7.2	87.8	4.9	345
	長浦地区	5.7	89.5	4.9	636
	根形地区	11.0	84.0	5.0	181
	平岡地区	7.4	85.3	7.4	190
	中川・富岡地区	8.5	87.2	4.3	141
要介護度	要支援1	13.0	79.2	7.8	154
	要支援2	14.4	79.5	6.1	132
	認定を受けてない	4.7	90.5	4.9	1092
	総合事業対象者	14.8	81.7	3.5	115

(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

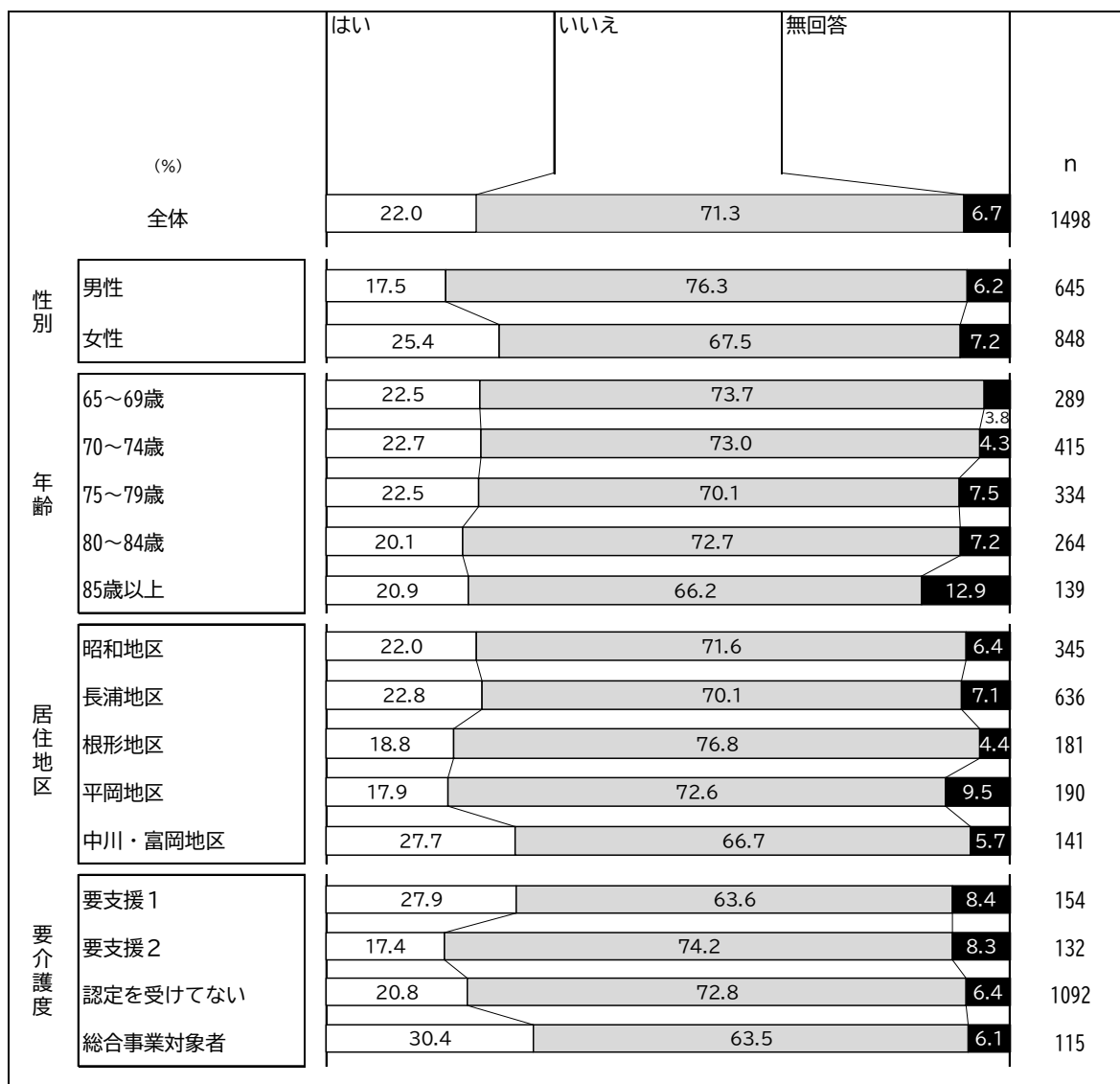
問 59 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つに○)

● 「いいえ」が7割強、「はい」が2割強を占める。

認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「いいえ」が71.3%、「はい」が22.0%となっている。

居住地区でみると、中川・富岡地区では「はい」は3割弱と他の地区に比べて高くなっている。

図表 認知症に関する相談窓口を知っているか



(3) 認知症について今後力を入れてほしい取り組み

問 60 認知症は誰もがなりうる脳の病気であり、地域のあたたかい理解と支援が必要です。今後、力を入れてほしい取り組みはどれですか。(あてはまるもの3つまで○)
【複数回答】

- 「認知症に関する正しい知識の普及」が3割台で第1位を占める。「認知症が疑われる人やその家族のための相談対応」、「認知症の予防に関する普及」、「認知症の人・認知症が疑われる人を、受診につなげるための支援」などが続く。

認知症について今後力を入れてほしい取り組みについてたずねたところ、「認知症に関する正しい知識の普及」(37.4%)が最も多く、次いで「認知症が疑われる人やその家族のための相談対応」(35.4%)、「認知症の予防に関する普及」(35.0%)、「認知症の人・認知症が疑われる人を、受診につなげるための支援」(28.5%)、「地域における認知症関連の情報発信」(14.2%)、「誰もが気軽に集い、相談できる認知症カフェなどの開設」(13.2%)、「認知症の方の家族が互いに励ましあい、情報交換等ができる集い」(9.3%)、「認知症の人の近くにお住まいの方々のための相談対応」(5.5%)となっている。

性別でみると、男性では「認知症に関する知識の普及」が第1位となっているのに対し、女性では「認知症が疑われる人や家族への相談対応」が第1位となっている。

年齢別でみると、65～69歳では「認知症が疑われる人や家族への相談対応」、80～84歳では「認知症の予防に関する普及」、その他の年代では「認知症に関する正しい知識の普及」が第1位となっている。

図表 認知症について今後力を入れてほしい取り組み（複数回答／全体）

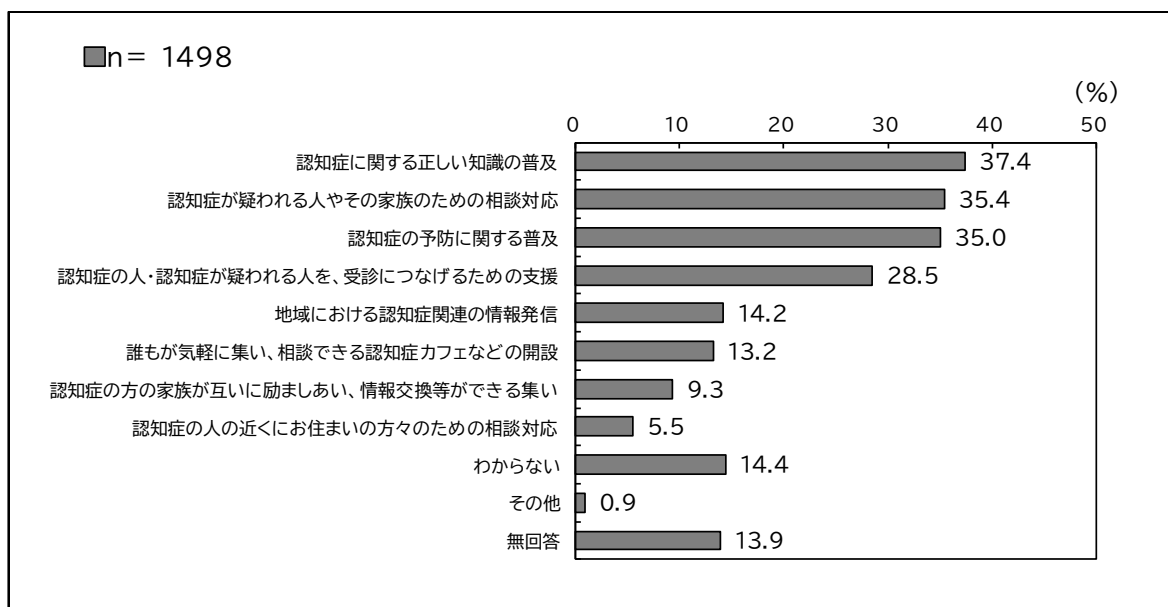


表 認知症について今後力を入れてほしい取り組み（全体・属性別－上位３位）

（単位：％）

		第１位	第２位	第３位
全体		認知症に関する正しい知識の普及 37.4	認知症が疑われる人や家族への相談対応 35.4	認知症の予防に関する普及 35.0
性別	男性	認知症に関する正しい知識の普及 41.7	認知症の予防に関する普及 36.1	認知症が疑われる人や家族への相談対応 35.0
	女性	認知症が疑われる人や家族への相談対応 35.6	認知症に関する正しい知識の普及 34.3	認知症の予防に関する普及 34.2
年齢	65～69 歳	認知症が疑われる人や家族への相談対応 42.9	認知症の予防に関する普及 38.8	認知症に関する正しい知識の普及 36.0
	70～74 歳	認知症に関する正しい知識の普及 39.5	認知症が疑われる人や家族への相談対応 38.6	認知症の予防に関する普及 37.6
	75～79 歳	認知症に関する正しい知識の普及 41.0	認知症の予防に関する普及 34.7	認知症が疑われる人や家族への相談対応 32.0
	80～84 歳	認知症の予防に関する普及 34.1	認知症に関する正しい知識の普及 33.7	認知症が疑われる人や家族への相談対応 32.6
	85 歳以上	認知症に関する正しい知識の普及 33.8	認知症が疑われる人や家族への相談対応 27.3	認知症の予防に関する普及 25.9
居住地区	昭和地区	認知症に関する正しい知識の普及 40.6	認知症が疑われる人や家族への相談対応 37.7	認知症の予防に関する普及 36.5
	長浦地区	認知症の予防に関する普及 36.5	認知症が疑われる人や家族への相談対応 36.2	認知症に関する正しい知識の普及 35.5
	根形地区	認知症に関する正しい知識の普及 41.4	認知症の予防に関する普及 35.4	認知症が疑われる人や家族への相談対応 31.5
	平岡地区	認知症に関する正しい知識の普及 35.8	認知症の予防に関する普及 32.6	認知症が疑われる人や家族への相談対応 32.1
	中川・富岡地区	認知症に関する正しい知識の普及 36.2	認知症が疑われる人や家族への相談対応 35.5	認知症の予防に関する普及 27.7
要介護度	要支援 1	認知症に関する正しい知識の普及 30.5	認知症の予防に関する普及 28.6	認知症が疑われる人や家族への相談対応 25.3
	要支援 2	認知症に関する正しい知識の普及 32.6	認知症の予防に関する普及 32.6	認知症が疑われる人や家族への相談対応 27.3
	認定を受けていない	認知症に関する正しい知識の普及 38.7	認知症が疑われる人や家族への相談対応 37.4	認知症の予防に関する普及 36.4
	総合事業対象者	認知症に関する正しい知識の普及 40.9	認知症が疑われる人や家族への相談対応 39.1	認知症の受診に繋げるための支援／認知症の予防に関する普及 33.0

11 地域で暮らす意向について

(1) 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか

問 61 住み慣れた地域で、最期まで暮らし続けたいと思いますか。(○は1つ)

- 「はい」が8割強を占める。「いいえ」は1割に満たない。

住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うかたずねたところ、「はい」が80.4%、「いいえ」が8.5%となっている。

年齢で見ると、65～69歳では「いいえ」が1割台となっており、他の年齢に比べ、高くなっている。

図表 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか

		はい	いいえ	無回答	n
(%)					
性別	全体	80.4	8.5	11.0	1498
	男性	79.8	9.1	11.0	645
	女性	80.8	8.1	11.1	848
年齢	65～69歳	77.2	14.9	8.0	289
	70～74歳	82.7	8.4	8.9	415
	75～79歳	81.1	6.9	12.0	334
	80～84歳	79.5	7.6	12.9	264
	85歳以上	81.3	5.0	13.7	139
居住地区	昭和地区	80.0	9.0	11.0	345
	長浦地区	80.8	8.2	11.0	636
	根形地区	81.8	8.8	9.4	181
	平岡地区	76.3	9.5	14.2	190
	中川・富岡地区	83.0	7.8	9.2	141
要介護度	要支援1	76.0	7.1	16.9	154
	要支援2	86.4	3.8	9.8	132
	認定を受けてない	80.2	9.4	10.3	1092
	総合事業対象者	80.9	7.8	11.3	115

(2) 地域で暮らし続けたい理由、暮らし続けたくない理由

問 61-1 その理由をお書きください。

①地域で暮らし続けたい理由

問 61 で「1. はい」と答えた方にその理由をたずねたところ、下記のような回答があった。

表 地域で暮らし続けたい理由

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">○住みやすい場所だから。○持ち家であり、家族が居るから。○緑が多いこと。畑が近くにあること。○隣近所に知り合いが多いと安心して暮らせるので。○子供、兄弟（家族）が地域にいる。○知らない土地で知らない人達に囲まれて暮らすのは淋しいから。○住み慣れていて比較的便利が良い。○新しい環境に慣れるまで大変だと思うから。 | 等 |
|--|---|

②地域で暮らし続けたくない理由

問 61 で「2. いいえ」と答えた方にその理由をたずねたところ、下記のような回答があった。

表 地域で暮らし続けたくない理由

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">○介護保険施設に入所を希望するため。○その時の体の状態に合った場所に住みたい。○交通の便が悪い。対策を考えてほしい。○出来れば、生まれた場所で最期は暮したいと思う。○1人になると今の家で住む自信はない。○自分の事ができなくなったとき自宅でくらするか不安。○交通が不便で病院に行かない。○子供たちが遠方なので、話し合い中。○1人ぐらしで体が不自由の為娘の住んでいる所に来て欲しいと言われている。○子供のそばの施設に入りたい。 | 等 |
|--|---|

12 人生の最終段階において過ごす場について

(1) 将来最期を迎えたい場

問 62 将来自分が最期を迎える場として、どこを希望しますか。(1つに○)

- 「自宅で最期を迎えたい」が4割弱、「医療機関に入院して最期を迎えたい」が2割強を占める。

将来最期を迎えたい場についてたずねたところ、「自宅で最期を迎えたい」が39.4%、「医療機関に入院して最期を迎えたい」が21.1%、「介護保険施設に入所して最期を迎えたい」が10.5%となっている。なお、「わからない」は21.4%となっている。

ほとんどの属性で「医療機関に入院して最後を迎えたい」は2割前後となっている。

図表 将来最期を迎えたい場

		(%)	医療機関に入院して最期を迎えたい	自宅で最期を迎えたい	介護保険施設に入所して最期を迎えたい	その他	わからない	無回答	n
性別	全体		21.1	39.4	10.5	1.1	21.4	6.5	1498
	男性		17.1	43.4	9.9	1.3	21.4	7.0	645
	女性		24.3	36.4	11.1	0.9	21.1	6.1	848
年齢	65～69歳		19.4	34.6	10.7	0.3	30.8	4.2	289
	70～74歳		22.2	39.3	10.1	1.7	23.4	3.4	415
	75～79歳		21.9	37.1	11.4	1.5	20.7	7.5	334
	80～84歳		24.2	42.4	12.5	0.0	12.9	8.0	264
	85歳以上		18.7	44.6	7.9	2.2	12.9	13.7	139
居住地区	昭和地区		23.8	38.3	11.6	1.4	19.7	5.2	345
	長浦地区		22.3	36.8	10.2	1.6	22.2	6.9	636
	根形地区		19.9	41.4	9.4	0.0	21.5	7.7	181
	平岡地区		13.7	45.8	12.6	0.0	21.1	6.8	190
	中川・富岡地区		21.3	43.3	8.5	0.7	20.6	5.7	141
要介護度	要支援1		22.1	37.7	14.3	0.6	19.5	6.5	154
	要支援2		19.7	49.2	7.6	0.8	15.2	7.6	132
	認定を受けてない		20.8	38.6	10.1	1.2	22.9	6.4	1092
	総合事業対象者		25.2	38.3	13.9	1.7	14.8	6.1	115

(2) 家族が最期を迎える場としてよいところ

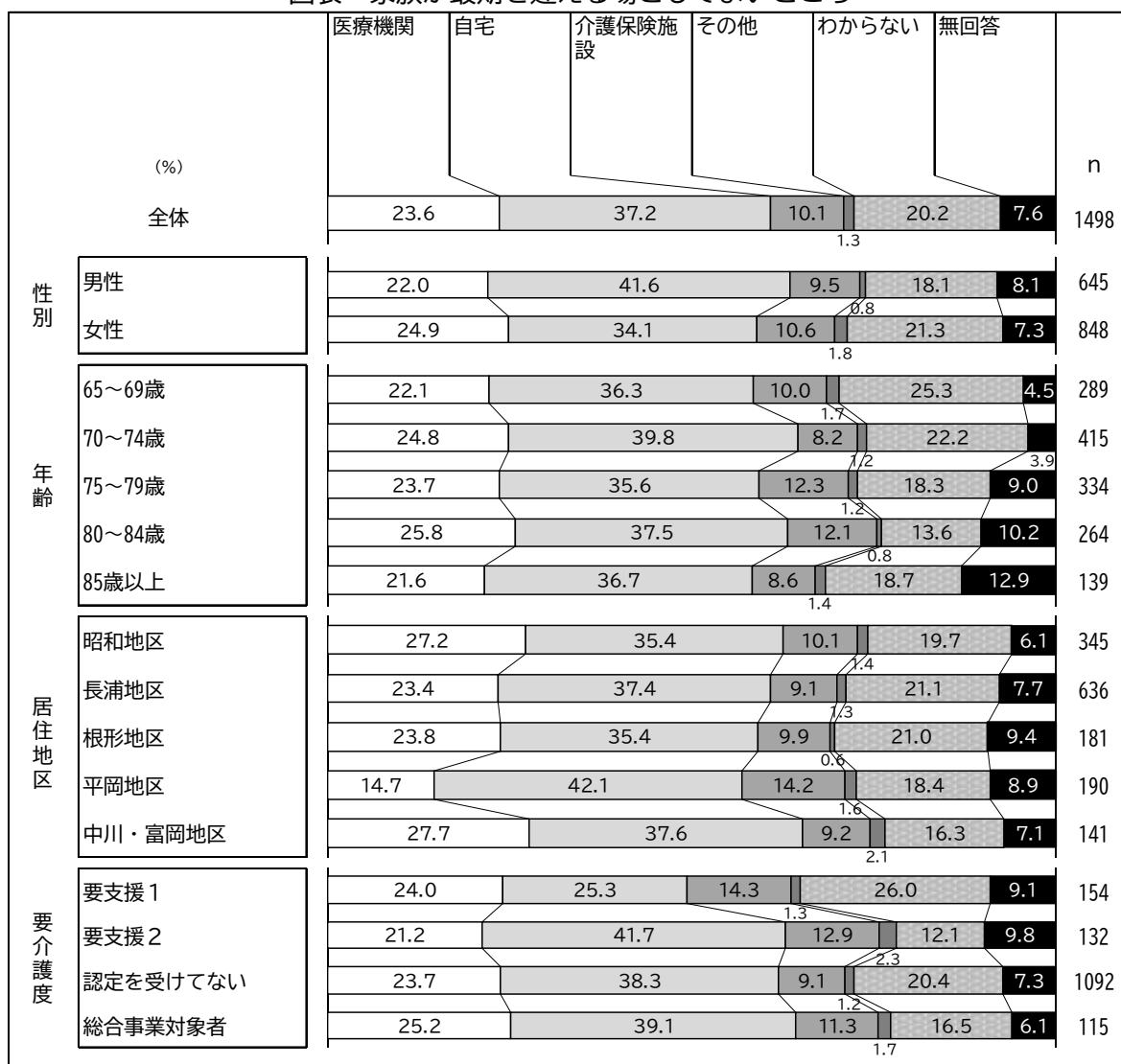
問 63 あなたの家族が最期を迎える場として、どこが本人のためによいと思いますか。
(1つに○)

● 「自宅」が3割台、「医療機関」が2割台を占める。

家族が最期を迎える場としてよいところについてたずねたところ、「自宅」が37.2%、「医療機関」が23.6%、「介護保険施設」が10.1%となっている。なお、「わからない」は20.2%となっている。

居住地区でみると、平岡地区では「自宅」が4割強を占めており、他の地区よりも高くなっている。

図表 家族が最期を迎える場としてよいところ



13 成年後見制度について

(1) 成年後見制度を知っているか

問 64 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(1つに○)

- “知っている”が6割台、「知らない」が3割弱を占める。

成年後見制度を知っているかたずねたところ、「知っている。しかし目的や内容は知らない」(36.4%)と「知っている。目的や内容についても理解している」(30.4%)を合わせた“知っている”が66.4%となっている。なお、「知らない」は28.2%となっている。

年齢で見ると、高齢になるにつれて「知っている。目的や内容についても理解している」の割合が低くなる傾向がうかがえる。

図表 成年後見制度を知っているか

		(%)	知っている。目的や内容についても理解している	知っている。しかし目的や内容は知らない	知らない	無回答	n
性別	全体		30.4	36.4	28.2	4.9	1498
	男性		31.2	33.8	31.2	3.9	645
	女性		29.8	38.2	26.2	5.8	848
年齢	65～69歳		37.7	32.2	26.0	4.2	289
	70～74歳		34.0	36.4	27.7	1.9	415
	75～79歳		29.9	39.2	25.4	5.4	334
	80～84歳		25.8	39.4	30.7	4.2	264
	85歳以上		18.7	36.7	33.8	10.8	139
居住地区	昭和地区		35.1	37.4	22.9	4.6	345
	長浦地区		30.7	39.2	26.4	3.8	636
	根形地区		29.3	34.3	32.0	4.4	181
	平岡地区		26.3	28.4	37.9	7.4	190
	中川・富岡地区		24.8	34.0	32.6	8.5	141
要介護度	要支援1		22.7	29.9	42.9	4.5	154
	要支援2		24.2	35.6	28.8	11.4	132
	認定を受けてない		32.5	36.3	27.0	4.2	1092
	総合事業対象者		27.8	46.1	20.9	5.2	115

(2) 成年後見制度についての相談窓口を知っているか

問 65 成年後見制度についての相談窓口を知っていますか。(1つに○)

- 「知らない」が7割弱、「知っている」が2割台を占める。

成年後見制度についての相談窓口を知っているかたずねたところ、「知らない」が69.8%、「知っている」が25.1%となっている。

年齢でみると、高齢になるにつれて「知っている」の割合が低くなる傾向がうかがえる。

図表 成年後見制度についての相談窓口を知っているか

		知っている	知らない	無回答	n
(%)					
性別	全体	25.1	69.8	5.1	1498
	男性	23.6	72.2	4.2	645
	女性	26.3	67.9	5.8	848
年齢	65～69歳	28.7	67.1	4.2	289
	70～74歳	26.3	71.3	2.4	415
	75～79歳	25.7	69.8	4.5	334
	80～84歳	23.9	70.8	5.3	264
	85歳以上	16.5	72.7	10.8	139
居住地区	昭和地区	29.9	65.2	4.9	345
	長浦地区	26.1	70.3	3.6	636
	根形地区	21.5	73.5	5.0	181
	平岡地区	18.4	73.7	7.9	190
	中川・富岡地区	22.7	68.8	8.5	141
要介護度	要支援1	19.5	75.3	5.2	154
	要支援2	22.7	66.7	10.6	132
	認定を受けてない	26.0	69.5	4.5	1092
	総合事業対象者	27.0	68.7	4.3	115

(3) 市民後見制度を知っているか

問 66 あなたは「市民後見制度」を知っていますか。(1つに○)

● 「知らない」が8割弱、「知っている」が1割台を占める。

市民後見制度を知っているかたずねたところ、「知らない」が78.8%、「知っている」が16.1%となっている。

年齢でみると、85歳以上は「知っている」が1割未満と他に比べて低くなっている。

図表 市民後見制度を知っているか

		知っている	知らない	無回答	n
全体		16.1	78.8	5.1	1498
性別	男性	15.5	80.2	4.3	645
	女性	16.5	77.8	5.7	848
年齢	65～69歳	18.3	77.5	4.2	289
	70～74歳	15.4	82.4	2.2	415
	75～79歳	18.9	76.0	5.1	334
	80～84歳	14.8	80.3	4.9	264
	85歳以上	9.4	79.1	11.5	139
居住地区	昭和地区	19.4	76.2	4.3	345
	長浦地区	16.4	79.7	3.9	636
	根形地区	14.4	81.2	4.4	181
	平岡地区	10.5	82.1	7.4	190
	中川・富岡地区	16.3	73.8	9.9	141
要介護度	要支援1	11.0	83.1	5.8	154
	要支援2	9.1	80.3	10.6	132
	認定を受けてない	16.9	78.8	4.3	1092
	総合事業対象者	22.6	72.2	5.2	115

袖ヶ浦市
介護保険・高齢者福祉に関する調査
（要介護１・２対象）
結果報告書

令和５年３月

袖ヶ浦市

目 次

I	調査の概要及び対象者の属性	1
1	調査の概要.....	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法.....	1
(3)	配布数及び回収結果.....	1
2	本調査結果報告書の基本的な事項.....	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて.....	1
3	対象者の属性.....	2
(1)	回答者	2
(2)	性別	2
(3)	年齢	2
(4)	居住地区	3
(5)	家族構成	3
II	調査結果	4
1	外出について.....	4
(1)	外出の頻度.....	4
(2)	外出する際の移動手段について.....	5
2	医療について.....	8
(1)	かかりつけの医師はいるか.....	8
(2)	かかりつけの医師に相談、指導を受けているか.....	8
(3)	かかりつけの歯科医はいるか.....	9
(4)	かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか.....	9
(5)	処方薬や市販薬の相談ができる薬剤師はいるか.....	10
(6)	病院等で処方された薬を飲みきっているか.....	10
3	在宅の福祉施策について.....	11
(1)	生活支援サービスの認知状況と今後の利用意向.....	11
4	災害時のことについて.....	13
(1)	災害時の避難を助けてくれる人はいるか.....	13
(2)	災害時の避難を助けてくれる人は誰か.....	13
(3)	災害のことで不安に感じていること.....	14
5	認知症に関する相談窓口の把握について.....	15
(1)	認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか.....	15
(2)	認知症に関する相談窓口を知っているか.....	15
(3)	認知症について今後力を入れてほしい取り組み.....	16
6	地域での活動について.....	17
(1)	地域活動に参加者として参加したいか.....	17

(2) 地域活動に企画・運営として参加したいか.....	17
7 地域で暮らす意向について.....	18
(1) 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか.....	18
(2) 地域で暮らし続けたい理由、暮らし続けたくない理由.....	18
8 人生の最終段階において過ごす場について.....	19
(1) 将来最期を迎えたい場.....	19
(2) 家族が最期を迎える場としてよいところ.....	20
9 成年後見制度について.....	20
(1) 成年後見制度を知っているか.....	20
(2) 成年後見制度についての相談窓口を知っているか.....	21
(3) 成年後見制度の利用.....	21
10 家族等介護者の状況について.....	22
(1) 日常的に介護を受けているか.....	22
(2) 介護についての不安や悩みはあるか.....	22
(3) 介護の不安や悩みは何か.....	23
(4) 家族や友人・知人以外の相談相手.....	24

I 調査の概要及び対象者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、国のモデル事業に基づき、袖ヶ浦市の日常生活圏域における高齢者の生活実態やニーズを詳細に把握し、袖ヶ浦市高齢者福祉計画の見直し及び第9期介護保険事業計画の策定のための基礎資料とするために実施したものである。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	市内にお住まいの65歳以上の方で、要介護1、要介護2に認定されている方
配布数	533票
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和4年12月
調査地域	袖ヶ浦市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	533
有効回収数	303
有効回収率	56.8%

2 本調査結果報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

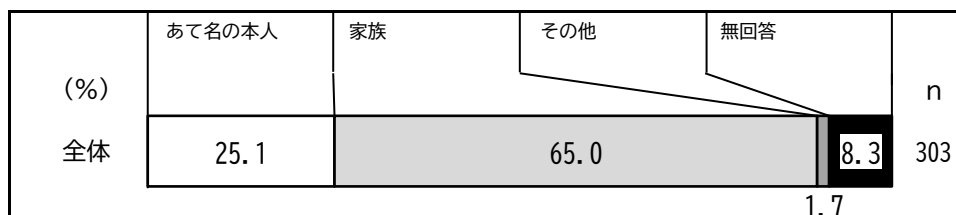
- ①比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100%を上下する場合がある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、したがって各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

3 対象者の属性

(1) 回答者

回答者は、「家族」が65.0%、「あて名の本人」が25.1%、「その他」が1.7%となっている。

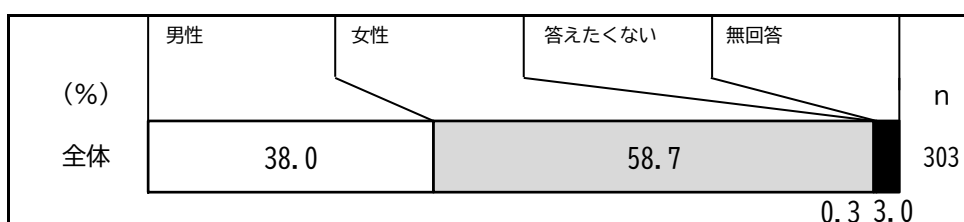
図表 回答者



(2) 性別

対象者の性別は、「女性」が58.7%、「男性」が38.0%となっている。

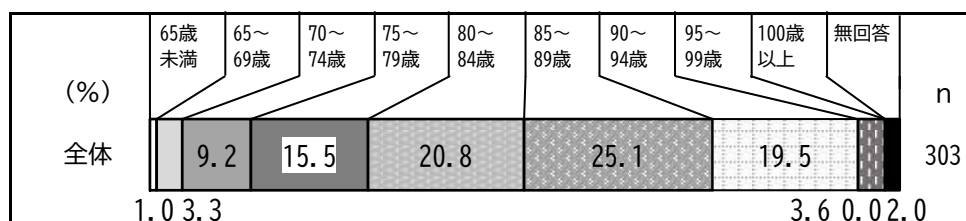
図表 対象者の性別



(3) 年齢

対象者の年齢は、「85～89歳」が25.1%、「80～84歳」が20.8%、「90～94歳」が19.5%、「75～79歳」が15.5%、「70～74歳」が9.2%、「95～99歳」が3.6%、「65～69歳」が3.3%、「65歳未満」が1.0%、「100歳以上」が0.0%となっている。

図表 対象者の年齢



(4) 居住地区

対象者の居住地区は、「長浦地区」が 37.6%、「昭和地区」が 22.8%、「平岡地区」が 13.5%、「中川・富岡地区」が 10.9%、「根形地区」が 9.9%となっている。

図表 対象者の居住地区

	昭和地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川・富岡地区	無回答	n
(%)							
全体	22.8	37.6	9.9	13.5	10.9	5.3	303

(5) 家族構成

対象者の家族構成は、「息子・娘との2世帯」が 29.0%、「夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上）」が 25.7%、「1人暮らし」が 18.5%、「夫婦2人暮らし（配偶者 64歳以下）」が 0.7%となっている。

図表 対象者の家族構成

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答	n
(%)							
全体	18.5	25.7	0.7	29.0	22.8	3.3	303

Ⅱ 調査結果

1 外出について

(1) 外出の頻度

問5 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ) ※散歩も含みます。



- 「週2～4回」、「ほとんど外出しない」が3割台を占める。

外出の頻度についてたずねたところ、「週2～4回」が36.3%、「ほとんど外出しない」が35.0%、「週1回」が11.9%、「週5回以上」が11.6%となっている。

図表 外出の頻度

	ほとんど外出 しない	週1回	週2～4回	週5回以上	無回答	n
(%)						
全体	35.0	11.9	36.3	11.6	5.3	303

(2) 外出する際の移動手段について

問6 以下のような用事の際、どのような移動手段で目的地まで行っていますか。
※①～⑤それぞれに回答してください。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



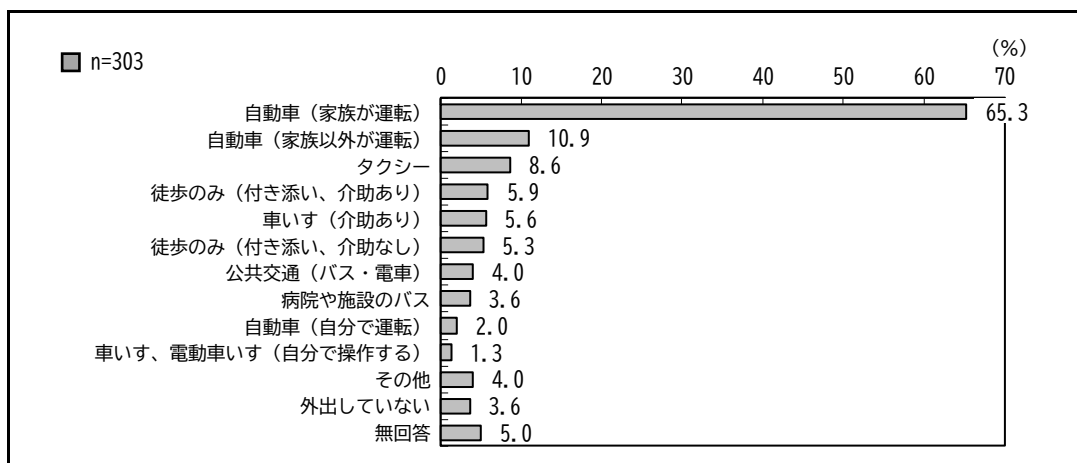
- 通院や日用品の買い物では「自動車（家族が運転）」が6割台で第1位を占める。趣味活動、友人・知人との交流の場への参加では「外出していない」が4割以上を占める。

①通院

通院の際の移動手段を全体でみると、「自動車（家族が運転）」(65.3%)が最も多く、次いで「自動車（家族以外が運転）」(10.9%)、「タクシー」(8.6%)、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」(5.9%)、「車いす（介助あり）」(5.6%) などとなっている。

なお、「外出していない」は3.6%となっている。

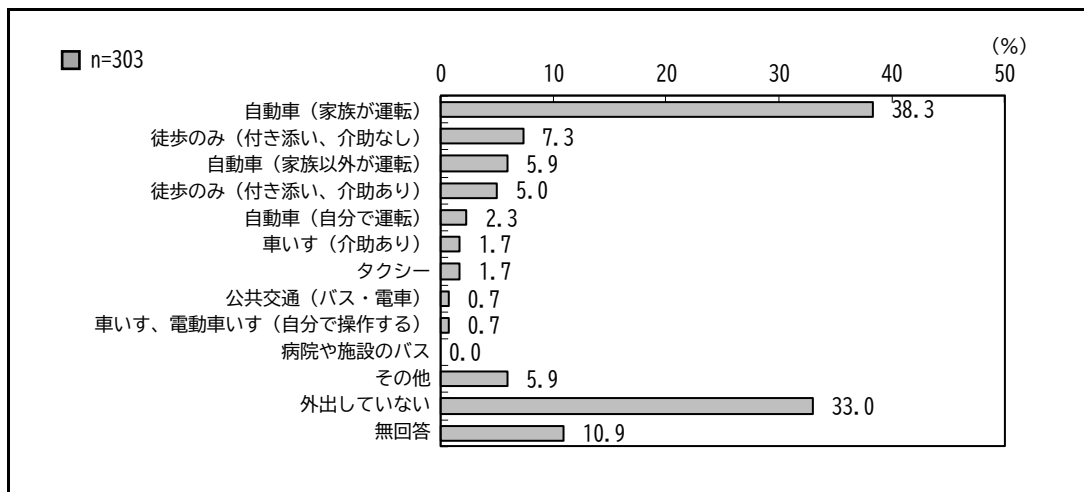
図表 通院（複数回答／全体）



②日用品の買い物

日用品の買い物の際の移動手段を全体でみると、「自動車（家族が運転）」（38.3%）が最も多く、次いで「徒歩のみ（付き添い、介助なし）」（7.3%）、「自動車（家族以外が運転）」（5.9%）、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」（5.0%）、「自動車（自分で運転）」（2.3%）などとなっている。なお、「外出していない」は33.0%となっている。

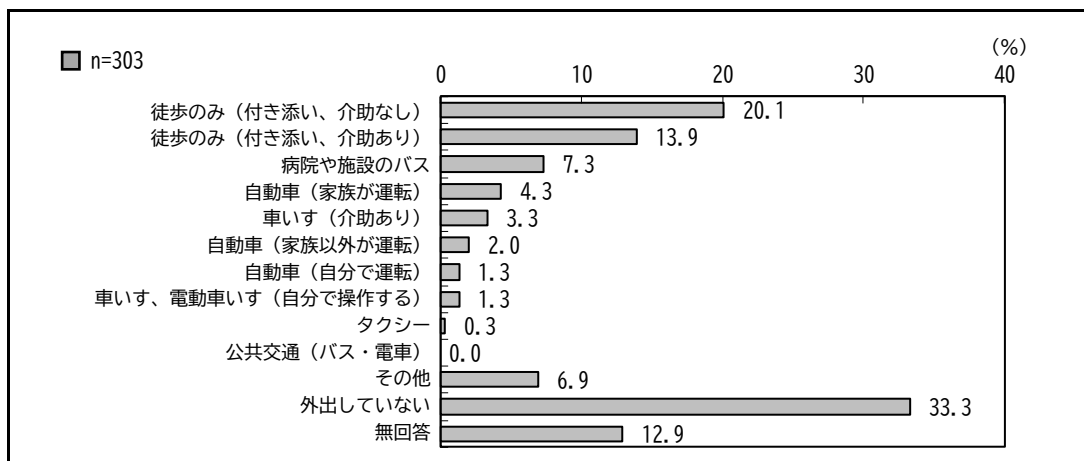
図表 日用品の買い物（複数回答／全体）



③散歩などの体を動かす活動

散歩などの体を動かす活動の際の移動手段を全体でみると、「徒歩のみ（付き添い、介助なし）」（20.1%）、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」（13.9%）、「病院や施設のバス」（7.3%）、「自動車（家族が運転）」（4.3%）、「車いす（介助あり）」（3.3%）などとなっている。なお、「外出していない」は33.3%となっている。

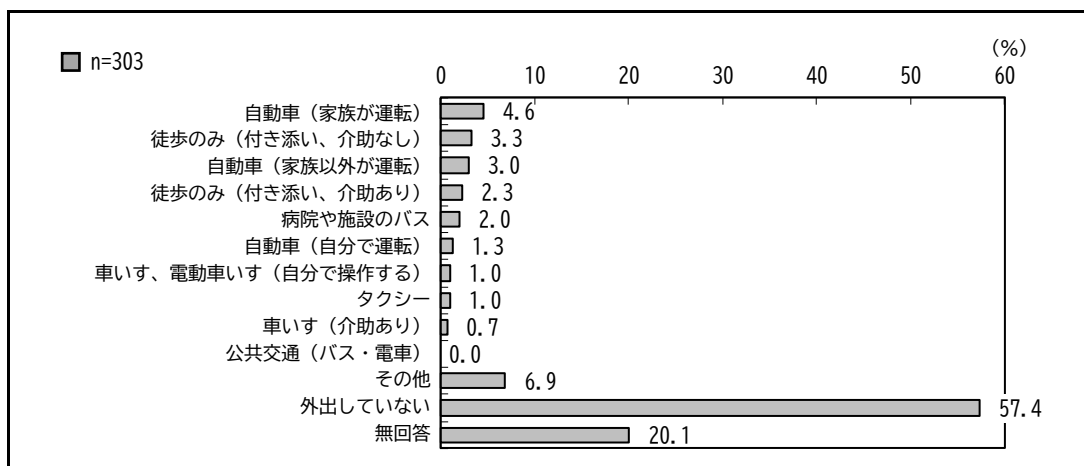
図表 散歩などの体を動かす活動（複数回答／全体）



④趣味活動

趣味活動の際の移動手段を全体でみると、「自動車（家族が運転）」（4.6％）が最も多く、次いで「徒歩のみ（付き添い、介助なし）」（3.3％）、「自動車（家族以外が運転）」（3.0％）、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」（2.3％）、「病院や施設のバス」（2.0％）、「自動車（自分で運転）」（1.3％）などとなっている。なお、「外出していない」は 57.4％となっている。

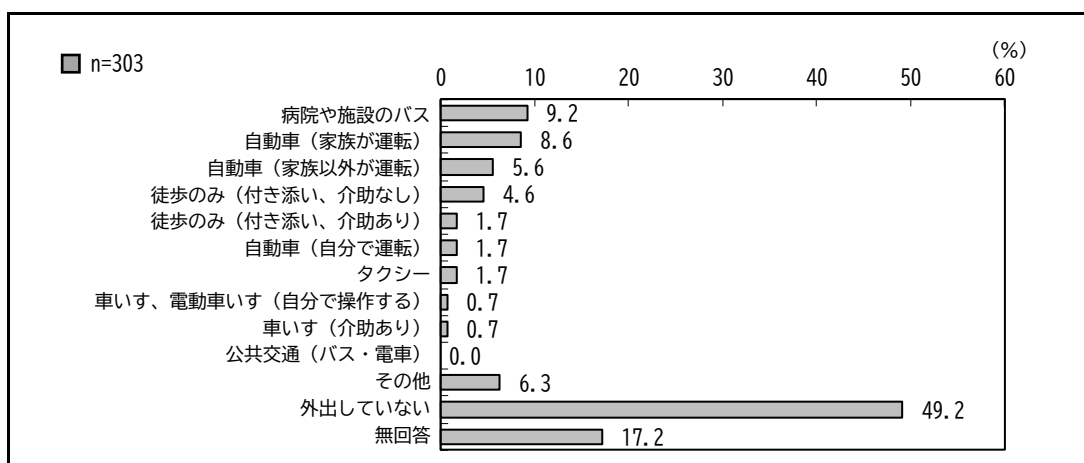
図表 趣味活動（複数回答／全体）



⑤友人・知人との交流の場への参加

友人・知人との交流の場への参加の際の移動手段を全体でみると、「病院や施設のバス」（9.2％）が最も多く、次いで「自動車（家族が運転）」（8.6％）、「自動車（家族以外が運転）」（5.6％）、「徒歩のみ（付き添い、介助なし）」（4.6％）、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」（1.7％）、「自動車（自分で運転）」（1.7％）、「タクシー」（同率 1.7％）などとなっている。なお、「外出していない」は 49.2％となっている。

図表 友人・知人との交流の場への参加（複数回答／全体）



2 医療について

(1) かかりつけの医師はいるか

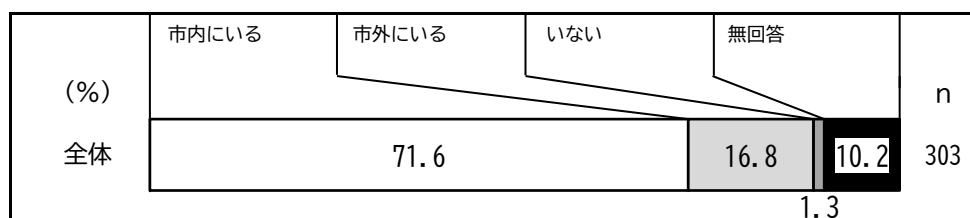
問7 かかりつけの医師はいますか。(○は1つ)



- 「市内にいる」が7割強、「市外にいる」が1割台を占める。「いない」はごくわずかにとどまる。

かかりつけの医師はいるかたずねたところ、「市内にいる」が71.6%、「市外にいる」が16.8%、「いない」が1.3%となっている。

図表 かかりつけの医師はいるか



(2) かかりつけの医師に相談、指導を受けているか

※問7で「1. 市内にいる」、「2. 市外にいる」に○をつけた方のみお答えください。

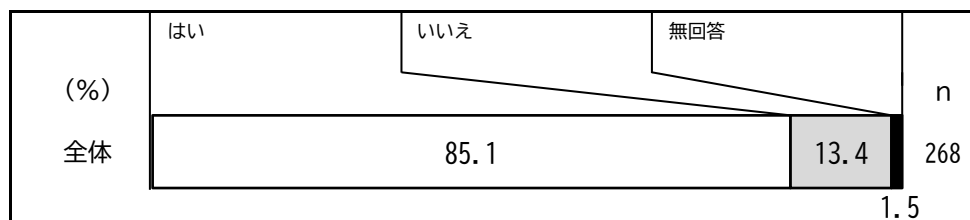
問7-1 かかりつけの医師に、からだの様子・在宅での療養について相談し、指導を受けていますか。(○は1つ)



- 「はい」が8割台、「いいえ」が1割台を占める。

かかりつけの医師に相談、指導を受けているかたずねたところ、「はい」が85.1%、「いいえ」が13.4%となっている。

図表 かかりつけの医師に相談、指導を受けているか



(3) かかりつけの歯科医はいるか

問8 かかりつけの歯科医はいますか。(○は1つ)



- 「市内にいる」が4割台、「市外にいる」が1割弱を占める。「いない」は3割台を占める。

かかりつけの歯科医はいるかたずねたところ、「市内にいる」が43.6%、「いない」が35.6%、「市外にいる」が8.6%となっている。

図表 かかりつけの歯科医はいるか

(%)	市内にいる	市外にいる	いない	無回答	n
全体	43.6	8.6	35.6	12.2	303

(4) かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか

※問8で「1. 市内にいる」、「2. 市外にいる」に○をつけた方のみお答えください。

問8-1 かかりつけの歯科医に、歯やお口の相談をし、指導を受けていますか。
(○は1つ)



- 「はい」が7割強、「いいえ」が3割弱を占める。

かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているかたずねたところ、「はい」が70.9%、「いいえ」が28.5%となっている。

図表 かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか

(%)	はい	いいえ	無回答	n
全体	70.9	28.5	0.6	158

(5) 処方薬や市販薬の相談ができる薬剤師はいるか

問9 処方薬や市販薬について、相談できる薬剤師（薬局）がいますか。（○は1つ）



- 「はい」が6割弱、「いいえ」が3割台を占める。

処方薬や市販薬の相談ができる薬剤師はいるかたずねたところ、「はい」が59.1%、「いいえ」が33.7%となっている。

図表 処方薬や市販薬の相談ができる薬剤師はいるか

	はい	いいえ	無回答	n
(%)				
全体	59.1	33.7	7.3	303

(6) 病院等で処方された薬を飲みきっているか

問10 病院等で処方された場合に、薬を飲みきっていますか。（○は1つ）



- 「すべて飲みきる」が5割台、「おおむね飲みきる」が2割強を占める。

病院等で処方された薬を飲みきっているかたずねたところ、「すべて飲みきる」が53.8%、「おおむね飲みきる」が21.1%、「少し残る」が14.9%、「多く残る」が4.3%となっている。

図表 病院等で処方された薬を飲みきっているか

	すべて飲みきる	おおむね飲みきる	少し残る	多く残る	無回答	n
(%)						
全体	53.8	21.1	14.9	4.3	5.9	303

3 在宅の福祉施策について

(1) 生活支援サービスの認知状況と今後の利用意向

問 11 市で実施している生活支援サービスを知っていますか。また、利用したいですか。
(それぞれに○は1つ)



- 紙おむつ等の支給は認知度、利用意向がともに高い。

①認知状況

生活支援サービスの認知状況については、下図のとおりとなっている。

紙おむつ等の支給は「知っている」が7割弱を占めており、他の項目よりも高くなっている。介護支援しあわせポイントは「知らない」が8割弱を占めている。

図表 認知状況

	知っている	知らない	無回答	n
(%)				
① はり・きゅう・マッサージ施術費助成	26.4	59.1	14.5	303
② 介護支援しあわせポイント	5.6	79.2	15.2	303
③ 緊急通報システムの貸与	20.5	63.0	16.5	303
④ 救急医療情報キットの配付	14.5	66.7	18.8	303
⑤ 高齢者等住宅整備資金の貸付	23.1	58.7	18.2	303
⑥ 家具転倒防止器具取付事業	21.5	60.1	18.5	303
⑦ 紙おむつ等の支給	68.0	23.4	8.6	303
⑧ 理容師派遣	26.4	49.5	24.1	303
⑨ 家族介護慰労金支給	10.9	60.4	28.7	303
⑩ 高齢者タクシー料金助成事業	33.7	50.8	15.5	303

②今後の利用意向

生活支援サービスの今後の利用意向については、下図のとおりとなっている。
紙おむつ等の支給は「利用したい（利用し続けたい）」が5割強を占めている。

図表 今後の利用意向

	(%)	利用したい (利用し続けたい)	利用の予定は ない	わからない	無回答	n
① はり・きゅう・マッサージ施術費助成	14.5	34.0	29.7	21.8	303	
② 介護支援しあわせポイント	6.9	39.9	30.7	22.4	303	
③ 緊急通報システムの貸与	14.2	32.7	29.4	23.8	303	
④ 救急医療情報キットの配付	19.1	25.1	30.4	25.4	303	
⑤ 高齢者等住宅整備資金の貸付	11.9	37.0	29.0	22.1	303	
⑥ 家具転倒防止器具取付事業	15.5	35.3	26.4	22.8	303	
⑦ 紙おむつ等の支給	50.5	14.9	15.2	19.5	303	
⑧ 理容師派遣	13.9	33.0	24.4	28.7	303	
⑨ 家族介護慰労金支給	12.5	21.1	32.7	26.4	303	
⑩ 高齢者タクシー料金助成事業	26.4	25.1	26.4	22.1	303	

4 災害時のことについて

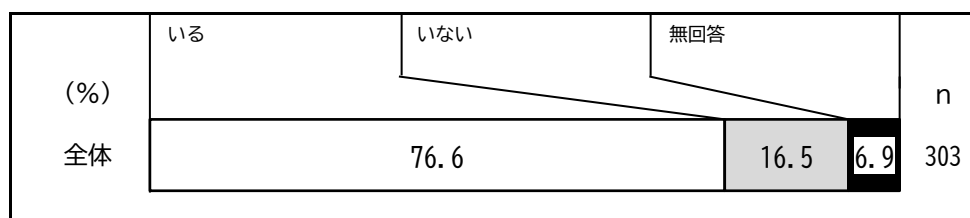
(1) 災害時の避難を助けてくれる人はいるか

問 12 地震などの災害時の避難を助けてくれる人はいますか。(○は1つ)

- 「いる」が7割台、「いない」が1割台を占める。

災害時の避難を助けてくれる人がいるかたずねたところ、「いる」が76.6%、「いない」が16.5%となっている。

図表 災害時の避難を助けてくれる人はいるか



(2) 災害時の避難を助けてくれる人は誰か

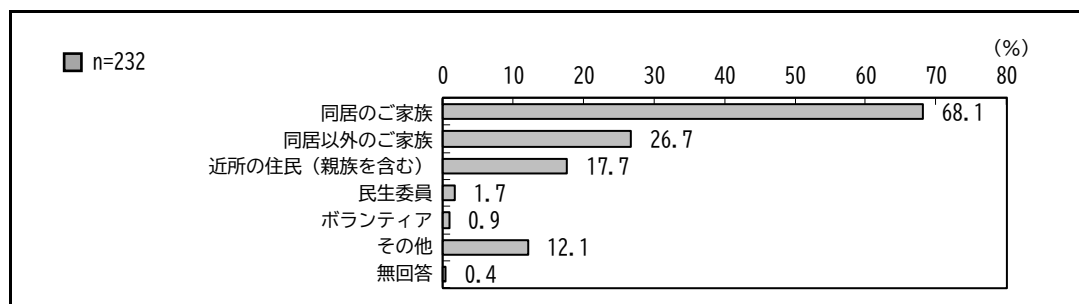
※問 12 で「1. いる」に○をつけた方のみお答えください。

問 12-1 地震などの災害時の避難を助けてくれる人はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「同居のご家族」が他を大きく引き離して7割弱で第1位を占める。

災害時の避難を助けてくれる人は誰かたずねたところ、「同居のご家族」(68.1%)が最も多く、次いで「同居以外のご家族」(26.7%)、「近所の住民(親族を含む)」(17.7%)、「民生委員」(1.7%)、「ボランティア」(0.9%)などとなっている。

図表 災害時の避難を助けてくれる人は誰か(複数回答/全体)



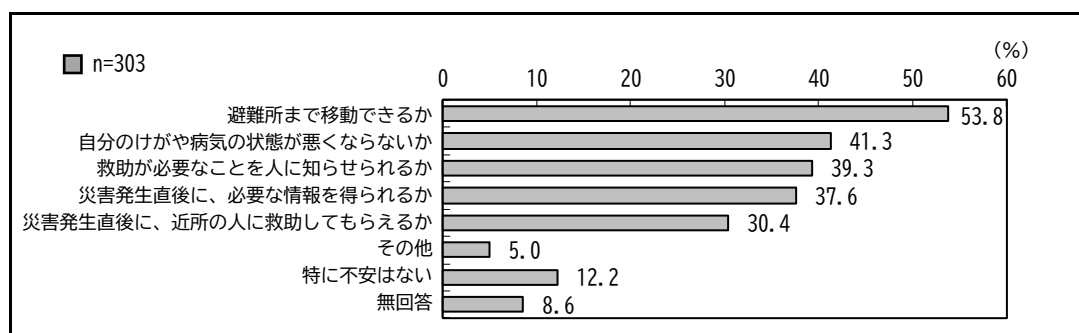
(3) 災害のことで不安に感じていること

問 13 地震などの災害時のことで、あなたが普段不安に感じていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「避難所まで移動できるか」が5割台で第1位を占める。「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」、「救助が必要なことを人に知らせられるか」、「災害発生直後に、必要な情報を得られるか」などが続く。

災害のことで不安に感じていることをたずねたところ、「避難所まで移動できるか」(53.8%)が最も多く、次いで「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」(41.3%)、「救助が必要なことを人に知らせられるか」(39.3%)、「災害発生直後に、必要な情報を得られるか」(37.6%)、「災害発生直後に、近所の人に救助してもらえるか」(30.4%)などとなっている。なお、「特に不安はない」は12.2%となっている。

図表 災害のことで不安に感じていること（複数回答／全体）



5 認知症に関する相談窓口の把握について

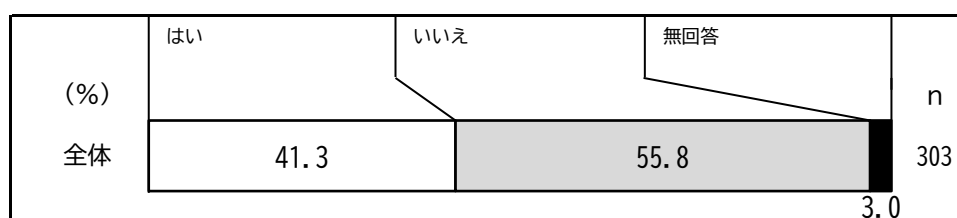
(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか

問 14 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つ)

- 「いいえ」が5割台、「はい」が4割強を占める。

認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるかたずねたところ、「いいえ」が55.8%、「はい」が41.3%となっている。

図表 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか



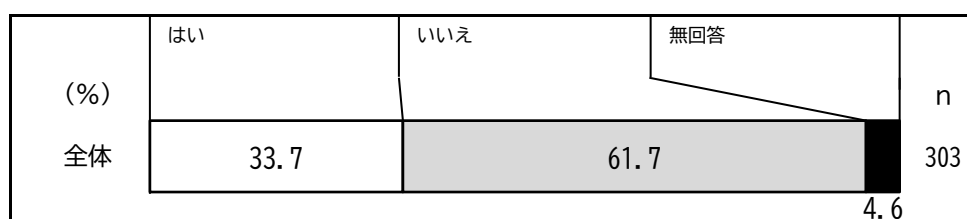
(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

問 15 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

- 「いいえ」が6割強、「はい」が3割台を占める。

認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「いいえ」が61.7%、「はい」が33.7%となっている。

図表 認知症に関する相談窓口を知っているか



(3) 認知症について今後力を入れてほしい取り組み

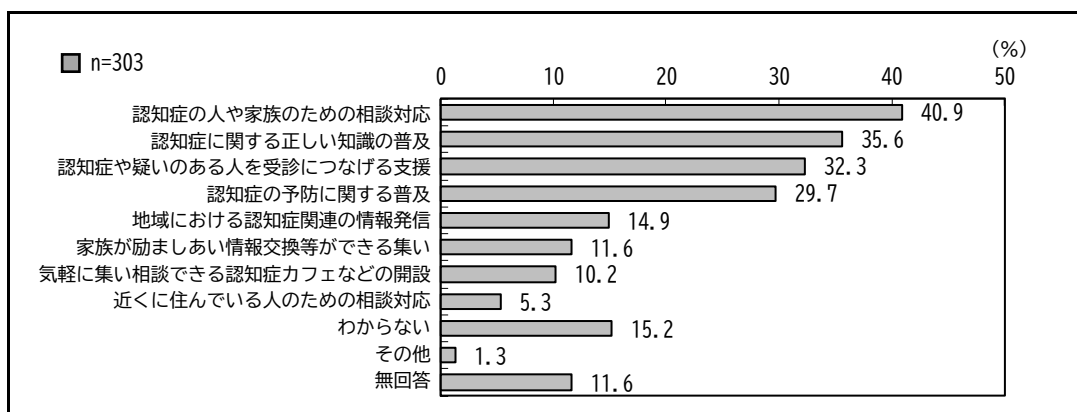
問 16 認知症は誰もがなりうる脳の病気であり、地域のあたたかい理解と支援が必要です。今後、力を入れてほしい取り組みはどれですか。(あてはまるもの3つまで○)
【複数回答】



- 「認知症の人や家族のための相談対応」が4割強で第1位を占める。「認知症に関する正しい知識の普及」、「認知症や疑いのある人を受診につなげる支援」、「認知症の予防に関する普及」などが続く。

認知症について今後力を入れてほしい取り組みについてたずねたところ、「認知症の人や家族のための相談対応」(40.9%)が最も多く、次いで「認知症に関する正しい知識の普及」(35.6%)、「認知症や疑いのある人を受診につなげる支援」(32.3%)、「認知症の予防に関する普及」(29.7%)、「地域における認知症関連の情報発信」(14.9%)、「家族が励ましあい情報交換等ができる集い」(11.6%)、「気軽に集い相談できる認知症カフェなどの開設」(10.2%)、「近くに住んでいる人のための相談対応」(5.3%)などとなっている。

図表 認知症について今後力を入れてほしい取り組み（複数回答／全体）



6 地域での活動について

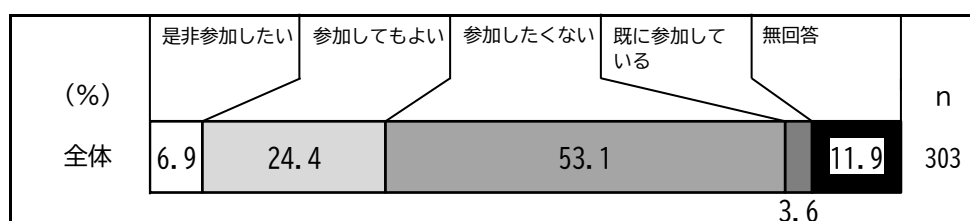
(1) 地域活動に参加者として参加したいか

問 17 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

- 「参加したくない」が5割台、「参加してもよい」が2割台を占める。

地域活動に参加者として参加したいかたずねたところ、「参加したくない」が53.1%、「参加してもよい」が24.4%、「是非参加したい」が6.9%、「既に参加している」が3.6%となっている。

図表 地域活動に参加者として参加したいか



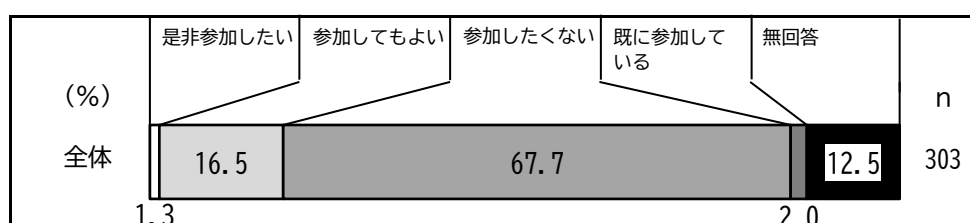
(2) 地域活動に企画・運営として参加したいか

問 18 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)

- 「参加したくない」が7割弱、「参加してもよい」が1割台を占める。

地域活動に企画・運営として参加したいかたずねたところ、「参加したくない」が67.7%、「参加してもよい」が16.5%、「既に参加している」が2.0%、「是非参加したい」が1.3%となっている。

図表 地域活動に企画・運営として参加したいか



7 地域で暮らす意向について

(1) 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか

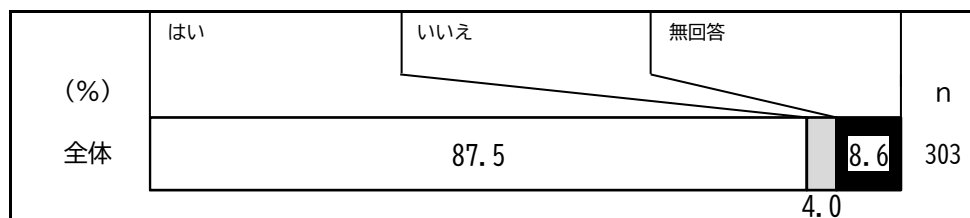
問 19 住み慣れた地域で、最期まで暮らし続けたいと思いますか。(○は1つ)



- 「はい」が8割台を占める。「いいえ」は1割に満たない。

住み慣れた地域で最期まで暮らし続けたいかたずねたところ、「はい」が87.5%、「いいえ」が4.0%となっている。

図表 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか



(2) 地域で暮らし続けたい理由、暮らし続けたくない理由

問 19-1 その理由をお書きください。

① 「はい」の理由

問 19 で「1. はい」と答えた方に、その理由をたずねたところ、下記のような回答があった。

表 地域で暮らし続けたい理由

- 長年すみなれた地域だから。
- 生まれた町で知り合いがいるため。
- 知らない所で暮らすのは不安。
- 近所の人々友達がたくさん居るから。
- 環境が良いから。
- 終の棲家ときめたから。
- 家族や知人がいる所で声をかけてもらったり話をしたりして、ゆっくり過ごし安心して最後を迎えたい。
- 近所の人々が昔からいるので相談やいろんな面で安心。

等

②「いいえ」の理由

問 19 で「2.いいえ」と答えた方に、その理由をたずねたところ、下記のような回答があった。

表 地域で暮らし続けたくない理由

○生まれた所に帰りたい。	
○交通に不便。	
○この地区に愛着はない。	
○施設での生活を望んでいるため。	
○暖かい所で暮したい。	等

8 人生の最終段階において過ごす場について

(1) 将来最期を迎えたい場

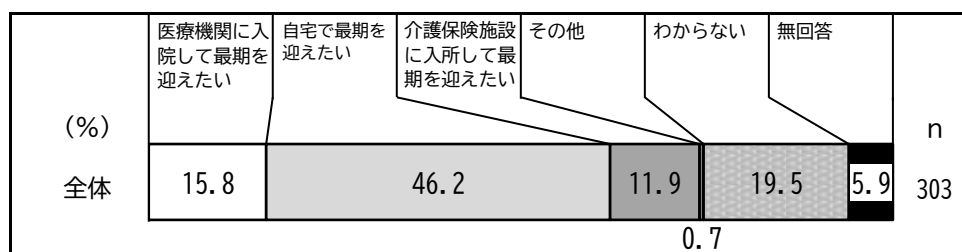
問 20 将来自分が最期を迎える場として、どこを希望しますか。(○は1つ)



- 「自宅で最期を迎えたい」が4割台、「医療機関に入院して最期を迎えたい」が1割台を占める。

将来最期を迎えたい場についてたずねたところ、「自宅で最期を迎えたい」が46.2%、「医療機関に入院して最期を迎えたい」が15.8%、「介護保険施設に入所して最期を迎えたい」が11.9%となっている。なお、「わからない」は19.5%となっている。

図表 将来最期を迎えたい場



(2) 家族が最期を迎える場としてよいところ

問 21 あなたの家族が最期を迎える場として、どこが本人のためによいと思いますか。
(○は1つ)

- 「自宅」が3割台、「医療機関」が2割台を占める。

家族が最期を迎える場としてよいところについてたずねたところ、「自宅」が36.0%、「医療機関」が23.1%、「介護保険施設」が12.2%となっている。なお、「わからない」は22.8%となっている。

図表 家族が最期を迎える場としてよいところ

	医療機関	自宅	介護保険施設	その他	わからない	無回答	n
(%)							
全体	23.1	36.0	12.2	0.3	22.8	5.6	303

9 成年後見制度について

(1) 成年後見制度を知っているか

問 22 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

- 「知っている。目的や内容についても理解している」と「知っている。しかし目的や内容は知らない」を合わせた「知っている」が4割台、「知らない」が4割強を占める。

成年後見制度を知っているかたずねたところ、「知らない」が42.6%、「知っている。目的や内容についても理解している」が23.4%、「知っている。しかし目的や内容は知らない」が23.1%となっている。

図表 成年後見制度を知っているか

	知っている。目的や内容についても理解している	知っている。しかし目的や内容は知らない	知らない	無回答	n
(%)					
全体	23.4	23.1	42.6	10.9	303

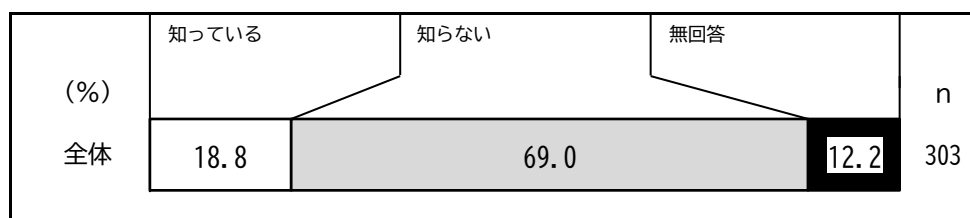
(2) 成年後見制度についての相談窓口を知っているか

問 23 成年後見制度についての相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

- 「知っている」が2割弱、「知らない」が7割弱を占める。

成年後見制度についての相談窓口を知っているかたずねたところ、「知らない」が69.0%、「知っている」が18.8%となっている。

図表 成年後見制度についての相談窓口を知っているか



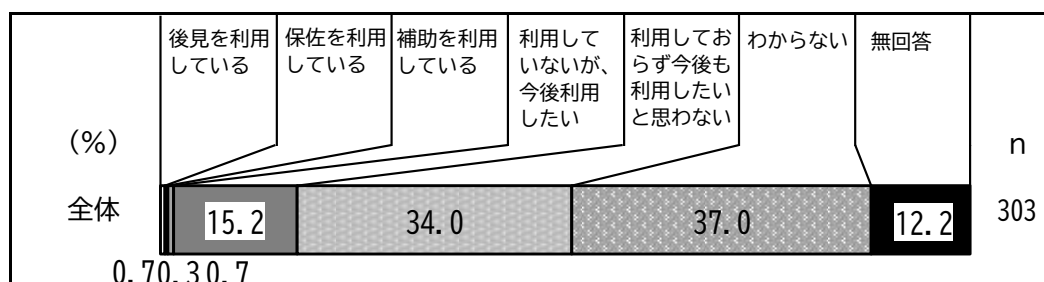
(3) 成年後見制度の利用状況

問 24 あなたは「成年後見制度」を利用していますか。(○は1つ)

- 「利用しておらず今後も利用したいと思わない」が3割台で第1位を占める。「利用していないが、今後利用したい」、「後見を利用している」、「補助を利用している」などが続く。

成年後見制度を利用しているかたずねたところ、「わからない」(37.0%)が最も多く、次いで「利用しておらず今後も利用したいと思わない」(34.0%)、「利用していないが、今後利用したい」(15.2%)、「後見を利用している」、「補助を利用している」(同率0.7%)、「保佐を利用している」(0.3%)などとなっている。

図表 成年後見制度の利用



10 家族等介護者の状況について

(1) 日常的に介護を受けているか

問 25 あなたは、ご家族や親族の方から日常的に介護を受けていますか。(○は1つ)



- 「受けている」が7割弱、「受けていない」が2割弱を占める。

ご家族や親族の方から日常的に介護を受けているかたずねたところ、「受けている」が68.0%、「受けていない」が18.8%となっている。

図表 日常的に介護を受けているか

(%)	受けている	受けていない	無回答	n
全体	68.0	18.8	13.2	303

(2) 介護についての不安や悩みはあるか

※問 25 で「1. 受けている」に○をつけた方のみお答えください。

問 26 介護について、不安なことや悩みがありますか。(○は1つ)



- 「ある」が6割強、「ない」が2割強を占める。

介護の不安や悩みはあるかたずねたところ、「ある」が62.6%、「ない」が20.4%となっている。

図表 介護についての不安や悩みはあるか

(%)	ある	ない	無回答	n
全体	62.6	20.4	17.0	206

(3) 介護の不安や悩みは何か

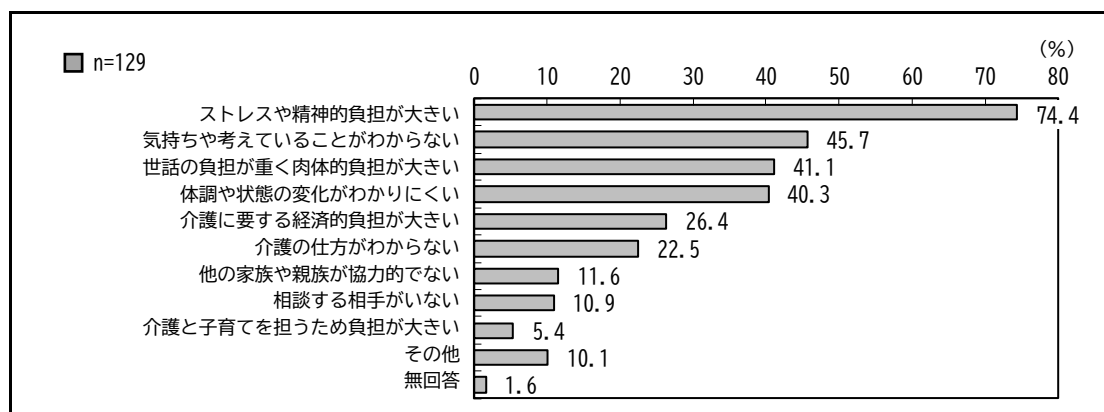
※問 26 で「1. ある」に○をつけた方のみお答えください。

問 26-1 それはどのような内容ですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「ストレスや精神的負担が大きいこと」が7割台で第1位を占める。「気持ちや考えていることがわからないと感じること」、「食事や排泄等の負担が重く肉体的負担が大きいこと」、「体調や状態の変化がわかりにくいこと」、「介護に要する経済的負担が大きいこと」などが続く。

介護の不安や悩みの内容についてたずねたところ、「ストレスや精神的負担が大きいこと」が74.4%と最も多く、次いで「気持ちや考えていることがわからないと感じること」が45.7%、「食事や排泄等の負担が重く肉体的負担が大きいこと」が41.1%、「体調や状態の変化がわかりにくいこと」が40.3%、「介護に要する経済的負担が大きいこと」が26.4%、「介護の仕方がわからないこと」が22.5%、「他の家族や親族が協力的でないこと」が11.6%、「相談する相手がいないこと」が10.9%、「介護と子育てを担うため負担が大きいこと」が5.4%などとなっている。

図表 介護の不安や悩みは何か（複数回答／全体）



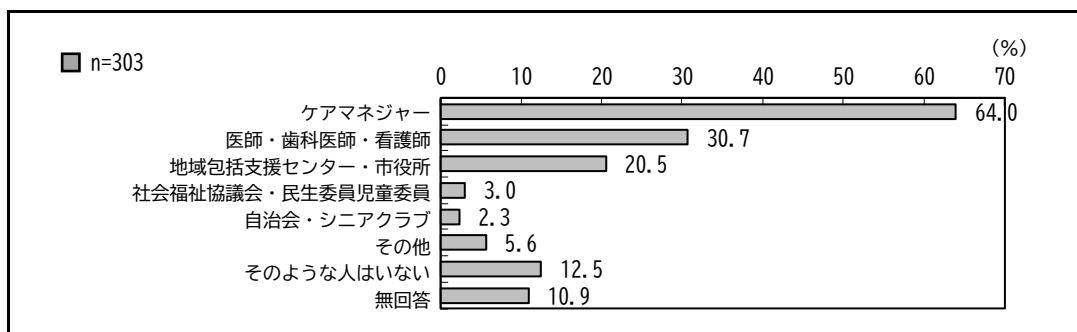
(4) 家族や友人・知人以外の相談相手

問 27 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「ケアマネジャー」が他の相談相手を大きく上回り、6割台で第1位を占める。

家族や友人・知人以外の相談相手についてたずねたところ、「ケアマネジャー」(64.0%)が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(30.7%)、「地域包括支援センター・市役所」(20.5%)、「社会福祉協議会・民生委員児童委員」(3.0%)、「自治会・シニアクラブ」(2.3%)となっている。

図表 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答／全体）



袖ヶ浦市

介護保険・高齢者福祉に関する調査
（要介護３・４・５対象）

結果報告書

令和５年３月

袖ヶ浦市

目 次

I	調査の概要及び対象者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査結果報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
3	対象者の属性	2
(1)	回答者	2
(2)	性別	2
(3)	年齢	2
(4)	居住地区	3
(5)	家族構成	3
II	調査結果	4
1	外出について	4
(1)	外出の頻度	4
(2)	外出する際の移動手段について	5
2	医療について	8
(1)	かかりつけの医師はいるか	8
(2)	かかりつけの医師に相談、指導を受けているか	8
(3)	かかりつけの歯科医はいるか	9
(4)	かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか	9
(5)	処方薬や市販薬の相談ができる薬剤師はいるか	10
(6)	病院等で処方された薬を飲みきっているか	10
3	在宅の福祉施策について	11
(1)	生活支援サービスの認知状況と今後の利用意向	11
4	災害時のことについて	13
(1)	災害時の避難を助けてくれる人はいるか	13
(2)	災害時の避難を助けてくれる人は誰か	13
(3)	災害のことで不安に感じていること	14
5	認知症に関する相談窓口の把握について	15
(1)	認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか	15
(2)	認知症に関する相談窓口を知っているか	15
(3)	認知症について今後力を入れてほしい取り組み	16
6	地域で暮らす意向について	17
(1)	住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか	17

(2) 地域で暮らし続けたい理由、暮らし続けたくない理由.....	17
7 人生の最終段階において過ごす場について.....	18
(1) 将来最期を迎えたい場.....	18
(2) 家族が最期を迎える場としてよいところ.....	19
8 成年後見制度について.....	19
(1) 成年後見制度を知っているか.....	19
(2) 成年後見制度についての相談窓口を知っているか.....	20
(3) 成年後見制度の利用.....	20
9 家族等介護者の状況について.....	21
(1) 日常的に介護を受けているか.....	21
(2) 介護についての不安や悩みはあるか.....	21
(3) 介護の不安や悩みは何か.....	22
(4) 家族や友人・知人以外の相談する相手.....	23

I 調査の概要及び対象者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、国のモデル事業に基づき、袖ヶ浦市の日常生活圏域における高齢者の生活実態やニーズを詳細に把握し、袖ヶ浦市高齢者福祉計画の見直し及び第9期介護保険事業計画の策定のための基礎資料とするために実施したものである。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	市内にお住まいの65歳以上の方で、要介護3、要介護4、要介護5に認定されている方
配布数	259票
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和4年12月
調査地域	袖ヶ浦市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	259
有効回収数	128
有効回収率	49.4%

2 本調査結果報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

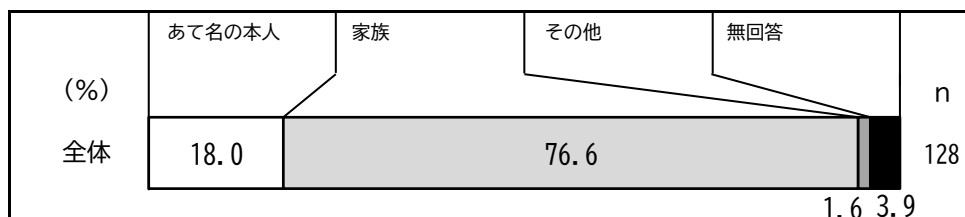
- ①比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100%を上下する場合がある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、したがって各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

3 対象者の属性

(1) 回答者

回答者は、「家族」が76.6%、「あて名の本人」が18.0%、「その他」が1.6%となっている。

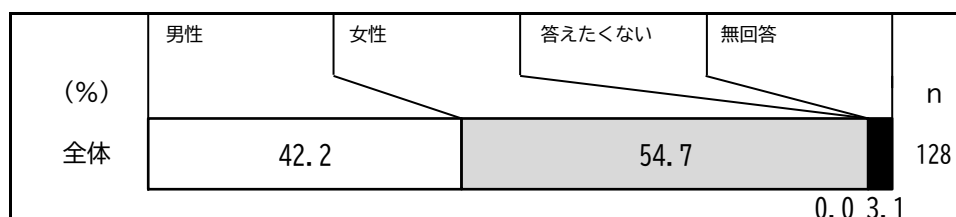
図表 回答者



(2) 性別

対象者の性別は、「女性」が54.7%、「男性」が42.2%となっている。

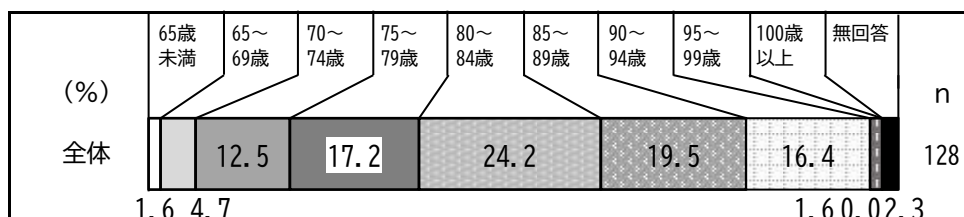
図表 対象者の性別



(3) 年齢

対象者の年齢は、「80～84歳」が24.2%、「85～89歳」が19.5%、「75～79歳」が17.2%、「90～94歳」が16.4%、「70～74歳」が12.5%、「65～69歳」が4.7%、「65歳未満」が1.6%、「95～99歳」が1.6%、「100歳以上」が0.0%となっている。

図表 対象者の年齢



(4) 居住地区

対象者の居住地区は、「長浦地区」が 32.8%、「昭和地区」が 27.3%、「平岡地区」が 13.3%、「根形地区」が 11.7%、「中川・富岡地区」が 11.7%となっている。

図表 対象者の居住地区

	昭和地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川・富岡地区	無回答	n
(%)							
全体	27.3	32.8	11.7	13.3	11.7	3.1	128

(5) 家族構成

対象者の家族構成は、「息子・娘との2世帯」が 34.4%、「夫婦2人暮らし（配偶者 65歳以上）」が 32.8%、「1人暮らし」が 9.4%、「夫婦2人暮らし（配偶者 64歳以下）」が 1.6%となっている。

図表 対象者の家族構成

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者64歳以下)	息子・娘との2世帯	その他	無回答	n
(%)							
全体	9.4	32.8	1.6	34.4	18.0	3.9	128

Ⅱ 調査結果

1 外出について

(1) 外出の頻度

問5 週に1回以上は外出していますか。(○は1つ) ※散歩も含みます。



- 「ほとんど外出しない」が4割台、「週2～4回」が3割強となっている。

外出の頻度についてたずねたところ、「ほとんど外出しない」が44.5%、「週2～4回」が30.5%、「週1回」が10.9%、「週5回以上」が6.3%となっている。

図表 外出の頻度

	ほとんど外出 しない	週1回	週2～4回	週5回以上	無回答	n
(%)						
全体	44.5	10.9	30.5	6.3	7.8	128

(2) 外出する際の移動手段について

問6 以下のような用事の際、どのような移動手段で目的地まで行っていますか。
※①～⑤それぞれに回答してください。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



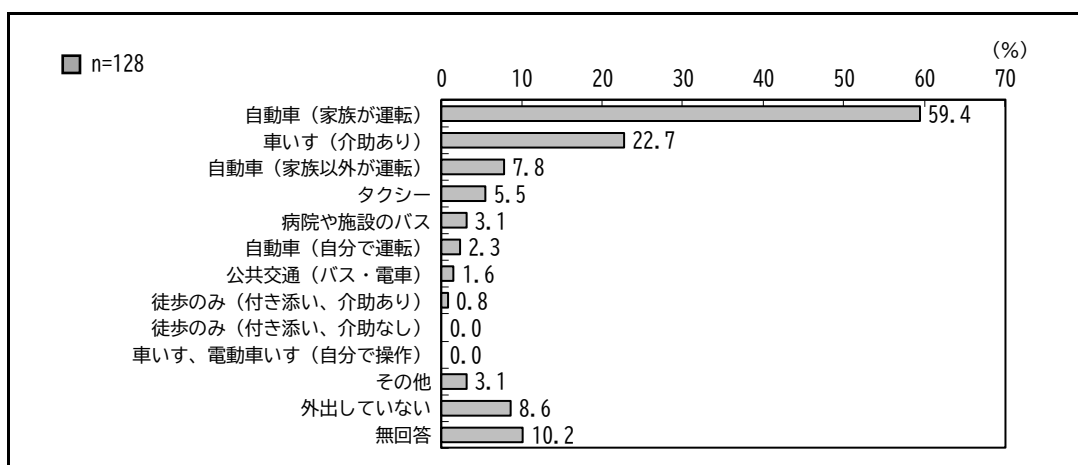
- 通院や日用品の買い物では「自動車（家族が運転）」が6割弱で第1位を占める。通院以外のすべての用事で「外出していない」の割合が最も高くなっている。

①通院

通院の移動手段を全体でみると、「自動車（家族が運転）」(59.4%)が最も多く、次いで「車いす（介助あり）」(22.7%)、「自動車（家族以外が運転）」(7.8%)、「タクシー」(5.5%)、「病院や施設のバス」(3.1%)、「自動車（自分で運転）」(2.3%)、「公共交通（バス・電車）」(1.6%)、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」(0.8%)、などとなっている。

なお、「外出していない」は8.6%となっている。

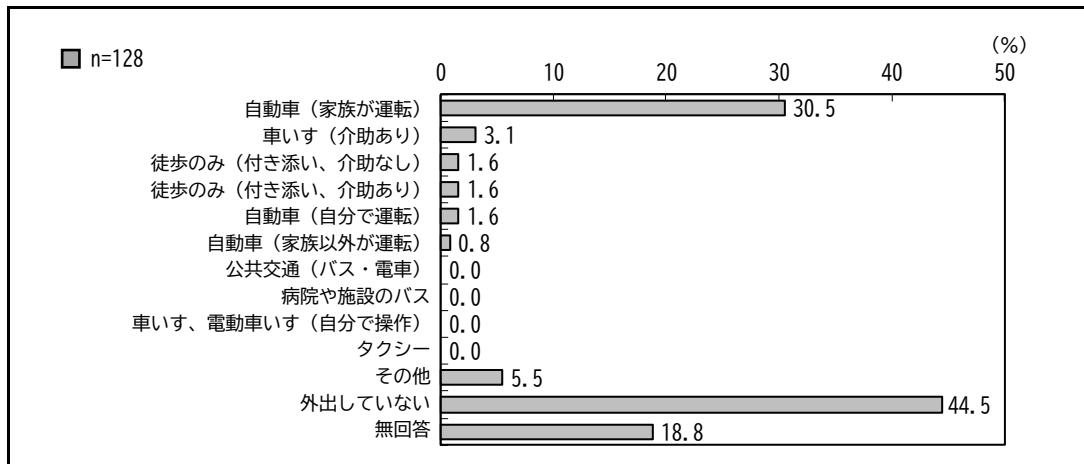
図表 通院（複数回答／全体）



②日用品の買い物

日用品の買い物の移動手段を全体でみると、「自動車（家族が運転）」（30.5％）が最も多く、次いで「車いす（介助あり）」（3.1％）、「徒歩のみ（付き添い、介助なし）」・「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」・「自動車（自分で運転）」（同率 1.6％）、「自動車（家族以外が運転）」（0.8％）などとなっている。なお、「外出していない」は 44.5％となっている。

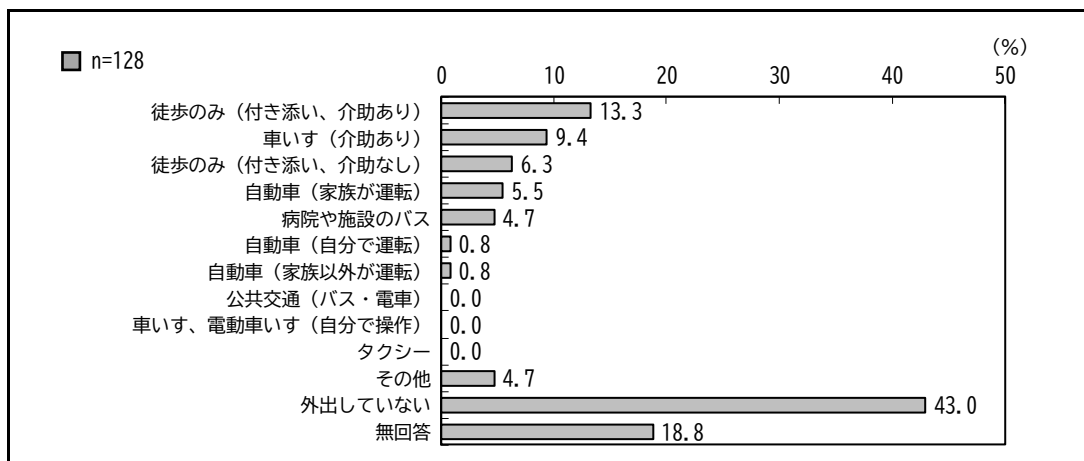
図表 日用品の買い物（複数回答／全体）



③散歩などの体を動かす活動

散歩などの体を動かす活動の移動手段を全体でみると、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」（13.3％）が最も多く、次いで「車いす（介助あり）」（9.4％）、「徒歩のみ（付き添い、介助なし）」（6.3％）、「自動車（家族が運転）」（5.5％）、「病院や施設のバス」（4.7％）、「自動車（自分で運転）」・「自動車（家族以外が運転）」（同率 0.8％）などとなっている。なお、「外出していない」は 43.0％となっている。

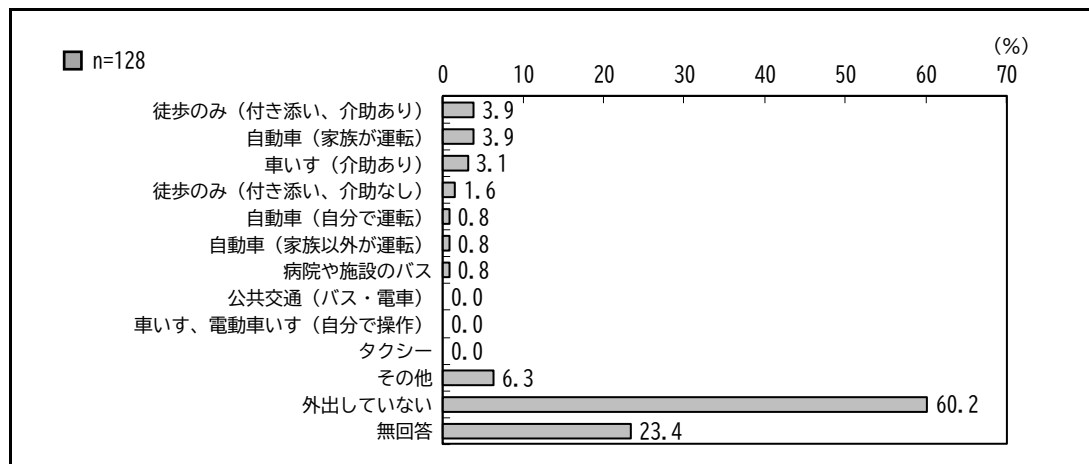
図表 散歩などの体を動かす活動（複数回答／全体）



④趣味活動

趣味活動の移動手段を全体でみると、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」・「自動車（家族が運転）」（同率 3.9%）が最も多く、次いで「車いす（介助あり）」（3.1%）、「徒歩のみ（付き添い、介助なし）」（1.6%）、「自動車（自分で運転）」・「自動車（家族以外が運転）」・「病院や施設のバス」（同率 0.8%）などとなっている。なお、「外出していない」は 60.2% となっている。

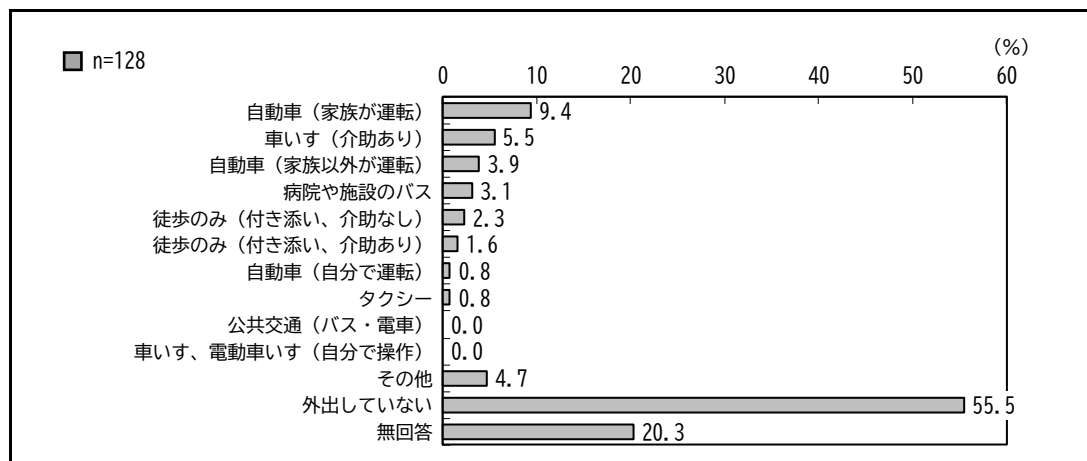
図表 趣味活動（複数回答／全体）



⑤友人・知人との交流の場への参加

友人・知人との交流の場への参加の移動手段を全体でみると、「自動車（家族が運転）」（9.4%）が最も多く、次いで「車いす（介助あり）」（5.5%）、「自動車（家族以外が運転）」（3.9%）、「病院や施設のバス」（3.1%）、「徒歩のみ（付き添い、介助なし）」（2.3%）、「徒歩のみ（付き添い、介助あり）」（1.6%）、「自動車（自分で運転）」・「タクシー」（同率 0.8%）などとなっている。なお、「外出していない」は 55.5% となっている。

図表 友人・知人との交流の場への参加（複数回答／全体）



2 医療について

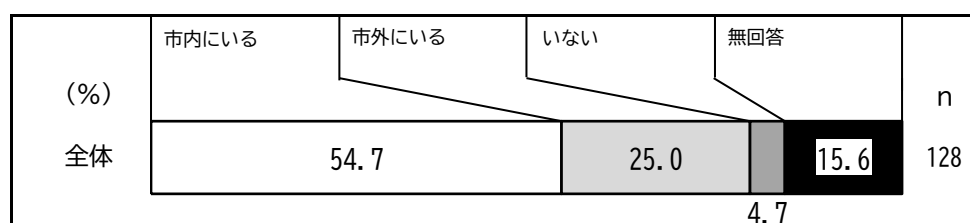
(1) かかりつけの医師はいるか

問7 かかりつけの医師はいますか。(○は1つ)

- 「市内にいる」が5割台、「市外にいる」が2割台を占める。

かかりつけの医師はいるかたずねたところ、「市内にいる」が54.7%、「市外にいる」が25.0%、「いない」が4.7%となっている。

図表 かかりつけの医師はいるか



(2) かかりつけの医師に相談、指導を受けているか

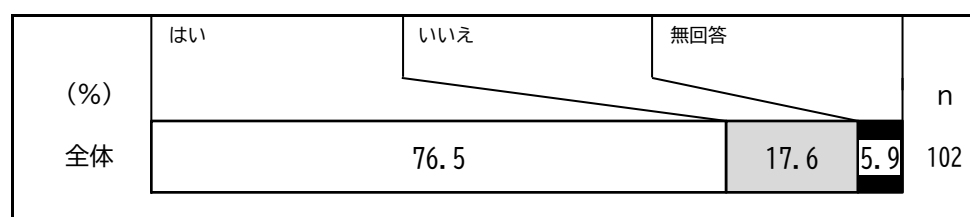
※問7で「1. 市内にいる」、「2. 市外にいる」に○をつけた方のみお答えください。

問7-1 かかりつけの医師に、からだの様子・在宅での療養について相談し、指導を受けていますか。(○は1つ)

- 「はい」が7割台、「いいえ」は2割弱を占めている。

かかりつけの医師に相談、指導を受けているかたずねたところ、「はい」が76.5%、「いいえ」が17.6%となっている。

図表 かかりつけの医師に相談、指導を受けているか



(3) かかりつけの歯科医はいるか

問8 かかりつけの歯科医はいますか。(○は1つ)

- 「市内にいる」が5割弱、「市外にいる」が1割強、「いない」は2割台を占める。

かかりつけの歯科医はいるかたずねたところ、「市内にいる」が48.4%、「いない」が24.2%「市外にいる」が10.2%、となっている。

図表 かかりつけの歯科医はいるか

	市内にいる	市外にいる	いない	無回答	n
(%)					
全体	48.4	10.2	24.2	17.2	128

(4) かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか

※問8で「1. 市内にいる」、「2. 市外にいる」に○をつけた方のみお答えください。

問8-1 かかりつけの歯科医に、歯やお口の相談をし、指導を受けていますか。(○は1つ)

- 「はい」が6割台、「いいえ」が3割弱を占める。

かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているかたずねたところ、「はい」が66.7%、「いいえ」が29.3%となっている。

図表 かかりつけの歯科医に相談、指導を受けているか

	はい	いいえ	無回答	n
(%)				
全体	66.7	29.3	4.0	75

(5) 処方薬や市販薬の相談ができる薬剤師はいるか

問9 処方薬や市販薬について、相談できる薬剤師（薬局）がいますか。（○は1つ）

- 「はい」が5割弱、「いいえ」が3割台を占める。

処方薬や市販薬の相談ができる薬剤師はいるかたずねたところ、「はい」が49.2%、「いいえ」が35.2%となっている。

図表 処方薬や市販薬の相談ができる薬剤師はいるか

(%)	はい	いいえ	無回答	n
全体	49.2	35.2	15.6	128

(6) 病院等で処方された薬を飲みきっているか

問10 病院等で処方された場合に、薬を飲みきっていますか。（○は1つ）

- 「すべて飲みきる」が5割弱、「おおむね飲みきる」が2割台を占める。

病院等で処方された薬を飲みきっているかたずねたところ、「すべて飲みきる」が48.4%、「おおむね飲みきる」が27.3%、「少し残る」が6.3%、「多く残る」が1.6%となっている。

図表 病院等で処方された薬を飲みきっているか

(%)	すべて飲みきる	おおむね飲みきる	少し残る	多く残る	無回答	n
全体	48.4	27.3	6.3	1.6	16.4	128

3 在宅の福祉施策について

(1) 生活支援サービスの認知状況と今後の利用意向

問 11 市で実施している生活支援サービスを知っていますか。また、利用したいですか。
(それぞれに○は1つ)

- 紙おむつ等の支給は認知度、利用意向がともに高い。

①認知状況

生活支援サービスの認知状況については、下図のとおりとなっている。

紙おむつ等の支給は「知っている」が7割台を占めており、他の項目よりも高くなっている。介護支援しあわせポイントや家族介護慰労金支給は「知らない」が7割台を占めている。

図表 認知状況

	知っている	知らない	無回答	n
(%)				
① はり・きゅう・マッサージ施術費助成	22.7	56.3	21.1	128
② 介護支援しあわせポイント	7.0	75.0	18.0	128
③ 緊急通報システムの貸与	23.4	54.7	21.9	128
④ 救急医療情報キットの配付	10.2	68.0	21.9	128
⑤ 高齢者等住宅整備資金の貸付	35.2	44.5	20.3	128
⑥ 家具転倒防止器具取付事業	24.2	56.3	19.5	128
⑦ 紙おむつ等の支給	75.8	19.5	4.7	128
⑧ 理容師派遣	38.3	51.6	10.2	128
⑨ 家族介護慰労金支給	18.0	73.4	8.6	128
⑩ 高齢者タクシー料金助成事業	42.2	50.0	7.8	128

②今後の利用意向

生活支援サービスの今後の利用意向については、下図のとおりとなっている。
紙おむつ等の支給は「利用したい（利用し続けたい）」が5割台を占めている。

図表 今後の利用意向

	(%)	利用したい (利用し続けたい)	利用の予定はない	わからない	無回答	n
① はり・きゅう・マッサージ施術費助成	10.2	35.2	30.5	24.2	128	
② 介護支援しあわせポイント	8.9	40.6	31.3	24.2	128	
③ 緊急通報システムの貸与	9.4	39.1	29.7	21.9	128	
④ 救急医療情報キットの配付	14.1	35.2	29.7	21.1	128	
⑤ 高齢者等住宅整備資金の貸付	8.6	36.7	33.6	21.1	128	
⑥ 家具転倒防止器具取付事業	10.2	33.6	33.6	22.7	128	
⑦ 紙おむつ等の支給	56.3	14.8	10.9	18.0	128	
⑧ 理容師派遣	28.1	28.9	28.1	14.8	128	
⑨ 家族介護慰労金支給	23.4	32.0	28.9	15.6	128	
⑩ 高齢者タクシー料金助成事業	26.6	35.2	24.2	14.1	128	

4 災害時のことについて

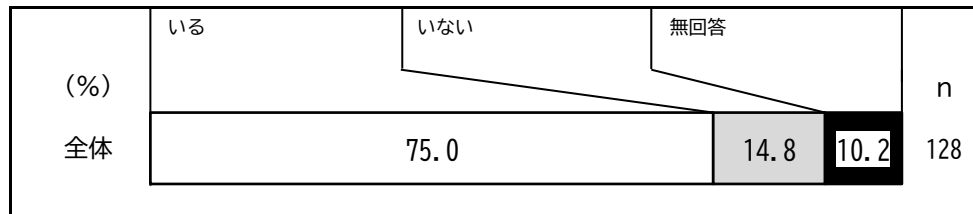
(1) 災害時の避難を助けてくれる人はいるか

問 12 地震などの災害時の避難を助けてくれる人はいますか。(○は1つ)

- 「いる」が7割台、「いない」が1割台を占める。

災害時の避難を助けてくれる人があるかたずねたところ、「いる」が75.0%、「いない」が14.8%となっている。

図表 災害時の避難を助けてくれる人はいるか



(2) 災害時の避難を助けてくれる人は誰か

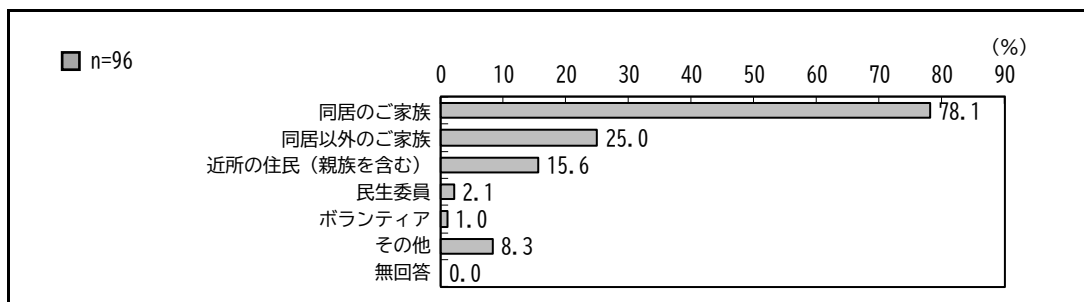
※問 12 で「1. いる」に○をつけた方のみお答えください。

問 12-1 地震などの災害時の避難を助けてくれる人はどなたですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「同居のご家族」が他を大きく引き離して8割弱で第1位を占める。

災害時の避難を助けてくれる人は誰かたずねたところ、「同居のご家族」(78.1%)が最も多く、次いで「同居以外のご家族」(25.0%)、「近所の住民(親族を含む)」(15.6%)、「民生委員」(2.1%)となっている。

図表 災害時の避難を助けてくれる人は誰か(複数回答/全体)



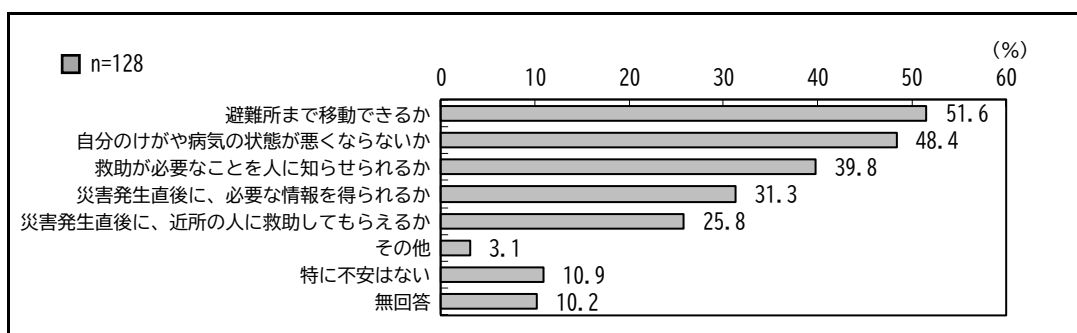
(3) 災害のことで不安に感じていること

問 13 地震などの災害時のことで、あなたが普段不安に感じていることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「避難所まで移動できるか」が5割強で第1位を占める。「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」、「救助が必要なことを人に知らせられるか」、「災害発生直後に、必要な情報を得られるか」などが続く。

災害のことで不安に感じていることをたずねたところ、「避難所まで移動できるか」(51.6%)が最も多く、次いで「自分のけがや病気の状態が悪くならないか」(48.4%)、「救助が必要なことを人に知らせられるか」(39.8%)、「災害発生直後に、必要な情報を得られるか」(31.3%)、「災害発生直後に、近所の人に救助してもらえるか」(25.8%)となっている。なお、「特に不安はない」は10.9%となっている。

図表 災害のことで不安に感じていること（複数回答／全体）



5 認知症に関する相談窓口の把握について

(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか

問 14 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいますか。(1つに○)

- 「いいえ」が6割弱、「はい」が3割台を占める。

認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるかたずねたところ、「いいえ」が57.8%、「はい」が35.2%となっている。

図表 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか

	はい	いいえ	無回答	n
(%)				
全体	35.2	57.8	7.0	128

(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

問 15 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つに○)

- 「いいえ」が6割台、「はい」が3割弱を占める。

認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「いいえ」が63.3%、「はい」が28.9%となっている。

図表 認知症に関する相談窓口を知っているか

	はい	いいえ	無回答	n
(%)				
全体	28.9	63.3	7.8	128

(3) 認知症について今後力を入れてほしい取り組み

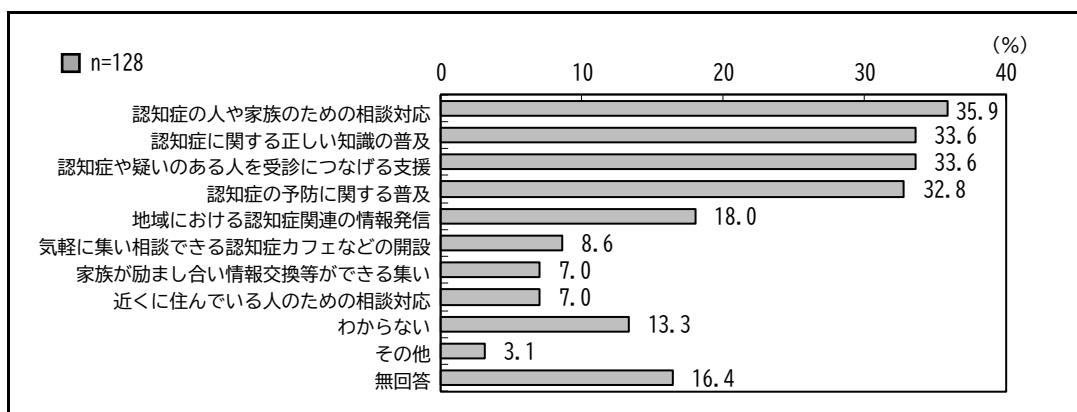
問 16 認知症は誰もがなりうる脳の病気であり、地域のあたたかい理解と支援が必要です。今後、力を入れてほしい取り組みはどれですか。(あてはまるもの3つまで○)
【複数回答】



- 「認知症の人や家族のための相談対応」が3割台で第1位を占める。「認知症に関する正しい知識の普及」、「認知症や疑いのある人を受診につなげる支援」、「認知症の予防に関する普及」などが続く。

認知症について今後力を入れてほしい取り組みについてたずねたところ、「認知症の人や家族のための相談対応」(35.9%)が最も多く、次いで「認知症に関する正しい知識の普及」・「認知症や疑いのある人を受診につなげる支援」(同率 33.6%)、「認知症の予防に関する普及」(32.8%)、「地域における認知症関連の情報発信」(18.0%)、「気軽に集い相談できる認知症カフェなどの開設」(8.6%)、「家族が励まし合い情報交換等ができる集い」・「近くに住んでいる人のための相談対応」(同率 7.0%)などとなっている。

図表 認知症について今後力を入れてほしい取り組み（複数回答／全体）



6 地域で暮らす意向について

(1) 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか

問 17 住み慣れた地域で、最期まで暮らし続けたいと思いますか。(○は1つ)



- 「はい」が8割強、「いいえ」は1割に満たない。

住み慣れた地域で最期まで暮らし続けたいかたずねたところ、「はい」が82.0%、「いいえ」が7.0%となっている。

図表 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか

	はい	いいえ	無回答	n
(%)				
全体	82.0	7.0	10.9	128

(2) 地域で暮らし続けたい理由、暮らし続けたくない理由

問 17-1 その理由をお書きください。

① 「はい」の理由

問 17 で「1. はい」と答えた方に、その理由をたずねたところ、下記のような回答があった。

表 地域で暮らし続けたい理由

- 住みなれた土地で安心して暮らしたい。
 - 生まれ育った場所なので。
 - 家族や親族の顔や声が見たり、聞いたりできるから。
 - 知人、友人がいると心強い。安心感がある。
 - 地域（自宅）への愛着。
 - 病院、公民館、役所、スーパー、駅などが近くにある為、環境が良いから。
 - 長年住み慣れた家で最後まで生活したい。
- 等

②「いいえ」の理由

問17で「2.いいえ」と答えた方に、その理由をたずねたところ、下記のような回答があった。

表 地域で暮らし続けたくない理由

○家族の大変さを知っているので医療機関のお世話になりたいと考えている。
○平岡地区は、交通、医療、買物、その他高齢者にとって住みづらい地区の為。
○進行する難病をもっている所以これ以上悪くなれば施設を考える。
○自分や家族の状況でより良い場所で暮らしたい。
○近所つき合いがなく住みづらい。 等

7 人生の最終段階において過ごす場について

(1) 将来最期を迎えたい場

問18 将来自分が最期を迎える場として、どこを希望しますか。(○は1つ)

- 「自宅で最期を迎えたい」が4割台、「医療機関に入院して最期を迎えたい」が1割台を占める。

将来最期を迎えたい場についてたずねたところ、「自宅で最期を迎えたい」が46.9%、「医療機関に入院して最期を迎えたい」が14.1%、「介護保険施設に入所して最期を迎えたい」が8.6%となっている。なお、「わからない」は21.1%となっている。

図表 将来最期を迎えたい場

(%)	医療機関に入院して最期を迎えたい	自宅で最期を迎えたい	介護保険施設に入所して最期を迎えたい	その他	わからない	無回答	n
全体	14.1	46.9	8.6	0.0	21.1	9.4	128

(2) 家族が最期を迎える場としてよいところ

問 19 あなたの家族が最期を迎える場として、どこが本人のためによいと思いますか。
(○は1つ)

- 「自宅」が4割台、「医療機関」が1割台を占める。

家族が最期を迎える場としてよいところについてたずねたところ、「自宅」が43.8%、「医療機関」が14.1%、「介護保険施設」が10.2%となっている。「わからない」は23.4%となっている。

図表 家族が最期を迎える場としてよいところ

(%)	医療機関	自宅	介護保険施設	その他	わからない	無回答	n
全体	14.1	43.8	10.2	0.0	23.4	8.6	128

8 成年後見制度について

(1) 成年後見制度を知っているか

問 20 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

- 「知っている。目的や内容についても理解している」と「知っている。しかし目的や内容は知らない」を合わせた「知っている」が5割強、「知らない」が3割強を占める。

成年後見制度を知っているかたずねたところ、「知らない」が32.0%、「知っている。しかし目的や内容は知らない」が29.7%、「知っている。目的や内容についても理解している」が21.9%となっている。

図表 成年後見制度を知っているか

(%)	知っている。目的や内容についても理解している	知っている。しかし目的や内容は知らない	知らない	無回答	n
全体	21.9	29.7	32.0	16.4	128

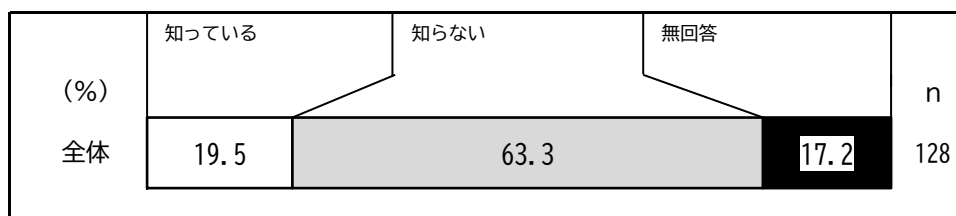
(2) 成年後見制度についての相談窓口

問 21 成年後見制度についての相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

- 「知っている」が2割弱、「知らない」が6割台を占める。

成年後見制度の相談窓口を知っているかたずねたところ、「知っている」が19.5%、「知らない」が63.3%となっている。

図表 成年後見制度についての相談窓口



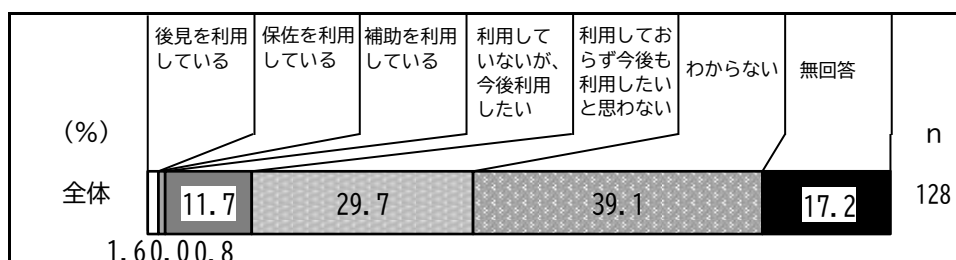
(3) 成年後見制度の利用

問 22 あなたは「成年後見制度」を利用していますか。(○は1つ)

- 「わからない」が4割弱、「利用しておらず今後も利用したいと思わない」が3割弱、「利用していないが、今後利用したい」が1割強を占める。

成年後見制度を利用しているかたずねたところ、「わからない」が39.1%、「利用しておらず今後も利用したいと思わない」が29.7%、「利用していないが、今後利用したい」が11.7%となっている。

図表 成年後見制度の利用



9 家族等介護者の状況について

(1) 日常的に介護を受けているか

問 23 あなたは、ご家族や親族の方から日常的に介護を受けていますか。(○は1つ)



- 「受けている」が6割台、「受けていない」が1割台を占める。

ご家族や親族の方から日常的に介護を受けているかたずねたところ、「受けている」が64.1%、「受けていない」が14.1%となっている。

図表 日常的に介護を受けているか

	受けている	受けていない	無回答	n
(%)				
全体	64.1	14.1	21.9	128

(2) 介護についての不安や悩みはあるか

※問 23で「1. 受けている」に○をつけた方のみお答えください。

問 24 介護について、不安なことや悩みがありますか。(○は1つ)



- 「ある」が6割台、「ない」が2割強を占める。

介護の不安や悩みはあるかたずねたところ、「ある」が67.1%、「ない」が20.7%となっている。

図表 介護についての不安や悩みはあるか

	ある	ない	無回答	n
(%)				
全体	67.1	20.7	12.2	82

(3) 介護の不安や悩みは何か

※問 24 で「1. ある」に○をつけた方のみお答えください。

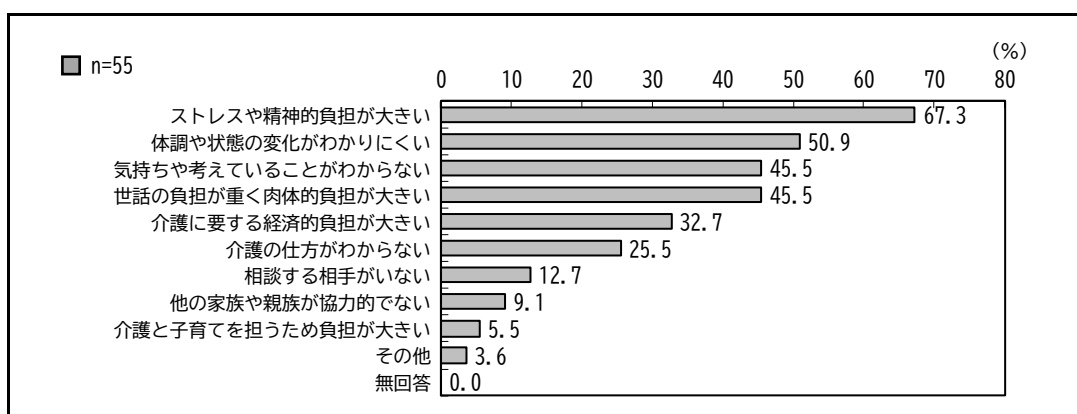
問 24-1 それはどのような内容ですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「ストレスや精神的負担が大きいこと」が6割台で第1位を占める。「体調や状態の変化がわかりにくいこと」、「気持ちや考えていることがわからないと感じること」、「世話の負担が重く肉体的負担が大きい」、「介護に要する経済的負担が大きいこと」などが続く。

介護の不安や悩みについてたずねたところ、「ストレスや精神的負担が大きい」(67.3%)が最も多く、次いで「体調や状態の変化がわかりにくい」(50.9%)、「気持ちや考えていることがわからない」・「世話の負担が重く肉体的負担が大きい」(同率 45.5%)、「介護に要する経済的負担が大きい」(32.7%)などとなっている。

図表 介護の不安や悩みは何か（複数回答／全体）



(4) 家族や友人・知人以外の相談する相手

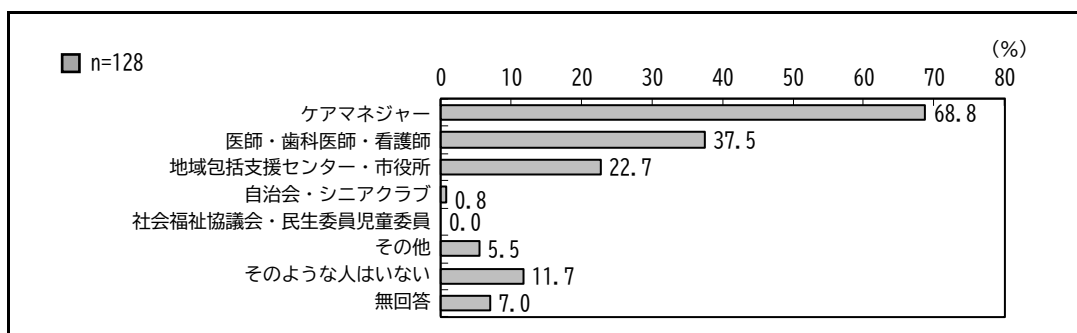
問 25 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「ケアマネジャー」が他の相談相手を大きく上回り、7割弱で第1位を占める。

家族・友人・知人以外の相談する相手をたずねたところ、「ケアマネジャー」(68.8%)が最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」(37.5%)、「地域包括支援センター・市役所」(22.7%)などとなっている。なお、「そのような人はいない」は11.7%となっている。

図表 家族や友人・知人以外の相談する相手(複数回答/全体)



袖ヶ浦市

介護保険・高齢者福祉に関する調査
（第2号被保険者対象）

結果報告書

令和5年3月

袖ヶ浦市

目 次

I	調査の概要及び対象者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査結果報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
3	対象者の属性	2
(1)	性別	2
(2)	年齢	2
(3)	居住地区	2
(4)	家族構成	3
II	調査結果	4
1	保健サービスについて	4
(1)	市の保健サービスの認知状況、利用意向	4
2	日常生活上の不安や介護に関する意識について	6
(1)	日常生活で感じている不安	6
(2)	家族等の介護をしているか	7
(3)	主に誰を介護しているか	7
(4)	介護について不安や悩みがあるか	8
(5)	不安や悩みの内容	9
(6)	将来介護をするかもしれない家族等がいるか	10
(7)	将来介護するかもしれない家族等	10
(8)	家族等の介護にあたって準備していること	11
(9)	家族等の介護で困ること	12
(10)	家族等が要介護状態になった場合どうしたいか	13
(11)	将来自身が要介護状態になることを不安に思うか	13
(12)	自身を介護してくれる家族等はいるか	14
(13)	自身が要介護状態になった場合に困ること	15
(14)	自身が要介護状態となった場合を想定した準備	16
(15)	自身が要介護状態になった場合どうしてほしいか	17
(16)	介護に関して今後市に望むこと	18
3	たすけあいについて	19
(1)	心配事や愚痴を聞いてくれる人	19
(2)	心配事や愚痴を聞いてあげる人	20
(3)	病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人	21
(4)	看病や世話をしてくれる人	22

(5) 家族や友人・知人以外の相談相手.....	23
(6) 友人・知人と会う頻度.....	24
(7) 1か月に会った友人・知人の人数.....	25
(8) よく会う友人・知人との関係.....	26
4 地域とのかかわりと今後の生活スタイルについて.....	27
(1) 近所との付き合いは必要なことだと感じるか.....	27
(2) 近所の人との付き合いの程度.....	27
(3) 地域に愛着を感じるか.....	28
(4) 日頃の生活で生きがいを感じているか.....	28
(5) どのようなときに生きがいを感じるか.....	29
(6) 老後やってみたいこと.....	30
(7) 働きたい理由.....	31
(8) 地域活動に参加者として参加したいか.....	32
(9) 地域活動に企画・運営として参加したいか.....	32
5 今後の介護保険事業や高齢者施策について.....	33
(1) 今後の介護保険料と高齢者施策のあり方について.....	33
(2) 今後力を入れてほしい高齢者施策.....	34
6 認知症にかかる相談窓口の把握について.....	35
(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか.....	35
(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか.....	35
(3) 認知症について今後力を入れてほしい取り組み.....	36
7 地域で暮らす意向について.....	37
(1) 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか.....	37
(2) 地域で暮らし続けたい理由、暮らし続けたくない理由.....	37
8 人生の最終段階において過ごす場について.....	39
(1) 将来最期を迎えたい場.....	39
(2) 家族が最期を迎える場としてよいところ.....	39
9 成年後見制度について.....	40
(1) 成年後見制度を知っているか.....	40
(2) 成年後見制度の相談窓口を知っているか.....	40
(3) 市民後見制度を知っているか.....	41

I 調査の概要及び対象者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、国のモデル事業に基づき、袖ヶ浦市の日常生活圏域における高齢者の生活実態やニーズを詳細に把握し、袖ヶ浦市高齢者福祉計画の見直し及び第9期介護保険事業計画の策定のための基礎資料とするために実施したものである。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	市内にお住まいの満40歳～64歳の方
配布数	400票
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和4年12月
調査地域	袖ヶ浦市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	400
有効回収数	175
有効回収率	43.8%

2 本調査結果報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

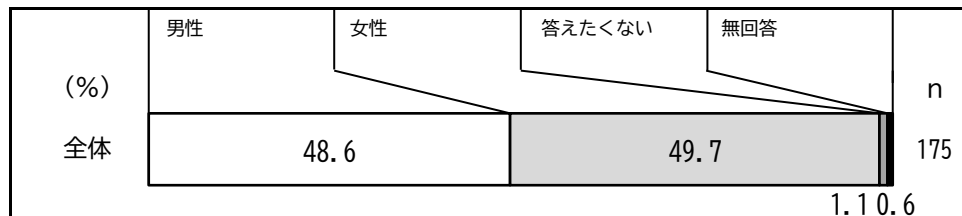
- ①比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100%を上下する場合がある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、したがって各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

3 対象者の属性

(1) 性別

対象者の性別は、「女性」が49.7%、「男性」が48.6%となっている。

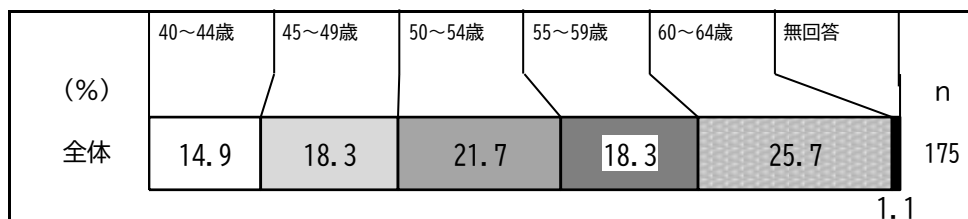
図表 対象者の性別



(2) 年齢

対象者の年齢は、「60～64歳」が25.7%、「50～54歳」が21.7%、「45～49歳」・「55～59歳」が18.3%、「40～44歳」が14.9%となっている。

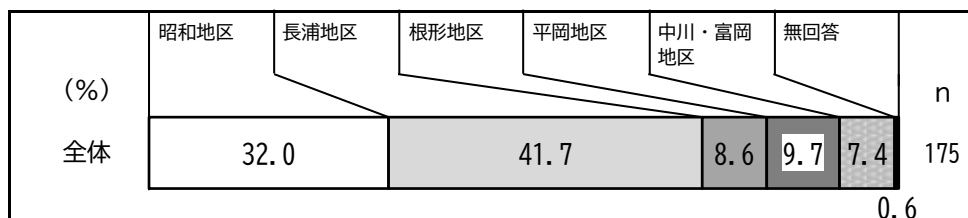
図表 対象者の年齢



(3) 居住地区

対象者の居住地区は、「長浦地区」が41.7%、「昭和地区」が32.0%、「平岡地区」が9.7%、「根形地区」が8.6%「中川・富岡地区」が7.4%となっている。

図表 対象者の居住地区



(4) 家族構成

対象者の家族構成については、「夫婦と子どもの2世帯」が36.6%、「夫婦2人暮らし」が22.9%、「その他世帯」が20.6%、「1人暮らし」が10.3%、「夫婦と親と子どもの3世帯」が9.1%となっている。

図表 対象者の家族構成

	1人暮らし	夫婦2人暮らし	夫婦と子どもの2世帯	夫婦と親と子どもの3世帯	その他世帯	無回答	n
(%)							
全体	10.3	22.9	36.6	9.1	20.6	0.6	175

Ⅱ 調査結果

1 保健サービスについて

(1) 市の保健サービスの認知状況、利用意向

問5 市で実施している保健サービスを知っていますか。また利用していますか。
(それぞれ〇は1つ)



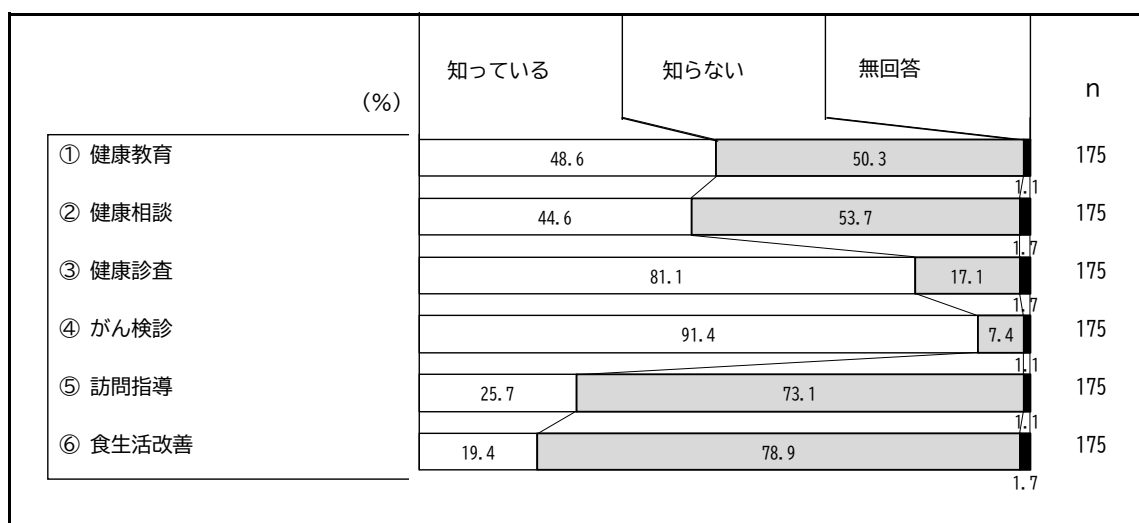
- 健康診査とがん検診は認知度も利用意向も高い。

① 認知状況

市の保健サービスの認知状況については、下図のとおりとなっている。

がん検診は「知っている」が9割強、健康診査は8割強を占める。

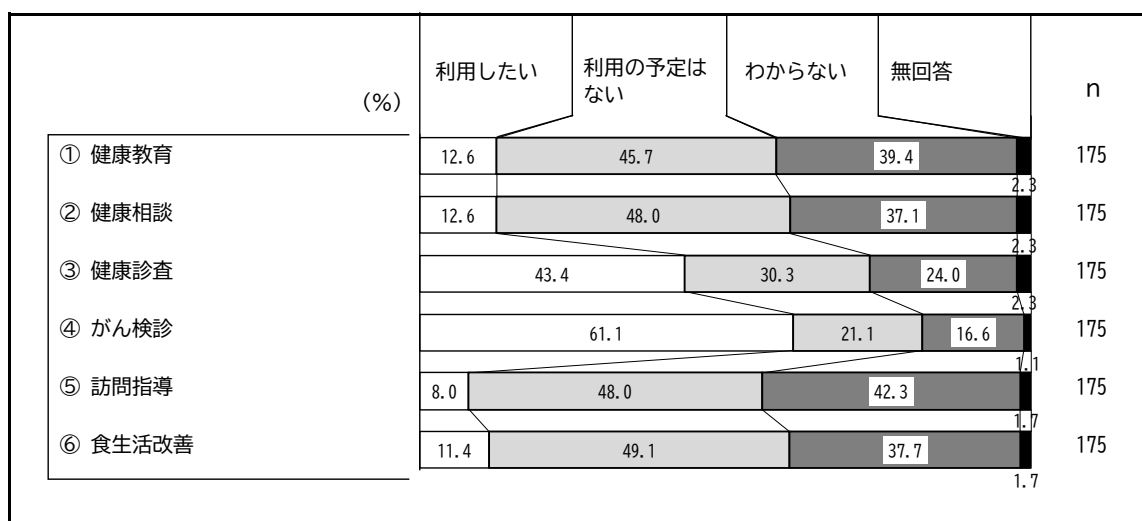
図表 認知状況



② 今後の利用意向

市の保健サービスの今後の利用意向については、下図のとおりとなっている。
がん検診は「利用したい」が6割強、健康診査は4割台を占める。

図表 今後の利用意向



2 日常生活上の不安や介護に関する意識について

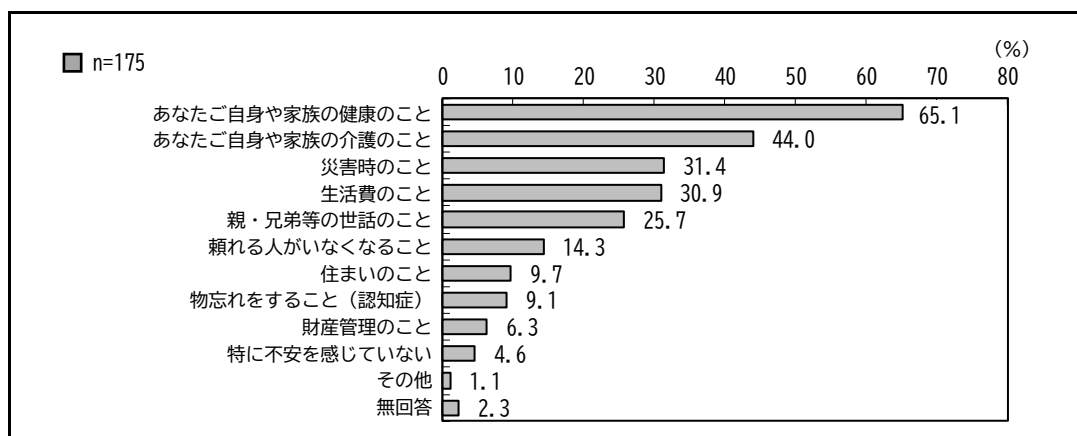
(1) 日常生活で感じている不安

問6 あなたは、日常生活においてどのような不安を感じていますか。
(あてはまるもの3つまで○)【複数回答】

- 「あなたご自身や家族の健康のこと」が6割台で第1位を占める。「あなたご自身や家族の介護のこと」、「災害時のこと」、「生活費のこと」などが続く。

日常生活で感じている不安についてたずねたところ、「あなたご自身や家族の健康のこと」(65.1%)が最も多く、次いで「あなたご自身や家族の介護のこと」(44.0%)、「災害時のこと」(31.4%)、「生活費のこと」(30.9%)、「親・兄弟等の世話のこと」(25.7%)、「頼れる人がいなくなること」(14.3%)、「住まいのこと」(9.7%)、「物忘れをすること(認知症)」(9.1%)、「財産管理のこと」(6.3%)などとなっている。「特に不安を感じていない」は4.6%となっている。

図表 日常生活で感じている不安(複数回答/全体)



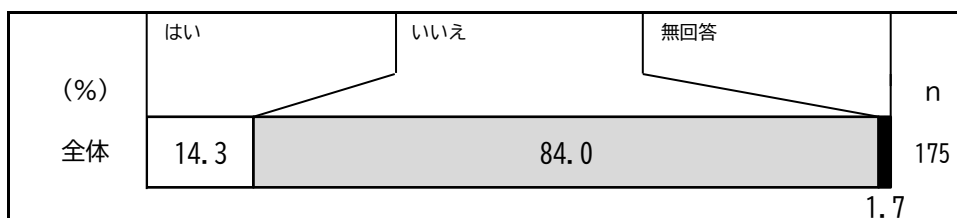
(2) 家族等の介護をしているか

問7 あなたは、日常生活で家族等の介護をしていますか。(○は1つ)

- 「いいえ」が8割台、「はい」が1割台を占める。

家族等の介護をしているかたずねたところ、「いいえ」が84.0%、「はい」が14.3%となっている。

図表 家族等の介護をしているか



(3) 主に誰を介護しているか

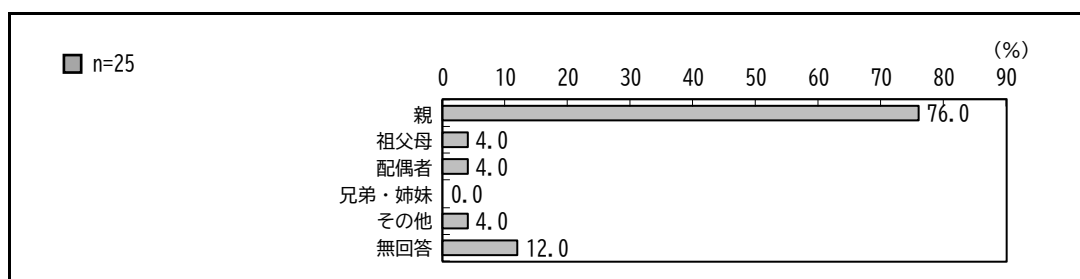
※問7で「1. はい」を選んだ方のみお答えください。

問7-1 主にどなたを介護していますか。あなたとの続柄をお答えください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「親」が他を大きく引き離して7割台で第1位を占める。

主に誰を介護しているかたずねたところ、「親」(76.0%)が最も多く、次いで「祖父母」・「配偶者」(同率4.0%)などとなっている。

図表 主に誰を介護しているか(複数回答/全体)



(4) 介護について不安や悩みがあるか

※問7で「1. はい」を選んだ方のみお答えください。

問7-2 介護について、不安なことや悩みがありますか。(○は1つ)



- 「はい」が9割弱を占める。

介護について不安や悩みがあるかどうかたずねたところ、「はい」が88.0%、「いいえ」が12.0%となっている。

図表 介護について不安や悩みがあるか

	はい	いいえ	無回答	n
(%)				
全体	88.0	12.0	0.0	25

(5) 不安や悩みの内容

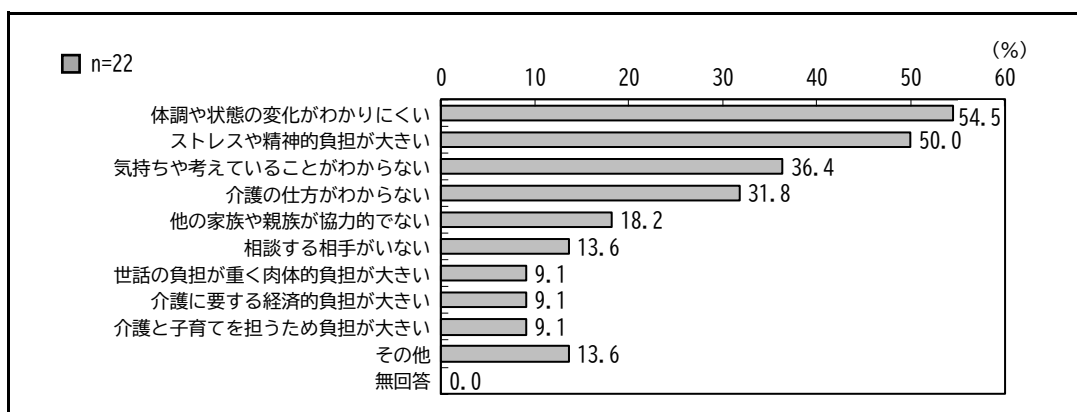
※問7-2で「1. ある」を選んだ方のみお答えください。

問7-3 それはどのような内容ですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「体調や状態の変化がわかりにくい」が5割台を占める。

問7-2で「1. ある」と答えた人に、不安や悩みの内容についてたずねたところ、「体調や状態の変化がわかりにくい」(54.5%)が最も多く、次いで「ストレスや精神的負担が大きい」(50.0%)、「気持ちや考えていることがわからない」(36.4%)、「介護の仕方がわからない」(31.8%)、「他の家族や親族が協力的でない」(18.2%)、「相談する相手がない」(13.6%)、「世話の負担が重く肉体的負担が大きい」・「介護に要する経済的負担が大きい」・「介護と子育てを担うため負担が大きい」(9.1%) などとなっている。

図表 不安や悩みの内容（複数回答／全体）



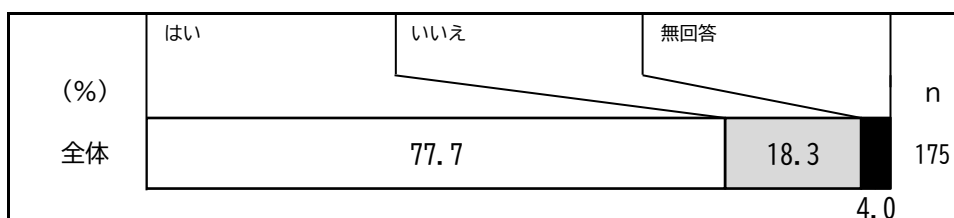
(6) 将来介護をするかもしれない家族等がいるか

問8 あなたは、将来介護をすることになるかもしれない家族等がいますか。(○は1つ)

- 「はい」が8割弱、「いいえ」が2割弱を占める。

将来介護をするかもしれない家族等がいるかどうかたずねたところ、「はい」が77.7%、「いいえ」が18.3%となっている。

図表 将来介護をするかもしれない家族等がいるか



(7) 将来介護するかもしれない家族等

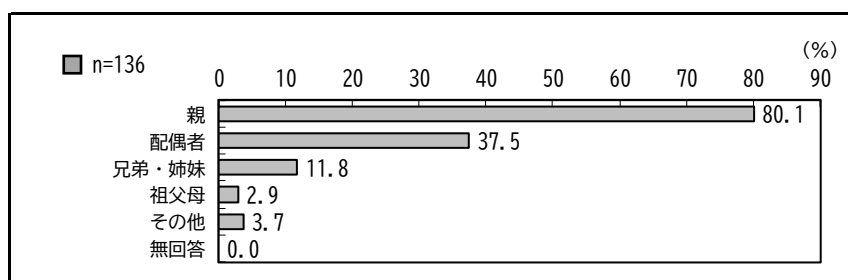
※問8で「1. はい」を選んだ方のみお答えください。

問8-1 それは誰ですか。あなたとの続柄をお答えください。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】

- 「親」が他を大きく引き離して8割強で第1位を占める。

問8で「1. はい」と答えた人に、将来介護するかもしれない家族等は誰かたずねたところ、「親」(80.1%)が最も多く、次いで「配偶者」(37.5%)、「兄弟・姉妹」(11.8%)、「祖父母」(2.9%)などとなっている。

図表 将来介護するかもしれない家族等(複数回答/全体)



(8) 家族等の介護にあたって準備していること

※問8で「1. はい」を選んだ方のみお答えください。

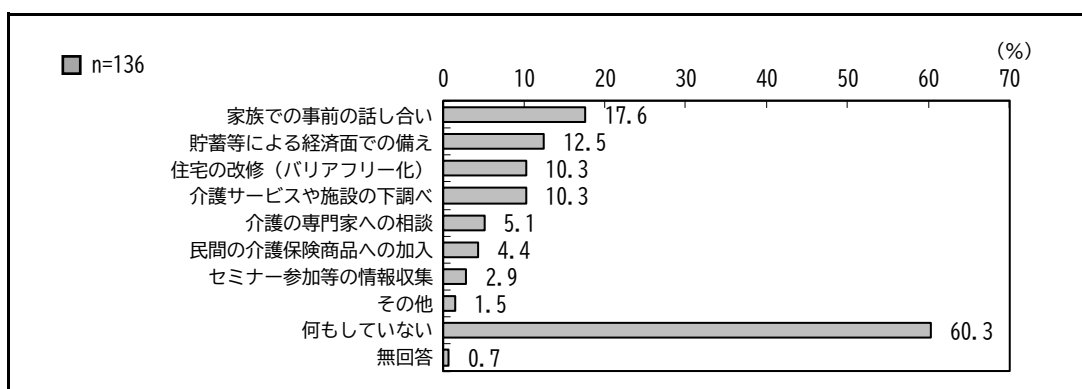
問8-2 家族等を介護することについて、何か準備をしていることがありますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「家族での事前の話し合い」が2割弱で第1位を占める。「何もしていない」は6割強を占める。

家族等の介護にあたって準備していることについては、「家族での事前の話し合い」(17.6%)が最も多く、次いで「貯蓄等による経済面での備え」(12.5%)、「住宅の改修(バリアフリー化)」・「介護サービスや施設の下調べ」(同率 10.3%)、「介護の専門家への相談」(5.1%)、「民間の介護保険商品への加入」(4.4%)、「セミナー参加等の情報収集」(2.9%)などとなっている。なお、「何もしていない」は60.3%となっている。

図表 家族等の介護にあたって準備していること(複数回答/全体)



(9) 家族等の介護で困ること

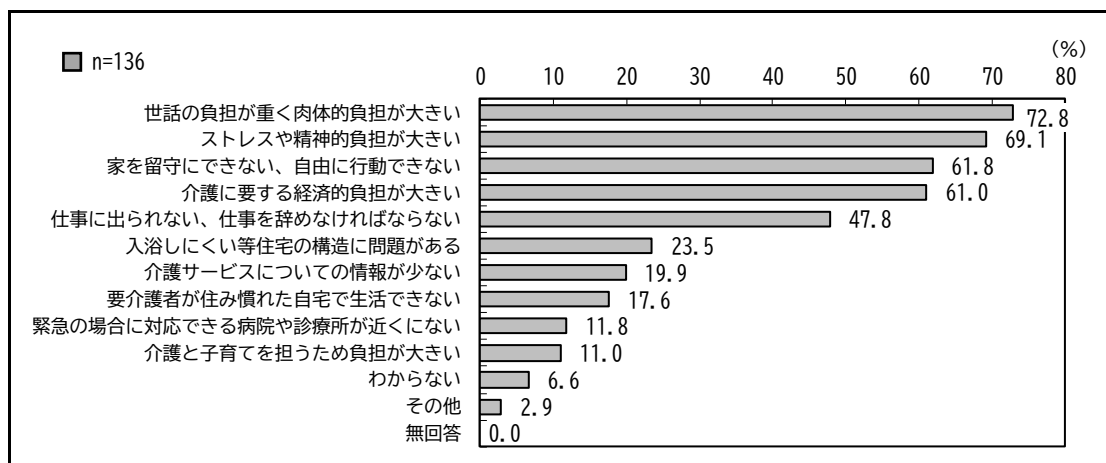
※問8で「1. はい」を選んだ方のみお答えください。

問8-3 家族等の介護をすることになった場合、どんなことに困ると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「世話の負担が重く肉体的負担が大きい」が7割強で第1位を占める。「ストレスや精神的負担が大きい」、「家を留守にできない、自由に行動できない」、「介護に要する経済的負担が大きい」などが続く。

家族等の介護をすることになった場合にどんなことに困ると思うかたずねたところ、「世話の負担が重く肉体的負担が大きい」(72.8%)が最も多く、次いで「ストレスや精神的負担が大きい」(69.1%)、「家を留守にできない、自由に行動できない」(61.8%)、「介護に要する経済的負担が大きい」(61.0%)、「仕事に出られない、仕事を辞めなければならない」(47.8%)、「入浴しにくい等住宅の構造に問題がある」(23.5%)、「介護サービスについての情報が少ない」(19.9%)、「要介護者が住み慣れた自宅で生活できない」(17.6%)、「緊急の場合に対応できる病院や診療所が近くにない」(11.8%)、「介護と子育てを担うため負担が大きい」(11.0%)などとなっている。

図表 家族等の介護で困ること（複数回答／全体）



(10) 家族等が要介護状態になった場合どうしたいか

※問8で「1. はい」を選んだ方のみお答えください。

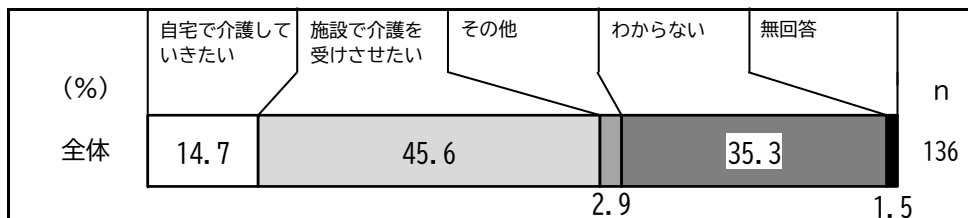
問8-4 今後、家族等が介護の必要な状態になった場合、あなたはどのようにしたいと思いますか。(○は1つ)



- 「施設で介護を受けさせたい」が4割台、「自宅で介護していきたい」が1割台を占める。

家族等が要介護状態になった場合どうしたいかたずねたところ、「施設で介護を受けさせたい」が45.6%、「自宅で介護していきたい」が14.7%となっている。なお、「わからない」は35.3%となっている。

図表 家族等が要介護状態になった場合どうしたいか



(11) 将来自身が要介護状態になることを不安に思うか

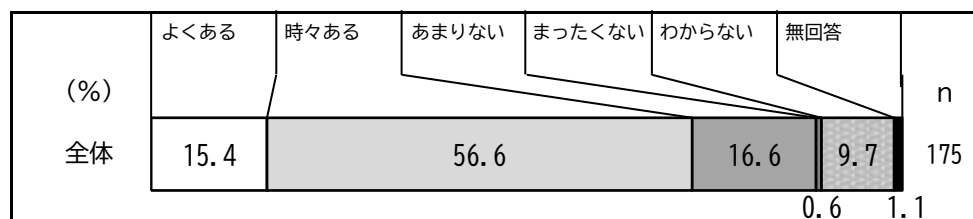
問9 あなたは、将来あなた自身が介護の必要な状態になるかもしれないと、不安に思うことがありますか。(○は1つ)



- “ある”が7割強、“ない”が1割台を占める。

将来自身が要介護状態になることを不安に思うかたずねたところ、「よくある」(15.4%)と「時々ある」(56.6%)を合わせた“ある”が72.0%、「あまりない」(16.6%)と「まったくない」(0.6%)を合わせた“ない”が17.2%となっている。なお、「わからない」は9.7%となっている。

図表 将来自身が要介護状態になることを不安に思うか



(12) 自身を介護してくれる家族等はあるか

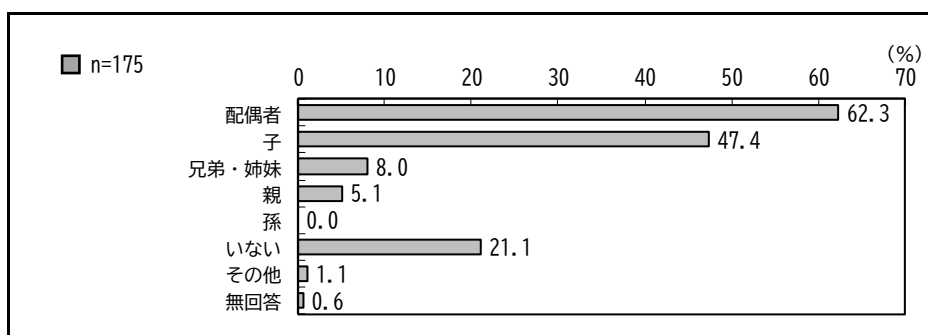
問 10 あなたは、仮にあなた自身が介護の必要な状態になった場合に、介護をしてくれる家族等はいいますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「配偶者」が6割強で第1位を占める。「いない」は2割強を占める。

自身を介護してくれる家族等はあるかたずねたところ、「配偶者」(62.3%)が最も多く、次いで「子」(47.4%)、「兄弟・姉妹」(8.0%)、「親」(5.1%)、「孫」(0.0%)となっている。なお、「いない」は21.1%となっている。

図表 自身を介護してくれる家族等はあるか(複数回答/全体)



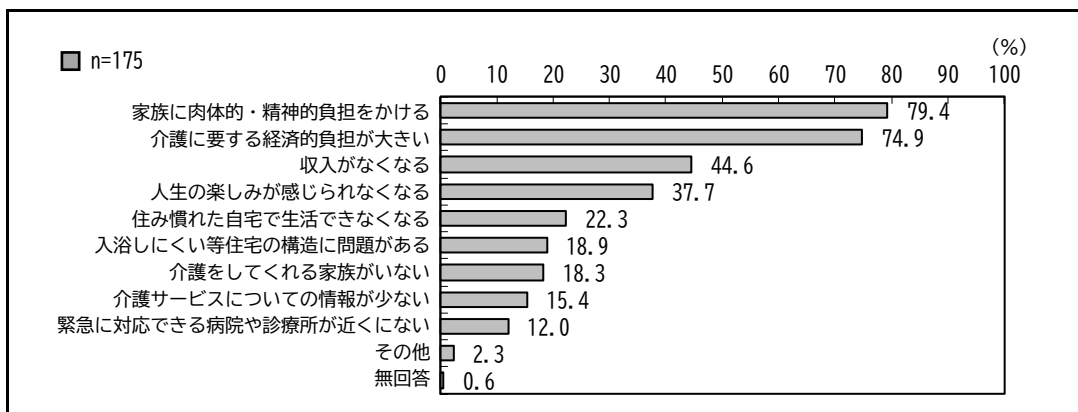
(13) 自身が要介護状態になった場合に困ること

問 11 あなたは、仮にあなた自身が介護の必要な状態になった場合に、どんなことに困ると思いますか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「家族に肉体的・精神的負担をかける」が8割弱、「介護に要する経済的負担が大きい」が7割台と他を大きく引き離して上位を占める。

自身が要介護状態になった場合に困ることについてたずねたところ、「家族に肉体的・精神的負担をかける」(79.4%)が最も多く、次いで「介護に要する経済的負担が大きい」(74.9%)、「収入がなくなる」(44.6%)、「人生の楽しみが感じられなくなる」(37.7%)、「住み慣れた自宅で生活できなくなる」(22.3%)、「入浴にくい等住宅の構造に問題がある」(18.9%)、「介護をしてくれる家族がいない」(18.3%)、「介護サービスについての情報が少ない」(15.4%)、「緊急の場合に対応できる病院や診療所が近くにない」(12.0%)となっている。

図表 自身が要介護状態になった場合に困ること(複数回答/全体)



(14) 自身が要介護状態となった場合を想定した準備

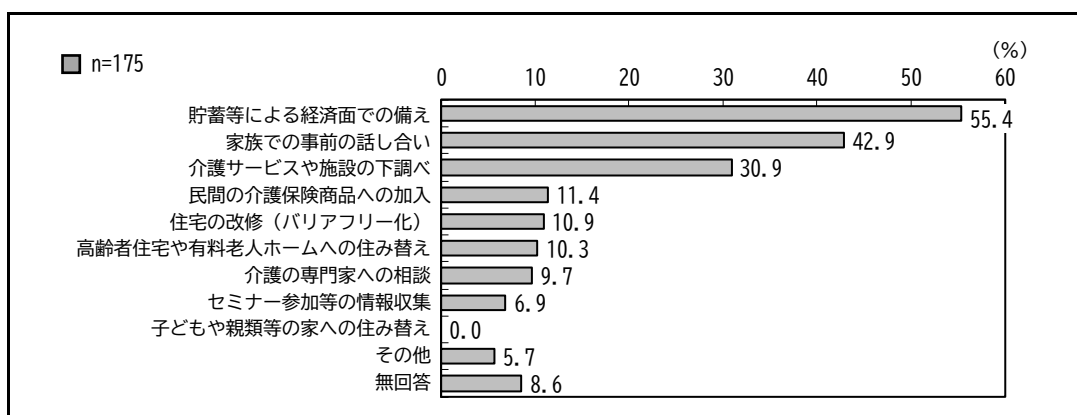
問 12 あなたは、あなた自身が介護の必要な状態になった場合を想定して、これから準備しようと思うことや、既に準備していることがありますか。(あてはまるものすべてに○)
【複数回答】



- 「貯蓄等による経済面での備え」が5割台で第1位を占める。「家族での事前の話し合い」、「介護サービスや施設の下調べ」などが続く。

自身が要介護状態となった場合を想定した準備についてたずねたところ、「貯蓄等による経済面での備え」(55.4%)が最も多く、次いで「家族での事前の話し合い」(42.9%)、「介護サービスや施設の下調べ」(30.9%)、「民間の介護保険商品への加入」(11.4%)、「住宅の改修(バリアフリー化)」(10.9%)、「高齢者住宅や有料老人ホームへの住み替え」(10.3%)、「介護の専門家への相談」(9.7%)、「セミナー参加等の情報収集」(6.9%)などとなっている。

図表 自身が要介護状態となった場合を想定した準備（複数回答／全体）



(15) 自身が要介護状態になった場合どうしてほしいか

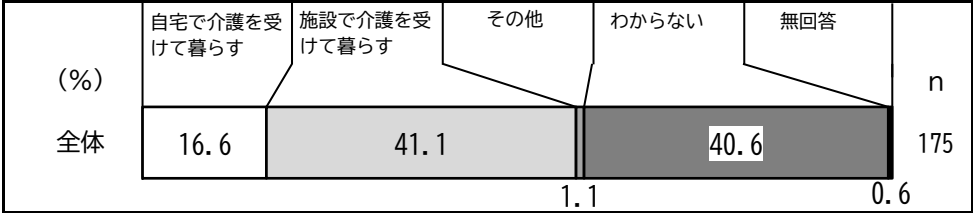
問 13 あなたは、仮にあなた自身が介護の必要な状態になった場合に、どのようにしてほしいと思いますか。(○は1つ)



- 「施設で介護を受けて暮らす」が4割強、「自宅で介護を受けて暮らす」が1割台を占める。

自身が要介護状態になった場合どうしてほしいかたずねたところ、「施設で介護を受けて暮らす」が41.1%、「自宅で介護を受けて暮らす」が16.6%となっている。なお、「わからない」は40.6%となっている。

図表 自身が要介護状態になった場合どうしてほしいか



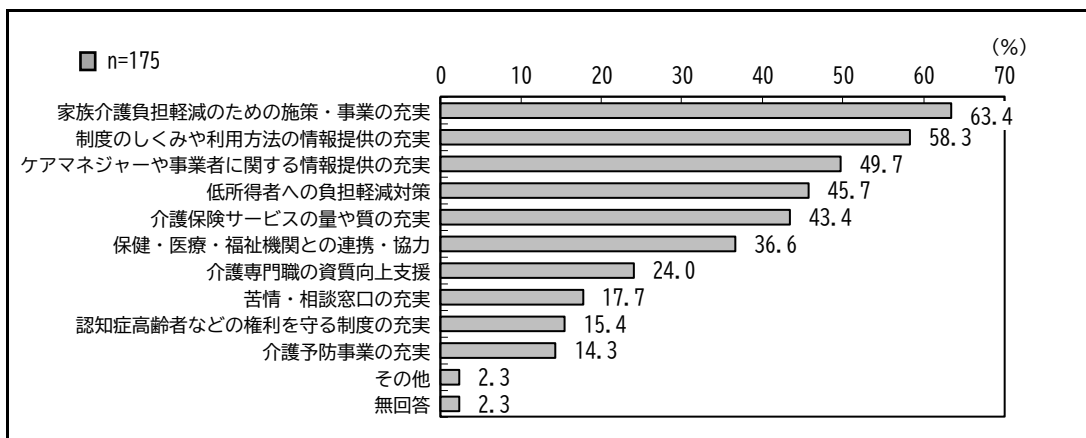
(16) 介護に関して今後市に望むこと

問 14 介護に関することについて今後市に望むことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「家族介護負担軽減のための施策・事業の充実」が6割台で第1位を占める。
「制度のしくみや利用方法の情報提供の充実」、「ケアマネジャーや事業者に関する情報提供の充実」、「低所得者への負担軽減対策」などが続く。

介護に関して今後市に望むことをたずねたところ、「家族介護負担軽減のための施策・事業の充実」(63.4%)が最も多く、次いで「制度のしくみや利用方法の情報提供の充実」(58.3%)、「ケアマネジャーや事業者に関する情報提供の充実」(49.7%)、「低所得者への負担軽減対策」(45.7%)、「介護保険サービスの量や質の充実」(43.4%)、「保健・医療・福祉機関との連携・協力」(36.6%)、「介護専門職の資質向上支援」(24.0%)、「苦情・相談窓口の充実」(17.7%)、「認知症高齢者などの権利を守る制度の充実」(15.4%)、「介護予防事業の充実」(14.3%)となっている。

図表 介護に関して今後市に望むこと（複数回答／全体）



3 たすけあいについて

(1) 心配事や愚痴を聞いてくれる人

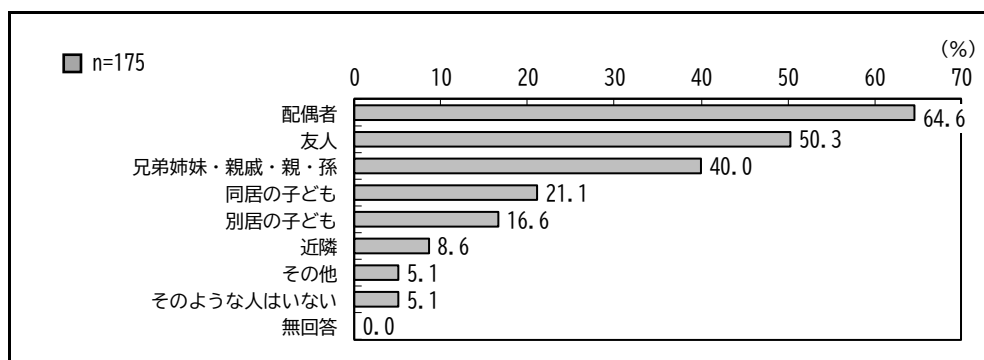
問 15 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人。（あてはまるものすべてに○）
【複数回答】



- 「配偶者」が6割台で第1位を占める。「友人」が5割強、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が4割で他を大きく引き離し上位を占める。

心配事や愚痴を聞いてくれる人についてたずねたところ、「配偶者」(64.6%)が最も多く、次いで、「友人」(50.3%)、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(40.0%)、「同居の子ども」(21.1%)、「別居の子ども」(16.6%)、「近隣」(8.6%)などとなっている。なお、「そのような人はいない」は5.1%となっている。

図表 心配事や愚痴を聞いてくれる人（複数回答／全体）



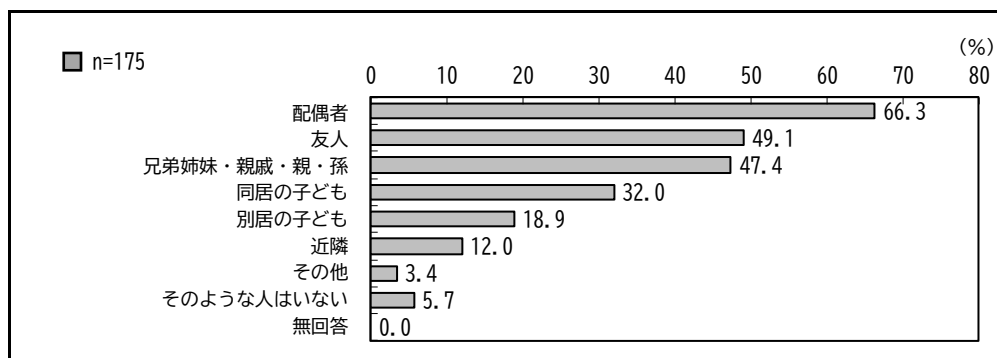
(2) 心配事や愚痴を聞いてあげる人

問 16 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人。
（あてはまるものすべてに○）【複数回答】

- 「配偶者」が6割台で第1位を占める。「友人」、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が4割程度で上位を占める。

心配事や愚痴を聞いてあげる人についてたずねたところ、「配偶者」（66.3%）が最も多く、次いで「友人」（49.1%）、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」（47.4%）、「同居の子ども」（32.0%）、「別居の子ども」（18.9%）などとなっている。なお、「そのような人はいない」は5.7%となっている。

図表 心配事や愚痴を聞いてあげる人（複数回答／全体）



(3) 病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人

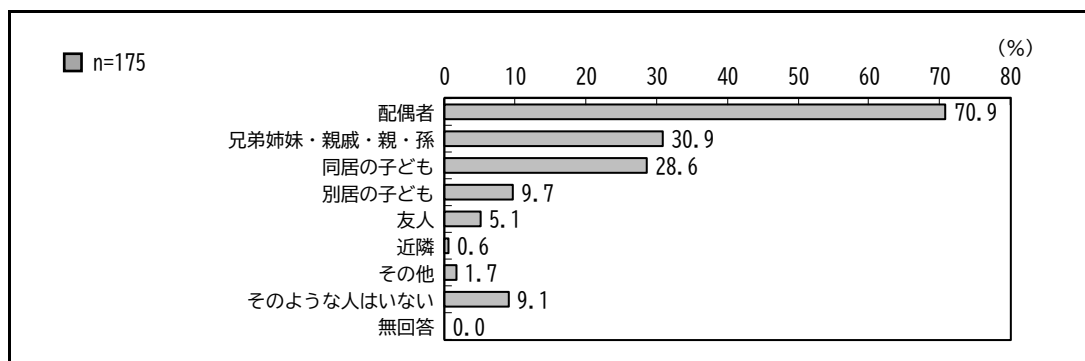
問 17 あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「配偶者」が他を大きく引き離して7割強で第1位を占める。

病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人についてたずねたところ、「配偶者」(70.9%)が最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(30.9%)、「同居の子ども」(28.6%)、「別居の子ども」(9.7%)、「友人」(5.1%)、「近隣」(0.6%)などとなっている。なお、「そのような人はいない」は9.1%となっている。

図表 病気で寝込んだとき看病や世話をしてくれる人（複数回答／全体）



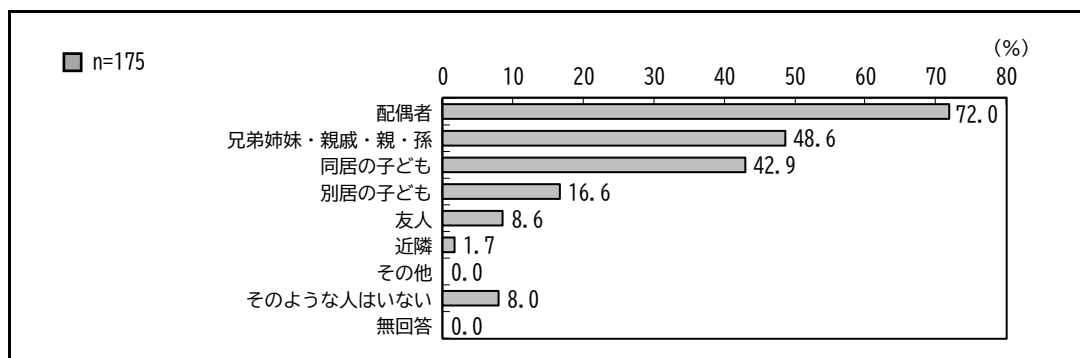
(4) 看病や世話をしあける人

問 18 反対に、看病や世話をしあける人。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「配偶者」が7割強で第1位を占める。「兄弟姉妹・親戚・親・孫」、「同居の子ども」が4割程度で他を大きく引き離して上位を占める。

看病や世話をしあける人についてたずねたところ、「配偶者」(72.0%)が最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫」(48.6%)、「同居の子ども」(42.9%)、「別居の子ども」(16.6%)、「友人」(8.6%)、「近隣」(1.7%)などとなっている。なお、「そのような人はいない」は8.0%となっている。

図表 看病や世話をしあける人(複数回答/全体)



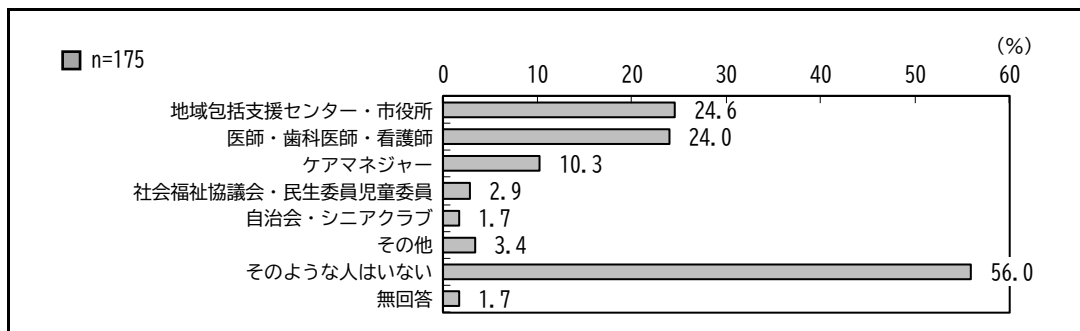
(5) 家族や友人・知人以外の相談相手

問 19 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「地域包括支援センター・市役所」が2割台で第1位を占める。次いで「医師・歯科医師・看護師」、「ケアマネジャー」などが続く。「そのような人はいない」は5割台を占める。

家族や友人・知人以外の相談相手についてたずねたところ、「地域包括支援センター・市役所」(24.6%)が最も多く、次いで、「医師・歯科医師・看護師」(24.0%)、「ケアマネジャー」(10.3%)、「社会福祉協議会・民生委員児童委員」(2.9%)、「自治会・シニアクラブ」(1.7%)などとなっている。なお、「そのような人はいない」は56.0%となっている。

図表 家族や友人・知人以外の相談相手（複数回答／全体）



(6) 友人・知人と会う頻度

問 20 友人・知人と会う頻度はどのくらいですか。(○は1つ)



- 「年に何度かある」が3割弱、「月に何度かある」が2割台を占める。

友人・知人と会う頻度についてたずねたところ、「年に何度かある」が29.7%、「月に何度かある」が25.1%、「ほとんどない」が20.6%、「週に何度かある」が13.7%、「毎日ある」が10.9%となっている。

図表 友人・知人と会う頻度

	毎日ある	週に何度かある	月に何度かある	年に何度かある	ほとんどない	無回答	n
(%)							
全体	10.9	13.7	25.1	29.7	20.6	0.0	175

(7) 1 か月に会った友人・知人の人数

問 21 この1 か月間、何人の友人・知人と会いましたか。同じ人には何度会っても1 人と数えることとします。(○は1 つ)



- 「1 人～2 人」が3 割弱、「3 人～5 人」が2 割強を占める。

1 か月に会った友人・知人の人数をたずねたところ、「1 人～2 人」が 29.1%、「3 人～5 人」が 22.9%、「0 人 (いない)」が 21.1%、「10 人以上」が 18.3%、「6 人～9 人」が 8.6%となっている。

図表 1 か月に会った友人・知人の人数

	0人(いない)	1人～2人	3人～5人	6人～9人	10人以上	無回答	n
(%)							
全体	21.1	29.1	22.9	8.6	18.3	0.0	175

(8) よく会う友人・知人との関係

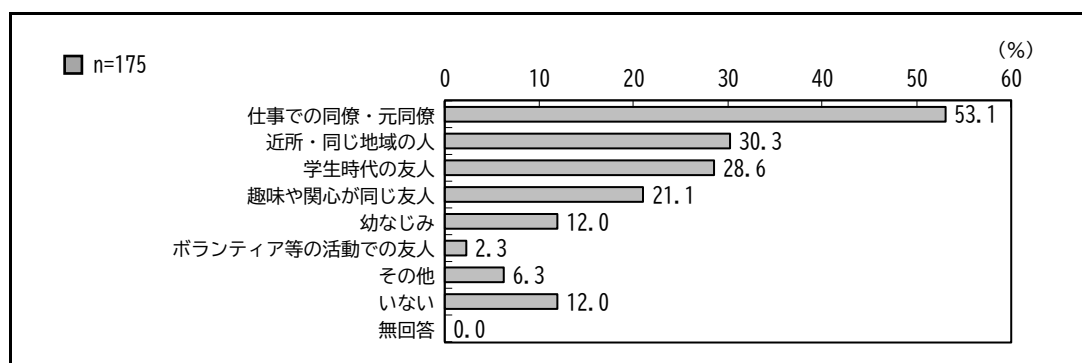
問 22 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。
(あてはまるものすべてに○)【複数回答】



- 「仕事での同僚・元同僚」が他を大きく引き離して5割台で第1位を占める。

よく会う友人・知人との関係についてたずねたところ、「仕事での同僚・元同僚」(53.1%)が最も多く、次いで「近所・同じ地域の人」(30.3%)、「学生時代の友人」(28.6%)、「趣味や関心と同じ友人」(21.1%)、「幼なじみ」(12.0%)、「ボランティア等の活動での友人」(2.3%)などとなっている。なお、「いない」は12.0%となっている。

図表 よく会う友人・知人との関係（複数回答／全体）



4 地域とのかかわりと今後の生活スタイルについて

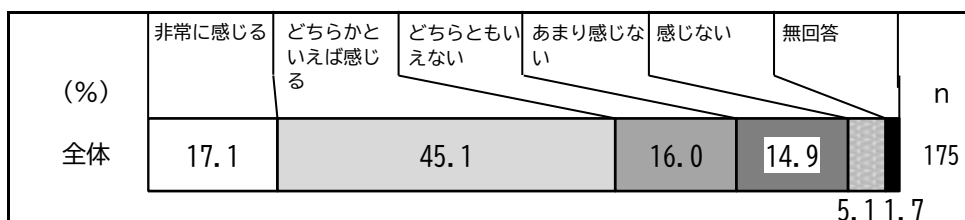
(1) 近所との付き合いは必要なことだと感じるか

問 23 あなたは、日常生活においてご近所との付き合いは必要なことだと感じますか。(○は1つ)

- “感じる” が6割強、“感じない” が2割を占める。

近所との付き合いは必要なことだと感じるかたずねたところ、「非常に感じる」(17.1%)と「どちらかといえば感じる」(45.1%)を合わせた“感じる”が62.2%、「あまり感じない」(14.9%)と「感じない」(5.1%)を合わせた“感じない”は20.0%となっている。「どちらともいえない」は16.0%となっている。

図表 近所との付き合いは必要なことだと感じるか



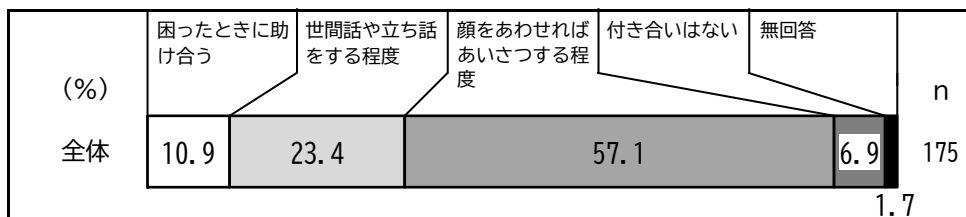
(2) 近所の人との付き合いの程度

問 24 あなたは、ご近所の人とどの程度お付き合いをしていますか。(○は1つ)

- 「顔をあわせればあいさつする程度」が5割台、「世間話や立ち話をする程度」が2割台を占める。

近所の人との付き合いの程度については、「顔をあわせればあいさつする程度」が57.1%、「世間話や立ち話をする程度」が23.4%、「困ったときに助け合う」が10.9%、「付き合いはない」が6.9%となっている。

図表 近所の人との付き合いの程度



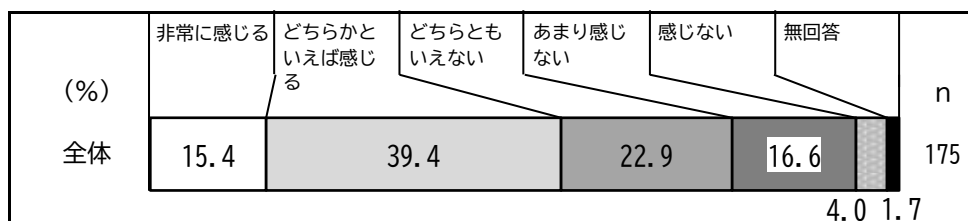
(3) 地域に愛着を感じるか

問 25 あなたは、あなた自身が住んでいる地域に愛着を感じますか。(○は1つ)

- “感じる” が5割台、“感じない” が2割強を占める。

地域に愛着を感じるかたずねたところ、「非常に感じる」(15.4%)と「どちらかといえば感じる」(39.4%)を合わせた“感じる”は54.8%、「あまり感じない」(16.6%)と「感じない」(4.0%)を合わせた“感じない”は20.6%となっている。「どちらともいえない」は22.9%となっている。

図表 地域に愛着を感じるか



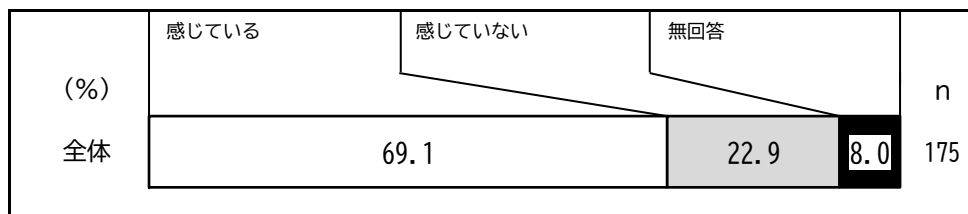
(4) 日頃の生活で生きがいを感じているか

問 26 あなたは、日頃の生活で生きがいを感じていますか。(○は1つ)

- 「感じている」が7割弱、「感じていない」が2割強を占める。

日頃の生活で生きがいを感じているかたずねたところ、「感じている」が69.1%、「感じていない」が22.9%となっている。

図表 日頃の生活で生きがいを感じているか



(5) どのようなときに生きがいを感じるか

※問 26 で「1. 感じている」を選んだ方のみお答えください。

問 26-1 どのようなときに生きがいを感じますか。(あてはまるものすべてに○)

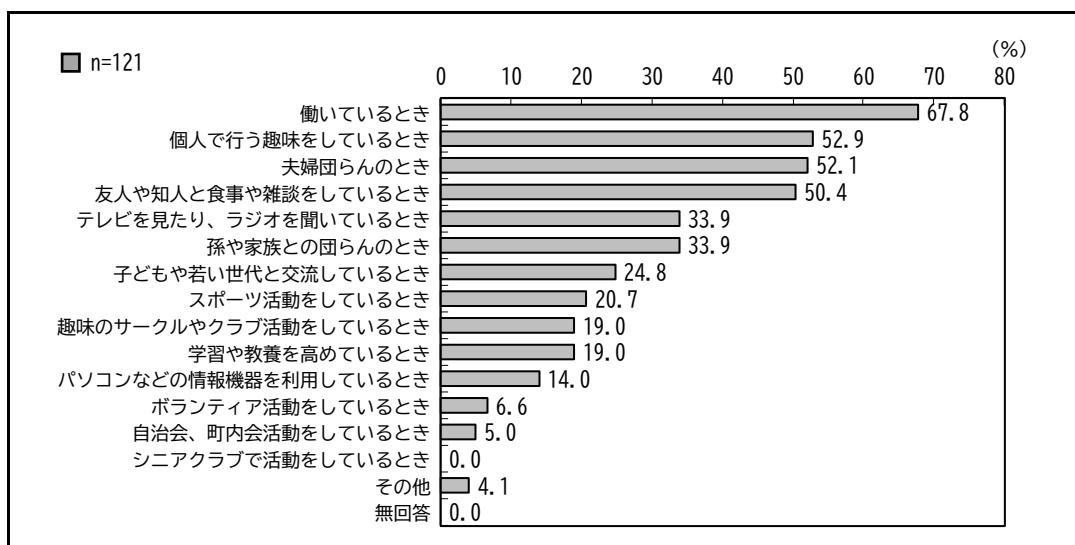
【複数回答】



- 「働いているとき」が7割弱で第1位を占める。「個人で行う趣味をしているとき」、「夫婦団らんのとき」、「友人や知人と食事や雑談をしているとき」などが続く。

どのようなときに生きがいを感じるかたずねたところ、「働いているとき」(67.8%)が最も多く、次いで「個人で行う趣味をしているとき」(52.9%)、「夫婦団らんのとき」(52.1%)、「友人や知人と食事や雑談をしているとき」(50.4%)、「テレビを見たり、ラジオを聞いているとき」・「孫や家族との団らんのとき」(同率 33.9%)、「子どもや若い世代と交流しているとき」(24.8%)、「スポーツ活動をしているとき」(20.7%)、「趣味のサークルやクラブ活動をしているとき」・「学習や教養を高めているとき」(同率 19.0%)、「パソコンなどの情報機器を利用しているとき」(14.0%)、「ボランティア活動をしているとき」(6.6%)、「自治会、町内会活動をしているとき」(5.0%) などとなっている。

図表 どのようなときに生きがいを感じるか(複数回答/全体)



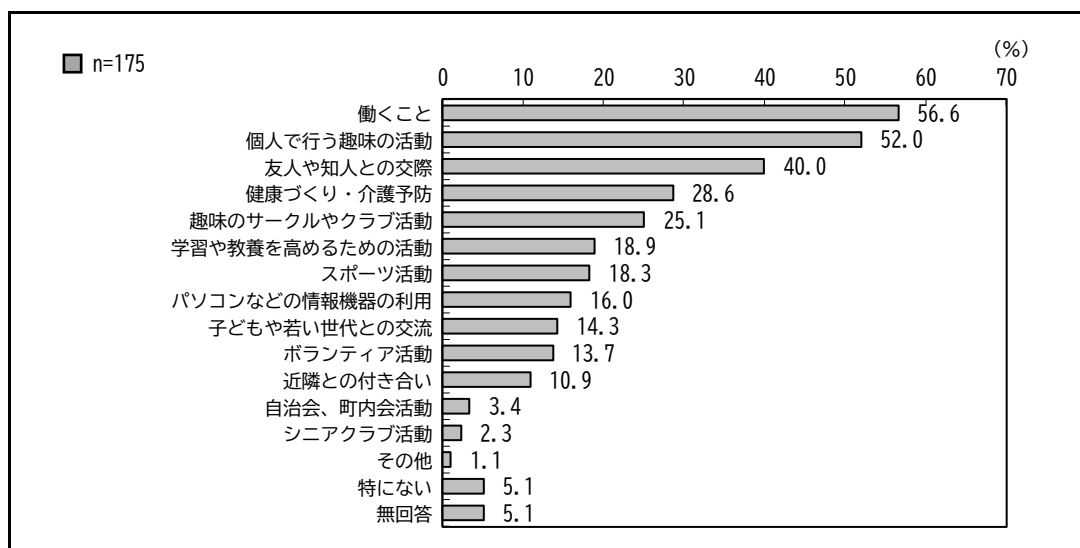
(6) 老後やってみたいこと

問 27 あなたが老後やってみたいことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「働くこと」が5割台で第1位を占める。「個人で行う趣味の活動」、「友人や知人との交際」、「健康づくり・介護予防」などが続く。

老後やってみたいことについてたずねたところ、「働くこと」(56.6%)が最も多く、次いで、「個人で行う趣味の活動」(52.0%)、「友人や知人との交際」(40.0%)、「健康づくり・介護予防」(28.6%)、「趣味のサークルやクラブ活動」(25.1%)、「学習や教養を高めるための活動」(18.9%)、「スポーツ活動」(18.3%)、「パソコンなどの情報機器の利用」(16.0%)、「子どもや若い世代との交流」(14.3%)、「ボランティア活動」(13.7%)、「近隣との付き合い」(10.9%)などとなっている。なお、「特にない」は5.1%となっている。

図表 老後やってみたいこと（複数回答／全体）



(7) 働きたい理由

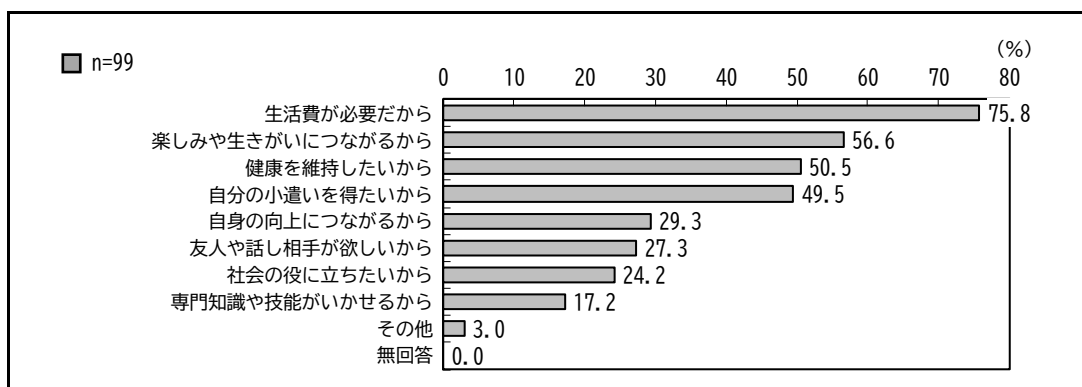
※問 27 で「1. 働くこと」を選んだ方のみお答えください。

問 27-1 働きたい理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)【複数回答】

- 「生活費が必要だから」が7割台で第1位を占める。「楽しみや生きがいにつながるから」、「健康を維持したいから」、「自分の小遣いを得たいから」などが続く。

問 27 で「1. 働くこと」を選んだ人に、働きたい理由をたずねたところ、「生活費が必要だから」(75.8%)が最も多く、次いで「楽しみや生きがいにつながるから」(56.6%)、「健康を維持したいから」(50.5%)、「自分の小遣いを得たいから」(49.5%)、「自身の向上につながるから」(29.3%)「友人や話し相手が欲しいから」(27.3%)、「社会の役に立ちたいから」(24.2%)、「専門知識や技能がいかせるから」(17.2%)となっている。

図表 働きたい理由(複数回答/全体)



(8) 地域活動に参加者として参加したいか

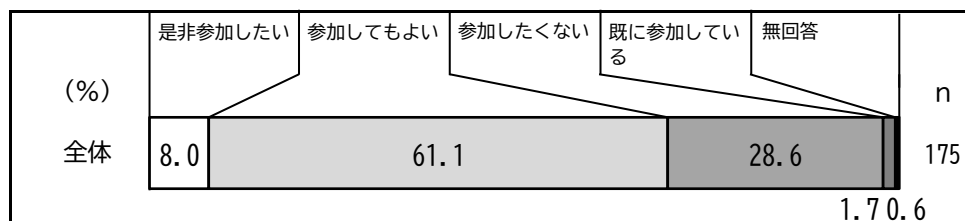
問 28 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)



- 「参加してもよい」が6割強、「参加したくない」が3割弱を占める。

地域活動に参加者として参加したいかたずねたところ、「参加してもよい」が61.1%、「参加したくない」が28.6%、「是非参加したい」が8.0%、「既に参加している」が1.7%となっている。

図表 地域活動に参加者として参加したいか



(9) 地域活動に企画・運営として参加したいか

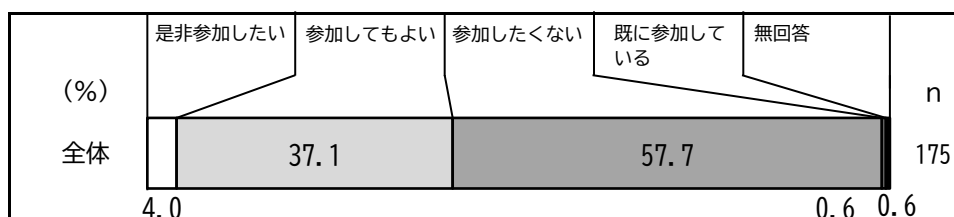
問 29 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきとした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。(○は1つ)



- 「参加したくない」が6割弱、「参加してもよい」が3割台を占める。

地域活動に企画・運営として参加したいかたずねたところ、「参加したくない」が57.7%、「参加してもよい」が37.1%、「是非参加したい」が4.0%、「既に参加している」が0.6%となっている。

図表 地域活動に企画・運営として参加したいか



5 今後の介護保険事業や高齢者施策について

(1) 今後の介護保険料と高齢者施策のあり方について

問 30 介護保険制度は、40 歳以上の方から保険料を徴収して、介護が必要な方にサービスを提供する費用に充てておりますが、今後の保険料と高齢者施策のあり方について、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)



- 「保険料が多少高くとも、給付されるサービスが充実していればよい」が3割台、「現行の水準のままでよい」が2割台、「給付されるサービスを多少抑えても、保険料が低ければよい」が1割強を占める。

今後の介護保険料と高齢者施策のあり方については、「保険料が多少高くとも、給付されるサービスが充実していればよい」が 34.3%、「現行の水準のままでよい」が 27.4%、「給付されるサービスを多少抑えても、保険料が低ければよい」が 10.9%となっている。なお、「わからない」は 27.4%となっている。

図表 今後の介護保険料と高齢者施策のあり方について

	保険料が多少高くとも、給付されるサービスが充実していればよい	給付されるサービスを多少抑えても、保険料が低ければよい	現行の水準のままでよい	わからない	無回答	
(%)						n
全体	34.3	10.9	27.4	27.4	0.0	175

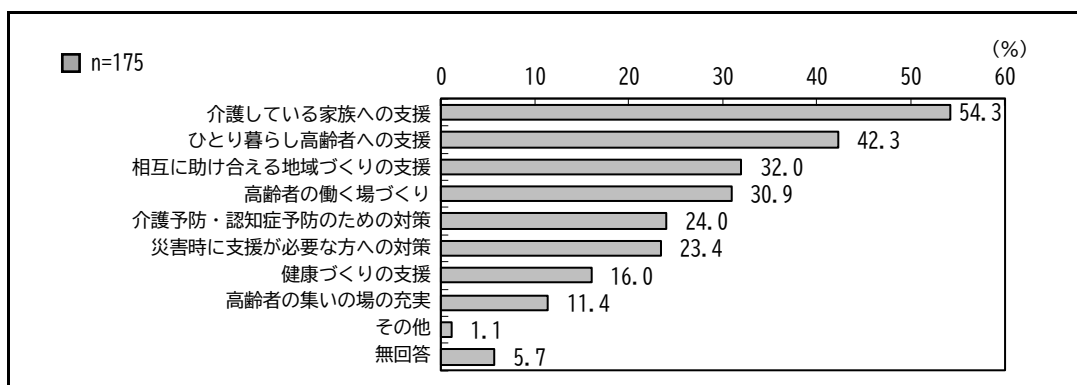
(2) 今後力を入れてほしい高齢者施策

問 31 今後、力を入れてほしい高齢者施策はどのようなものですか。
(あてはまるもの3つまで○)【複数回答】

- 「介護している家族への支援」が5割台で第1位を占める。「ひとり暮らし高齢者への支援」、「相互に助け合える地域づくりの支援」などが続く。

今後力を入れてほしい高齢者施策については、「介護している家族への支援」(54.3%)、「ひとり暮らし高齢者への支援」(42.3%)、「相互に助け合える地域づくりの支援」(32.0%)、「高齢者の働く場づくり」(30.9%)、「介護予防・認知症予防のための対策」(24.0%)、「災害時に支援が必要な方への対策」(23.4%)、「健康づくりの支援」(16.0%)、「高齢者の集いの場の充実」(11.4%)の順となっている。

図表 今後力を入れてほしい高齢者施策（複数回答／全体）



6 認知症にかかる相談窓口の把握について

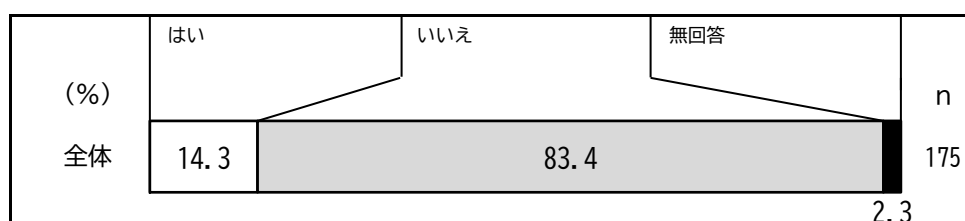
(1) 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか

問 32 認知症の症状があるまたは家族に認知症の症状がある人がいますか。(○は1つ)

- 「いいえ」が8割台、「はい」が1割台を占める。

認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるかたずねたところ、「いいえ」が83.4%、「はい」が14.3%となっている。

図表 認知症の症状がある、または家族に認知症の症状がある人はいるか



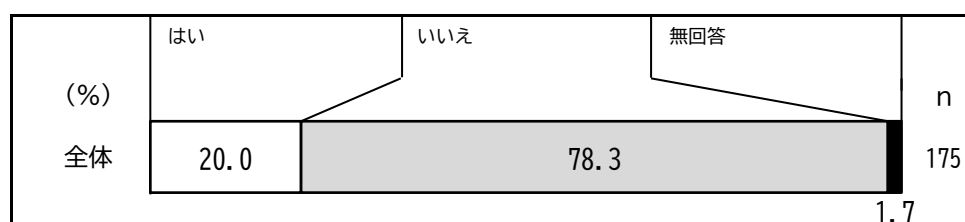
(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

問 33 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

- 「いいえ」が8割弱、「はい」が2割を占める。

認知症に関する相談窓口を知っているかたずねたところ、「いいえ」が78.3%、「はい」が20.0%となっている。

図表 認知症に関する相談窓口を知っているか



(3) 認知症について今後力を入れてほしい取り組み

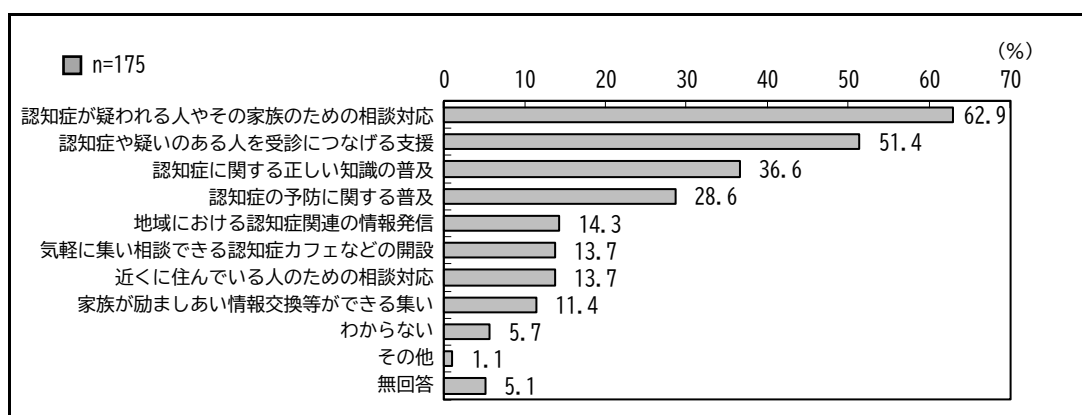
問 34 認知症は誰もがなりうる脳の病気であり、地域のあたたかい理解と支援が必要です。今後、力を入れてほしい取り組みはどれですか。(あてはまるもの3つまで○)
【複数回答】



- 「認知症が疑われる人やその家族のための相談対応」が6割強で第1位を占める。「認知症や疑いのある人を受診につなげる支援」、「認知症に関する正しい知識の普及」、「認知症の予防に関する普及」などが続く。

認知症について今後力を入れてほしい取り組みについてたずねたところ、「認知症が疑われる人やその家族のための相談対応」(62.9%)、「認知症や疑いのある人を受診につなげる支援」(51.4%)、「認知症に関する正しい知識の普及」(36.6%)、「認知症の予防に関する普及」(28.6%)、「地域における認知症関連の情報発信」(14.3%)、「気軽に集い相談できる認知症カフェなどの開設」(13.7%)、「近くに住んでいる人のための相談対応」(同率 13.7%)、「家族が励ましあい情報交換等ができる集い」(11.4%)となっている。

図表 認知症について今後力を入れてほしい取り組み（複数回答／全体）



7 地域で暮らす意向について

(1) 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか

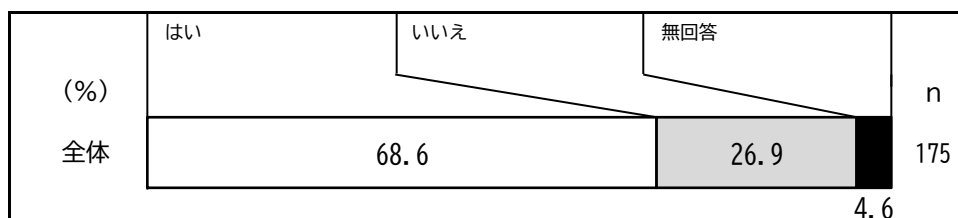
問 35 住み慣れた地域で、最期まで暮らし続けたいと思いますか。(○は1つ)



- 「はい」が7割弱、「いいえ」が2割台を占める。

住み慣れた地域で最期まで暮らしたいかたずねたところ、「はい」が68.6%、「いいえ」が26.9%となっている。

図表 住み慣れた地域で最期まで暮らしたいと思うか



(2) 地域で暮らし続けたい理由、暮らし続けたくない理由

問 35-1 その理由をお書きください。

① 「はい」の理由

問 35 で「1. はい」と答えた方に、その理由をたずねたところ、下記のような回答があった。

表 地域で暮らし続けたい理由

- 近所づきあい。便利な立地。安心できる場所。
 - 自分の持家だから。
 - リラックスで出来るから。
 - 慣れた地域に住むことが精神の安定につながると思うから。
 - 老後のことも考えて、この場所に家を買ったので。
 - 食料品、ドラッグストア、医療機関が多くあり生活していくうえで良いと思うから。
 - 袖ヶ浦は福祉が充実している。市役所も感じ良い。
 - なんといっても安心感が得られるから。友人・知人といつでも話せるから。住んでいる地域が好きだから。
 - 永年住み慣れている。友人・知人が多い。
- 等

② 「いいえ」の理由

問 35 で「2.いいえ」と答えた方に、その理由をたずねたところ、下記のような回答があった。

表 地域で暮らし続けたくない理由

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none">○自分のやりたい事、進みたい世界にとっては、袖ヶ浦市では不都合、不便。○生活するのに不便。○実家が県外にあるため。○町が楽しくない。車をもっていないので不便。水（海、川、港）が汚くてがっかり。○車社会なので、車なしで生活できる環境ではないので交通の便が良い所で暮らしたい。○家族に迷惑をかけたくないので、その時の状況で家族にまかせたいから。 | 等 |
|---|---|

8 人生の最終段階において過ごす場について

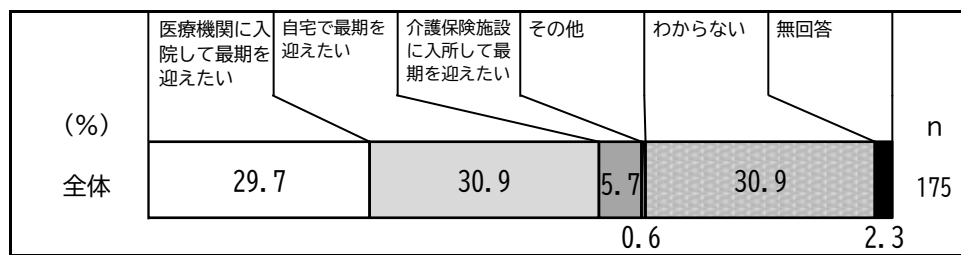
(1) 将来最期を迎えたい場

問 36 将来自分が最期を迎える場として、どこを希望しますか。(○は1つ)

- 「自宅で最期を迎えたい」が3割強、「医療機関に入院して最期を迎えたい」が3割弱を占める。

将来最期を迎えたい場についてたずねたところ、「自宅で最期を迎えたい」が30.9%、「医療機関に入院して最期を迎えたい」が29.7%、「介護保険施設に入所して最期を迎えたい」が5.7%となっている。なお、「わからない」は30.9%となっている。

図表 将来最期を迎えたい場



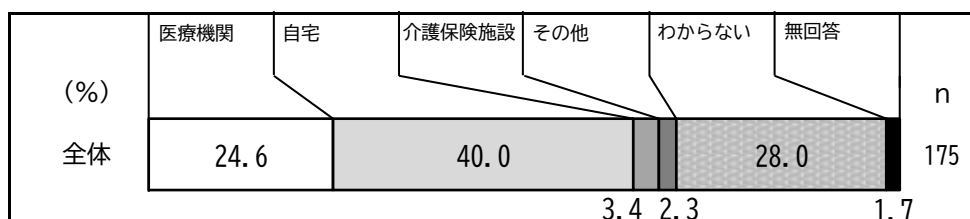
(2) 家族が最期を迎える場としてよいところ

問 37 あなたの家族が最期を迎える場として、どこが本人のためによいと思いますか。(○は1つ)

- 「自宅」が4割、「医療機関」が2割台を占める。

家族が最期を迎える場としてよいところについてたずねたところ、「自宅」が40.0%、「医療機関」が24.6%、「介護保険施設」が3.4%となっている。なお、「わからない」は28.0%となっている。

図表 家族が最期を迎える場としてよいところ



9 成年後見制度について

(1) 成年後見制度を知っているか

問 38 あなたは「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

- 「知っている。しかし目的や内容は知らない」が3割台、「知らない」が3割強を占める。

成年後見制度を知っているかたずねたところ、「知っている。しかし目的や内容は知らない」が36.0%、「知らない」が32.6%、「知っている。目的や内容についても理解している」が28.6%となっている。

図表 成年後見制度を知っているか

(%)	知っている。目的や内容についても理解している	知っている。しかし目的や内容は知らない	知らない	無回答	n
全体	28.6	36.0	32.6	2.9	175

(2) 成年後見制度の相談窓口を知っているか

問 39 成年後見制度についての相談窓口を知っていますか。(○は1つ)

- 「知らない」が8割、「知っている」が1割台を占める。

成年後見制度の相談窓口を知っているかたずねたところ、「知らない」が80.0%、「知っている」が17.1%となっている。

図表 成年後見制度の相談窓口を知っているか

(%)	知っている	知らない	無回答	n
全体	17.1	80.0	2.9	175

(3) 市民後見制度を知っているか

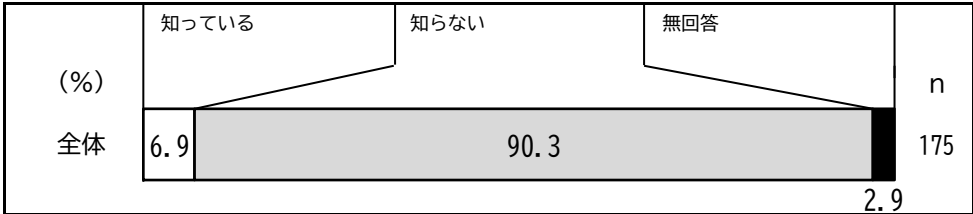
問 40 あなたは「市民後見制度」を知っていますか。(○は1つ)



- 「知らない」が9割強、「知っている」は1割に満たない。

市民後見制度を知っているかたずねたところ、「知らない」が 90.3%、「知っている」が 6.9%となっている。

図表 市民後見制度を知っているか



袖ヶ浦市
在宅介護実態調査
結果報告書

令和5年3月

袖ヶ浦市

目 次

I	調査の概要及び対象者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査結果報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
3	基礎情報	2
(1)	要介護度	2
(2)	年齢	2
(3)	性別	3
(4)	居住地区	3
II	調査結果	4
1	調査対象者様ご本人について	4
(1)	調査票の回答者	4
(2)	ご本人の世帯類型	5
(3)	ご家族やご親族の方からの介護頻度	6
(4)	主な介護者の方	7
(5)	主な介護者の方の性別	8
(6)	主な介護者の方の年齢	9
(7)	主な介護者が行っている介護等	10
(8)	介護を理由とした離職・転職の有無	11
(9)	現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス	12
(10)	今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス	13
(11)	施設等への入所・入居の検討状況	15
(12)	ご本人が現在抱えている傷病	16
(13)	訪問診療の利用状況	17
(14)	(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスの利用状況	18
(15)	介護保険サービスを利用していない理由	19
2	主な介護者の方について	20
(1)	主な介護者の方の現在の勤務形態	20
(2)	働き方の調整等	21
(3)	仕事と介護の両立に効果のある支援	22
(4)	今後も働きながら介護を続けていけそうか	23
(5)	主な介護者の方が不安に感じる介護等	24

I 調査の概要及び対象者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、「袖ヶ浦市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定に当たり、本市に居住する在宅の高齢者の生活状況や介護サービスの利用状況等を把握することを目的として実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	要支援・要介護認定を受けている市民（施設居住者を除く）とその介護者
配布数	591 票
抽出法	無作為抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和4年12月
調査地域	袖ヶ浦市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	591
有効回収数	359
有効回収率	60.7%

2 本調査結果報告書の基本的な事項

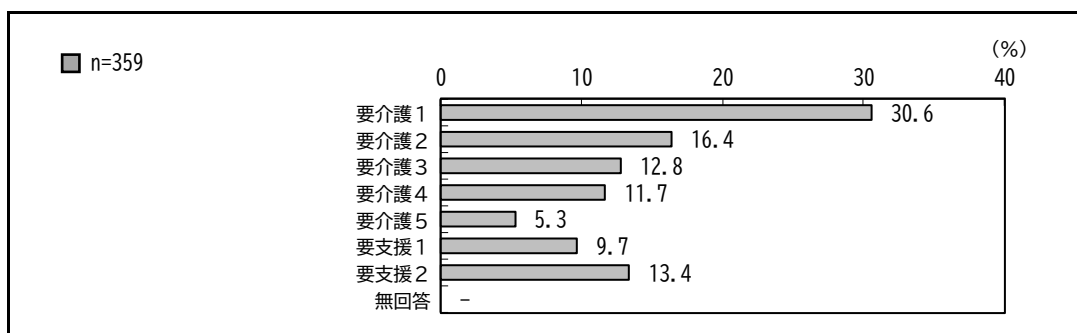
(1) 数値の基本的な取り扱いについて

- ①比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100%を上下する場合がある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、したがって各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

3 基礎情報

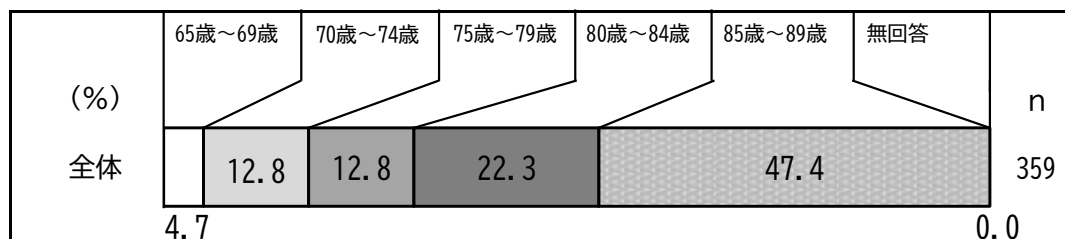
(1) 要介護度

調査対象者の要介護度は、「要介護1」が30.6%（110件）、「要介護2」が16.4%（59件）、「要支援2」が13.4%（48件）、「要介護3」が12.8%（46件）、「要介護4」が11.7%（42件）、「要支援1」が9.7%（35件）、「要介護5」が5.3%（19件）となっている。



(2) 年齢

調査対象者の年齢は、「85歳～89歳」が47.4%（170件）、「80歳～84歳」が22.3%（80件）、「70歳～74歳」・「75歳～79歳」が同率12.8%（各46件）、「65歳～69歳」が4.7%（17件）となっている。



(3) 性別

調査対象者の性別は、「女性」が 66.6% (239 件)、「男性」が 33.4% (120 件) となっている。

(%)	男性	女性	無回答	n
全体	33.4	66.6	0.0	359

(4) 居住地区

調査対象者の居住地区は、「長浦地区」が 37.6% (135 件)、「昭和地区」が 26.7% (96 件)、「平岡地区」が 13.1% (47 件)、「中川・富岡地区」が 12.8% (46 件)、「根形地区」が 9.7% (35 件) となっている。

(%)	昭和地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川・富岡地区	無回答	n
全体	26.7	37.6	9.7	13.1	12.8	0.0	359

Ⅱ 調査結果

1 調査対象者様ご本人について

(1) 調査票の回答者

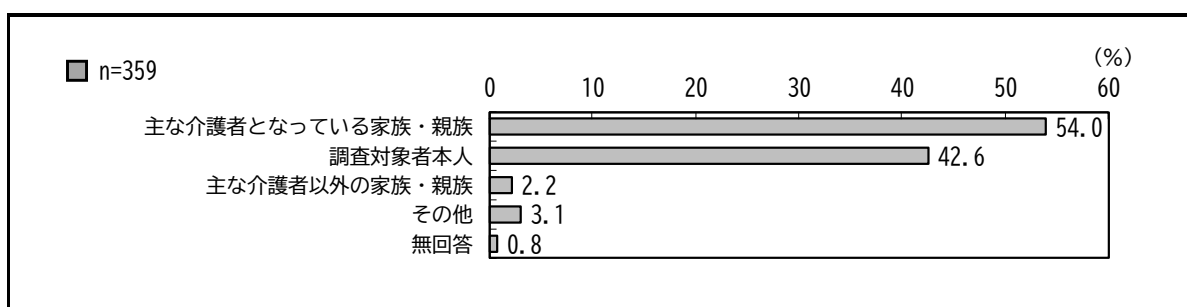
問1 現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか (あてはまるものを全て○)
【複数回答】



- 「主な介護者となっている家族・親族」が約5割、「調査対象者本人」が約4割を占める。

調査票の回答者は、「主な介護者となっている家族・親族」が54.0% (194 件)、「調査対象者本人」が42.6% (153 件)、「その他」が3.1% (11 件)、「主な介護者以外の家族・親族」が2.2% (8 件) となっている。

図表 調査票の回答者



(2) ご本人の世帯類型

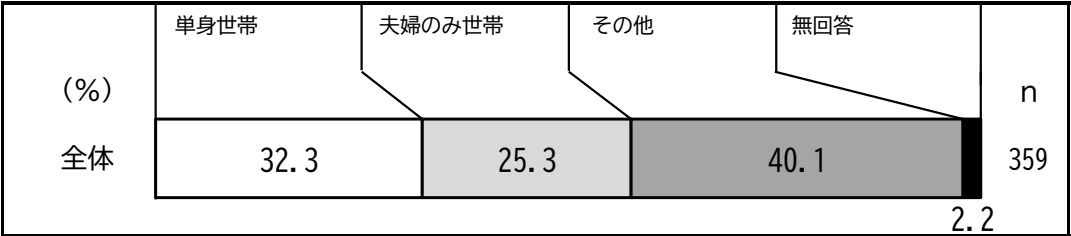
問2 ご本人（調査対象者様）の世帯類型について、ご回答ください（ひとつだけ○）



● 「その他」が約4割、「単身世帯」が3割弱、「夫婦のみ世帯」が2割強を占める。

ご本人の世帯類型については、「その他」が40.1%（144件）、「単身世帯」が32.3%（116件）、「夫婦のみ世帯」が25.3%（91件）となっている。

図表 ご本人の世帯類型



■ その他回答

- ・ 子供と同居
- ・ 二世帯
- ・ 娘家族

等

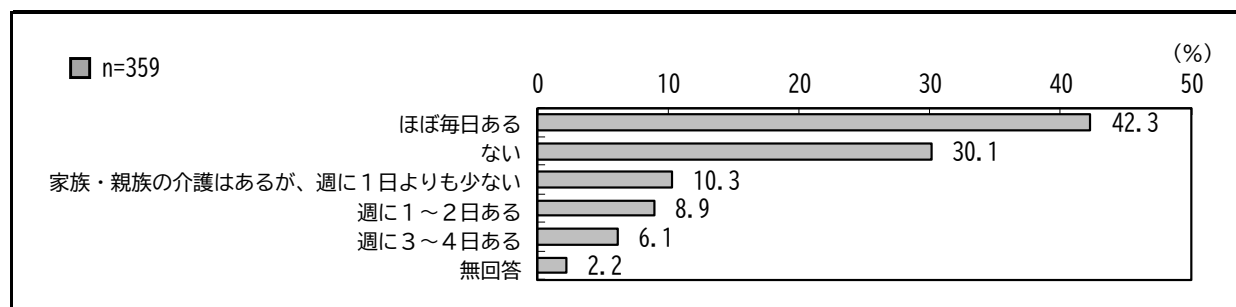
(3) ご家族やご親族の方からの介護頻度

問3 ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか
(同居していない子どもや親族等からの介護を含む) (ひとつだけ○)

- 「ほぼ毎日ある」が約4割、「ない」が約3割を占める。

ご家族やご親族の方からの介護頻度については、「ほぼ毎日ある」が42.3% (152件)、「ない」が30.1% (108件)、「家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない」が10.3% (37件)、「週に1～2日ある」が8.9% (32件)、「週に3～4日ある」が6.1% (22件)となっている。

図表 ご家族やご親族の方からの介護頻度



		問3　ご家族やご親族の方からの介護頻度						(%)
		(人)	ほぼ毎日ある	ない	家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない	週に1～2日ある	週に3～4日ある	無回答
全体		359	42.3	30.1	10.3	8.9	6.1	2.2
要介護度別	要介護1	110	40.0	24.5	13.6	11.8	9.1	0.9
	要介護2	59	39.0	37.3	8.5	8.5	5.1	1.7
	要介護3	46	45.7	30.4	8.7	8.7	4.3	2.2
	要介護4	42	45.2	33.3	14.3	4.8	-	2.4
	要介護5	19	42.1	31.6	5.3	5.3	5.3	10.5
	要支援1	35	40.0	37.1	11.4	2.9	8.6	-
	要支援2	48	47.9	25.0	4.2	12.5	6.3	4.2

(4) 主な介護者の方

※ここからは問3で「2.」から「5.」と回答された方にお伺いします。

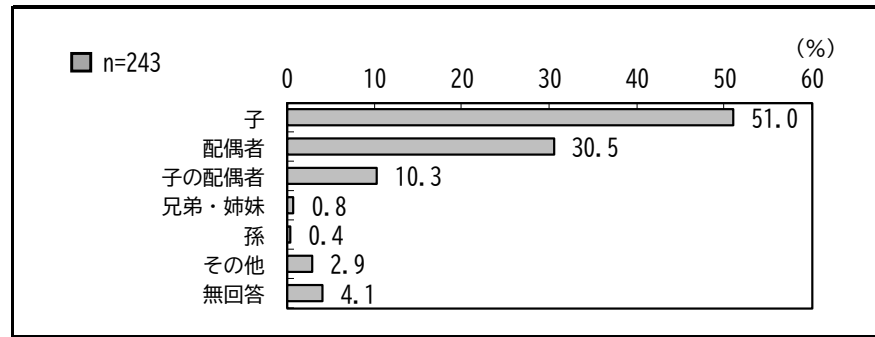
問4 主な介護者の方は、どなたですか (ひとつだけ○)



●「子」が約5割、「配偶者」が約3割を占める。

主な介護者の方については、「子」が51.0% (124件)、「配偶者」が30.5% (74件)、「子の配偶者」が10.3% (25件)、「その他」が2.9% (7件)、「兄弟・姉妹」が0.8% (2件)、「孫」が0.4% (1件)となっている。

図表 主な介護者の方



■ その他回答

・ 姪子

・ 母

等

(5) 主な介護者の方の性別

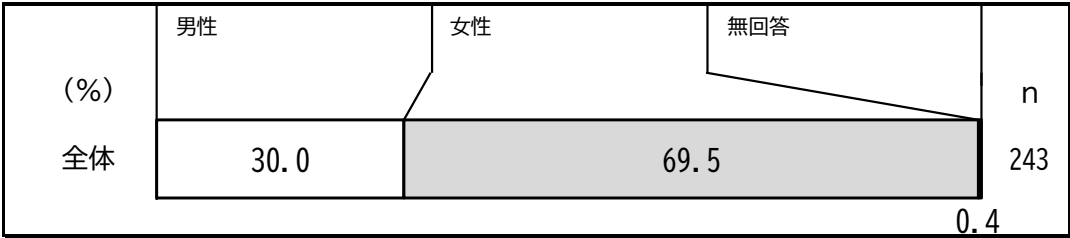
問5 主な介護者の方の性別について、ご回答ください (ひとつだけ○)



● 「女性」が約7割、「男性」が3割を占める。

主な介護者の方の性別についてたずねたところ、「女性」が 69.5% (169 件)、「男性」が 30.0% (73 件) となっている。

図表 主な介護者の方の性別



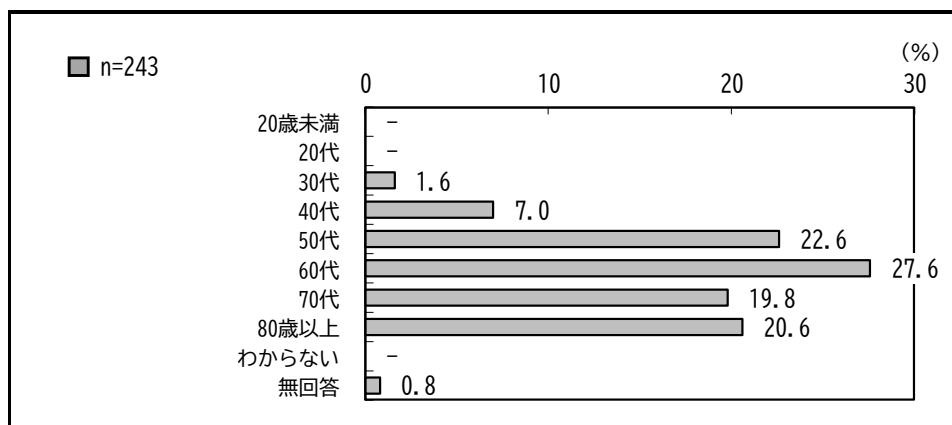
(6) 主な介護者の方の年齢

問6 主な介護者の方の年齢について、ご回答ください (ひとつだけ○)

- 「60代」が約3割、「50代」・「70代」・「80歳以上」がそれぞれ約2割を占める。

主な介護者の方の年齢についてたずねたところ、「60代」(27.6%、67件)が最も多く、次いで「50代」(22.6%、55件)、「80歳以上」(20.6%、50件)、「70代」(19.8%、48件)、「40代」(7.0%、17件)、「30代」(1.6%、4件)などとなっている。

図表 主な介護者の方の年齢



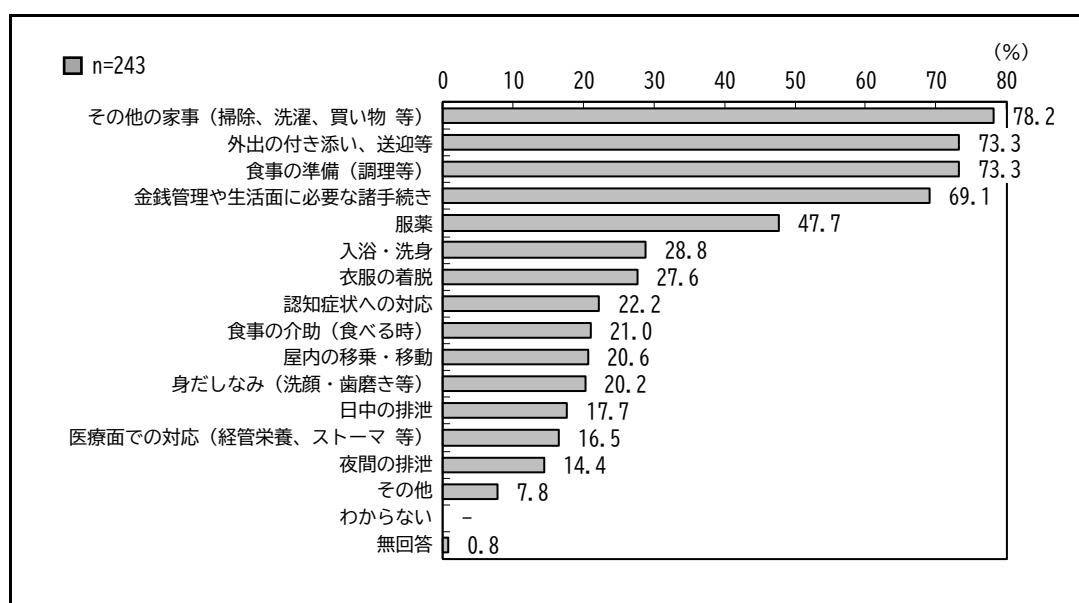
(7) 主な介護者が行っている介護等

問7 現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください
(あてはまるもの全て○)【複数回答】

- 「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が約8割、「外出の付き添い、送迎等」・「食事の準備（調理等）」がそれぞれ7割を占める。

主な介護者が行っている介護等については、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」（78.2%、190 件）が最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」・「食事の準備（調理等）」（同率 73.3%、各 178 件）、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」（69.1%、168 件）、「服薬」（47.7%、116 件）、「入浴・洗身」（28.8%、70 件）、「衣服の着脱」（27.6%、67 件）、「認知症状への対応」（22.2%、54 件）、「食事の介助（食べる時）」（21.0%、51 件）、「屋内の移乗・移動」（20.6%、50 件）、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」（20.2%、49 件）などとなっている。

図表 主な介護者が行っている介護等



■ その他回答

- ・体調のアドバイス、金銭支援
- ・血圧測定、血糖測定、インシュリン注射
- ・社会的家庭的な渉外対応等々、全て
- ・病院の付き添い、買い物

等

(8) 介護を理由とした離職・転職の有無

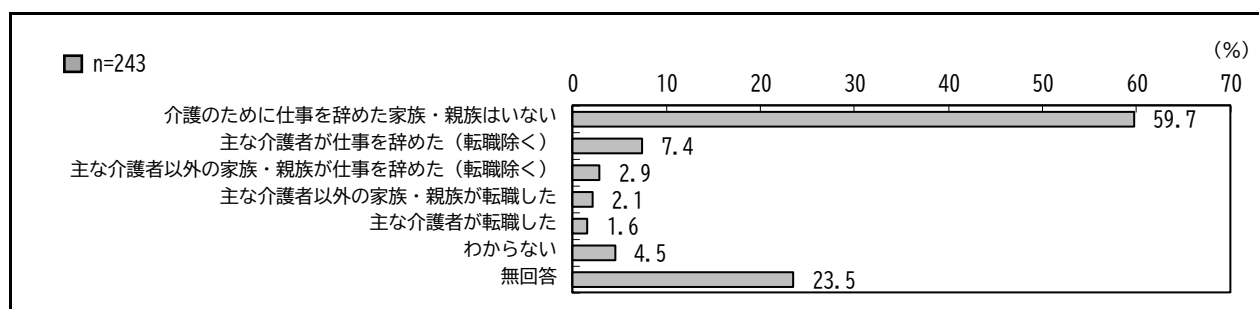
問8 ご家族やご親族の中で、ご本人（調査対象者様）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事（※）を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（あてはまるもの全て○）【複数回答】

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

- 「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が他を大きく引き離して第1位。

介護を理由とした離職・転職の有無についてたずねたところ、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」（59.7%、145件）が最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」（7.4%、18件）、「わからない」（4.5%、11件）、「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」（2.9%、7件）、「主な介護者以外の家族・親族が転職した」（2.1%、5件）、「主な介護者が転職した」（1.6%、4件）となっている。

図表 介護を理由とした離職・転職の有無



(%)

		(人)	問8 介護を理由とした離職・転職の有無						
			介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	主な介護者以外の家族・親族が転職した	主な介護者が転職した	わからない	無回答
全体		243	59.7	7.4	2.9	2.1	1.6	4.5	23.5
要介護度別	要介護1	82	58.5	6.1	3.7	3.7	2.4	4.9	23.2
	要介護2	36	58.3	8.3	-	-	-	2.8	30.6
	要介護3	31	71.0	3.2	-	-	3.2	3.2	19.4
	要介護4	27	51.9	7.4	-	-	-	7.4	33.3
	要介護5	11	45.5	18.2	-	-	9.1	-	27.3
	要支援1	22	77.3	9.1	9.1	-	-	-	13.6
	要支援2	34	52.9	8.8	5.9	5.9	-	8.8	17.6

(9) 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス

■ここから再び、全員の方にお伺いします。

問9 現在、利用している「介護保険サービス以外(※)」の支援・サービスについて、ご回答ください (あてはまるもの全て○)【複数回答】

※ ご家族やご親族による支援・サービスは含みません。

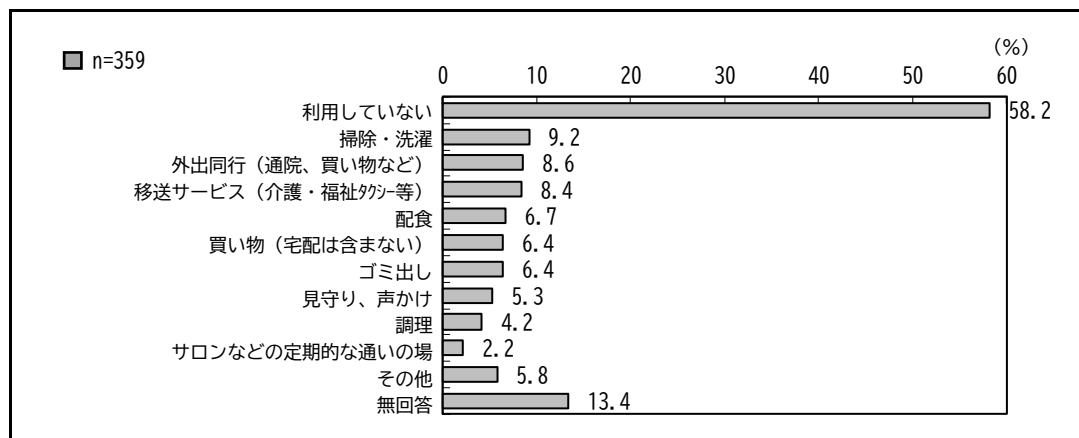
※ 総合事業に基づく支援・サービスは、「介護保険サービス」に含めます。



- 「利用していない」が他を大きく引き離して第1位。

現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービスについてたずねたところ、「利用していない」(58.2%、209件)が最も多く、次いで「掃除・洗濯」(9.2%、33件)、「外出同行(通院、買い物など)」(8.6%、31件)、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」(8.4%、30件)、「配食」(6.7%、24件)、「買い物(宅配は含まない)」・「ゴミ出し」(同率6.4%、各23件)、「その他」(5.8%、21件)、「見守り、声かけ」(5.3%、19件)、「調理」(4.2%、15件)、「サロンなどの定期的な通いの場」(2.2%、8件)となっている。

図表 現在利用している介護保険サービス以外の支援・サービス



■ その他回答

・訪問マッサージ

等

(10) 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

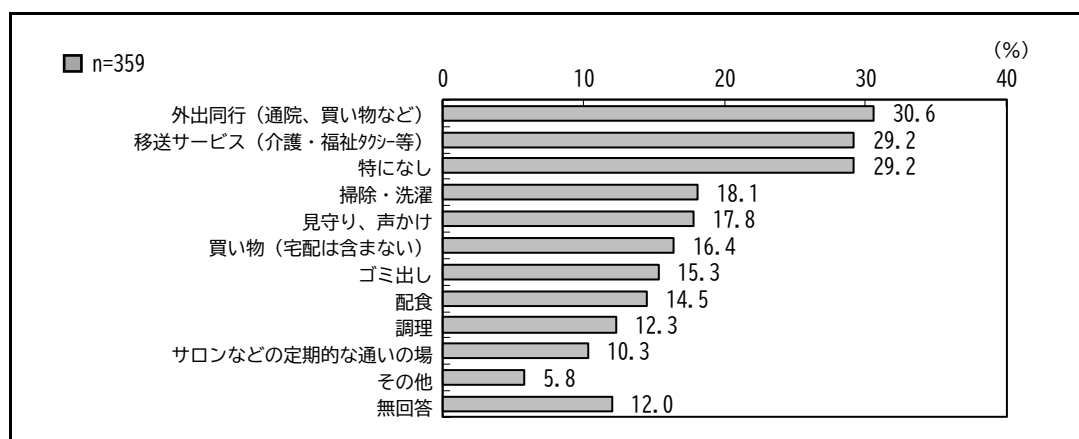
問 10 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む（※））について、ご回答ください
（あてはまるもの全て○）【複数回答】

※ 介護保険サービス、介護保険以外の支援・サービスともに含みます。

- 「外出同行（通院、買い物など）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「特になし」がそれぞれ約3割を占める。

今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービスについては、「外出同行（通院、買い物など）」（30.6%、110 件）が最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」・「特になし」（同率 29.2%、各 105 件）、「掃除・洗濯」（18.1%、65 件）、「見守り、声かけ」（17.8%、64 件）、「買い物（宅配は含まない）」（16.4%、59 件）、「ゴミ出し」（15.3%、55 件）、「配食」（14.5%、52 件）、「調理」（12.3%、44 件）、「サロンなどの定期的な通いの場」（10.3%、37 件）などとなっている。

図表 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



■ その他回答

- ・ 災害時の対処
- ・ ショートステイ

等

(%)

		(人)	問10 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス					
			外出同行 (通院、買 い物など)	移送サービ ス(介護・ 福祉ター 等)	特になし	掃除・洗濯	見守り、声 かけ	買い物(宅 配は含まない)
全体		359	30.6	29.2	29.2	18.1	17.8	16.4
要介護度別	要介護1	110	28.2	28.2	32.7	18.2	20.0	16.4
	要介護2	59	25.4	16.9	23.7	22.0	16.9	11.9
	要介護3	46	37.0	39.1	32.6	6.5	19.6	8.7
	要介護4	42	26.2	38.1	31.0	21.4	21.4	21.4
	要介護5	19	36.8	36.8	26.3	26.3	15.8	21.1
	要支援1	35	42.9	34.3	22.9	20.0	17.1	28.6
	要支援2	48	29.2	22.9	29.2	16.7	10.4	14.6
居住地区別	昭和	96	29.2	31.3	32.3	17.7	16.7	18.8
	長浦	135	34.1	32.6	25.9	20.0	23.7	14.8
	根形	35	28.6	20.0	31.4	17.1	14.3	17.1
	平岡	47	27.7	21.3	31.9	14.9	14.9	23.4
	中川・富岡	46	28.3	30.4	28.3	17.4	8.7	8.7
世帯類型別	単身世帯	116	31.0	29.3	25.9	27.6	23.3	20.7
	夫婦のみ世帯	91	38.5	35.2	23.1	16.5	16.5	24.2
	その他	144	25.7	26.4	36.1	11.8	15.3	9.0

		(人)	問10 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス					
			ゴミ出し	配食	調理	サロンなどの定期的な通いの場	その他	無回答
全体		359	15.3	14.5	12.3	10.3	5.8	12.0
要介護度別	要介護1	110	14.5	20.0	11.8	9.1	7.3	8.2
	要介護2	59	15.3	10.2	16.9	10.2	8.5	15.3
	要介護3	46	6.5	-	2.2	13.0	-	13.0
	要介護4	42	21.4	21.4	14.3	16.7	4.8	9.5
	要介護5	19	15.8	15.8	15.8	15.8	10.5	21.1
	要支援1	35	20.0	11.4	17.1	2.9	2.9	11.4
	要支援2	48	16.7	16.7	10.4	8.3	6.3	14.6
居住地区別	昭和	96	16.7	12.5	13.5	10.4	2.1	11.5
	長浦	135	16.3	16.3	12.6	11.1	3.0	8.9
	根形	35	14.3	14.3	11.4	11.4	11.4	14.3
	平岡	47	19.1	14.9	12.8	10.6	17.0	14.9
	中川・富岡	46	6.5	13.0	8.7	6.5	6.5	17.4
世帯類型別	単身世帯	116	24.1	19.8	13.8	10.3	7.8	5.2
	夫婦のみ世帯	91	17.6	17.6	15.4	11.0	5.5	17.6
	その他	144	7.6	9.0	9.0	9.7	4.9	11.8

(11) 施設等への入所・入居の検討状況

問 11 現時点での、施設等（※）への入所・入居の検討状況について、ご回答ください
（ひとつだけ○）

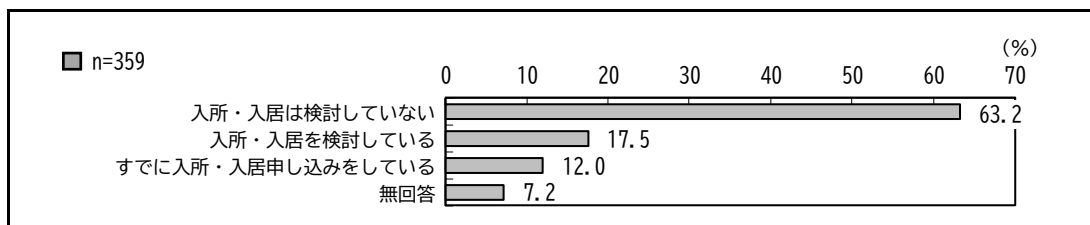
※ 「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。



- 「入所・入居は検討していない」が約6割、「入所・入居を検討している」が約2割、「すでに入所・入居申し込みをしている」が約1割を占める。

施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」（63.2%、227 件）が最も多く、次いで「入所・入居を検討している」（17.5%、63 件）、「すでに入所・入居申し込みをしている」（12.0%、43 件）となっている。

図表 施設等への入所・入居の検討状況



(%)

		(人)	問11 施設等への入所・入居の検討状況			
			入所・入居 は検討して いない	入所・入居 を検討して いる	すでに入 所・入居申 し込みをし ている	無回答
全体		359	63.2	17.5	12.0	7.2
要介護度別	要介護1	110	66.4	11.8	13.6	8.2
	要介護2	59	64.4	23.7	5.1	6.8
	要介護3	46	60.9	23.9	13.0	2.2
	要介護4	42	54.8	14.3	19.0	11.9
	要介護5	19	52.6	15.8	15.8	15.8
	要支援1	35	65.7	20.0	8.6	5.7
	要支援2	48	66.7	18.8	10.4	4.2
居住地区別	昭和	96	65.6	14.6	12.5	7.3
	長浦	135	65.2	14.8	12.6	7.4
	根形	35	60.0	25.7	5.7	8.6
	平岡	47	51.1	25.5	14.9	8.5
	中川・富岡	46	67.4	17.4	10.9	4.3
世帯類型別	単身世帯	116	62.9	21.6	12.9	2.6
	夫婦のみ世帯	91	65.9	15.4	8.8	9.9
	その他	144	64.6	16.0	13.9	5.6

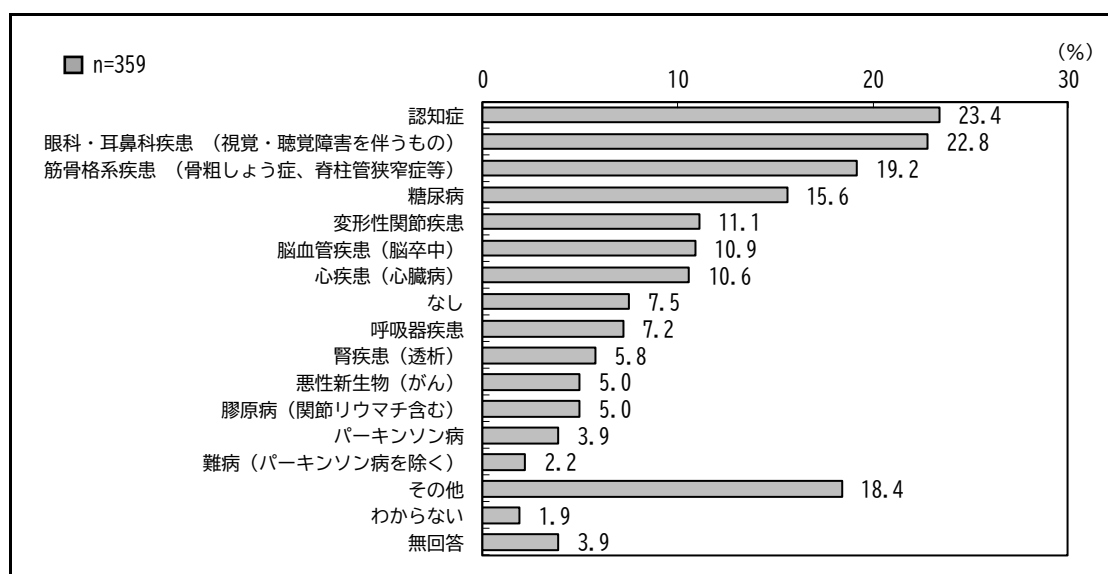
(12) ご本人が現在抱えている傷病

問 12 ご本人（調査対象者様）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください
（あてはまるもの全て○）【複数回答】

- 「認知症」が第1位。「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「糖尿病」、「変形性関節疾患」、「脳血管疾患（脳卒中）」などが続く。

ご本人が現在抱えている傷病については、「認知症」（23.4%、84件）が最も多く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」（22.8%、82件）、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」（19.2%、69件）、「糖尿病」（15.6%、56件）、「変形性関節疾患」（11.1%、40件）、「脳血管疾患（脳卒中）」（10.9%、39件）、「心疾患（心臓病）」（10.6%、38件）、「呼吸器疾患」（7.2%、26件）、「腎疾患（透析）」（5.8%、21件）、「悪性新生物（がん）」・「膠原病（関節リウマチ含む）」（同率5.0%、各18件）などとなっている。

図表 ご本人が現在抱えている傷病



■ その他回答

- ・ 高血圧症
- ・ 大腸憩室出血
- ・ 双極性障害（そううつ症）

等

(13) 訪問診療の利用状況

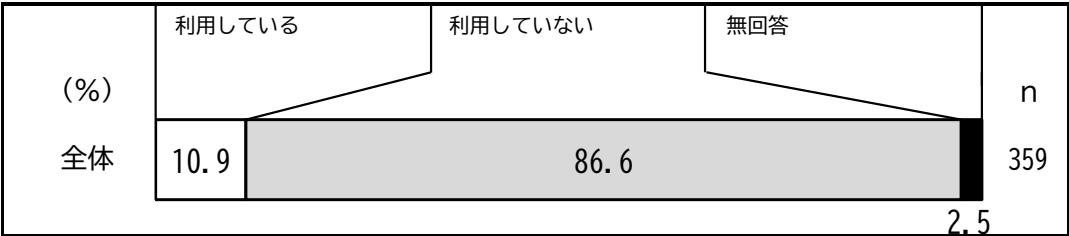
問 13 ご本人（調査対象者様）は、現在、訪問診療（※）を利用していますか
（ひとつだけ○）
※ 訪問歯科診療や居宅療養管理指導等を含みません。



● 「利用していない」が約9割、「利用している」が1割を占める。

訪問診療の利用については、「利用していない」が 86.6%（311 件）、「利用している」が 10.9%（39 件）となっている。

図表 訪問診療の利用状況



(14) (住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスの利用状況

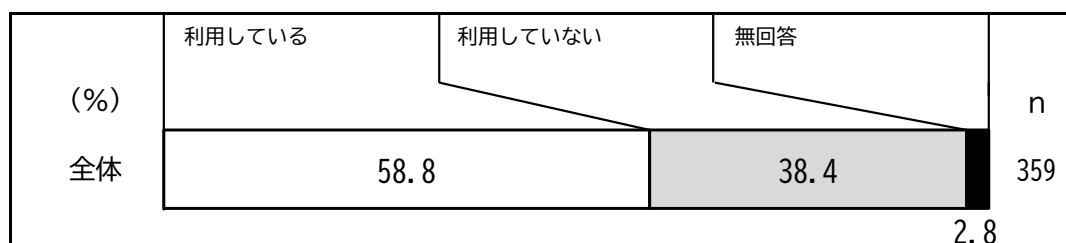
問 14 現在、(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスを利用していますか
(ひとつだけ○)



- 「利用している」が約6割、「利用していない」が約4割を占める。

(住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスの利用状況については、「利用している」が 58.8% (211 件)、「利用していない」が 38.4% (138 件) となっている。

図表 (住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の) 介護保険サービスの利用状況



(%)

		(人)	問14（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスの利用状況		
			利用している	利用していない	無回答
全体		359	58.8	38.4	2.8
要介護度別	要介護 1	110	68.2	30.0	1.8
	要介護 2	59	45.8	52.5	1.7
	要介護 3	46	54.3	37.0	8.7
	要介護 4	42	57.1	40.5	2.4
	要介護 5	19	63.2	31.6	5.3
	要支援 1	35	54.3	45.7	-
	要支援 2	48	60.4	37.5	2.1

(15) 介護保険サービスを利用していない理由

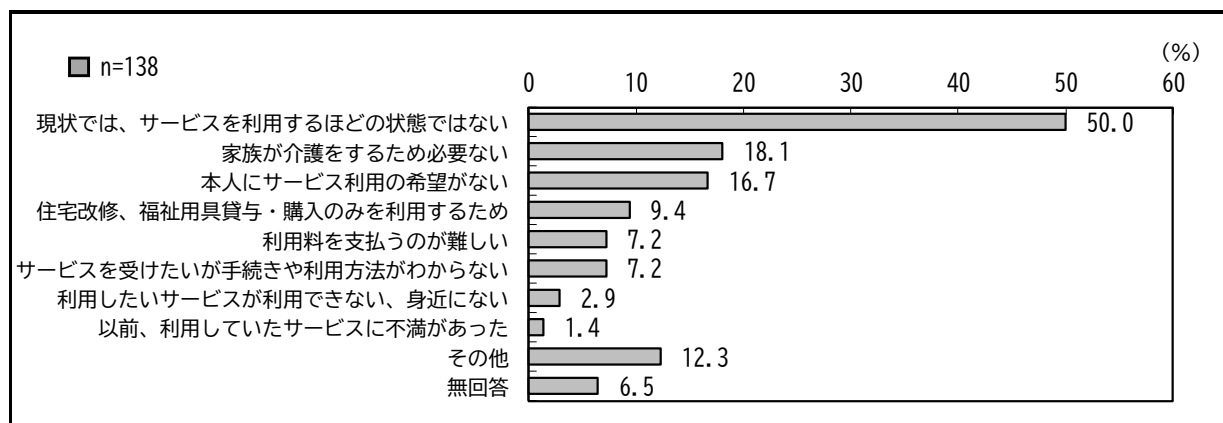
※問 14 で「2.」と回答した方にお伺いします。

問 15 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか (あてはまるもの全て○)
【複数回答】

- 「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が他を大きく引き離して第 1 位。

介護保険サービスを利用していない理由については、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」(50.0%、69 件) が最も多く、次いで「家族が介護をするため必要ない」(18.1%、25 件)、「本人にサービス利用の希望がない」(16.7%、23 件)、「その他」(12.3%、17 件)、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」(9.4%、13 件)、「利用料を支払うのが難しい」・「サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない」(同率 7.2%、各 10 件)、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」(2.9%、4 件)、「以前、利用していたサービスに不満があった」(1.4%、2 件) となっている。

図表 介護保険サービスを利用していない理由



■ その他回答

- ・ どの様なサービスがあるのかよくわからない
- ・ 必要なサービス提供施設がない

等

2 主な介護者の方について

(1) 主な介護者の方の現在の勤務形態

※問3で「2.」から「5.」と回答された方にお伺いします。

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（ひとつだけ○）

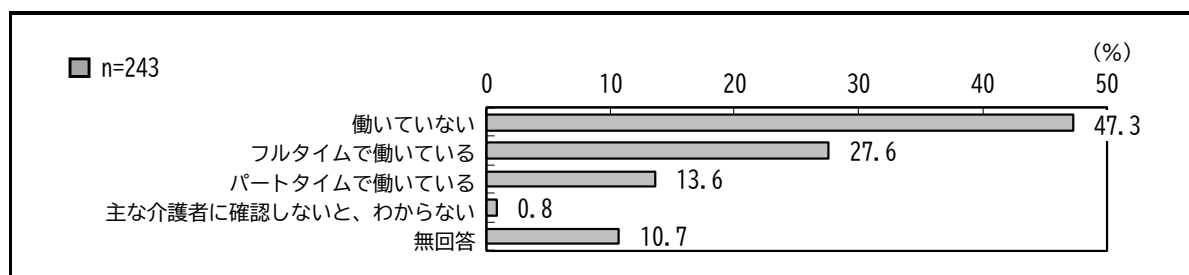
※ 「パートタイム」とは、「1週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い方」が該当します。いわゆる「アルバイト」、「嘱託」、「契約社員」等の方を含みます。自営業・フリーランス（個人事業主、自由業）等の場合も、就労時間・日数等から「フルタイム」・「パートタイム」のいずれかを選択してください。



- 「働いていない」が約5割、「フルタイムで働いている」が約3割を占める。

主な介護者の方の現在の勤務形態については、「働いていない」が47.3%（115件）、「フルタイムで働いている」が27.6%（67件）、「パートタイムで働いている」が13.6%（33件）、「主な介護者に確認しないと、わからない」が0.8%（2件）となっている。

図表 主な介護者の方の現在の勤務形態



(2) 働き方の調整等

※問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

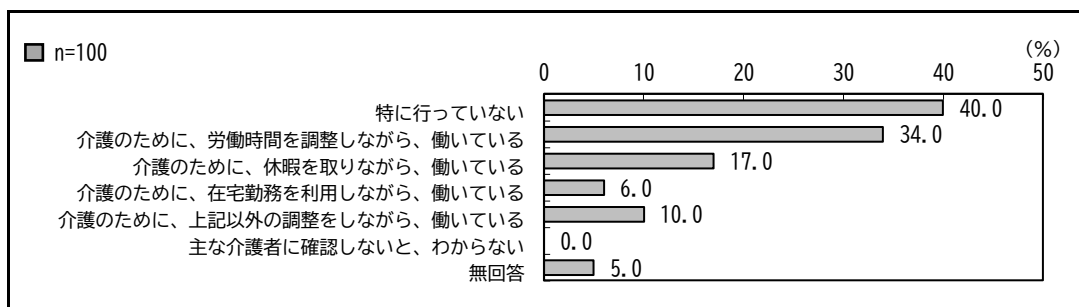
問2 主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか（あてはまるもの全て○）【複数回答】



- 「特に行っていない」が4割、「介護のために、労働時間を調整しながら、働いている」が3割強を占める。

働き方の調整等については、「特に行っていない」（40.0%、40件）が最も多く、次いで「介護のために、労働時間を調整しながら、働いている」（34.0%、34件）、「介護のために、休暇を取りながら、働いている」（17.0%、17件）、「介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている」（10.0%、10件）、「介護のために、在宅勤務を利用しながら、働いている」（6.0%、6件）などとなっている。

図表 働き方の調整等



(3) 仕事と介護の両立に効果のある支援

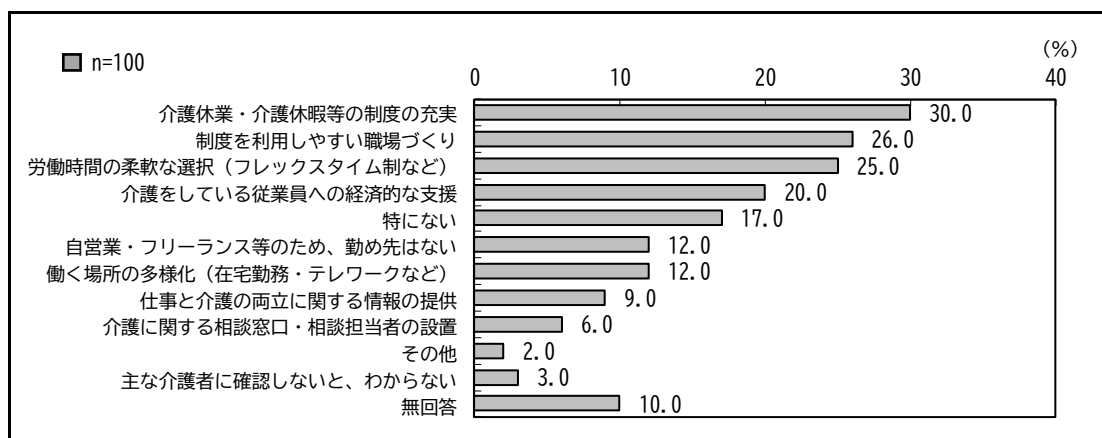
※問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

問3 主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか (3つまで○)【複数回答】

- 「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が3割、「制度を利用しやすい職場づくり」・「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」がそれぞれ3割弱を占める。

仕事と介護の両立に効果のある支援については、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」(30.0%、30件)が最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」(26.0%、26件)、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」(25.0%、25件)、「介護をしている従業員への経済的な支援」(20.0%、20件)、「特にない」(17.0%、17件)、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」・「働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）」(同率12.0%、各12件)などとなっている。

図表 仕事と介護の両立に効果のある支援



(4) 今後も働きながら介護を続けていけそうか

※問1で「1.」「2.」と回答した方にお伺いします。

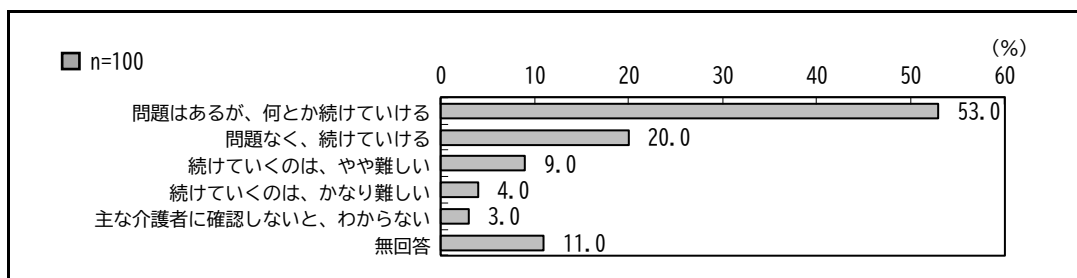
問4 主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか (ひとつだけ○)



- 「問題はあるが、何とか続けていける」が他を大きく引き離して第1位。

今後も働きながら介護を続けていけるかについては、「問題はあるが、何とか続けていける」が53.0% (53件)、「問題なく、続けていける」が20.0% (20件)、「続けていくのは、やや難しい」が9.0% (9件)、「続けていくのは、かなり難しい」が4.0% (4件)、「主な介護者に確認しないと、わからない」が3.0% (3件)となっている。

図表 今後も働きながら介護を続けていけそうか



(5) 主な介護者の方が不安に感じる介護等

■ここから再び、全員の方にお伺いします。

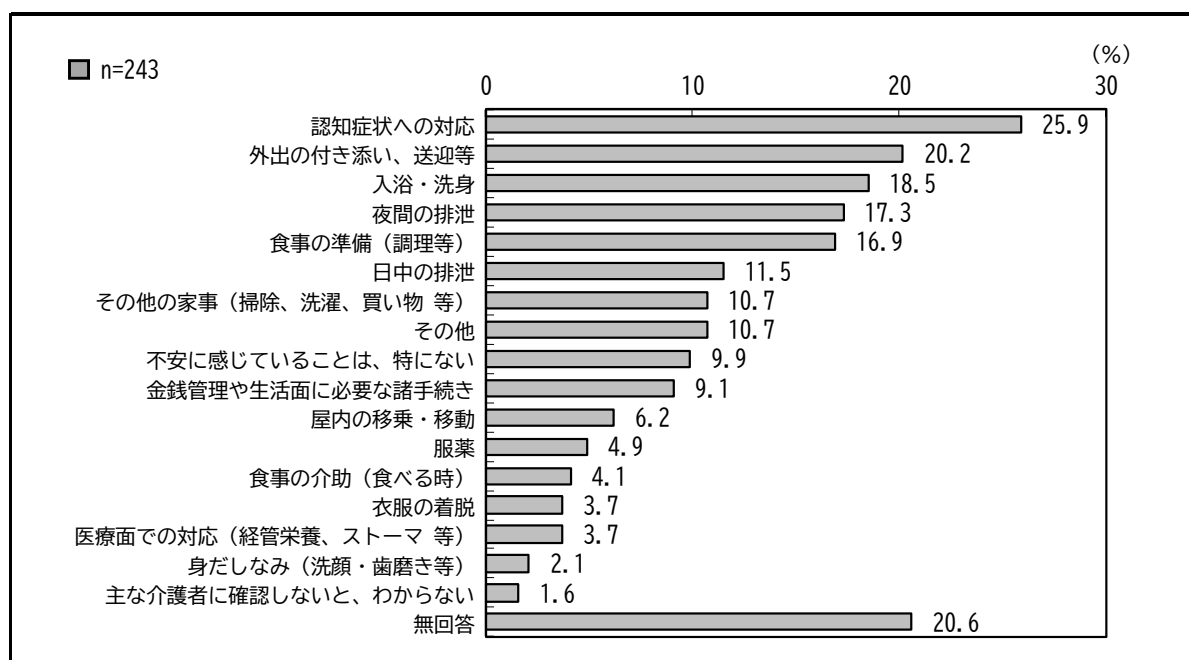
問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで○）【複数回答】



- 「認知症状への対応」が2割強、「外出の付き添い、送迎等」が約2割を占める。

主な介護者の方が不安に感じる介護等については、「認知症状への対応」(25.9%、63件)が最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」(20.2%、49件)、「入浴・洗身」(18.5%、45件)、「夜間の排泄」(17.3%、42件)、「食事の準備(調理等)」(16.9%、41件)、「日中の排泄」(11.5%、28件)、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」・「その他」(同率10.7%、各26件)、「不安に感じていることは、特にない」(9.9%、24件)などとなっている。

図表 主な介護者の方が不安に感じる介護等



■ その他回答

- ・ 介護者本人の体力
- ・ 介護者が病気になった時
- ・ 社会参加の機会がなくなり身内以外の人との交流がなくなる事
- ・ 老々世帯介護者も年と共に介護が大変

等

(%)

		(人)	問5 主な介護者の方が不安に感じる介護等					
			認知症状への対応	外出の付き添い、送迎等	入浴・洗身	夜間の排泄	食事の準備(調理等)	日中の排泄
全体		243	25.9	20.2	18.5	17.3	16.9	11.5
要介護度別	要介護1	82	20.7	18.3	23.2	18.3	18.3	11.0
	要介護2	36	30.6	16.7	19.4	25.0	16.7	11.1
	要介護3	31	35.5	29.0	12.9	19.4	22.6	22.6
	要介護4	27	33.3	14.8	7.4	18.5	25.9	3.7
	要介護5	11	18.2	18.2	18.2	18.2	-	9.1
	要支援1	22	18.2	22.7	18.2	4.5	4.5	4.5
	要支援2	34	26.5	23.5	20.6	11.8	14.7	14.7
世帯類型別	単身世帯	69	18.8	15.9	17.4	20.3	14.5	20.3
	夫婦のみ世帯	57	22.8	28.1	10.5	10.5	19.3	3.5
	その他	114	32.5	19.3	23.7	19.3	16.7	10.5

		(人)	その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）	その他	不安に感じていることは、特にない	金銭管理や生活面に必要な諸手続き	屋内の移乗・移動	服薬
全体		243	10.7	10.7	9.9	9.1	6.2	4.9
要介護度別	要介護1	82	8.5	11.0	12.2	7.3	9.8	9.8
	要介護2	36	16.7	11.1	2.8	8.3	2.8	5.6
	要介護3	31	22.6	3.2	3.2	9.7	9.7	3.2
	要介護4	27	7.4	25.9	18.5	11.1	3.7	3.7
	要介護5	11	9.1	36.4	18.2	18.2	-	-
	要支援1	22	4.5	4.5	13.6	9.1	-	-
	要支援2	34	5.9	-	5.9	8.8	5.9	-
世帯類型別	単身世帯	69	10.1	14.5	8.7	4.3	4.3	4.3
	夫婦のみ世帯	57	14.0	12.3	8.8	7.0	8.8	3.5
	その他	114	8.8	7.9	11.4	13.2	6.1	6.1

		(人)	食事の介助 (食べる 時)	衣服の着脱	医療面での 対応(経管 栄養、ス トーマ 等)	身だしなみ (洗顔・歯 磨き等)	主な介護者 に確認しな いと、わか らない	無回答
全体		243	4.1	3.7	3.7	2.1	1.6	20.6
要介護度別	要介護1	82	7.3	3.7	2.4	1.2	1.2	15.9
	要介護2	36	-	2.8	5.6	2.8	-	27.8
	要介護3	31	-	9.7	3.2	-	3.2	16.1
	要介護4	27	-	-	-	-	-	14.8
	要介護5	11	-	-	9.1	-	-	18.2
	要支援1	22	4.5	0.0	0.0	4.5	4.5	36.4
	要支援2	34	8.8	5.9	8.8	5.9	2.9	23.5
世帯類型別	単身世帯	69	7.2	1.4	-	2.9	2.9	18.8
	夫婦のみ世帯	57	1.8	1.8	3.5	3.5	-	29.8
	その他	114	3.5	6.1	6.1	0.9	1.8	15.8

袖ヶ浦市
介護サービス事業者調査
結果報告書

令和5年3月

袖 ヶ 浦 市

目 次

I	調査の概要及び対象者の属性	1
1	調査の概要	1
	(1) 調査目的	1
	(2) 調査対象及び調査方法	1
	(3) 配布数及び回収結果	1
2	本調査結果報告書の基本的な事項	1
	(1) 数値の基本的な取り扱いについて	1
3	基礎情報について	2
	(1) 所在地	2
	(2) 運営主体	2
	(3) 介護サービスの運営年数	2
II	調査結果	3
1	介護サービス提供の現状と今後の意向について	3
	(1) 本市内で提供中の介護サービス	3
	(2) 介護サービス提供の今後の意向	4
	(3) 今後の意向の理由	5
	(4) 新設や拡充の予定年度	10
	(5) 新設や拡充の規模	11
	(6) 新設や拡充の予定地区	12
	(7) 新規事業に参入する際の課題	13
	(8) 介護サービスを新設する場合にあるとよい支援	14
	(9) 事業を運営する上での問題	15
	(10) 職員を定着させるための取り組み	16
2	袖ヶ浦市の介護サービス・高齢者福祉施策について	17
	(1) 不足又は今後不足する介護サービス	17
	(2) 今後ニーズが高まると想定されるサービス	18
3	地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた課題について	19
4	自由意見	22

I 調査の概要及び対象者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、袖ヶ浦市内で介護サービスを提供している事業所を運営する法人等の介護サービス提供の現状や今後の意向等を把握し、袖ヶ浦市高齢者福祉計画の見直し及び第9期介護保険事業計画策定のための基礎資料とするために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	袖ヶ浦市内で介護サービスを提供している事業所を運営する法人等
配布数	103 票
抽出法	有意抽出
調査方法	郵送法
調査時期	令和4年12月
調査地域	袖ヶ浦市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	103
有効回収数	50
有効回収率	48.5%

2 本調査結果報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

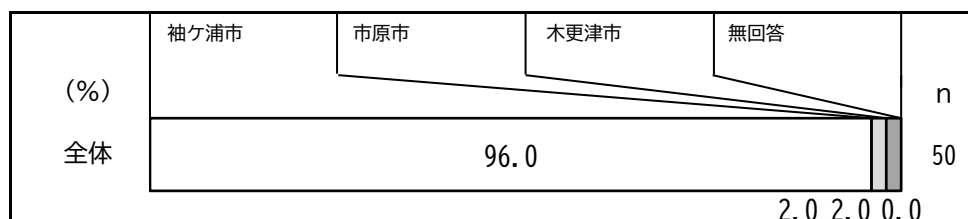
- ①比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出しています。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、したがって各回答の合計比率は100%を超える場合があります。

3 基礎情報について

(1) 所在地

問1 貴事業者(法人等)の名称、所在地及びご記入いただく方のお名前等をお聞きます。

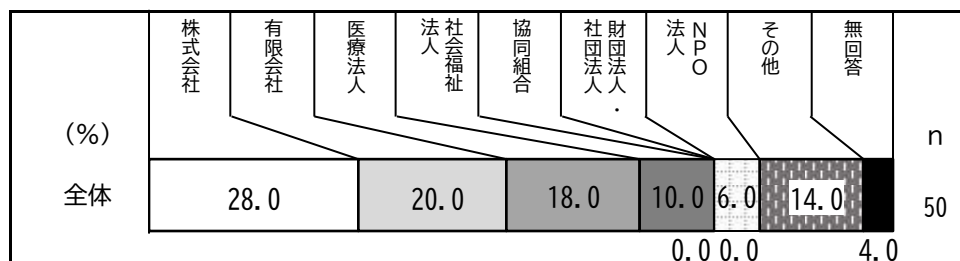
所在地については、回答のあった50件のうち、96.0%(48件)が袖ヶ浦市内に所在地がある事業者でした。市外の事業者については、「市原市」(2.0%、1件)、「木更津市」(2.0%、1件)でした。



(2) 運営主体

問2 貴事業者(法人等)の運営主体をお聞きます。

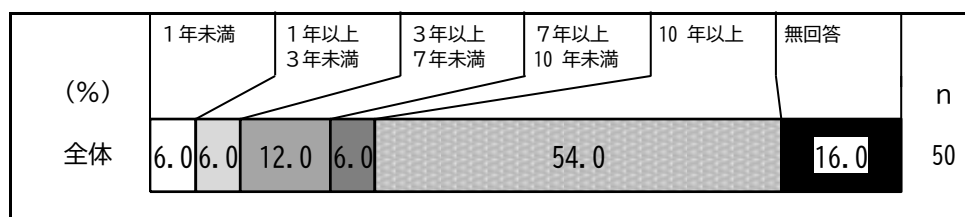
運営主体は、「株式会社」(28.0%、14件)、「有限会社」(20.0%、10件)、「医療法人」(18.0%、9件)、「その他」(14.0%、7件)、「社会福祉法人」(10.0%、5件)、「NPO法人」(6.0%、3件)の順となっています。



(3) 介護サービスの運営年数

問3 貴事業者(法人等)における介護サービスの運営年数は何年ですか。

介護サービスの運営年数は、「10年以上」が最も多く54.0%(27件)となっており、次いで「3年以上7年未満」(12.0%、6件)、「1年未満」・「1年以上3年未満」・「7年以上10年未満」(同率6.0%、各3件)となっています。



Ⅱ 調査結果

1 介護サービス提供の現状と今後の意向について

(1) 本市内で提供中の介護サービス

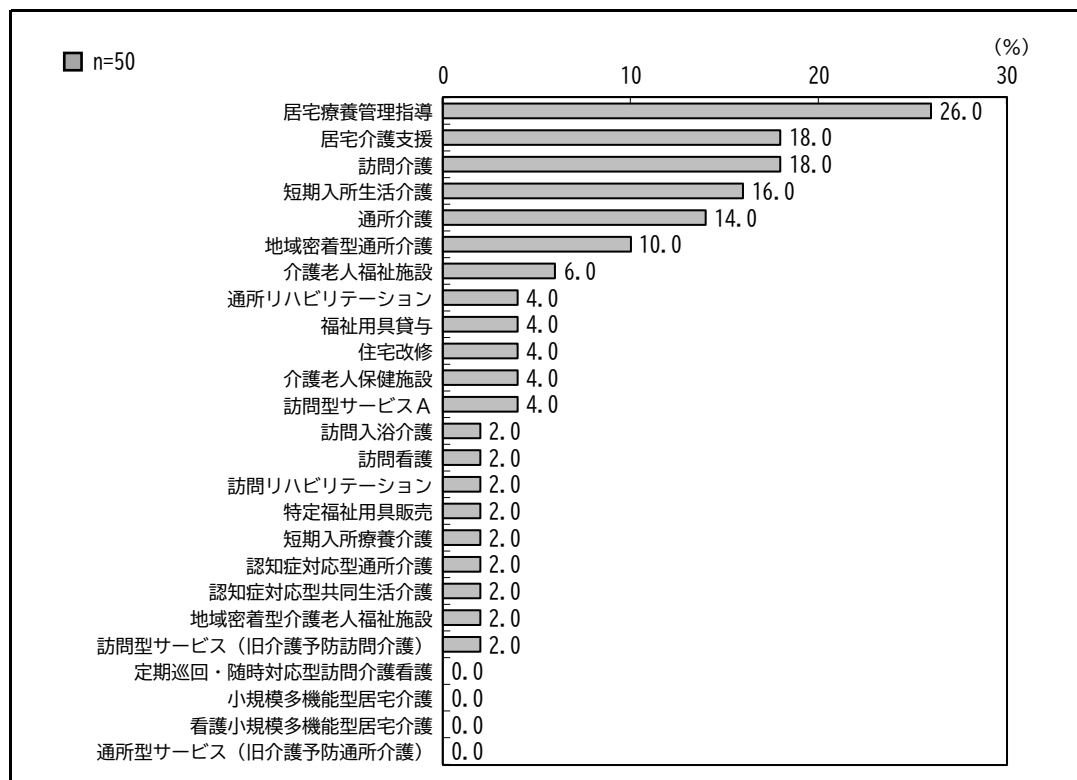
問4 本市内での介護サービス（介護予防サービスを含む。）の提供の現状と今後について、(1)～(3)の質問にそれぞれお答えください。

問4 (1) 貴事業者が本市内で提供中の介護サービス【複数回答】

- 「居宅療養管理指導」が最も多く 26.0%。

提供中の介護サービスについては、「居宅療養管理指導」が最も多く 26.0%（13 件）となっています。次いで「居宅介護支援」・「訪問介護」（同率 18.0%、各 9 件）、「短期入所生活介護」（16.0%、8 件）、「通所介護」（14.0%、7 件）、「地域密着型通所介護」（10.0%、5 件）、「介護老人福祉施設」（6.0%、3 件）、「通所リハビリテーション」・「福祉用具貸与」・「住宅改修」・「介護老人保健施設」・「訪問型サービスA」（同率 4.0%、各 2 件）、「訪問入浴介護」・「訪問看護」・「訪問リハビリテーション」・「特定福祉用具販売」・「短期入所療養介護」・「認知症対応型通所介護」・「認知症対応型共同生活介護」・「地域密着型介護老人福祉施設」・「訪問型サービス（旧介護予防訪問介護）」（同率 2.0%、各 1 件）となっています。

図表1 本市内で提供中の介護サービス(全体／複数回答)



(2) 介護サービス提供の今後の意向

問4 (2) 今後(～令和8年度)の意向

介護サービスを提供するに当たっての今後の意向について、各サービスごとにみると、下表のとおりとなっています。

なお、「廃止したい」意向がある事業者は2件でした。

図表2 介護サービス提供の今後の意向(全体)

(単位：上段：件、下段：%)

	全体	新設したい	拡充したい	現状維持	縮小したい	廃止したい
1 居宅介護支援	12 100.0	1 8.3	2 16.7	9 75.0	0 0.0	0 0.0
2 訪問介護	10 100.0	0 0.0	2 20.0	8 80.0	0 0.0	0 0.0
3 訪問入浴介護	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
4 訪問看護	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
5 訪問リハビリテーション	4 100.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0
6 通所介護	9 100.0	0 0.0	2 22.2	7 77.8	0 0.0	0 0.0
7 通所リハビリテーション	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
8 福祉用具貸与	6 100.0	0 0.0	1 16.7	5 83.3	0 0.0	0 0.0
9 特定福祉用具販売	5 100.0	0 0.0	1 20.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0
10 住宅改修	6 100.0	0 0.0	2 33.3	4 66.7	0 0.0	0 0.0
11 居宅療養管理指導	12 100.0	0 0.0	3 25.0	7 58.3	0 0.0	2 16.7
12 短期入所生活介護	11 100.0	0 0.0	1 9.1	10 90.9	0 0.0	0 0.0
13 短期入所療養介護	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
14 特定施設入居者生活介護	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
15 介護老人福祉施設	7 100.0	0 0.0	0 0.0	7 100.0	0 0.0	0 0.0
16 介護老人保健施設	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
17 介護医療院	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18 夜間対応型訪問介護	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
19 認知症対応型通所介護	4 100.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0
20 地域密着型通所介護	8 100.0	0 0.0	0 0.0	8 100.0	0 0.0	0 0.0
21 認知症対応型共同生活介護	6 100.0	1 16.7	1 16.7	4 66.7	0 0.0	0 0.0
22 地域密着型介護老人福祉施設	5 100.0	0 0.0	0 0.0	5 100.0	0 0.0	0 0.0
23 定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4 100.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0
24 地域密着型特定施設入居者生活介護	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
25 小規模多機能型居宅介護	4 100.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0
26 看護小規模多機能型居宅介護	4 100.0	0 0.0	0 0.0	4 100.0	0 0.0	0 0.0

(3) 今後の意向の理由

問4 (3) 今後の意向の理由【複数回答】

各サービスについて、今後の意向「新設したい」、「拡充したい」、「現状維持」、「廃止したい」ごとに、その理由をみていくと下図のとおりとなります。

注：「廃止したい」は、回答のあった「問4 (3)-11 居宅療養管理指導」のみ掲載。

図表3 今後の意向の理由(全体・今後の意向／複数回答)

(単位：上段：件、下段：%)

	合計	問4（3）-1 理由：居宅介護支援													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	12 100.0	4 33.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	0 0.0	0 0.0	1 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 33.3	2 16.7	38	
新設したい	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	9 100.0	1 11.1	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 44.4	2 22.2		

	合計	問4（3）-2 理由：訪問介護													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	10 100.0	2 20.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	2 20.0	40	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	8 100.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0	2 25.0		

	合計	問4（3）-3 理由：訪問入浴介護													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	45	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0		

	合計	問4 (3) -4 理由：訪問看護													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	45	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0		

	合計	問4（3）ー5 理由：訪問リハビリテーション													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が見込める	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が見込めない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	46	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0		

	合計	問4（3）ー6 理由：通所介護													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	9 100.0	1 11.1	1 11.1	2 22.2	2 22.2	2 22.2	0 0.0	1 11.1	2 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 33.3	1 11.1	41	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	7 100.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3	1 14.3	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 42.9	1 14.3		

	合計	問4（3）ー7 理由：通所リハビリテーション													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	45	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0		

	合計	問4（3）ー8 理由：福祉用具貸与													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	6 100.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	44	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	5 100.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0		

	合計	問4（3）ー9 理由：特定福祉用具販売													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	5 100.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	45	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0		

	合計	問4 (3)－10 理由：住宅改修													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の入材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	6 100.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	44	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0		

	合計	問4（3）-11 理由：居宅療養管理指導													
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の入材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	12 100.0	4 33.3	1 8.3	2 16.7	1 8.3	1 8.3	1 8.3	2 16.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	38
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
拡充したい	3 100.0	3 100.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
現状維持	7 100.0	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	4 57.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	
廃止したい	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

	合計	問4（3）－12 理由：短期入所生活介護													
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の入材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	11 100.0	2 18.2	1 9.1	1 9.1	1 9.1	1 9.1	0 0.0	1 9.1	2 18.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 36.4	2 18.2	39
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
拡充したい	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
現状維持	10 100.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	2 20.0	

	合計	問4（3）－13 理由：短期入所療養介護													
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の入材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	45
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
現状維持	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	

問4（3）-14 理由：特定施設入居者生活介護															
	合計	需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の入材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	50

	合計	問4（3）－15 理由：介護老人福祉施設													
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の入材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	7 100.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	0 0.0	43
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
現状維持	7 100.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	2 28.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 57.1	0 0.0	

	合計	問4（3）－16 理由：介護老人保健施設													
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	45
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
現状維持	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	

	合計	問4（3）－17 理由：介護医療院													
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	50

	合計	問4（3）一18 理由：夜間対応型訪問介護													
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	50

	合計	問4（3）-19 理由：認知症対応型通所介護													無回答	非該当
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし			
全体	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	46	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
現状維持	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0		

問4 (3) —20 理由：地域密着型通所介護															
	合計	需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	8 100.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	1 12.5	42
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
現状維持	8 100.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 37.5	1 12.5	

	合計	問4（3）-21 理由：認知症対応型共同生活介護													
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当
全体	6 100.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7	44
新設したい	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
拡充したい	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	
現状維持	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	

	合計	問4 (3) -22 理由：地域密着型介護老人福祉施設																
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当			
全体	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0			45	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
現状維持	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0				

	合計	問4 (3) -23 理由：定期巡回・随時対応型訪問介護看護																
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当			
全体	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0			46	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
現状維持	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0				

	合計	問4 (3) -24 理由：地域密着型特定施設入居者生活介護																
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当			
全体	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0			49	
新設したい	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0				

	合計	問4 (3) -25 理由：小規模多機能型居宅介護																
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当			
全体	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0			46	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
現状維持	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0				

	合計	問4 (3) -26 理由：看護小規模多機能型居宅介護																
		需要が見込める	採算が取れる見込みがある	現在の人材で対応が可能	現在の施設で対応が可能	現在の敷地で対応が可能	需要が見込めない	採算が取れる見込みがない	人材の確保が難しい	施設の拡充が難しい	敷地の確保が難しい	地域住民への説明が難しい	現状のサービス提供で問題なし	無回答	非該当			
全体	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0			46	
新設したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
拡充したい	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0				
現状維持	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0				

(4) 新設や拡充の予定年度

問5 令和8年度までに、介護サービスの新設や拡充を予定している場合は、次の(1)～(3)の質問(予定年度、規模、新設や拡充の予定地区)にそれぞれお答えください。

問5 (1) 新設や拡充の予定年度



- 10の介護サービスにおいて介護サービスの新設や拡充を予定している。

新設や拡充の予定年度についてうかがったところ、下記のとおり回答がありました。

図表4 新設や拡充の予定年度(全体)

(単位：上段：件、下段：%)

サービス種別	全体	令和5年度	令和6年度	令和8年度	未回答
1 居宅介護支援	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7
2 訪問介護	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
6 通所介護	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
8 福祉用具貸与	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
9 特定福祉用具販売	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
10 住宅改修	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
11 居宅療養管理指導	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7
12 短期入所生活介護	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
21 認知症対応型共同生活介護	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
24 地域密着型特定施設入居者生活介護	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

（５）新設や拡充の規模

問５（２）新設や拡充の規模【月当たりの延利用者数や定員の概算】

令和８年度までに新設や拡充を予定している介護サービスのうち、月当たりの延利用者数や定員の概算については、下記のサービスについて回答がありました。

図表５ 新設や拡充の規模【月当たりの延利用者数や定員の概算】

サービス種別	月当たりの延利用者数や定員の概算
１．居宅介護支援	２人、６０人
２．訪問介護	１００人
６．通所介護	２００人
１１．居宅療養管理指導	１人
２１．認知症対応型共同生活介護	１８人
２４．地域密着型特定施設入居者生活介護	１５人

(6) 新設や拡充の予定地区

問5 (3) 新設や拡充の予定地区【複数回答】



- 昭和地区・長浦地区での新設や拡充予定が他の地区に比べて若干多い。

新設や拡充の予定地区についてうかがったところ、下記のとおり回答がありました。

図表6 新設や拡充の予定地区(全体／複数回答)

(単位：上段：件、下段：%)

サービス種別	全体	昭和地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川・富岡地区	未定	無回答
1 居宅介護支援	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3
2 訪問介護	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
6 通所介護	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
8 福祉用具貸与	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
9 特定福祉用具販売	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
10 住宅改修	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
11 居宅療養管理指導	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7
12 短期入所生活介護	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
21 認知症対応型共同生活介護	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0
24 地域密着型特定施設入居者生活介護	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

(7) 新規事業に参入する際の課題

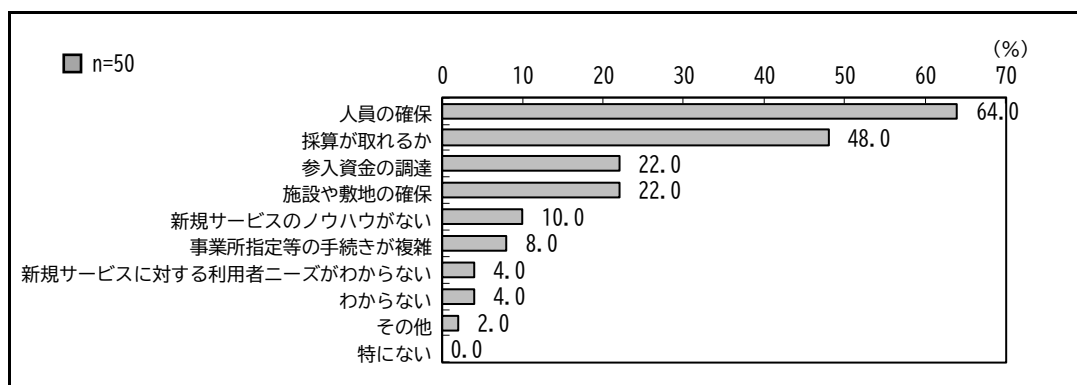
問6 貴事業者が新規事業に参入する際に課題となることは何ですか。【現在、新規参入の予定がない事業者の方は、新規参入を想定した場合に課題になると思われることをお答えください。】
【複数回答】

- 「人員の確保」が他を引き離して 64.0%。

新規事業に参入する際の課題については、「人員の確保」が他を引き離して 64.0% (32 件) と最も多く、人員不足が最大の課題となっていることがわかります。

次いで「採算が取れるか」(48.0%、24 件)、「参入資金の調達」・「施設や敷地の確保」(同率 22.0%、各 11 件)、「新規サービスのノウハウがない」(10.0%、5 件)、「事業所指定等の手続きが複雑」(8.0%、4 件)、「新規サービスに対する利用者ニーズがわからない」(4.0%、2 件) 等の順となっています。

図表7 新規事業に参入する際の課題(全体/複数回答)



■ その他回答

・ 自分の年齢

(8) 介護サービスを新設する場合にあるとよい支援

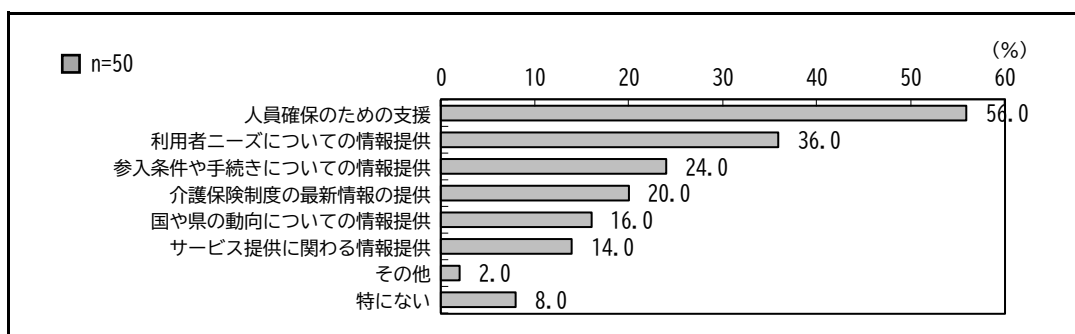
問7 貴事業者が新たに介護サービスの新設をすることを考えた場合、どのような支援があると良いと思いますか。【複数回答】



- 「人員確保のための支援」が最も多く 56.0%。

介護サービスを新設する場合にあるとよい支援については、「人員確保のための支援」(56.0%、28 件)、「利用者ニーズについての情報提供」(36.0%、18 件)、「参入条件や手続きについての情報提供」(24.0%、12 件)、「介護保険制度の最新情報の提供」(20.0%、10 件)、「国や県の動向についての情報提供」(16.0%、8 件)、「サービス提供に関わる情報提供」(14.0%、7 件)等の順となっています。

図表8 介護サービスを新設する場合にあるとよい支援(全体／複数回答)



■ その他回答

- ・ 訪問サービスはすべきでないと思います

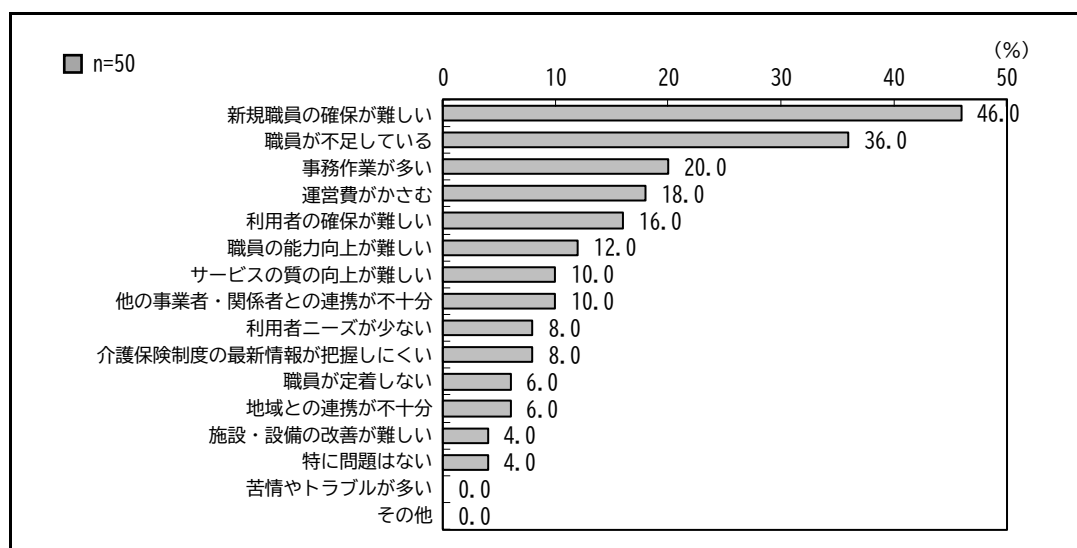
(9) 事業を運営する上での問題

問8 貴事業者が事業を運営する上で問題となっていることは何ですか。【複数回答】

- 「新規職員の確保が難しい」が最も多く 46.0%。

事業を運営する上での問題については、「新規職員の確保が難しい」(46.0%、23件)が最も多くなっており、次いで、「職員が不足している」(36.0%、18件)、「事務作業が多い」(20.0%、10件)、「運営費がかさむ」(18.0%、9件)、「利用者の確保が難しい」(16.0%、8件)、「職員の能力向上が難しい」(12.0%、6件)、「サービスの質の向上が難しい」・「他の事業者・関係者との連携が不十分」(同率 10.0%、各5件)、「利用者ニーズが少ない」・「介護保険制度の最新情報が把握しにくい」(同率 8.0%、各4件)、「職員が定着しない」・「地域との連携が不十分」(同率 6.0%、各3件)、「施設・設備の改善が難しい」・「特に問題はない」(同率 4.0%、各2件)の順となっています。

図表9 事業を運営する上での問題(全体／複数回答)



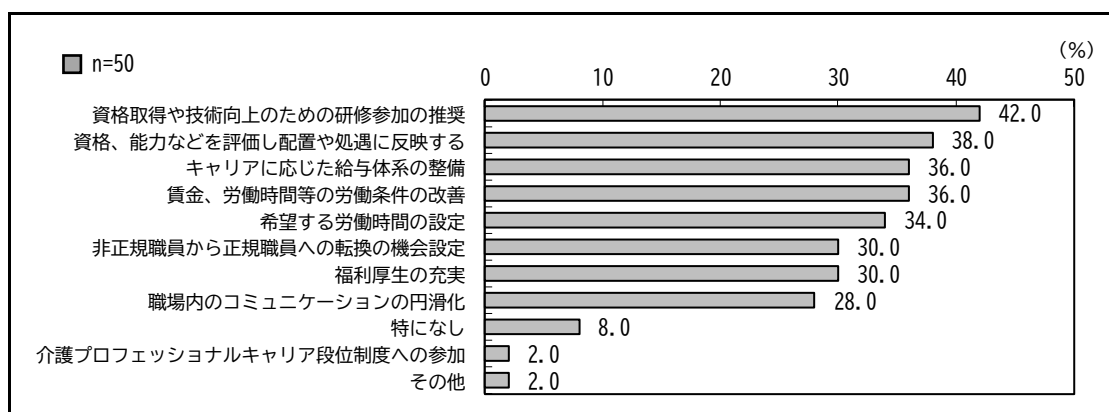
(10) 職員を定着させるための取り組み

問9 貴事業者が、職員を定着させるために取り組んでいることは何ですか。【複数回答】

- 「資格取得や技術向上のための研修参加の推奨」が最も多く 42.0%。

職員を定着させるための取り組みについては、「資格取得や技術向上のための研修参加の推奨」(42.0%、21 件) が最も多くなっており、次いで、「資格、能力などを評価し配置や処遇に反映する」(38.0%、19 件)、「キャリアに応じた給与体系の整備」・「賃金、労働時間等の労働条件の改善」(同率 36.0%、各 18 件)、「希望する労働時間の設定」(34.0%、17 件)、「非正規職員から正規職員への転換の機会設定」・「福利厚生の充実」(同率 30.0%、各 15 件)、「職場内のコミュニケーションの円滑化」(28.0%、14 件)、「特になし」(8.0%、4 件)、「介護プロフェッショナルキャリア段位制度への参加」・「その他」(同率 2.0%、各 1 件) の順となっています。

図表 10 職員を定着させるための取り組み(全体／複数回答)



■ その他回答

・賃金アップ

2 袖ヶ浦市の介護サービス・高齢者福祉施策について

(1) 不足又は今後不足する介護サービス

問 10 本市において提供されているサービスのうち、現在量的に不足している又は今後不足すると感じている介護サービスは何ですか。【複数回答】

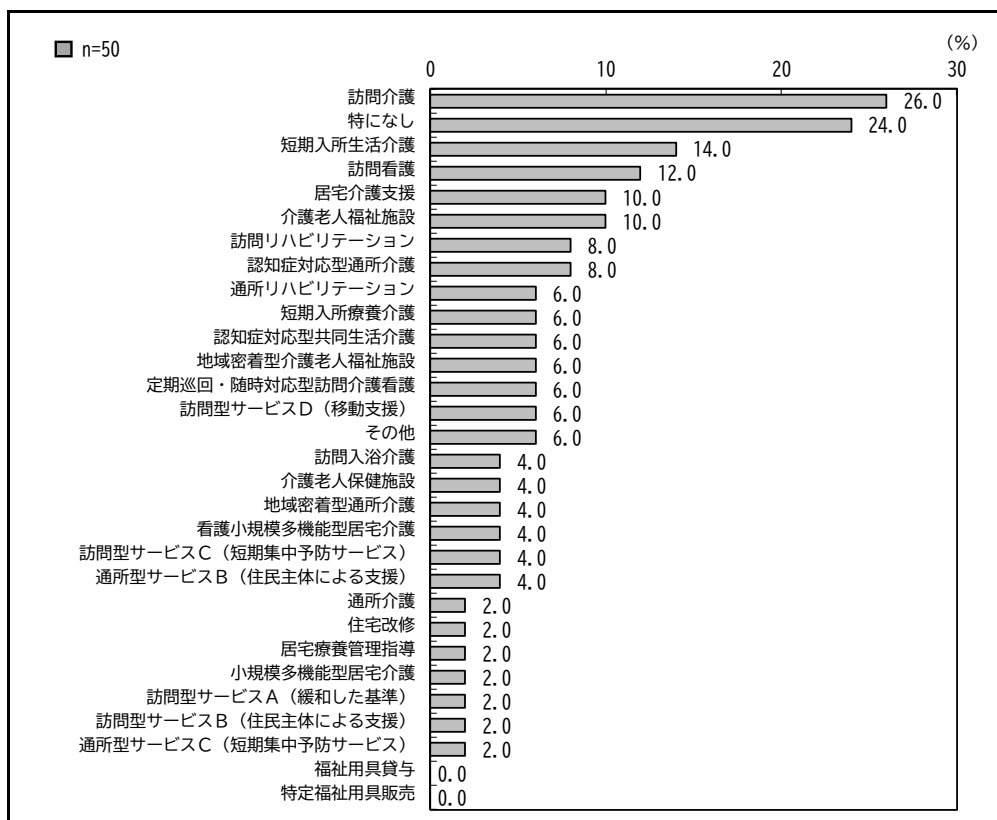
※ 介護予防・日常生活支援総合事業の訪問型サービス（旧介護予防訪問介護）、通所型サービス（旧介護予防通所介護）は居宅サービスの訪問介護、通所介護としてください。



- 「訪問介護」が最も多く 26.0%。次いで「特になし」が 24.0%。

不足又は今後不足する介護サービスについては、「訪問介護」（26.0%、13 件）が最も多く、次いで「特になし」（24.0%、12 件）、「短期入所生活介護」（14.0%、7 件）、「訪問看護」（12.0%、6 件）、「居宅介護支援」・「介護老人福祉施設」（同率 10.0%、各 5 件）、「訪問リハビリテーション」・「認知症対応型通所介護」（同率 8.0%、各 4 件）、「通所リハビリテーション等」（同率 6.0%、各 3 件）、「訪問入浴介護等」（同率 4.0%、各 2 件）等となっています。

図表 11 不足又は今後不足する介護サービス（全体／複数回答）



■ その他回答

- ・複雑過ぎて把握しきれない
- ・現在、介護事業が提供できていないので市内の状況が情報不足でわからないので、答えられないのですが、通院が困難の方が増えています。

(2) 今後ニーズが高まると想定されるサービス

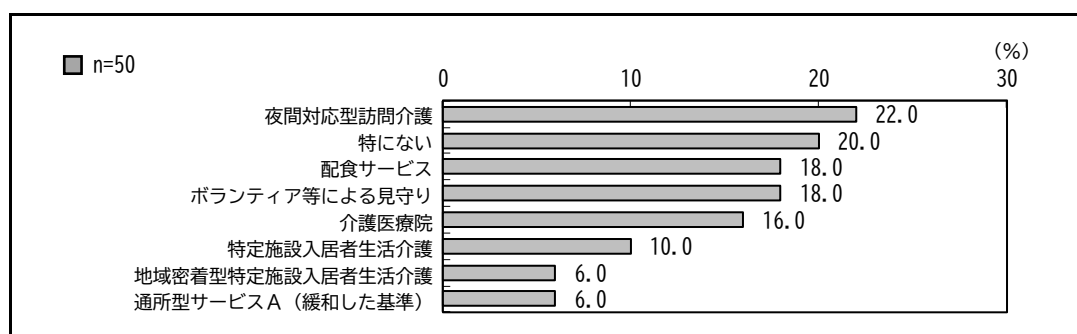
問 11 市内にないサービスで、今後ニーズが高まると想定されるサービスはありますか。
【複数回答】



- 「夜間対応型訪問介護」が最も多く 22.0%。次いで「特にない」が 20.0%。

今後ニーズが高まると想定されるサービスについては、「夜間対応型訪問介護」（22.0%、11 件）が最も多く、次いで「特にない」（20.0%、10 件）、「配食サービス」・「ボランティア等による見守り」（同率 18.0%、各 9 件）、「介護医療院」（16.0%、8 件）、「特定施設入居者生活介護」（10.0%、5 件）、「地域密着型特定施設入居者生活介護」・「通所型サービス A（緩和した基準）」（同率 6.0%、各 3 件）の順となっています。

図表 12 今後ニーズが高まると想定されるサービス（全体／複数回答）



3 地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた課題について

問 12 地域包括ケアシステム※の深化・推進に向けて、貴事業者が考える課題についてそれぞれお答えください。

※ 住民が、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保できる体制。

地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた課題について、下記の項目ごとに考えをうかがったところ、次のとおり意見がありました。

①在宅医療の充実

- ・在宅サービスを廃止してすべて高齢者向け住宅などに集中すべきと思います。
- ・訪問診療を行なっているが昼休みにやっているなので今の人数で増やすのが困難。
- ・訪問診療のニーズはあるしそれに伴い訪問看護も必要と思う。医療ケアの必要な方の入浴介助含めた身体的介護を提供してくれる訪看は本当にありがたい。
- ・夜間等緊急時の相談先。
- ・介護を提供する事業所としても在宅での様子や注意点などが情報としてほしい。
- ・主治医を在宅医療の Dr が対応して頂けると今後、良いと思う。
- ・訪問看護の充実。
- ・訪問診療の更なる充実・今でも充実してきていると思うが、この部分はあればあっただけでも良いと思われるので。・精神科の訪問診療が充実すると尚良。
- ・医療連携体制が希薄・病院により相談員（MSW）が機能していない・市内に選択出来る訪問診療や訪問看護ステーションが少ない。
- ・充実だけではなく他業種との連携。連携だけではなく作業（事務）の効率化。
- ・看取り体制の充実。
- ・サービスは充実してきているが、介護のマンパワー不足で継続ができないことがある。
- ・市独自に対応できることは限られていますが、制度、体制そのものが採算がとれず、個人の熱意、努力に頼る面が強く新規参入が困難。他の項目も同様と思う。
- ・訪問診療、医療機関とのスムーズな連携ができる・訪問看護と介護サービス事業所との連携のしやすさを目指す。
- ・脳血管障害の方が多く来所しているので、他施設との連携促進を行いたい。
- ・経済的理由で利用を控えるケースもある。
- ・在宅高齢者の急変時、又は夜間等における医師、看護師等との迅速な連携の構築・在宅医療体制の担い手不足。
- ・訪問看護・訪問診療の充実。

②介護サービスの充実強化

- ・在宅サービスを廃止してすべて高齢者向け住宅などに集中すべきと思います。
- ・介護人材の確保・待遇改善。
- ・介護人材の資格別給料（補助金）の確保。

- ・おひとりおひとりのニーズに合わせた介護サービスが基本ですが他の事業所とのひっぱり合いを耳にする。
- ・介護人材の高齢化・コロナクラスター発生時の業績悪化・経費高騰に対する支援。
- ・現状の報酬で充実した給与体系は作れない。サービス提供時間、移動時間、交通費で最低2160円要するのが現実。
- ・介護人材の確保。
- ・利用者のニーズに合わせたサービス提供。
- ・介護人材の確保、定着。
- ・当施設では実務者研修を開催し人材確保を地域として行っている。
- ・一般の方が介護に流れる様な仕組み作りを期待（資格が取れる様支援、処遇改善を窓口払い、など）。
- ・全体的に社会資源が不足している。
- ・介護人材育成の教育制度の充実。
- ・介護者のその時の状況ですぐに対応してもらえると助かります。
- ・維持又は改善を目標として本人にこれからどうなりたいのか本人に自覚を持たせこちらもムキにならないと本人も本気になれないと思うので分かりやすく言えば遊びをリハビリにして達成感を積み意識を高めて行きたい。
- ・人材の確保が困難・急な減員への補充はできない（質の維持、向上のためには数のみの問題ではないので）。
- ・脳血管障害の方が多く来所しているので、他施設との連携促進を行いたい。
- ・訪問介護の人材不足が深刻で支障がでている。・定期巡回サービスの点数が高いので他サービスとの両立が課題である。

③介護予防の推進

- ・在宅サービスを廃止してすべて高齢者向け住宅などに集中すべきと思います。
- ・バリアフリー強化。
- ・地域の介護に対する認識の強化。
- ・だれでも参加できる活動。社会参加（生きる力になるもの）。
- ・介護予防のためにデイサービスをどう利用してもらうか。
- ・介護家族へのサポート。
- ・自立支援（見守り含む）への積極的な取組み。
- ・通所型サービスの介護予防取組を明確化・どの予防を強化する事務所かを明確にする。
- ・住民が地域包括ケアシステムの存在、またそれが何であるかを知る機会が少なく周知が必要。
- ・情報の周知。
- ・動かない足や手をリハビリするよう動く方をどう日常生活の中で自由に使わせて行くのか、それは器具であり手拔であり会話であり日常の中にあるものを利用して大げさなことを言えば人生を取り戻すことを本人とじっくりと話し納得させた上で実行していきたい。

- ・医療・介護サービスの現状の周知・地域の現状に合わせて、自助や互助の資源づくりが必要。
- ・高齢者前からニート独居引きこもり等に関与して予防に取り組むべきである。その様な環境下の方が目立つので、何かしらのコミュニティへ常に参加してもらう促しが必要。
- ・医療、保健予防、リハビリテーション、介護が一体的に提供。情報の共有により自立支援と重度化防止への取り組み。

④生活の基盤として必要な住まいの確保と、そこでの高齢者本人の意向に沿った住まい方の確立

- ・在宅サービスを廃止してすべて高齢者向け住宅などに集中すべきと思います。
- ・ある程度の監視体制（カメラ、ポット入切、生活確認等）が整った住宅の貸与制度。
- ・多様な見守りサービスがあったらいい。
- ・全世代での支援体制を考える・地域住民、特に中学生の役割を考えられないか。
- ・市内にケアハウス等安価での入所（入居）出来る施設が無い。
- ・事業者への報酬UP。
- ・住まいの改修を行いやすくする・買物や外出のしやすいシステム作り・住まいだけでなく、人との関わりがしやすい町づくり。
- ・ショートステイや施設入所等利用における保証人難民がいる。
- ・本人が選択し、必要な生活援助が提供され、尊厳が守られる住環境の確保。

⑤多様な担い手による生活支援サービスの提供

- ・在宅サービスを廃止してすべて高齢者向け住宅などに集中すべきと思います。
- ・高齢者の社会参加の促進。
- ・外国人労働者の採用。
- ・高齢者ボラの体制強化・配食サービスなどは上記とスーパーのコラボに・掃除等は訪問介護事務所に依頼し、そちらが事務継続できる仕組みを作る。
- ・朝のゴミ出し時間に合せたゴミ出しボランティア等少しだけ手助けしてもらえると助かる方を多く見受ける・移送を含めた外出支援の不足（介護タクシーは料金が高くて使えないとの声を多く聞くため）。
- ・情報の周知。
- ・どのような資源があるのかわからないので、サービスへのアクセスを良くする。
- ・多様な相手として行政職員も社会資源の一環として支援に出向いても良いと思う。
- ・移送サービスの整備・ボランティア団体（地域により自発的に整備されたグループ等）の活動の支援とマッチング。

4 自由意見

問 その他、袖ヶ浦市の介護保険・高齢者福祉施策に関してご意見などございましたら、自由にお書きください。

袖ヶ浦市の介護保険・高齢者福祉施策に関しての意見をうかがったところ、下記のような意見がありました。

- ・介護人材の不足は重要課題で深刻です。県の最低賃金は年々上がっていくし、もちろん交付金（現行、特定、ペア）を有効活用させて頂いているが、給料を優遇させて人材を定着させる方法は厳しいのが現状。そのため、休みが取り易い環境、円滑なコミュニケーションなど働き易さに注力している。介護看護員はもちろん、調理スタッフ、清掃員、相談員にも賃金UPできるようにしたいと切実に思っている。
- ・袖ヶ浦市の高齢者福祉対策は他市と比べて充実していると思う。透析と介護は重要課題があるので、今後も積極的に協力したい。
- ・個人経営の歯科医院で、介護サービスは現在行っておりません。（外来診療のみ）。そのため、問4、5、10、11、12には御回答することが困難です。申し訳ありません。
- ・いつもの確なアドバイスを頂きありがとうございます。施設新設を検討した時期もありましたが、職員確保や昇給などを考えた場合、課題がありすぎ、書類作成も多く、運営には難が多くあきらめました。
- ・地域包括ケアや介護保険制度についての知識がない為に活用できずに困っている高齢者は多く存在すると思います。困った時に「どこに」「誰に」相談したらいいのか？その窓口を地域の方に知って頂けるといいかと思います。（高齢者は電子媒体が難しい方々も多くいますので、折込広告や掲示ポスターの活用等）
- ・年齢、健康状態を問わず、独居の方の生活環境の把握について、個人の意志をどこまで尊重すべきか、再検討の時期にあると思います。
- ・袖ヶ浦市の施策はいつも知らないうちに進んでいる（表現が悪かったらすみません）という実行力を感じます。今後も頼りにしていますので引き続きお願いいたします。ただ地域性が顕著に表れている点、一部、施設が機能しているのか不透明に感じる点など疑問に思うところはあります。今ある既存の資源が活用できるようになれば、と思います。
- ・介護事業者のことをよく考えてくださっていると感じます。
- ・介護サービス事業は現在行っておりません。今後も予定はありません。日常診療の他に事業を行う余力はありません。
- ・誰でも「住み慣れた家で暮らしたい」と思っている。それを少しでもかなえられる様に、行政だけでなく地域住民もやれることはやっていく。元気なうちは誰かのために働く、そういう地域が出来たらいいと思う。
- ・平素より大変お世話になっております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- ・介護認定審査会の介護関係の委員選出についてですが、福祉法人のみを見直し他法人格からも委員選出すべきであると思います。他法人格にも有望な人材や識者がいるのにその根拠が不明です。

袖ヶ浦市
特別養護老人ホーム
入所希望者実態調査
結果報告書

令和5年3月

袖ヶ浦市

目 次

I	調査の概要及び対象者の属性	1
1	調査の概要	1
(1)	調査目的	1
(2)	調査対象及び調査方法	1
(3)	配布数及び回収結果	1
2	本調査結果報告書の基本的な事項	1
(1)	数値の基本的な取り扱いについて	1
3	特別養護老人ホーム入所希望について	2
(1)	回答者	2
(2)	特別養護老人ホームへの入所希望	2
(3)	特別養護老人ホームへの入所を希望しない理由	3
4	基礎情報	4
(1)	性別	4
(2)	年齢	4
(3)	居住地区	5
(4)	世帯構成	5
(5)	要介護度	6
(6)	現在の生活場所	6
II	調査結果	7
1	特別養護老人ホームについて	7
(1)	最初に特別養護老人ホームへ入所申込を行った日	7
(2)	特別養護老人ホームに入所を申し込んだ理由	8
(3)	特別養護老人ホームの入所申込状況	9
(4)	希望する特別養護老人ホームの地域	9
(5)	特別養護老人ホームの希望入所時期	10
(6)	入所時期の希望理由	11
(7)	特別養護老人ホームの入所辞退	12
(8)	特別養護老人ホームへの入所を辞退した理由	12
(9)	特別養護老人ホーム以外で入所・入居を検討している施設	13
(10)	介護サービスの整備	14
(11)	介護保険料と特別養護老人ホームの整備の考え方	15

I 調査の概要及び対象者の属性

1 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、特別養護老人ホームへの入所を希望されている方の実態等を詳細に把握し、袖ヶ浦市高齢者福祉計画の見直し及び第9期介護保険事業計画策定のための基礎資料とするために実施したものです。

(2) 調査対象及び調査方法

項目	内容
調査対象	令和4年7月1日時点において、特別養護老人ホームへの入所申込をされている方で、同年11月30日時点において市内に居住されている方
配布数	114票
抽出法	悉皆調査
調査方法	郵送法
調査時期	令和4年12月
調査地域	袖ヶ浦市全域

(3) 配布数及び回収結果

配布数	114
有効回収数	57
有効回収率	50.0%

2 本調査結果報告書の基本的な事項

(1) 数値の基本的な取り扱いについて

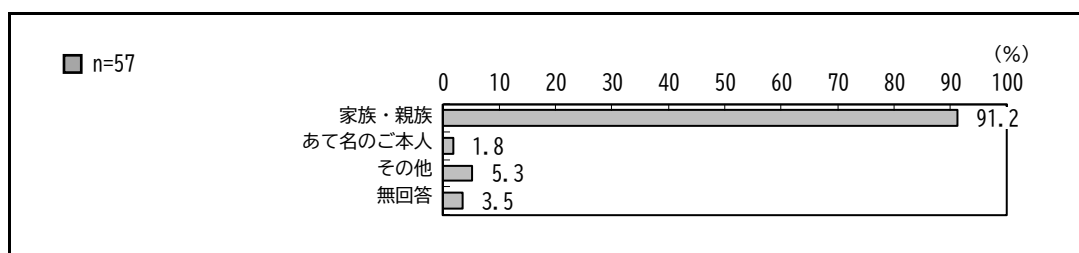
- ①比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出している。したがって、合計が100%を上下する場合がある。
- ②基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率はnを100%として算出している。
- ③質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出しても良い問であり、したがって各回答の合計比率は100%を超える場合がある。

3 特別養護老人ホーム入所希望について

(1) 回答者

回答者は、「家族・親族」が91.2%（52件）、「あて名のご本人」が1.8%（1件）となっている。

図表 回答者



(2) 特別養護老人ホームへの入所希望

特別養護老人ホームへの入所希望は、「はい」が57.9%（33件）、「いいえ」が36.8%（21件）となっている。

図表 特別養護老人ホームへの入所希望

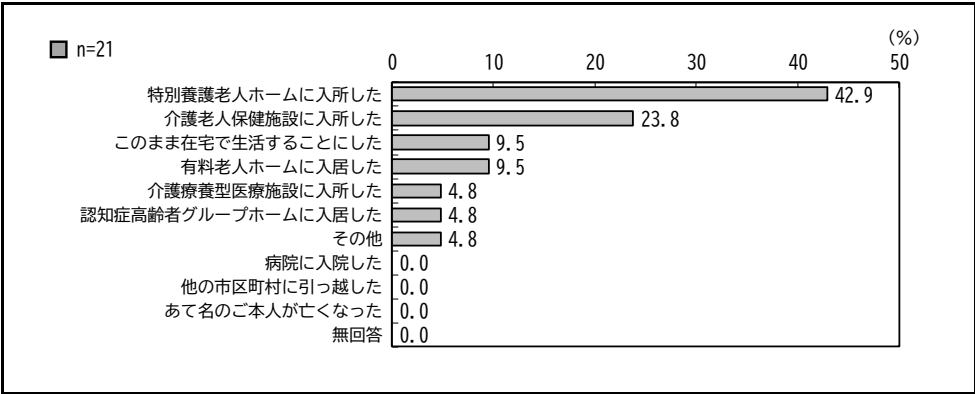
	はい	いいえ	無回答	n
(%)				
全体	57.9	36.8	5.3	57

(3) 特別養護老人ホームへの入所を希望しない理由

※(2)で「2.いいえ」に○をつけた方のみお答えいただいております。

特別養護老人ホームへの入所を希望しない理由は、「特別養護老人ホームに入所した」が 42.9%（9 件）、「介護老人保健施設に入所した」が 23.8%（5 件）、「このまま在宅で生活することにした」・「有料老人ホームに入居した」が同率 9.5%（各 2 件）などとなっている。

図表 特別養護老人ホームへの入所を希望しない理由



■ その他回答

・入院している。

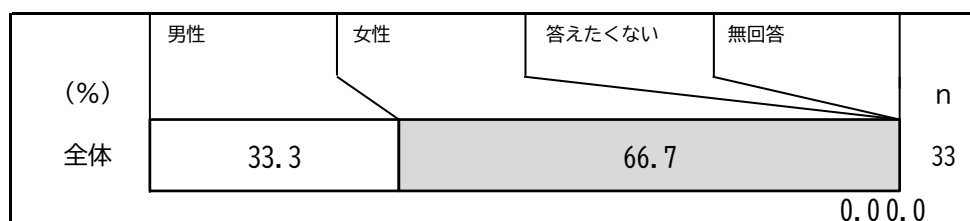
4 基礎情報

※以下の数値は、「(2) 特別養護老人ホームへの入所希望」で「はい」と回答された方の回答結果を提示している。

(1) 性別

対象者の性別は、「女性」が66.7% (22件)、「男性」が33.3% (11件) となっている。

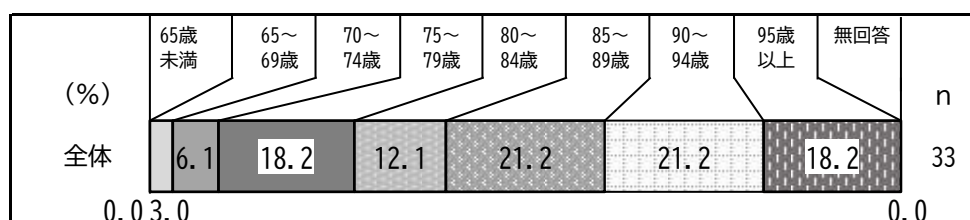
図表 対象者の性別



(2) 年齢

対象者の年齢は、「85～89歳」・「90～94歳」が同率21.2% (各7件)、「75～79歳」・「95歳以上」が同率18.2% (各6件)、「80～84歳」が12.1% (4件)、「70～74歳」が6.1% (2件)、「65～69歳」が3.0% (1件)、「65歳未満」が0.0% (0件) となっている。

図表 対象者の年齢



(3) 居住地区

対象者の居住地区は、「長浦地区」が33.3%（11件）、「根形地区」・「平岡地区」が同率18.2%（各6件）、「昭和地区」が15.2%（5件）、「中川・富岡地区」が12.1%（4件）となっている。

図表 対象者の居住地区

	昭和地区	長浦地区	根形地区	平岡地区	中川・富岡地区	無回答	n
(%)							
全体	15.2	33.3	18.2	18.2	12.1	3.0	33

(4) 世帯構成

対象者の世帯構成については、「ひとり暮らし」・「子や孫と同居」が同率33.3%（各11件）、「夫婦のみ（配偶者が65歳以上）」が15.2%（5件）、「夫婦のみ（配偶者が64歳未満）」が3.0%（1件）となっている。

図表 対象者の世帯構成

	ひとり暮らし	夫婦のみ (配偶者が 65歳以上)	夫婦のみ (配偶者が 64歳未満)	子や孫と 同居	その他	無回答	n
(%)							
全体	33.3	15.2	3.0	33.3	12.1	3.0	33

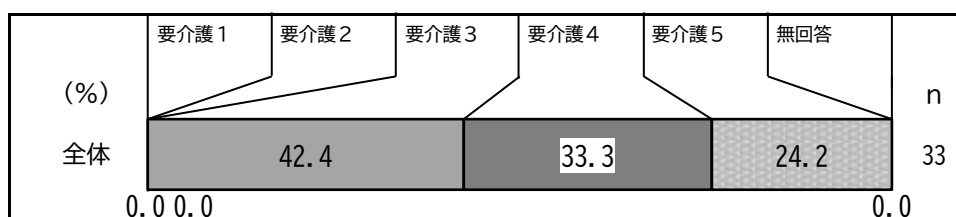
■ その他回答

- ・ 配偶者、子供夫婦
- ・ ケアハウス
- ・ 子と同居
- ・ 同じ敷地に子が生活している。本人は1人暮らし

(5) 要介護度

対象者の要介護度については、「要介護3」が42.4%（14件）、「要介護4」が33.3%（11件）、「要介護5」が24.2%（8件）、「要介護1」・「要介護2」が同率0.0%（各0件）となっている。

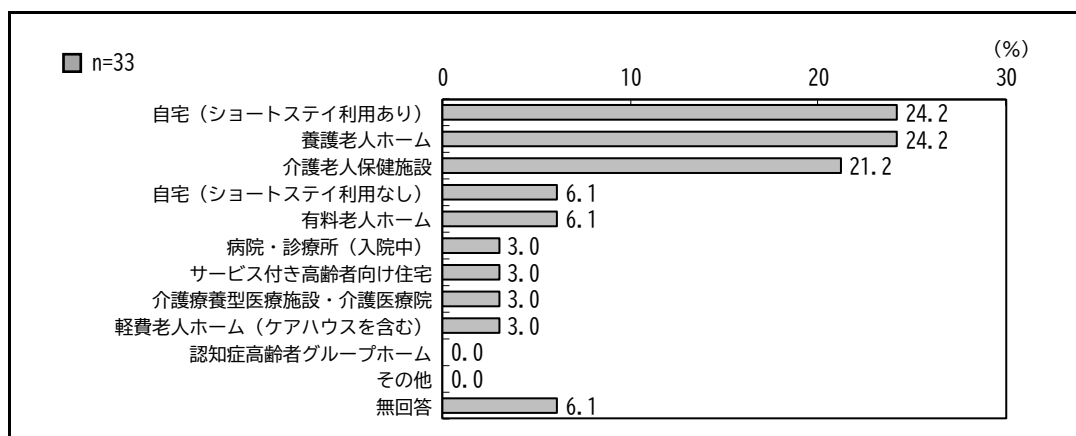
図表 対象者の要介護度



(6) 現在の生活場所

対象者の現在の生活場所については、「自宅（ショートステイ利用あり）」・「養護老人ホーム」が同率24.2%（各8件）、「介護老人保健施設」が21.2%（7件）、「自宅（ショートステイ利用なし）」・「有料老人ホーム」が同率6.1%（各2件）、「病院・診療所（入院中）」・「サービス付き高齢者向け住宅」・「介護療養型医療施設・介護医療院」・「軽費老人ホーム（ケアハウスを含む）」が同率3.0%（各1件）などとなっている。

図表 現在の生活場所



Ⅱ 調査結果

1 特別養護老人ホームについて

(1) 最初に特別養護老人ホームへ入所申込を行った日

問9 あなたが最初に特別養護老人ホームに入所申込をしたのはいつですか。(○は1つ)



- 「2年～3年前」が3割、「1年～2年前」が2割強を占める。

最初に特別養護老人ホームへ入所申込を行った日については、「2年～3年前」が30.3%（10件）、「1年～2年前」が24.2%（8件）、「3年～5年前」が18.2%（6件）、「半年以内」が12.1%（4件）、「半年～1年前」が6.1%（2件）、「5年以上前」が3.0%（1件）となっている。

図表 最初に特別養護老人ホームへ入所申込を行った日

	半年以内	半年～1年前	1年～2年前	2年～3年前	3年～5年前	5年以上前	無回答	n
(%)								
全体	12.1	6.1	24.2	30.3	18.2	3.0	6.1	33

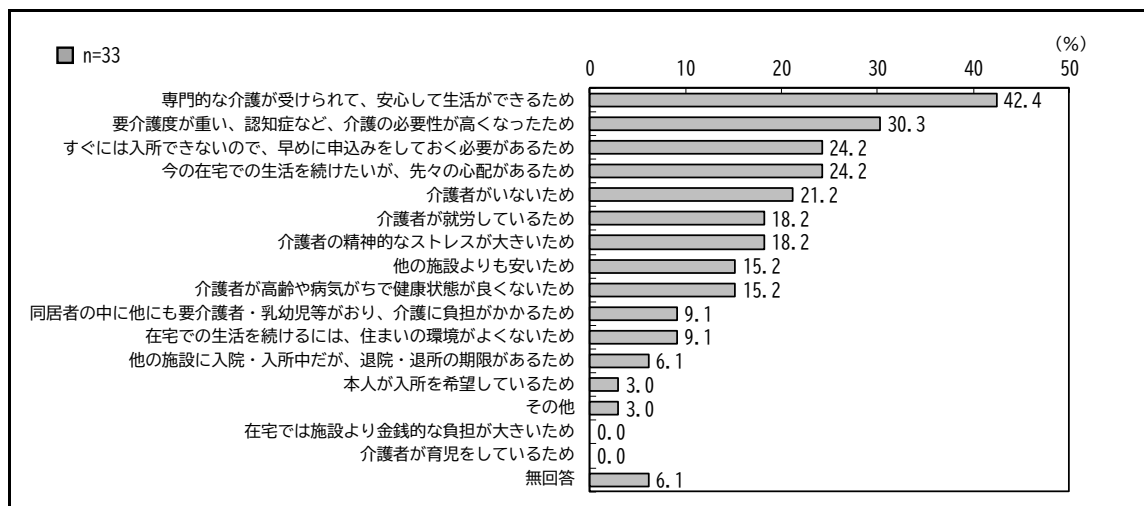
(2) 特別養護老人ホームに入所を申し込んだ理由

問 10 あなたが特別養護老人ホームに入所を申し込んだ理由は何ですか。(○は3つまで)

- 「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」が第1位。「要介護度が重い、認知症など、介護の必要性が高くなったため」、「すぐには入所できないので、早めに申込みをしておく必要があるため」・「今の在宅での生活が続けたいが、先々の心配があるため」などが続く。

特別養護老人ホームに入所を申し込んだ理由については、「専門的な介護が受けられて、安心して生活ができるため」(42.4%、14件)が最も多く、次いで「要介護度が重い、認知症など、介護の必要性が高くなったため」(30.3%、10件)、「すぐには入所できないので、早めに申込みをしておく必要があるため」・「今の在宅での生活が続けたいが、先々の心配があるため」(同率 24.2%、各8件)、「介護者がいないため」(21.2%、7件)、「介護者が就労しているため」・「介護者の精神的なストレスが大きいため」(同率 18.2%、各6件)、「他の施設よりも安いため」・「介護者が高齢や病気がちで健康状態が良くないため」(同率 15.2%、各5件)などの順となっている。

図表 特別養護老人ホームに入所を申し込んだ理由



■ その他回答

・配偶者が入院し手術する為ひとりでは無理

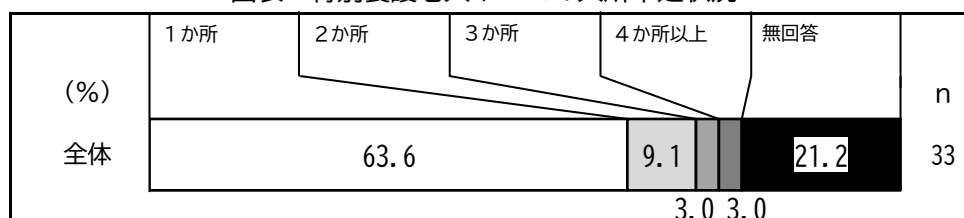
(3) 特別養護老人ホームの入所申込状況

問 11 あなたは現在、何か所の特別養護老人ホームに入所申込をしていますか。(○は1つ)

- 「1 か所」が6割強を占める。「2 か所」・「3 か所」・「4 か所以上」は1割に満たない。

何か所の特別養護老人ホームに入所申込をしているかたずねたところ、「1 か所」が63.6% (21 件)、「2 か所」が9.1% (3 件)、「3 か所」・「4 か所以上」が同率3.0% (各1 件)となっている。

図表 特別養護老人ホームの入所申込状況



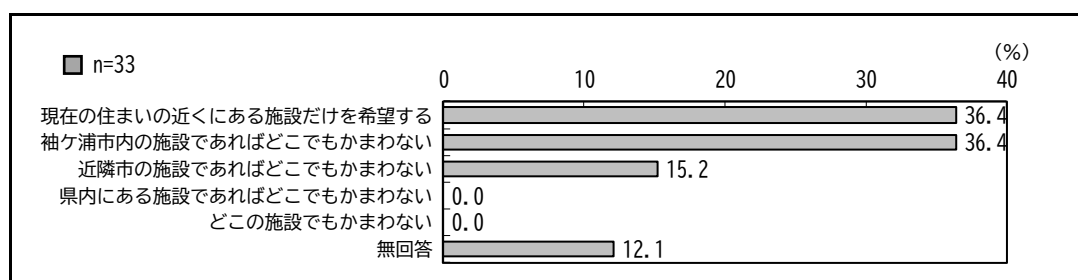
(4) 希望する特別養護老人ホームの地域

問 12 あなたは、どちらの地域の特別養護老人ホームへの入所を希望していますか。(○は1つ)

- 「現在の住まいの近くにある施設だけを希望する」・「袖ヶ浦市内の施設であればどこでもかまわない」がそれぞれ3割強を占める。

入所を希望する特別養護老人ホームの地域をたずねたところ、「現在の住まいの近くにある施設だけを希望する」・「袖ヶ浦市内の施設であればどこでもかまわない」が同率36.4% (各12 件)、「近隣市の施設であればどこでもかまわない」が15.2% (5 件) などとなっている。

図表 希望する特別養護老人ホームの地域



(5) 特別養護老人ホームの希望入所時期

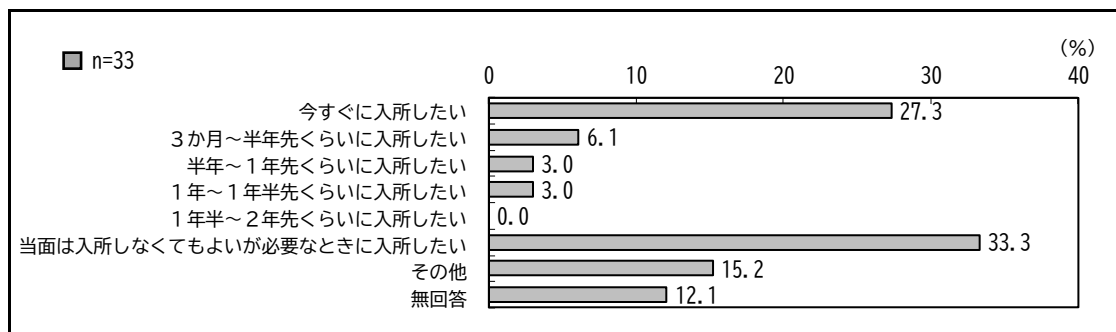
問 13 あなたが特別養護老人ホームに入所したい時期はいつ頃ですか。(○は1つ)



- 「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」が3割強、「今すぐに入所したい」が2割強を占める。

特別養護老人ホームの希望入所時期をたずねたところ、「当面は入所しなくてもよいが必要なときに入所したい」が33.3%（11件）、「今すぐに入所したい」が27.3%（9件）、「3か月～半年先くらいに入所したい」が6.1%（2件）などとなっている。

図表 特別養護老人ホームの希望入所時期



■ その他回答

- ・入院中
- ・本人の体調を見ながら家族の健康の負担になってきた頃
- など

(6) 入所時期の希望理由

※問 13 で「2.」から「7.」を選択された方に伺います。

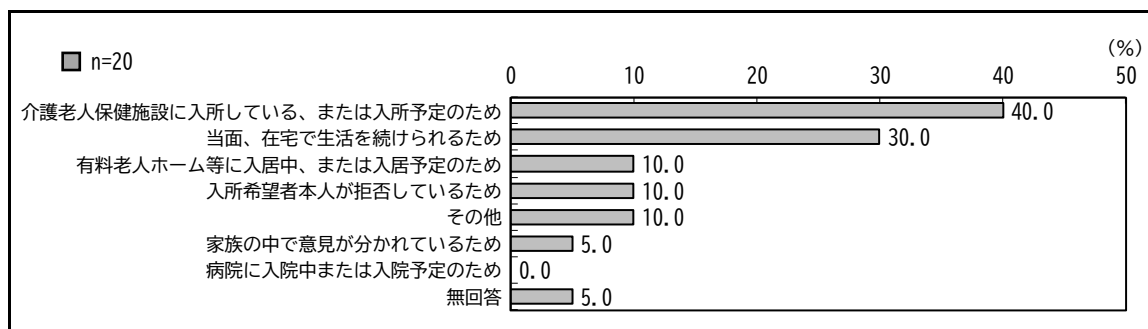
問 13-① なぜその時期の入所を希望しますか。理由を具体的にお聞かせください。
(あてはまるもの全て○)



- 「介護老人保健施設に入所中、または入所予定のため」が4割、「当面、在宅で生活が続けられるため」が3割を占める。

入所時期の希望理由をたずねたところ、「介護老人保健施設に入所中、または入所予定のため」が40.0%（8件）、「当面、在宅で生活が続けられるため」が30.0%（6件）、「有料老人ホーム等に入居中、または入居予定のため」・「入所希望者本人が拒否しているため」・「その他」が同率10.0%（各2件）などとなっている。

図表 入所時期の希望理由



■ その他回答

・ コロナ禍で一度入所したら会えなくなってしまうから

(7) 特別養護老人ホームの入所辞退

問 14 あなたは、これまでに特別養護老人ホームから入所可能な連絡を受けて、辞退したことはありますか。(○は1つ)

- 「ない」が7割強、「ある」が1割強を占める。

特別養護老人ホームの入所辞退についてたずねたところ、「ない」が75.8% (25 件)、「ある」が15.2% (5件) となっている。

図表 特別養護老人ホームの入所辞退

	ある	ない	無回答	n
(%)				
全体	15.2	75.8	9.1	33

(8) 特別養護老人ホームへの入所を辞退した理由

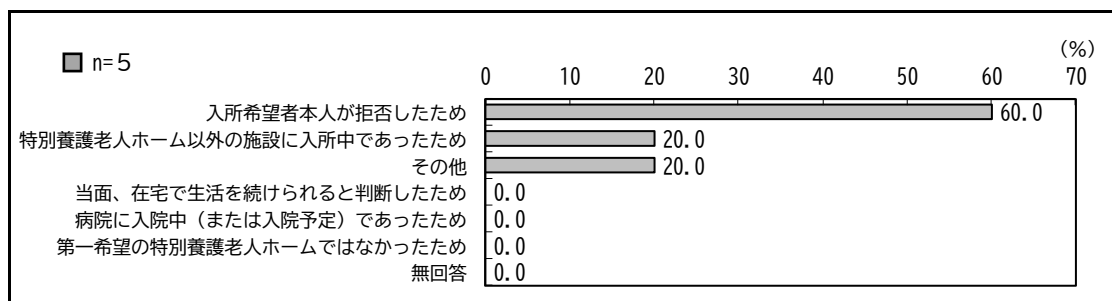
※問 14 で「1. ある」と回答された方に伺います。

問 14-① 辞退した理由として最もあてはまるものは、次のうちどれですか。(○は1つ)

- 「入所希望者本人が拒否したため」が6割、「特別養護老人ホーム以外の施設に入所中であったため」が2割を占める。

特別養護老人ホームへの入所を辞退した理由をたずねたところ、「入所希望者本人が拒否したため」が60.0% (3 件)、「特別養護老人ホーム以外の施設に入所中であったため」・「その他」が同率 20.0% (各 1 件) となっている。

図表 特別養護老人ホームへの入所を辞退した理由



■ その他回答

・家に帰りたいと拒否して、ホームの方をこまらせた。

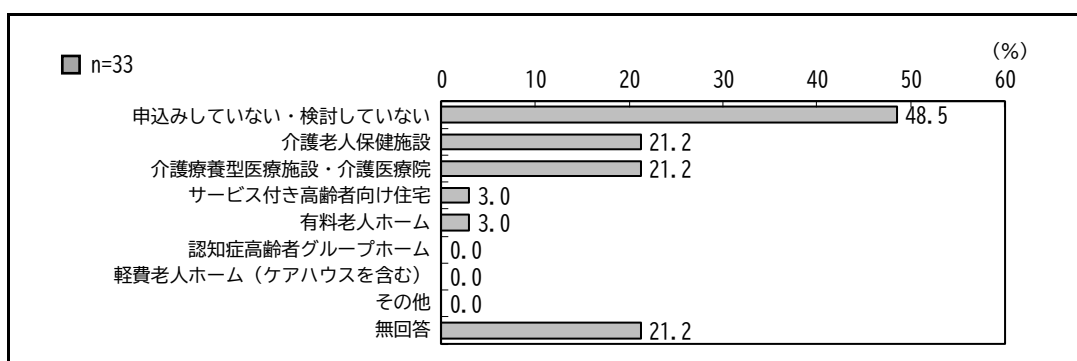
(9) 特別養護老人ホーム以外で入所・入居を検討している施設

問 15 あなたが、特別養護老人ホーム以外で入所・入居の申込みをしている、または入所・入居を検討されている施設をお答えください。(あてはまるもの全て○)

- 「申込みしていない・検討していない」が5割弱を占める。

特別養護老人ホーム以外で入所・入居を検討している施設についてたずねたところ、「申込みしていない・検討していない」が48.5%（16件）、「介護老人保健施設」・「介護療養型医療施設・介護医療院」が同率21.2%（各7件）などとなっている。

図表 特別養護老人ホーム以外で入所・入居を検討している施設



(10) 介護サービスの整備

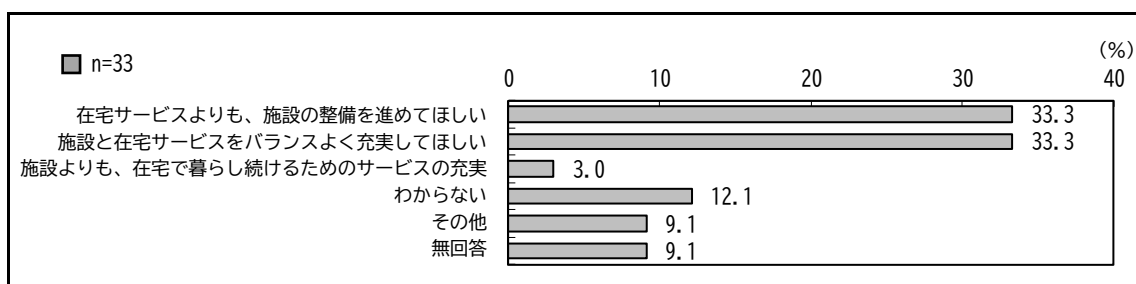
問 16 袖ヶ浦市の介護サービスの整備について、どのようにお考えですか。(○は1つ)



- 「在宅サービスよりも、施設の整備を進めてほしい」・「施設と在宅サービスをバランスよく充実してほしい」がそれぞれ3割強を占める。

介護サービスの整備についてたずねたところ、「在宅サービスよりも、施設の整備を進めてほしい」・「施設と在宅サービスをバランスよく充実してほしい」(同率 33.3%、各 11 件)が最も多く、次いで「施設よりも、在宅で暮らし続けるためのサービスの充実」(3.0%、1 件)などとなっている。

図表 介護サービスの整備



■ その他回答

- ・医療行為（吸引など）があっても入れる施設、医療院など。
- ・個室利用面で、非課税者が過度に優遇されている。

(11) 介護保険料と特別養護老人ホームの整備の考え方

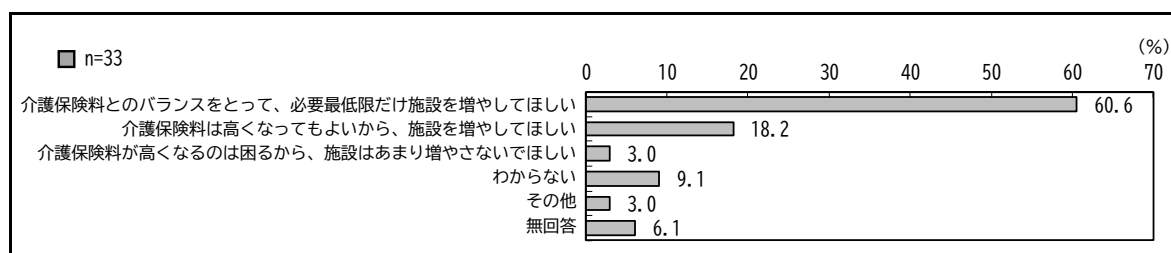
問 17 介護保険料と特別養護老人ホームの整備に関する考え方は、次のどれに最も近いですか。
(○は1つ)



- 「介護保険料とのバランスをとって、必要最低限だけ施設を増やしてほしい」が他を大きく引き離して第1位。

介護保険料と特別養護老人ホームの整備の考え方についてたずねたところ、「介護保険料とのバランスをとって、必要最低限だけ施設を増やしてほしい」(60.6%、20件)が最も多く、次いで「介護保険料は高くなってもよいから、施設を増やしてほしい」(18.2%、6件)、「介護保険料が高くなるのは困るから、施設はあまり増やさないでほしい」・「その他」が同率(3.0%、各1件)などとなっている。

図表 介護保険料と特別養護老人ホームの整備の考え方



袖ヶ浦市長浦地区地域包括支援センターの開設について

1 経緯

令和４年８月２４日	第４回袖ヶ浦市地域包括支援センター運營業務委託提案採用者選定委員会にて審査選定
令和４年９月７日	令和４年度第３回袖ヶ浦市介護保険運営協議会にて審査結果承認
令和５年７月３日	開設

2 袖ヶ浦市長浦地区地域包括支援センターについて

設置場所	袖ヶ浦市蔵波台七丁目24番2号（新設）
	
電話番号	0438-53-8671
開設時人員配置	保健師：2名 社会福祉士：3名 介護支援専門員：1名
運営事業者	社会福祉法人みどりの風
事業者所在地	袖ヶ浦市下泉1424番3
代表者職氏名	理事長 武井 千尋

3 人員配置について

事業者において令和４年度より人員確保に尽力しておりますが、市場における主任介護支援専門員自体の不足もあり、現時点で採用に至っておりません。早期配置に向けて、引き続き採用活動等の人員確保に尽力していただくとともに、本年度開催される主任介護支援専門員研修に、長浦包括職員のうち受講資格保有者を受講させることで、欠員の解消を行います。

4 その他

介護予防給付の対象となる要支援者のケアプラン作成を行う指定介護予防支援業務は、地域包括支援センターが行うものとされていることから、開設に合わせて指定介護予防支援事業者の指定を行います。